

セムトスルニ在ルモノニシテ本年一月我提案ヲ支那政府ニ申入レテヨリ以來今日ニ至ルマテ脚膝ヲ披キ支那政府ト會議スルコト實ニ二十有五回ヲ重キタリ此間帝國政府ニ於テハ終始妥協ノ精神ヲ以テ我提案ノ要旨ヲ解説シ同時ニ支那政府ノ主張ニ至テハ細大務メテ之ニ聽キ圓滿和平ノ間ニ解決ヲ見ルコトヲ努メタルニ於テ實ニ餘蘊ナキヲ信ス交渉全部ノ討議ハ第二十四回會議即客月十七日ニ於テ略終了シタルヲ以テ帝國政府ハ交渉全部ヲ通シテ支那政府ノ論議シタル所ヲ參酌シ最初編製シタル原提案ニ對シ多大ノ修正讓歩ヲ加ヘ同月二十六日ヲ以テ修正案ヲ支那政府ニ提出シ其ノ同意ヲ求ムルト同時ニ若シ支那政府ニシテ該案ニ對シ同意ヲ表スルニ於テハ日本カ多大ノ犧牲ヲ以テ獲得シタル膠州灣一帯ノ地ヲ公正至當ナル條件ノ下ニ適當ノ機會ニ於テ支那ニ還附スヘキコトヲ聲明セリ

帝國政府ノ修正案ニ對シ五月一日ヲ以テ支那政府ノ與ヘタル回答ハ全然帝國政府ノ豫期ニ反スルモノニシテ帝ニ該案ニ對シ誠意アル研究ヲ加ヘタルノ痕ヲ示ササルノミナラス膠州灣還附ニ關スル帝國政府ノ苦衷ト好意トニ對シテハ殆ト一顧ノ勞ヲモ與ヘサルモノナリ元來膠州灣ノ地タル商業上軍事上實ニ東亞ニ於ケル一要地ニシテ之ヲ獲得スルカ爲

ニ日本帝國ノ費シタル血ト財トノ渺少ナラサルコトハ言フ俟タサルナリ而シテ既ニ一度之ヲ我手ニ收メタル以上ハ敢テ支那ニ還附スルノ義務毫モ之ナキニ拘ラス進テ之ヲ還附セムトスルハ誠ニ將來ニ於ケル兩國國交ノ親善ヲ思ヘハナリ然ルニ支那政府ニ於テ帝國政府ノ苦心ヲ諒トセサルハ實ニ帝國政府ノ遺憾禁セサル所ナリ支那政府ハ實ニ膠州灣還附ノ情誼ヲ顧ミサルノミナラス帝國政府ノ修正案ニ對スル其ノ回答ニ於テ同地ノ無條件還附ヲ求メ日獨戰爭ニ際シ日本カ膠州灣ニ於テ用兵ノ結果生シタル避クヘカラサル各種損害ノ賠償ノ責ニ任セムコトヲ求メ其ノ他同地方ニ關係シ數項ノ要求ヲ提出スルト同時ニ更ニ今後日獨講和ノ會議ニ參加スルノ權アルコトヲモ聲明セリ殊ニ膠州灣無條件還附若クハ日獨戰爭ノ爲ニ生シタル避クヘカラサル損害ノ賠償ヲ日本ニ於テ負擔スヘシトノ要求ノ如キハ日本ニ對シ到底其ノ容認スル能ハサルコト明白ナル所ノモノヲ求ムトスルニ外ナラス而モ支那政府ハ右要求ヲ含メル今回ノ對案ヲ以テ其ノ最後ノ決答ナリト明言セリ從テ日本ニ於テ是等ノ要求ヲ容認セサル限リ他ノ諸項ニ關シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ是等ハ皆遂ニ何等ノ意味ヲモ有セサルコトナルヘク結局支那政府今回ノ回答ハ其ノ全體ニ於テ全く空漠

無意義ノモノトナルニ至ルヘシ

加之誠テ帝國政府ノ修正案中他ノ條項ニ對スル支那政府ノ回答ニ就テ考フルモ案ト南滿洲及東部内蒙古ノ地タル地理上政治上將タ商工ノ利害上帝國ノ特殊關係ヲ有スル地域タルハ中外ノ認ムル所ニシテ此關係ハ實ニ帝國カ前後二回ノ戰役ヲ經タルニヨリテ特ニ深キヲ致シタルモノトス然ルニ支那政府ハ此事實ヲ閉却シ帝國ノ該地方ニ於ケル地位ヲ尊重セス即チ支那政府ノ代表者カ會議ノ席上言明シタル所ニ基キテ帝國政府カ互讓ノ精神ヲ以テ案出シタル條項ニ付テモ支那政府ノ回答ハ濫リニ之ヲ改訂シテ代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止ラシメタルモノアリ或ハ一方ニ於テ之ヲ許シナカラ他方ニ於テ之ヲ禁セムトスルカ如キモノアリテ支那當局者ノ信義ト誠意トハ全然之ヲ認ムルヲ得ス

將又顧問ニ關スル件學校病院用地ニ關スル件兵器若クハ兵器廠ニ關スル件南支鐵道ニ關スル件等ニ關シテハ帝國政府ノ修正案ハ關係外國ノ同意ヲ條件トシタルカ若クハ支那政府代表者ノ已ニ言明シタル所ヲ記錄シ置カムトスルカニ止リ何等支那ノ主權又ハ條約ニ抵觸スルモノニアラス然ルニ支那政府ノ回答ハ單ニ主權又ハ條約等ニ關係アリトシテ帝國政府ノ希望ニ應スルコトヲ拒絕セリ

帝國政府ハ支那政府ノ此ノ如キ態度ニ鑑ミ此上協商ヲ繼續スルノ餘地殆ト之ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖極東平和ノ維持ニ各々タル帝國ハ努メテ本交渉ヲ圓滿ニ終了シ時局ノ紛糾ヲ避ケムコトヲ冀ヒ難キヲ忍ビテ更ニ鄰邦政府ノ情意ヲ酌ミ眞ニ帝國政府ノ提出シタル修正案中第五號ノ各項ニ就キ已ニ兩國政府代表者間ニ協定ヲ經タル福建省ニ關スル公文交換ノ一事ヲ除クノ外五項ハ本交渉ト引離シ後日改メテ協商スルコトトナスヲ承諾スヘキニヨリ支那政府ニ於テモ亦帝國政府ノ諒ヲ諒トシ他ノ各項即第一號第二號第三號第四號ノ各條項及第五號中福建省ニ關スル公文交換ノ件ニ付テハ去ル四月二十六日ヲ以テ提出シタル修正案記載ノ通之ニ對シ何等改訂ヲ加フルコトナク速ニ應諾セムコトヲ茲ニ重テ勸告シ帝國政府ハ此勸告ニ對シ支那政府ヨリ來ル五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ニ接セムコトヲ期待ス右期日迄ニ満足ナル回答ヲ受領セザルトキハ帝國政府ハ其ノ必要ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ併セテ聲明ス

第六 最後通牒提出ノ際在支日置公使ヨリ

陸外交總長ヘ手交セル説明書

一、最後通牒後段福建省ニ關スル公文交換ノ一事ヲ除クノ

外五項トアルハ顧問館聘ニ關スル件、學校病院用地ニ關スル件、南支諸鐵道ニ關スル件、兵器及兵器廠ニ關スル件及布教權ニ關スル五件ヲ指スモノナリ

二、福建省ニ關スル件ハ四月二十六日提出セル我最後修正案ノ通ト爲スモ又ハ五月一日支那國政府ヨリ提出セル對案ノ通トスルモ何レニテモ差支ナシ

此次最後通牒中ニハ四月二十六日提出ノ我修正案ニ對シ改訂ヲ加ヘスシテ應諾スヘキコトヲ支那國政府ニ求メアルモ右ハ原則ヲ示シタルモノニシテ本項及(四)(五)ノ如キ例外アルコトハ特ニ注意ヲ要ス

三、此次最後通牒ヲ以テ要求セル各項ヲ支那國政府ニ於テ承諾スルニ於テハ四月二十六日支那國政府ニ對シ聲明セル膠州灣還附ニ關スル件ハ依然其ノ儘殘リ居ル次第ナリ

四、第二號第二條中ニ土地租賃又ハ購買ト記載シアルハ暫租又ハ永租ト改ムルモ差支ナク或ハ永キ期限付且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明カナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ用フルモ可ナリ

五、東部內蒙古ニ關スル事項中租稅擔保借款ニ關スル件及鐵道借款ニ關スル件ハ共ニ「日本國政府ニ向テ商議ス」ト

記載シアルモ右ハ同種事項ニ關スル滿洲ニ付テノ取極同標「日本國資本家ニ向テ商議ス」ト改ムヘシ
又東部內蒙古ニ關スル事項中開埠ノ件ハ開埠地點及商埠章程ノコト迄モ條約文中ニ規定スルコトトナリ居レトモ地點及章程ノ件ハ山東省ノ取極同標公文ノ交換トナスモ差支ナシ

六、我最後修正案第三號中「該公司關係人」トアル「關係人」ノ語ヲ削除スルモ差支ナシ
七、條約及其ノ他一切ノ附屬文書ハ日本文ヲ以テ正文トスルカ又ハ日漢兩文ヲ以テ正文トスヘキコト

第七 帝國政府ノ最後通牒ニ對スル支那國政府ノ回答(譯文)

(大正四年五月八日) (在支日置公使接受)

五月七日午後三時支那國政府ハ日本國公使ノ手交セラレタル同國政府ノ最後通牒一件及附加解釋七條ヲ受領セリ該通牒ノ末段ニ日本國政府ハ支那國政府ヨリ五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答アラムコトヲ期待ス若シ期限ニ至リ満足ナル回答接到セザレハ日本國政府ハ其ノ必要ト認ムル手段

ヲ執ラムト欲ス件セテ聲明ストアリ
支那國政府ハ東亞ノ和平ヲ維持スル爲ニ起見シ日本國政府ヨリ四月二十六日提出セル修正案第五號中ノ五項ヲ他日ノ協商ニ讓ル外第一號第二號第三號第四號ノ各項及第五號中ノ福建問題ニ關スル公文交換ノ件ハ四月二十六日提出ノ修

〔備考〕 所謂二十一箇條要求ノ現況

一、山東省ニ關スル件(原案第一號)

1、獨逸ノ地位承認ニ關スル件

(原案) (確定條約並公文)

(第一條) 支那ハ獨逸ガ山東省ニ關シ有スル權利利益ノ處分ニ付日獨間ニ成立スベキ一切ノ協定ヲ承認スル事

(其後ノ狀況) (現況)
山東還附ニ依リ事實上消滅 消滅

2、山東省不割讓

(第二條) 支那ハ山東省ノ内地及沿岸島嶼ヲ他國ニ讓渡又ハ貸與セザル事

華府會議ノ結果事實上消滅 消滅

3、芝罘ト膠濟鐵道トノ間ノ聯絡鐵道敷設權

(第三條) 芝罘(烟臺)又ハ龍口ト膠濟鐵道トノ聯絡鐵道敷設權ヲ日本ニ許ス事

華府會議山東懸案解決條約附屬書五ニ依リ日本ハ本鐵道ガ支那資本ヲ以テ敷設セララルル限リ同鐵道借款ヲ國際借款團ノ事業ニ開放スベキコトヲ要求セザルベシト定メタ

4、山東省商埠地ニ關スル件
 (第四條) 支那ハ別ニ協定スベキ主要都市ヲ開放スル事
 (第三條) 支那ハ適當ナル諸都市ヲ開放スル事

ルヲ以テ茲ニ日本ノ獨專的借款權ハ消滅スルニ至レリ
 華府會議ノ結果事實上消滅

消滅

二、南滿及東蒙ニ關スル件(原案第二號)

5、旅大租借及南滿安奉兩鐵道期限延長ノ件
 (第一條) 此等期限ヲ更ニ九十

何レモ原期日ヨリ九十九箇年ニ延長ト改ム(第一條)、即チ旅大ハ一九九七年、南滿鐵道ハ二〇〇二年、安奉鐵道ハ二〇〇七年ニテ滿期トナル旨公文ヲ交換セリ

存續

6、土地所有權及賃借權取得ニ關スル件

(第二條) 日本人ハ南滿及東蒙ニ於テ商工業又ハ農業經營ノ爲メ土地ノ賃借權又ハ所有權ヲ取得スル事ヲ得

地域ヲ南滿ノミニ局限シ又賃借權所有權ノ代リニ商租ヲ與フル事(第二條)、又別ニ右商租トハ更新シ得ベキ三十箇年迄ノ租借ヲ含ム旨ノ公文ヲ交換セリ

存續

7、居住往來及營業ノ自由

(第三條) 日本人ハ南滿東蒙ニ於テ自由ニ居住往來及營業スル事ヲ得

地域ヲ南滿ノミニ局限シ(第三條)、東蒙ニ付テハ日本人ガ東蒙ニ於テ農業及附屬工業ヲ支那人ト合辦經營スルトキハ支那人ハ之ヲ承認スル事(第四條)、又東蒙ノ適當ナル都市ヲ開放スベキコト(第六條)

存續

8、鐵山探掘權

(第四條) 南滿東蒙ニ於テ別ニ豫定セラルベキ諸鐵山ノ探掘權ヲ日本人ニ許與ス

日本人ニ於テ南滿所在ノ諸鐵山(鐵山名略)ヲ選定シテ願出ツレバ支那ハ之ニ試掘又ハ探掘權ヲ允許スベキ旨ノ公文ヲ交換セリ

存續

9、鐵道及借款ニ關スル日本優先權

(第五條) 左ノ事項ハ豫メ日本ノ同意ヲ要ス
 一、南滿東蒙ニ於テ他國人ニ鐵道敷設權ヲ與ヘ又ハ鐵道敷設ノ爲メ他國人ヨリ資金ヲ仰グ事
 二、南滿東蒙ノ諸稅ヲ擔保トシテ他國ヨリ借款ヲ起ス事

南滿及東蒙ニ於ケル鐵道ノ外國借款及此等地方ノ諸稅ヲ擔保トスル外國借款ニ付日本資本家ノ優先權ヲ認ムル公文ヲ交換セリ

華府會議ニ於テ國際新借款團ノ事業ニ開放スル旨聲明

消滅

華府會議ニテ拋棄聲明

消滅

(第六條) 南滿東蒙ニ於ケル政治財政及軍事ノ外國顧問教官ヲ要スル場合日本ノ優先權ヲ認ム

地域ヲ南滿ニ局限シ同意旨ノ公文ヲ交換セリ

吉長鐵道借款契約改訂ニ依リ解決

解決

三、漢冶萍公司ニ關スル件(原案第三號)

(第七條) 日本ニ九十九箇年間吉長鐵道ノ管理經營ヲ委任ス

12、日支合辦其他日本側ノ優先權
 13、日支合辦其他日本側ノ優先權
 支那ハ同公司ト日本資本家トノ合辦成立シタル時ハ之ヲ承認ス又同公司ヲ沒收セズ、之ヲ國有トナス時ハ日本資本家ノ同意ヲ要ス又日本以外ヨリ同公司ニ外資ヲ入レズトノ公文交換

存續

13、附近鐵山ノ探掘ニ關スル同公司ノ優先權
 (第二條) 左ノ事項ハ同公司ノ 全然削除
 承諾ヲ要ス
 一、同公司所屬鐵山附近ノ鐵山
 ノ探掘ヲ同公司以外ノモノニ許
 可スル事
 二、直接間接同公司ニ影響ヲ及
 ス虞アル措置ヲ執ル事

四、港灣島嶼不割讓ノ件(原案第四號)

14、支那沿岸ノ港灣島嶼不割讓ノ件
 支那沿岸ノ港灣及島嶼ヲ他國ニ
 讓渡若ハ貸與セザル事
 原案ノ趣旨ヲ支那自身五月十三日
 大總統令ニテ聲明セリ

五、希望條 項(原案第五號)

15、中央政府顧問ノ件
 (一)日本人ヲ政治財政及軍事顧
 問ニ備聘スル事
 條約公文ノ署名ニ際シ希望條項一
 乃至七八之ヲ他日ノ交渉ニ讓ル旨
 記錄ニ留ム

華府會議ニテ右留保撤回ヲ聲明ス
消滅

16、日本病院寺院及學校ノ土地所有權ニ關スル件
 (二)支那内地ニ於ケル日本ノ病
 院寺院及學校ニ對シ土地所有權
 ヲ認ムル事

消滅

17、警察ノ件

(三)必要ナル地方ノ警察ノ日支
 台辦又ハ日本人ヲ備聘スル事

消滅

18、兵器ノ件

(四)日本ヨリ一定數量ノ兵器ヲ
 供給スルカ又ハ日支合辦ノ兵器
 廠ヲ設立スル事

消滅

19、南支諸鐵道敷設權許與

(五)武昌ト九江南昌線トヲ聯絡
 スル鐵道及南昌杭州間、南昌湖
 州間鐵道敷設權ヲ日本ニ許與ス
 ル事

消滅

20、福建省企業日本優先權

(六)福建省ニ於ケル鐵道礦山港
 灣ノ設備(造船所ヲ含ム)ニ關シ
 日本資本家ノ優先權ヲ認ムル事

消滅

21、日本人布教權

(七)支那ニ於ケル日本人ノ布教
 權ヲ認ムル事

消滅

【參考】

大正四年日支條約並交換公文廢

棄ニ關スル交換公文

(大正十二年三月)

駐日支那代理公使ヨリ帝國外務大臣宛公文

大正四年日支條約並交換公文廢棄ニ關スル交換公文

拜啓陳者本日本國外交部本年三月四日附左記訓令ヲ奉シ貴
 大臣ニ照會スルノ光榮ヲ有シ候
 日支兩國ハ素ト親睦ノ間柄ニテ方今世界各國共ニ平和ニ向
 ヒ公道ヲ力持スル際ニ當リ宜シク親密ヲ謀リ以テ極東ノ平
 和ヲ保障シ世界ノ平和ヲ促進スヘキモノナリ就テハ民國四
 年五月二十五日締結セル所ノ日支條約及交換文書ハ實ニ日
 支親善ノ最大障害ニシテ當時該條約調印後支那政府ハ宣言

書ヲ發表シ支那國ハ壓迫セラレタル爲メ已ムヲ得ス忍ヒテ
 最後通牒中ノ各條件ヲ受ケタルモ之カ爲メニ各國條約上ノ
 權利ヲ侵犯シタルトキハ支那國ハ責任ヲ負ハサル旨聲明セ
 リ嗣テ巴里平和會議ニ於テ理由ヲ聲明シ該條約及交換文書ノ
 廢止ヲ要求シ平和會議議長ヨリ此ノ問題ノ重要ナルコトヲ
 充分承認スル旨ノ返書ヲ得タリ華盛頓會議開會ノ節復我國
 代表ハ(一)利益ノ交換無シ(二)支那國ト他國トノ間ニ締結
 セル條約ヲ侵犯ス(三)該條約及交換文書ハ華盛頓會議ニ於
 テ通過セル各原則ト牴觸ス(四)該條約及交換文書ハ已ニ履
 日支間ノ誤解ヲ發生シタリトノ理由ニ依據シ同取消要求ヲ
 提出セリ當時日本代表ハ我國提案ヲ重視シ日本ハ南滿洲及
 東部內蒙古ニ於ケル鐵道敷設及課稅ヲ擔保トスル借款ノ優
 先權、南滿洲ニ於ケル政治財政、軍事、警察顧問教官傭勞ノ
 優先權ヲ完全ニ放棄シ並締結ノ際原有ノ第五項ニ關スル留
 保ヲ撤回スル旨聲明セラレタリ我國代表ハ日本代表ノ放棄
 及留保各項ノ撤回ヲ承認シタルモ其ノ他ニ付キ未タ満足セ
 ス仍全部放棄スヘキコトヲ聲明シ他日適當ノ機會ニ於テ
 本案ヲ解決スルノ權利ヲ留保スル旨聲明シ右我國ノ留保ハ
 同會議ニ列席セル各國代表ノ正式承認ヲ經並議長ヨリ總會
 ニ於テ正式宣告シ會議議事録ニ記載セリ本條約及交換文書

ニ對シテハ本國輿論ハ終始反對シ本國政府ノ巴里、華盛
 頓ニ於テ本案ヲ提出シ取消ヲ要求セルハ原ト全國民意ヲ以
 テ根據ト爲セリ本國國會ハ民國十二年一月通常會議ニ於テ
 民國四年五月二十五日締結ノ日支條約及交換文書ヲ無効ト
 認ムルコトヲ決議シ本國參議院ヨリ右ニ依リ處理アリタキ
 旨移牒アリタリ以テ本國民意終始一致セルヲ見ルニ足ル而
 シテ旅順大連租借期限ハ間モナク滿期ニ至ラントス本政府
 ハ日支關係改善ノ時機既ニ成熟セリト認メ特ニ貴國政府ニ
 向ヒ重テ有ラユル民國四年五月締結ノ日支條約及交換文書
 ハ既ニ解決ヲ經及已ニ貴國政府放棄並留保撤回ヲ聲明セル
 各項ヲ除キ應ニ直ニ全部廢止セラルヘキコトヲ聲明ス並旅
 順大連接收辦法及民國四年日支條約及交換文書廢止後ノ各
 種ノ問題ニ關シ商議スル爲メ日期ヲ指定セラレムコトヲ希
 望ス本國政府ハ深ク信ス貴國政府及國民ハ日支邦交ヲ重視
 シ必ス能ク本國國民全體ノ意思ヲ容納シ數年間兩國親睦ノ
 障礙ヲ完全ニ除去シ之ヨリ兩國國民眞實ノ親善ヲ謀リ東亞
 ノ和平繁榮固トナルヲ得ハ是レ惟ニ日支兩國ノ福ノミナラ
 ス亦世界ノ幸ナリ本國外交部ハ右寫ヲ貴國駐支公使ニ送リ
 接洽スルト同時ニ茲ニ特ニ貴國大臣ニ及照會候條御回答相
 煩度此段得貴意候尙本代理公使ハ貴大臣ニ對シ特ニ敬意ヲ

表シ候 敬具

中華民國十二年三月十日

中華民國代理公使 廖 恩 壽

日本外務大臣伯爵 內田 康哉閣下

帝國政府ノ回答

駐日代理公使廖恩壽宛(大正十二年三月十四日)

以書翰致啓上候陳者貴國外交部ノ調令ニ基キ本月十日附貴
 翰ヲ以テ大正四年五月二十五日締結ノ日支條約及交換公文
 ノ廢棄方御申越ノ趣拜誦致候貴翰ニ於テ先ツ該條約締結後
 直ニ發表セラレタル貴國政府ノ聲明、巴里會議ニ於ケル貴
 國全權ノ聲明、華府會議ニ於ケル貴國全權ノ提出シタル要
 求等ヲ引用セラレタル後該條約及交換公文中既ニ解決シ並
 帝國政府カ放棄及留保撤回ヲ聲明シタル各項以外ヲ全部廢
 棄セラルヘキ旨通告相成候處右ハ帝國政府ノ意外且頗ル遺
 憾トスル所ニ有之候惟フニ大正四年ノ日支條約及交換公文
 ハ夫々正當ニ全權ヲ委任セラレタル兩國代表者ニ依リ正式
 ニ調印セラレタルモノニシテ殊ニ條約ハ貴我兩國元首ノ批
 准ヲ經タルモノニ有之而シテ右協約ニ關スル帝國政府ノ見
 解ハ既ニ華府會議ニ於テ帝國全權カ聲明セル所ニシテ貴我

兩國間ニ關トシテ有效ニ存在スル條約及交換公文ヲ貴國政
 府カ隨意廢棄セラレムトスルカ如キハ當ニ日支兩國國民ノ親
 善ヲ齎ス所以ニ非サルノミナラス國際ノ通義ニ反スルモノ
 ニシテ帝國政府ノ斷シテ承認シ難キ措置ニ有之候
 帝國政府カ當ニ貴我兩國ノ親善關係ヲ增進スルヲ念トシタ
 ルハ從來貴國ニ對シ表示シタル幾多ノ好意的措置ニ依リ疾
 ク御承知ノ通ニ有之候殊ニ本件條約及交換公文ノ一部ニ付
 キテハ既ニ新ニ條約ヲ締結シ又ハ地棄若ハ留保ノ撤回ヲ聲
 明シタル次第ニテ此ノ上更ニ變更スヘキモノ絕對ニ無之コ
 トヲ茲ニ聲明致候從テ貴信御來示ノ旅順大連接收辦法及本
 件條約及交換公文廢棄後ノ善後措置商議方ニ關スル貴國政
 府ノ提議ニ對シテハ何等應酬スルノ必要無之候
 右回答旁本大臣ハ貴下ニ對シ茲ニ重テ敬意ヲ表シ候 敬具
 追而在支帝國公使ヨリモ貴國政府ニ宛テ同様ノ公文ヲ發
 送爲致候念ノ爲メ申添候也

【參考】

帝制問題ニ關スル公文

帝制問題ニ關スル公文

帝國對支勸告

(大正四年十月二十八日)

支那ニ於ケル國體變更ノ計畫ハ近時著々其歩ヲ進メ今ヤ急
速發展シテ之カ實行將ニ目前ニ迫ラントスルモノノ如シ顧
フニ歐洲ノ大亂未タ平定ニ至ラス一般ノ不安鮮少ナラサル
モノアリ此時ニ當リ世界何ノ地タルヲ問ハス苟クモ平和安
寧ヲ傷害スルノ虞アル事應ヘ能フ限リ努メテ之カ實現ヲ避
ケ以テ更ニ新ナル不安ノ狀態ヲ加フルコトナキヲ期セサル
ヘカラス而シテ今日親シク各地ノ實勢ヲ見ルニ各地ヲ通シ
帝國實現ニ向ヒ大ナル反對ナキカ如キ外觀ヲ呈スト雖帝國
政府ノ有スル情報ニ依レハ右ハ多クハ表面ノ情勢ニ止マリ
裏面反對ノ感情ハ事實意外ニ廣クシテ不安ノ氣勢漸ク各地
ニ瀰漫シツツアルコト亦ムヘカラサルモノノ如シ觀テ莫大
總統過去四年間ニ於ケル施設ヲ見ルニ國內ノ秩序漸ク整ヒ
地方不安ノ狀態モ日ヲ返ウテ平定シ大總統ニシテ現狀ヲ維
持シ既ニ執レル所ノ進路ヲ改ムルナクシテハ遂ニ秩序全ク回
復シ各地安寧ニ歸スルノ日蓋シ必スシモ遠キニ非サルヘシ
然ルニ今大總統ニシテ俄ニ帝制ヲ建ツルカ如キコトアラン
カ或ハ前記反對ノ氣勢立トコロニ勃發シテ意外ノ動搖擾亂
ヲ誘起シ折角平靜ニ向ヒツツアル支那ノ各地ヲシテ再ヒ不

安危險ノ域タラシムルニ至ルコト之レ無シト云フヘカラス
況ヤ世界ノ形勢前述ノ如キモノアル今日支那ニ此危險ナル
情況ノ促進ヲ見ルカ如キハ世界大局ノ利害ニ鑑ミ帝國政府
ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ加之若シ支那ニシテ一度動搖擾亂
ヲ見ルトキハ支那自國ノ爲不幸之ニ過クルモノナキハ勿論
支那ニ對シ利害ノ關係深キ各國殊ニ支那ト特殊ノ關係ニ在
ル帝國ノ蒙ルヘキ直接間接ノ影響ハ眞ニ計ルヘカラサルモ
ノアリ東洋ノ平和亦爲ニ危殆ニ陥ルノ虞ナシトセズ
事應叙上ノ如クナルヲ以テ帝國政府ハ禍亂ヲ未然ニ防キ東
洋ノ和平ヲ維持セントスルノ衷況ヨリ茲ニ支那政府ニ對シ
先以テ支那今日ノ情況最モ憂慮ニ堪ヘサルモノアル次第ヲ
告ケ果シテ全然何等ノ異變ナク無事ニ帝制ノ實現ヲ爲シ得
ルノ確信アルヤヲ問ヒ進シテ胸襟ヲ開キテ帝國政府ノ所見
ヲ披瀝シ大總統カ義ク大局ニ顧ミ其國體變更ノ計畫ヲ延期
シ以テ禍亂ヲ未然ニ防キ極東和平ノ基礎ヲ固ウスルノ最モ
賢明ナル措置ニ出テラレンコトヲ友誼的ニ勸告スルコトニ
決定シ小幡在支那代理公使ニ對シ既ニ必要ナル訓令ヲ發シ
タリ帝國政府ハ決シテ此措置ニ依リテ以テ支那ノ内政ニ干
渉セントスルモノニアラス全ク隣邦トシテ其當ニ盡スヘキ
ノ誼ヲ盡サントスルニ外ナラス

支那回答ノ内容

十一月一日曹外交長ハ小幡代理公使ヲ訪問帝國問題ニ關
スル帝國政府ノ勸告ニ對シ支那政府ノ回答トシテ左ノ通り
口述セリ

貴代理公使ヨリ十月二十八日口頭ヲ以テ述ヘラレタル貴國
政府勸告ニ對シテハ本總長了解シタリ惟フニ此事ハ全然中
國ノ内政ニ係ル然ルニ貴國政府ノ友誼的勸告ヲ承ハル以上
特ニ左ノ如キ詳細ナル形勢ヲ以テ答覆ス帝制ヲ主張スルモ
ノ已ニ長時日ヲ越エ本國政府ハ現國體ヲ維持スル爲隨時ニ
辯駁セサルコトナシ然ルニ近來國民ノ國體變更ヲ主張スル
モノ日ニ益増加シ國內實力アルモノモ多數加ハリ依テ結合
益固ク風潮益激シキニ至レリ若シ專ラ力ヲ以テ壓制セハ單
リ民意ニ違反スルノミナラス又治安ヲ妨害スル虞アリ政府
何ソ敢テ斯ノ如キ重大ナル責任ヲ負ハンヤ故ニ民意ヲ尊重
シ代行立法院ニテ通過シタル法律案ヲ公布シ國民ノ代表大
會ヲ組織シテ此根本問題ヲ共同ニ議決セシムルノ外ナシ各
省人民カ立法院ニ向ヒテ國體變更ヲ請願スルニ當リ大總統
ハ九月六日立法院ニ向ヒテ意見ヲ宣示シ之ヲ事宜ニ合セ認
メ又蒙同王公及文武官吏等ノ國體變更ニ關スル昆文ニ對シ

十月十日大總統申令ヲ以テ輕申變更スルコト事宜ノ誤リナ
リト告ケ茲ニ各省選舉監督ニ法律ニ遵從シ慎重ニ從事セヨ
ト戒メ又十月十二日各省選舉監督ニ努メテ法律ニ從ヒテ切
實ニ奉行シ急遽粗雜ニ流ルルコトヲ得スト傳令シタリ依リ
テ本國政府ハ素ヨリ國體變更ニ進シテ贊成セサルコト決
シテ急劇ニ措置スルノ意志ナキコトハ明カナリ但シ本國約
法ニ主權ハ國民ニ在リトアルニヨリ國民ノ公決ニ待タサル
ヘカラサルコト自然ノ理ナリ斯カル困難ニ際シ政府ハ各方
面ニ向テ調停ニ努メ一方ニ於テ法律ヲ尊重シ他方ニ於テハ
民意ニ俯從スルヲ以テ大局ノ平和ヲ保全スルコトヲ希望シ
ツツアリ國體討論ノ甚ダシク猛烈ナルニ際シ政府ハ深ク之
ニ依リテ事變ヲ惹起サンコトヲ憂慮シ果シテ地方ノ秩序ヲ
確保シ得ルヤヲ再三電信ニテ各省文武官吏ニ問合セタルニ
其都度右各官吏ハ何レモ民意ニ從テ國體問題ヲ解決セハ各
省皆地方治安ノ責任ヲ負擔スト電覆シ來レリ即改革ヲ實行
スルトキ事變ヲ發生スルコトハ斷シテナシ無論外國人ノ調
査ハ本國人ノ詳細且正確ニ如カス各省官吏ノ報告ハ今ヤ一
致シテ治安ヲ擔保セリ所謂裏面ノ反對ハ熾烈ニシテ上海長
江筋並南支地方ノ形勢憂慮スヘキモノアリトノ報告ハ一モ
ナシ政府ハ本國官吏ノ報告ヲ信シテ準據トセサルヲ得ス若

シ夫レ本國國民ノ必ス帝制ヲ主張スル所以ニ至リテハ我國ノ幅員ハ廣大ニシテ五族風俗ヲ異ニシ然ル上教育ハ淺薄ニシテ民心ハ變リ易シ又共和ノ元首ハ時ニ交代アリ其都度ニ莫大ノ亂端ヲ開クコトアリ我國ハ他國ノ近事ヲ以テ殷鑒ト爲ス可シ然ラズンハ本國人ノ生命財產ニ危險多カルヘキノミナラス各友邦ノ居留民ノ事業モ必ス安固ヲ期シ難シ我民國成立シテ今ヤ既ニ四年ヲ經タリ而シテ股戶巨商ハ各種ノ事業ニ投資スルコトヲ躊躇シ官吏ノ行政人民ノ營業ハ皆長遠ノ計畫ヲ爲ス能ハス且人心不定ニシテ治理困難ナリ蓋シ國民團體ヲ改革スルヲ主張スル理由モ亦之ニ基キタルモノナリ且夫レ目下ニ於テ大多數國民ノ願意ハ既ニ共和制度ヲ以テ中國ニ不適用ト認メ又此問題ハ既ニ國民代表大會ノ公決ニ附セラレタリ茲ニ於テ國本ハ動搖シ人心ハ遲疑ス政治ハ其影響ヲ受テ商務ハ之ニ依リテ停滯シ開人ハ直ニ此際ニ乘シテ謗言ヲ捏造スルヲ以テ尙更人心ヲ驚擾シ易シ國體遷延シテ決定セサル爲事端ヲ釀成スレハ本國人ハ固ヨリ害ヲ受クルヲ免カレ難ク友邦ノ居留民モ亦恐惶ヲ免カレ難シ國體問題ハ既ニ議決ニ附シタリ一日定マラサレハ人心一日安ンセス即一日ノ危險アリ是レ甚ダ顯著ニシテ賭易キコトナリ況ヤ貴國政府ノ勸告ヲ爲ストキ各省ニ於テ君主立憲ト決定シ

タルモノ既ニ五箇省アルニ於テヤ要スルニ本國國民ニアリテハ本國長久治安ノ榮利ヲ希望シ政府ニアリテハ我各友邦居留民ノ事業悉ク發達シ以テ東方ノ平和ヲ維持スルヲ希望スルハ我親愛ナル各友邦政府ノ苦心ト全ク同一轍ニ出ル者ナリ又本國ノ少數ノ亡命者ニ至リテハ外國或ハ其他中國法權ノ及ハサル所ニ遁逃シテ既往將來ヲ問ハス共和君主ヲ論セス徒ラニ破壞的暴性ヲ抱キテ禍ヲ釀スノ行爲ヲ逞シウセサル日ナシ然レトモ彼等ハ只謗言ヲ捏造シテ人心ヲ煽動スルノミニシテ毫モ實力ナキ者ナリ數年以來時々小亂ノ發生アレトモ悉ク即時ニ撲滅シテ大局上ニ於テ何等影響ヲ及ホササルコト既往ニ徵シテ明カナリ各省ハ今ヤ特ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ十分ニ防範シテ憂慮スヘキコトハ斷シテナシ尙凡テ中國法權ノ完全ニ及ハサル所ニ至リテハ今後モ我親愛ナル各友邦政府ニ於テ取締ニ協力セラレンコトヲ望ム斯ノ如クシテハ彼等亡命者ハ豈亂事ヲ發生スルノ餘地アラザヤ今回貴國政府力友誼的勸告ヲ爲シ茲ニ決シテ中國内政ニ干渉スルニアラサルコトヲ聲明セテレタル好意ハ本國政府ノ重視スル所ナリ貴國政府ノ此勸告アルハ完全ニ東方ノ平和ヲ維持スル爲ニシテ本國政府ノ意見ト相同シケレハ此目的ヲ達スル爲本國政府ハ全力ヲ盡スヘキナリ貴國政府ノ深ク信

セラレンコトヲ希望ス貴國政府ニ以上各節ヲ轉達セラレンコトヲ請フ

鄭家屯事件往復文書

大正六年一月二十七日公表

〔(一)・(二)・(三)・(四)省略〕

(五)、一月五日帝國公使ヨリ左ノ口上書ヲ支那外交總長ニ交付セリ

(帝國公使發外交總長宛口上書)

南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約施行ノ結果トシテ將來該地方ニ於ケル帝國臣民ノ數增加スルニ至ルヘク從テ帝國政府ニ於テ之カ取締及保護ノ爲警察官駐在所ヲ該地方ニ増設スルヲ必要トスル次第ハ客年十月十八日帝國公使ヨリ陳前任外交總長ニ手交シタル口上書ニ詳説セル通ナルカ若シ帝國政府ニ於テ本件要求ヲ撤回スルコトトセハ將來該地方ニ於ケル帝國臣民ノ居住來往ニ對シ多大ノ不安ヲ與フルノミナラス帝國臣民ト支那國官民トノ間ニ事端ヲ滋生シ延イテ紛糾ヲ惹起スルニ至ルヘキハ疑ヲ容レス蓋帝國政府ハ自國臣民ニ對シ必要ノ保護ヲ與フル

鄭家屯事件往復文書

ノ義務ト取締ヲ行フノ權利ト有スルカ故此種事變ノ發生ヲ默視シ難キノミナラス日支兩國國交ノ圓滿ヲ期スルノ見地ヨリ亦之カ豫防ノ手段ヲ盡スノ義務ヲ有スル次第ナリ

帝國警察官ノ該地方駐在ハ畢竟領事裁判權ニ伴フ當然ノ措置ニシテ毫モ支那國ノ主權ヲ侵害スルモノニアラサルハ勿論之カ爲日支兩國官民ノ關係ヲ良好ナラシメ兩國經濟關係ノ發展ニモ貢獻スル所夥カラサルヘキヲ以テ帝國政府ハ支那國政府ニ於テ之ニ同意ヲ表セラルヘキヲ確信スト雖若シ支那國政府ニシテ之ニ同意ヲ與フルヲ躊躇セラルル如キ場合ニハ帝國政府ニ於テ必要ニ應シ之ヲ實行スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ茲ニ聲明ス

右ニ對シ一月十二日支那外交總長ハ左ノ口上書ヲ帝國公使ニ交付セリ

(外交總長發帝國公使宛口上書)

一月五日付口上書ニ依レハ「南滿洲及東部內蒙古ニ關スル日支條約施行ノ結果トシテ將來該地方ニ於ケル帝國臣民ノ數增加スルニ至ルヘク從テ帝國政府ニ於テ之カ取締及保護ノ爲警察官駐在所ヲ

該地方ニ増設スルヲ必要トスル次第ハ客年十月十八日帝國公使ヨリ陳前任外交總長ニ手交シタル口上書ニ詳説セル通ナルカ若シ帝國政府ニ於テ本件要求ヲ撤回スルコトトセハ將來該地方ニ於ケル帝國臣民ノ居住來往ニ對シ多大ノ不安ヲ與フルノミナラス帝國臣民ト支那國官民トノ間ニ事端ヲ滋生シ延イテ重大ナル紛糾ヲ惹起スルニ至ルヘキハ疑ヲ容レズ蓋帝國政府ハ自國臣民ニ對シ必要ノ保護ヲ與フルノ義務ヲ取締リ行フノ權利ト有スルカ故此種事邊ノ發生ヲ默視シ難キノミナラス日支兩國國交ノ圓滿ヲ期スルノ見地ヨリ亦之カ豫防ノ手段ヲ盡スノ義務ヲ有スル次第ナリ

帝國警察官ノ該地方駐在ハ畢竟領事裁判權ニ伴フ當然ノ措置ニシテ毫モ支那國ノ主權ヲ侵害スルモノニアラサルハ勿論之カ爲日支兩國官民ノ關係ヲ良好ナラシメ兩國經濟關係ノ發展ニモ貢獻スル所夥カラサルヘキヲ以テ帝國政府ハ支那國政府ニ於テ之ニ同意ヲ表セラルヘキヲ確信スト雖若シ支那國政府ニシテ之ニ同意ヲ與フルヲ躊躇セラルル如キ場合ニハ帝國政府ニ於テ必要ニ應シ之ヲ實行スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ茲ニ聲明ス

ト有之處查スルニ日支新條約ニ依リ日本臣民ハ南滿洲ニ

於テ居住往來シ商工業ヲ經營シ拉東部內蒙古ニ於テ支那國國民ト農業及附隨工業ヲ合辦スルヲ得ルコトナリ而シテ支那政府ハ日本臣民ノ數漸次増加スヘキヲ豫想シタルカ故該條約第五條ニ依リハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル日本臣民ハ支那警察法合ニ服スルコトナリ居リ從テ支那警察ハ其保護取締ノ職ヲ實行シ得ル次第ナリ然ルニ今回貴國カ警察官ヲ配置セラレントスルコトモ亦貴國臣民ノ保護取締ヲ目的トセラルルモノニシテ條約ノ規定アル以上再ヒ貴國警察官ヲ設ケテ支那警察權ト衝突スルカ如キコトナキヲ可トス昨年十月十八日ノ警察官駐在ニ關スル說明書ニ據ルモ支那警察權ニ屬スルモノモアリ條約ニ規定セラレタルモノモアリ其他領事裁判所執達吏ノ職務ニ屬スルモノモアリテ齊ク貴國警察ヲ設クルノ必要ナシ本項ノ警察問題ハ所謂治外法權ナルモノトハ何等關係ナク本國政府ニ於テ當然ノ措置ト認ムル能ハサル所ニシテ各國ト條約締結以來未タ斯ノ如キコトナシ貴公使累次本項ノ警察ハ支那地方行政及警察權ニ干渉セザル旨聲明セラレタリト雖本國政府篤ト考量スルニ支那領土内ニ於テ外國警察官ヲ駐在セシムルハ事ノ如何ヲ論セス支那主權ノ精神及形式上共ニ障害アリ且ツ人民側ニ於テモ

誤解ヲ生シ易ク却テ兩國親善ノ妨害タリ既設ノ警察官駐在所ニ就テハ既ニ政府及地方官ニ於テ累次抗議ヲ提出シ未タ曾テ承認セス口上書中記載ノ貴國警察官配置ノ理由ハ承認シ難ク且ツ本件ハ元來郵家屯問題ト何等關係ナク貴公使ニ於テモ本件ヲ郵家屯問題ヨリ引離スノ說ヲ立テラレタルコトモアリシ次第ニ付願クハ貴國政府ニ於テモ再ヒ本件ヲ提議セララルルコトナク尙ホ支那政府カ本件ノ實行ヲ承認セリトセラレサランコトヲ

〔(六)、省略〕

無線電信建設契約

大正七年二月二十一日
(海軍部對三井物產株式會社)

本契約

日本、亞米利加及歐洲ニ於ケル同一規模ノ無線電信局ト直接無線連絡ヲ爲ス目的ヲ以テ支那ニ一大無線電信局建設ニ關スル契約

一、支那共和國海軍部(以下政府ト稱ス)ト三井物產株式會社(以下請負者ト稱ス)トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

無線電信建設契約

二、請負者ハ政府ノ爲メ日本、亞米利加及歐洲ト直接無線連絡ヲ爲スニ充分ナル送信力及特別ノ受信機ヲ有スル一大無線電信局ヲ建設スヘキコトヲ約諾ス該局ハ政府ノ承認シ且請負者ニ於テ附帶設計書ニ基キ必要ナル土地ヲ買収又ハ賃借シ得ル場所ニ建設スルモノトス

三、土地ノ買収、賃借、家屋電塔ノ建設、機械ノ建設運搬及据付其他ニ必要ナル金額總計五十三萬六千二百六十七磅ハ請負者ニ於テ之ヲ訓連スヘク該局ノ建設ニ關スル一切ノ取引ニ對シテハ請負者ノミ其ノ責ニ任ス

四、前記資金五十三萬六千二百六十七磅ハ該局ノ價格ヲ構成シ右ハ三十箇年間ニ該價格ノ三十分ノ一宛年賦ノ方法ニ依リ之ニ未済額ニ對スル年八分ノ利息ヲ加ヘ仕拂ハルヘク且該局カ正規ニ業務ヲ開始シタル年ノ終ヨリ開始シ毎年洋曆十二月三十一日ニ仕拂ハルヘキモノトス

五、前記投下資金ノ年賦償却及利息ノ仕拂ニ付請負者ハ該局ノ收入中ヨリ先ツ該局經營ニ關スル一切ノ費用ヲ控除シタル殘額ヲ以テ仕拂ヲナシ得ヘキコトヲ保障スルカ故ニ諸仕拂ニ對シテハ請負者ノミ其ノ責ニ任ス

斯ク請負者ニ於テ右責任ヲ負擔スルカ故ニ政府ハ前記三十年間該局ノ經營及之ニ關スル一切ノ事務處理ノ權利ヲ

請負者ニ附與ス

請負者ハ該局ノ收入カ諸費用ノ仕拂ニ足ラサル場合ニ於テモ利息ノ仕拂及資金ノ年賦償却ニ對シ其ノ責ニ任ス

六、該局ノ經營カ請負者ニ屬スル期間中政府ハ通信ヨリ生スル總收入ノ一割ヲ收受スルモノトス右納付金ハ各曆年ノ收入ニ依リ計算シ毎年末ヲ以テ仕拂期トス而シテ總收入ノ一割ニ相當スル納付金ハ該局ノ收入カ諸費用ノ仕拂ニ足ラサル場合ニ於テモ尙政府ニ對シ仕拂ハルヘキモノトス

九、前記三十年ノ期間内ニ於テ政府カ如何ナル理由ニ依ルモ該局ノ經營ヲ其ノ手中ニ收メント欲スルトキハ未償却年賦總額及之ニ對スル仕拂期日迄ノ年八分ノ利息ヲ完済シ以テ之ヲ回收スルノ權利ヲ有スルコト勿論ナリ爾後該局ニ關シ請負者側ニ於テ措置ヲナス權利ハ消滅ス此ノ場合ニ於テ請負者ハ該局ヲ政府ニ引渡ス前支那文及英文ヲ以テ作成セル完全ナル財産目錄ヲ政府ニ提供スヘシ

七、政府ハ該局ノ經營ヲ管理シ且第六條ノ規定ニ依ル仕拂ヲ確保スル爲メ一切ノ計算ヲ監督セシムヘキ官吏ヲ該局ニ常置スル權利ヲ有ス

十、政府ハ第九條記載ノ諸仕拂ヲ爲スニ非サレハ該局ノ經營ヲ請負者ヨリ剝奪スルノ權利ヲ有セス若シ政府側ニ於テ此ノ種ノ行爲ニ出ツルトキハ請負者ハ該局ノ所有者トシテ一切ノ請求權ヲ享受スルモノトス

八、政府ハ該局ノ經營ヨリ出來得ル限り多額ノ收入ヲ確保セシムカ爲メ支那以外ニ於ケル有ラユル無線電信局ト連絡シテ經營シ最モ多數且有利ナル通信(海上及港内ニ在ル船舶トノ一切ノ通信ヲ含ム)ヲ確保スルコトヲ允許ス尤モ請負者ハ支那ニ於ケル無線電信局ト商業上ノ通信ヲナスコトヲ得ス但シ軍事官憲ヨリノ命令ニ依ル軍用ノモノハ此ノ限リニアラス支那ト或ル他國ト戰争ノ場合ニ於テハ該

十一、年賦金及資金ニ對スル利息仕拂ノ責任請負者ニ存スル期間内ニ於テハ請負者ノミ本契約ニ關スル其ノ權利及義務ヲ第三者ニ讓渡スル權利ヲ有ス但シ此ノ種ノ取引ハ豫メ政府ノ認可ヲ要ス其ノ許可ヲシテ會社ノ權利ヲ第三者ニ讓渡スルハ違法トス

十二、前記三十年經過後ハ政府ハ(若シ未ダ第九條記載ノ條件ニ依リ該局ヲ讓受ケ居ラサル場合ニ於テハ)請負者カ該局ノ經營ニ依リ其ノ資金ヲ回收シ得タルト否トニ拘

ハラス請負者ニ何等ノ補償ヲ與ヘスシテ該局ヲ回收スルノ權利ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ請負者ニ對シ六箇月ノ豫告ヲ與フヘキモノトス然ラサレハ請負者ハ爾後五年間總收入ノ五分ヲ收受スル權利ヲ有スルモノトス

十三、政府ニ於テ該局ノ經營ヲ回收スルト同時ニ該局ノ經營會計其ノ他ニ從事スル全職員ハ政府ニ依リ任命使役セラレ且其ノ俸給ヲ仕拂ハルヘシ尙政府ハ不適任ト認メタル職員ヲ罷免スル權利ヲ有ス但シ該局ノ經營請負者ノ手ニ存スル間ハ全職員ハ請負者ニ依リ任命使役セラレ其ノ給料ハ他ノ一切ノ經費同様に該局ノ收入中ヨリ仕拂ハルルモノトス

請負者ニ於テ政府ニ對シ「護照」ヲ請求スル場合ニハ輸入セラルヘキ材料ノ正當ナル目錄及一切ノ貨物ニ對スル送狀ヲ提出スヘシ該局建設ノ爲メニ使用セラルルモノ以外ノ材料ハ「護照」ニ依リ輸入スルコトヲ得サルモノトス

十四、該局ヲ經營カ請負者ノ手中ニ存スル間ハ請負者ハ該局ノ通信能率ヲ増加スル爲メ政府ノ承認ヲ條件トシテ電力ヲ増加シ又ハ機械ヲ改良スル權利ヲ有ス但シ此等改良ニ要スル費用ニ關シテハ請負者當然其ノ責ニ任スルモノトス此等ニ關スル費用ハ該局建設ニ要スル創業費同様三

十六、請負者ハ材料ヲ外國ヨリ輸入スルニ先チ成ルヘク支那ニ於テ相當ノ價格ヲ以テ購買シ得ヘキ材料ヲ使用スル義務ヲ有ス

十五年、政府ハ一切ノ機械及材料ノ輸入ニ對シ必要ナル「護照」ヲ請負者ニ發給スヘシ該機械及材料ニ對シテハ釐金其ノ他一切ノ内國稅ヲ免除セラルヘシ

十七、本契約ハ英文及支那文ヲ以テ作成ス但シ異論又ハ爭議アルトキハ英文契約原本ノミ兩當事者ヲ拘束スルモノトス

附帶契約

中華民國海軍部

劉傳綬

三井物產株式會社

大村得太郎

千九百十八年二月二十一日附ヲ以テ支那海軍部(政府ト稱ス)ト三井物產株式會社(請負者ト稱ス)トノ間ニ一無線電

信局ノ建設ニ關スル契約締結セラレ而シテ該契約ニ依レハ政府ハ何時ニテモ代價ヲ仕拂ヒ前記ノ局ヲ讓受ケル權利ヲ有シ居リ且目下政府ハ該局ノ竣成後直ニ之ヲ讓受ケンコトヲ希望スルカ故ニ政府ノ爲メニ必要ナル資金ヲ調達スル爲メ支那海軍部ト三井物産株式會社トノ間ニ左ノ附帶契約ヲ締結ス

- 一、請負者ハ政府ノ爲メニ五十三萬六千二百六十七磅ノ借款ヲ調達スルモノトス請負者ハ該金額ヲ日本ノ銀行ニ預入レテ貸記シ請負者ニヨリ該局建設ニ關スル一切ノ費用仕拂ニ充當セラルルモノトス
- 二、公資金ハ政府ヨリ三十年間毎年該資金ノ三十分ノ一即一萬七千八百七十五磅十一志四片宛ヲ請負者ニ年賦ヲ以テ償還ス且元金償却以外ニ政府ハ請負者ノ貸金殘高ニ對シ年八分ノ利息ヲ仕拂フモノトス
- 三、前記資金年賦額ハ毎年洋曆十二月三十一日政府ヨリ之ヲ請負者ニ仕拂フモノトス但シ第一回年賦額ハ該局建設セラレ日本、西部亞米利加及歐洲ニ於ケル同種ノ局ト電報ヲ交換シ且連絡スルニ充分ナル電力ヲ有スルコトヲ證明セラレタルトキヨリ十年後ニ於テ仕拂フヘキモノトス
- 四、第二條ノ規定ニ依リ請負者ノ貸金殘高ニ對スル利息ノ

仕拂ハ該局ノ建設ヲ了シタル年ニ始マリ同年及爾後毎年十二月三十一日ニ仕拂ハルヘキモノトス

- 五、本附帶契約ノ締結ニ依リ該局ノ經營及之ヨリ生スル收入ニ對スル一切ノ權利ハ政府之ヲ收ムヘキモノナルヲ以テ請負者ハ本計畫ニヨル收利率ニ對シ何等ノ責任ヲ負ハス依テ本契約第五條ハ無効トナルヘシ
- 六、政府カ該局ヲ讓受ケタル後其ノ經營カ政府ト海底電信會社トノ間ニ現行契約ニ何等抵觸スルコトアル場合ニ於テハ請負者ハ政府ノ要求ニ依リ政府ノ計算ニ於テ該局ノ經營ヲ引受ケ且海底電信會社ノ業務ヲ妨害セサルヘキ他ノ無線電信局ト連絡シ自ラ之カ經營ノ義務ヲ負フモノトス若シ請負者ニシテ此ノ義務ノ履行ヲ爲ササルトキハ其ノ義務ノ履行セラルル迄請負者ニ對スル爾後ノ仕拂ハ停止セラルヘシ
- 七、本附帶契約ハ本契約ノ一部ヲ成シ本契約第十七條ハ本附帶契約ニ適用セラルヘキモノトス

中華民國海軍部
劉傳綬
三井物産株式會社

附屬取極 其一

大村得太郎

拜啓陳者大無線電信局建設資金ノ年賦償却及利息仕拂ニ關シ貴部ニ於テハ電報收入ノ内ヨリ經費ヲ控除シタル上尙右金額ノ仕拂ヲ爲シ得ルヤ否ヤニ付懸念セララル趣承知致候

就テハ若シ貴政府ニ於テ該局ヲシテ其ノ經費及資金ノ利息並年賦償却金ノ仕拂ヲ爲サシムルコト能ハサルトキハ弊社ハ貴政府ニ於テ希望セラルルニ於テハ最初提出シタル特許契約ニ關スル弊社ノ提議通り貴政府監督ノ下ニ欣然該局ノ經營ヲ引受ケ且利息及年賦償却金ノ仕拂ヲ可致候

尤モ此ノ場合ニハ弊社ノ利益ヲ保護スル爲メ弊社ハ左ノ如キ主張ヲナササルヘカササル次第ニ有之候

- 一、支那政府ハ弊社ヲシテ該局ノ經營方法ヲ適當ニ準備セシメムカ爲メ弊社ニ對シ少クトモ滿一年ノ豫告ヲ與フヘキコト
- 二、政府カ該局ヲ經營スル期間中本契約ニ依リ仕拂フヘキ資金及利息等一切ノ仕拂ニ對シテハ政府自ラ其ノ責ニ任スヘキコト

無線電信建設契約

附屬取極 其二

大村得太郎

三、弊社ハ弊社ノ手ニ於テ該局ヲ經營スル間ハ私報及官報ノ各種電報ノ傳送ニ對シ料金徴收ノ權利ヲ有スヘシ此段得貴意候 敬具

千九百十八年二月二十一日北京ニ於テ

三井物産株式會社

北京海軍部
御中
中華民國海軍部
劉傳綬

拜啓陳者附帶契約第六條ニ關シ弊社ハ貴政府カ既ニ大北及大東兩海底電信會社トノ間ニ或現存契約ヲ有シ居ラレ該契約ハ歐米ニ於ケル右兩社以外ノ陸上電信局トノ通信ヲ制限シ且千九百三十年末迄有效ナル由ヲ承知致候

就テハ弊社ハ千九百三十一年初頭迄ハ全然前記第六條ニ遵
フノ外無之旨竝貴政府ト大北及大東兩海底電信會社トノ間
ノ契約ニ基ク現行ノ制限ハ右期限後消滅可致ニ付千九百三
十一年初頭以後弊社ニ於テ該局ノ經營ヲ擔任スル場合ニ於
テハ弊社ハ全世界ノ各無線電信局トノ連絡ニ何等制限ヲ受
ケサルヘキ旨ヲ特ニ爰ニ言明致候 敬具

千九百十八年二月二十一日北京ニ於テ

三井物産株式會社

大村得太郎

北 京

海 軍 部

御 中

本書ハ附帶契約ニ附屬スヘキモノニシテ兩當事者ニ依リ署
名承認セララルモノトス

中華民國海軍部

劉 傳 綬

附屬取極 其三

拜啓陳者支那ニ於ケル一大無線電信局建設ノ件ニ付本日附

ヲ以テ貴部ト弊社トノ間ニ締結シタル契約ニ關シ弊社ハ該
無線電信局ノ建設ニ使用スル諸材料ハ日本ノ著名ナル製作
者ニ依リ精撰供給セララルルカ又ハ歐米ヨリ購入セララルヘキ
コトヲ茲ニ言明致候

尙弊社ハ貴部ニ對シ前記諸材料ハ品質最良ノモノナルコト
竝如何ナル場合ト雖モ品質劣等ナルモノヲ使用セサルコト
ヲ保障致候 敬具

千九百十八年二月二十一日北京ニ於テ

三井物産株式會社

大村得太郎

北 京

海 軍 部

御 中

本書ハ附帶契約ニ附屬スヘキモノニシテ兩當事者ニ依リ署
名承認セララルモノトス

中華民國海軍部

劉 傳 綬

(附屬協定)

大正九年二月十日
(交通部對東亞興業株式會社)

有線電信擴張改良費立替拂契約

交通部(以下甲ト稱ス)ハ有線電信ヲ擴張改良スル爲メ材料
及工運費ヲ要スルニ依リ其立替拂ニ關シ東亞興業株式會社
(以下乙ト稱ス)トノ間ニ左記ノ條項ニ依リ契約ヲ締結ス
第一條 本契約ニ依ル材料工賃及運費等必要立替金額ヲ

總計日金一千五百萬圓トス
但シ有線電信ノ擴張及改良ノ豫定計畫ハ第一號附屬表
ノ通りトス將來本附表ノ計畫變更ノ場合ニハ甲ハ其理
由書ヲ付シテ變更スル事

第二條 甲ハ本立替金ニ對シ年九分即金百圓ニツキ金九
圓ノ割ヲ以テ利息ヲ附シ毎年二期ニ分チ初日即二月十
日及八月十日ニ於テ其期ノ利息ヲ前付スルモノトス
但シ第一期及最終期ニ於ケル利息支拂及立替金ノ分割
償還ヲ受ケタル場合ニ於ケル利息ノ支拂ハ日割計算ト
ス

第三條 本立替ハ立替支拂ノ日ヨリ起算シ滿十三箇年ト
シ最初三年間ハ單ニ利息ヲ支拂ヒ第四年日ヨリ十箇年

支那ニ於ケル一大無線電信局建設ノ件ニ付千九百十八年二
月二十一日附ヲ以テ調印シタル契約及附帶契約ニ關シ下ノ
署名者ハ兩當事者カ閣議ノ承認ヲ經テ相互間ニ交換シタル
文書ニ依リ左ノ協定ヲ遂ケタルコトヲ茲ニ確認ス
「契約第四條ニ記載シタル三十年ノ期間中政府ハ外國ト通
信スル目的ヲ以テ支那ニ無線電信ヲ建設スルコトヲ他ノ個人
又ハ會社ニ對シ一切許可セサルヘク政府モ亦自ラ之ヲ建設
セサルヘシ」
前記ノ協定ハ契約ノ一部ヲ成シ契約第十七條ハ本協定ニ適
用スヘキモノトス

千九百十八年三月五日北京ニ於テ

三井物産株式會社

大村得太郎

中華民國海軍部

劉 傳 綬

有線電信擴張改良借款

立替拂契約

有線電信擴張改良借款立替拂契約

間ニ元利均分償還ヲ爲スヘキモノトス
但シ一曆年内ニ數回ノ立替拂ヲ爲シタル時ハ最後ニ交
付シタル日ヲ以テ該曆年ニ交付シタル總金額ニ對スル
期限ノ起算日トス

第四條 甲ハ本立替支拂金ニ對シ有線電信ニ關スル財產
ノ全部並ニ其收入ヲ以テ元利償還ノ擔保トス

第五條 甲ハ乙ヨリ亞鉛鐵線計四千噸ヲ購入スルモノ
トス其數量交付地及代價ハ左ノ如シ

第一年數量二千噸天津、上海、交付日金一百零二萬圓也
第二年數量一千噸天津、上海、交付日金（價格ハ時價
ニ依リ協定ス）

第三年數量一千噸天津、上海、交付日金（價格ハ時價
ニ依リ協定ス）

但シ前項鐵線ハ甲ノ指定セル仕様書ニ依リ製造シタル
モノニテ甲ノ検査ヲ經ヘキモノトス若シ不合格ノ場合
ニハ甲ハ他ノ第三者ヨリ購入スルコトアルヘシ

第六條 本工事ニ要スル材料電桿機器等大約七百萬圓ノ
物品ハ甲ニ於テ自國品ヲ購入シ其代金ハ乙ヨリ立替拂
ヲ爲スモノトス

第七條 本工事ニ要スル工費運搬費等大約五百萬圓ハ必
ズ

要ニ應シ乙ヨリ立替拂ヲ爲スモノトス
第八條 本工事ニ要スル材料機器等ヲ外國ヨリ購入スル
場合ハ品質價格大差ナキ時ハ甲ハ必ス乙ヨリ購入スヘ
キモノトス

第九條 第五、六、七、八條ノ立替拂ヲ要スル時ハ甲ハ
其用途ヲ説明シタル書面ニ交通部日本顧問ノ同意書ヲ
添付シ乙ニ請求スヘシ乙ハ右請求ヲ受ケタル時ハ速ニ
該金額ヲ交付スヘキモノトス

但シ每一箇年ノ交付額ハ日金四百萬圓乃至七百萬圓ヲ
限度トス

第十條 本契約ニ依リ交付スル金額ハ無手数料トス

第十一條 本立替金ノ交付返済及利息ノ支拂ハ都テ東京
ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

又東京ヨリ中國ニ送金ヲ要スル時ハ中華匯業銀行ヲシ
テ之ヲ取扱ハシムルモノトス

右本契約書ハ中日文各二通ヲ作成シ甲乙各一通ヲ保存ス若
シ契約條項解釋上疑ヲ生シタル時ハ日本文ニ依リ解釋スル
モノトス

大正九年二月十日
民國九年二月十日

東亞興業株式會社代表 橋 三 郎 (印)
交 通 總 長 會 誠 嵩 (印)

定ム
四、甲ハ本工事進行ノ現狀ヲ六箇月毎ニ乙ニ通知スヘキモ
ノトス
大正九年二月十日 橋 三 郎 (印)
民國九年二月十日 會 誠 嵩 (印)

覺 書 (一號)

民國九年二月十日交通部(以下甲ト稱ス)ト東亞興業株式會
社(以下乙ト稱ス)ノ間ニ締結セル有線電信擴張改良費立替
拂契約ノ附帶條件トシテ雙方間ニ左記ノ各項ヲ協定ス

一、本契約調印後工事準備資金トシテ日金六百萬圓ノ内金
三百萬圓ハ契約調印ト同時ニ交付シ其餘ノ金三百萬圓ハ
日本興業銀行ニ預入シ材料準備資金トシ撥リニ使用スル
コトヲ得ヌ

二、第二次以降交付スヘキ金額ノ利息ハ其都度金融ノ狀況
ニ照シ雙方協定ノ上増減スルコトヲ得ルモノトス

三、甲ハ本工事實施中現在傭務日本顧問ノ外新ニ乙ノ推薦
スル學識經驗アル技師一人ヲ工事ニ關スル洋總管トシテ
雇用スルコト

右顧問ニハ兼務手當トシテ月額銀二百元ヲ支給シ技師ニ
ハ俸給トシテ月額銀六百元ヲ支給スルモノトス又洋總管
ノ任期ハ工事終了迄トシ其權限及詳細ハ別ニ契約ヲ以テ

有線電信擴張改良借款立替拂契約

覺 書 (二號)

民國七年四月三十日(財政部)ト日本三銀行代表中華匯業銀
行トノ間ニ締結セル電信借款日金二千萬圓也ノ償還期限到
着ノ際(財政部)ニテ其償還ニ不便ナル場合ニハ東亞興業株式
會社ハ債權銀行ニ協議シ該借款元利金ヲ十箇年賦拂トシテ
償還スルコトヲ承認セシムルモノトス但シ利息ハ金融ノ狀
況ニ由リ増減スルコトアルモ其餘ノ條件ハ原契約ニ準據シ
變更セサルヘキ事

右聲明ス
大正九年二月十日

東亞興業株式會社代表 橋 三 郎 (印)
民國九年二月十日

交 通 總 長 會 誠 嵩 (印)

擴充改良電信計畫表

地點	里數	工料數
西安至成都、大修加綫	二三四六	二三四六〇〇
西安至固原、同上	七四八	五五九八四〇
蘭州至通化、同上	四三六七	一三九七八四〇
包頭至固原、同上	一六三八	一三八八〇〇
新民至齊齊哈爾、同上	一四四六	一四四六〇〇
漢口至長沙至廣州、沿鐵路設四綫	二〇〇〇	四九五〇〇〇
杭州經福州至汕頭廣州	四一六六	二九一七二〇
天津至南京、沿津浦路設四綫	二一〇〇	四二〇〇〇〇
青島至濟南、加綫	七四五	四四七〇〇
廣州經桂林龍州至蒙自	四六六六	四五六六〇〇
成都經重慶至貴陽	二一三五	二一三五〇〇
西安經老河口至漢口	二三八八	二三八八〇〇
漢口至南京	一五六〇	一六六六〇〇
漢口重慶	二五九〇	三八五八〇〇
長春至哈爾濱、沿鐵路設二條綫	八五〇	一二七五〇〇
齊齊哈爾至黑河、大修加	一一六二	一四六二〇〇
雲南至河口、二條綫	一三八〇	一〇二四〇〇
上海至烟臺、海底電綫一條	五一七	二九〇〇〇〇

烟臺至營口、海底電綫一條	一六〇	九〇〇〇〇
總計	三六二八七五	八八六四五〇〇

交通部電話擴張借款契約

大正七年十月二十五日
(交通部對中日實業株式會社)

電話擴張借款契約書

民國五年短期電話借款ノ借替繼續及電話事業ノ改善擴張ニ必要ナル資金供給ニ關シ交通部(以下單ニ甲ト稱ス)ト中日實業株式會社(以下單ニ乙ト稱ス)トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 借款金額ハ一千萬圓トシ手取九七七ノ割合ヲ以テ交付ス其ノ交付ノ方法ハ一部舊債ノ借替ニ充當スルモノヲ除キ其ノ他ハ本契約調印後七日以内ニ東京ニ於テ乙ヨリ興業朝鮮臺灣第一住友古河ノ六銀行中甲ノ指定セル一

銀行ニ預入ル

但シ後日ニ至リ甲カ該預金ヲ送金セムト欲スル時ハ臺灣朝鮮住友ノ三銀行ヲ經由スルコトヲ約ス

尤モ上記三銀行ノ送金率カ其他ノ銀行ニ比シ不利ナル場合ハ甲ノ自由トス

本契約調印後七箇年間ニ甲ノ管轄セル電話事業ノ新設改善擴張ニ必要ナル諸材料ハ左記ノ方法ニヨリ之ヲ乙ヨリ供給ス

一、乙ハ自己ノ責任ヲ以テ古河住友兩製造家ヲシテ材料ニ關スル一切ノ事項ヲ代辦セシムルコトヲ得

二、甲ハ材料價格ノ標準ヲ定ムル爲メ所要材料ノ十分ノ五ヲ公入札ニ付シ同價同價ノ場合ニハ甲ハ乙ニ優先權ヲ與フ

其ノ餘ノ十分ノ五ハ該公入札ノ落札價值ヲ以テ標準トナシ乙ヨリ購入ス

但シ公入札ノ場合ニ於ケル他社ノ入札價格カ不法ノ競價價值ニテ原料ノ時價工賃營業諸經費等ヨリ計算シテ公正ト認ムヘカラサル時ハ之ヲ以テ標準トナサス

三、公入札ノ結果乙ニ落札シテ納入セル材料代金ニ對シテハ甲ハ遲滞ナク現金ヲ以テ支拂ヒ公入札ニ依ラスシ

テ乙ヨリ供給スル材料代金ハ之ヲ借款ニ振替ヘ當年中ニ引渡セルモノヲ一應メニシテ次年末ニ還濟ス

第二條 本借款ノ利息ハ年八朱トシ現金借款一千萬圓ノ利息ハ現金交付ノ日ヨリ起算シ材料借款ノ利息ハ每回荷物引渡検査終了ノ日ヨリ起算ス

利息ハ每年二期ニ分チ東京ニ於テ之ヲ前拂ス
其ノ第一回ハ本借款交付ノ日ヨリ來年三月末日迄ノ分ヲ日割計算ニテ本借款交付ト同時ニ支拂ヒ其以後ハ每年三月末九月末ノ二回ニ各半年分ヲ前拂シ最終ノ分ハ日割計算ヲ以テ六箇月前ニ支拂フモノトス

第三條 現金借款ノ償還期限ハ交付ノ日ヨリ起算シテ滿三箇年トシ滿期ニ至リ雙方異議ナキ場合ハ本契約ト同一條件ニテ更ニ切替繼續スルコトヲ得

但シ其ノ當時金融市場ニ於ケル利率カ本契約ヨリモ低廉ナル場合ニハ斟酌減定ス

第四條 本借款ノ擔保ヲ設定スルコト左ノ如シ

一、甲所管ノ各電話局及長距離電話ノ現在及將來擴張後ノ財產並ニ收入一切及營業權
二、現在既設ノ吳淞武昌福州廣州張家口北京以上六箇所ノ無線電信局ノ財產及收入一切

三、金五百萬圓ニ相當セル國庫債券

但シ現金借款償還後材料借款ノミ殘存セル場合ニハ前記擔保ハ雙方協議ノ上一部解除スルコトヲ得

第五條 甲ハ電話事業ノ豫定計畫ヲ遂行スル爲メ現在交通部ニ備聘セル日本技師及顧問中二名ヲ指定シテ技術及會計事務ヲ分擔助理セシメ且擴張方法ニ關スル調査ヲ擔任セシメ以テ甲ノ參考ニ供ス

第六條 甲ハ國貨獎勵ノ目的ヲ以テ將來合辦ニテ電線電纜ヲ主トスル電氣材料ノ製造工場ヲ設立スルコトヲ約ス該工場ニ於テ使用スヘキ原料竝ニ該工場ノ製品ニ對シテハ甲ハ相當ノ保護獎勵ヲ與フ該工場ノ製品ニシテ甲ノ需要スルモノハ該工場ハ時價ニ照シテ成ルヘク低廉ナル價格ヲ以テ之ヲ供給ス但シ甲ハ必ス先ツ該工場ヨリ購入スヘキモノトス

猶ホ工場新設ニ關スル詳細ハ別ニ之ヲ商訂ス

第七條 甲カ將來本借款期限満了ノ際借替繼續ヲ爲サムトスル場合ハ勿論將來事業擴張ニ要スル資金調達ノ必要有ル時ハ必ス先ツ乙ト商議スヘシ
猶ホ本借款期間内ハ電話事業ニ關シ甲ハ他ト之ト同一又ハ類似ノ契約ヲ商訂スルコトヲ得ス

第八條 本契約ハ日支兩國文各三通ヲ作製シ交通部中日實業株式會社及材料供給受託者各日支兩國文一通ヲ所持ス

交 通 總 長 曹 汝 霖

中日實業株式會社代表 楊 誠 斌

同 部 三 郎

材料供給受託者

古河商事株式會社代表 上 島 清 藏

住友電線製造所代表 矢 島 富 造

大正七年十月二十五日

交通銀行借款契約

第一次借款

大正六年一月二十日訓印

支那國交通銀行(以下甲ト稱ス)ハ其業務整理ノ爲メ日本帝國株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行ヲ以テ組成シ株式會社日本興業銀行ヲ以テ代表者トシタル銀行團(以下乙ト稱ス)ヨリ日本金貨五百萬圓也ノ借款

ヲ爲スニ付兩者ノ間ニ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 本借款金額ハ日本金貨五百萬圓トス

第二條 本借款期限ハ本契約訓印ノ日ヨリ起算シ三箇年即チ大正九年一月十九日中華民國第九年一月十九日迄トス

第三條 本借款利子ハ年七分五厘即チ日本金貨一百圓ニ付日本金貨七圓五十錢ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第四條 本借款利子第一回ハ借款金額交付當日ニ於テ大正六年七月十九日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂シ爾後毎年七月二十日及一月二十日ニ於テ後六箇月分ヲ前拂スルモノトス

第五條 乙ハ第十條ニ記載シタル擔保物件ヲ受取リタル後第一回ノ利子ヲ控除シタル本借款金額ヲ東京ニ於テ甲ノ代理人ニ交付スルモノトス

第六條 甲ノ代理人カ前條ノ金額ヲ受取リタルトキハ之ヲ乙ニ預入レ甲ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ引出スモノトス
甲ノ代理人ハ前項預金ノ條件及送金ノ方法ニ關シ別ニ東京ニ於テ乙ト協定スルモノトス

第七條 本借款金額ハ全部無手数料ニテ之ヲ交付スルモノトス

第八條 本借款金額ノ返済及利子支拂ハ東京ニ於テ之ヲ爲交通銀行借款契約

スモノトス

第九條 本借款ハ期限前ト雖モ甲ハ三箇月前ノ豫告ヲ以テ全部償還ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第十條 甲ハ本借款ノ元金及利子支拂ニ對スル擔保トシテ左ノ物件ヲ乙ニ提供スルモノトス

- 一、鹽秦豫海鐵路債券額面一百三十萬元
- 二、支那政府國庫債券額面四百萬元
- 三、交通銀行ニ對スル支那政府債務證書二百四十二萬五千六百八十七元六十八仙

第十一條 甲ハ前條ノ擔保物件全部ヲ證券所載金額ノ收取ニ必要ナル委任狀ト共ニ北京ニ於テ乙ニ引渡シ乙ハ之ニ對シ擔保品預リ證ヲ甲ニ交付スルモノトス

第十二條 甲カ元利金ノ償還ヲ怠リタルトキハ乙ハ第十條ノ擔保物件ヲ任意ニ處分シ其元利金ノ辨済ニ充ツルコトヲ得ルモノトス

第十三條 甲ハ本借款期限内必要ノ資金ヲ外國ヨリ借入レントスル場合ニハ適當ノ條件ヲ以テ先ツ之ヲ乙ニ商議スルモノトス

第十四條 本借款契約ハ甲ヨリ支那國政府ニ呈明備案スルモノトス

交通銀行借款契約

七五二

本契約書ハ日支兩文ヲ以テ各二通ヲ作成訓印シ甲乙互ニ各一通ヲ保有スルモノトス

大正六年一月二十日
中華民國第六年一月二十日

交通銀行

總理 曹汝霖 (印)
協理 任鳳苞 (印)
株式會社日本興業銀行
總裁志立鐵次郎代理
理事 二宮基成 (印)

銀行顧問ノ件支那側照會

拜啓陳者交通銀行成立以來茲ニ八年今ヤ世界ノ趨勢ニ應シ改良ノ計畫ヲ爲ス必要生シタルニ付貴國ヨリ顧問一人ヲ僱聘致度ト存候該顧問ハ意見ヲ陳述シ且ツ交通銀行總理副總理ニ於テ諮詢事項アレハ詳細應答スルコトトシ期限ハ三年俸給ハ年日本金貨一萬圓ト定メ度就テハ貴代表ヨリ右推薦方三銀行ニ御轉達相願度此段得貴意候 敬具
民國六年一月八日

交通銀行代表者 曹汝霖 (印)

日本興業銀行 行代表者 西原先生
朝鮮銀行 行代表者 河野先生

同上日本側回答

拜復陳者本月八日附貴書ヲ以テ交通銀行成立以來茲ニ八年今ヤ世界ノ趨勢ニ應シ改良ノ計畫ヲ爲ス必要生シタルニ付弊國ヨリ顧問一人ヲ僱聘シ該顧問ハ意見ヲ陳述シ且ツ交通銀行總理副總理ニ於テ諮詢事項アレハ詳細應答スルコトトシ期限ハ三年俸給ハ年日本金貨一萬圓ト定メラレタキ旨御申越ノ趣敬承右ハ本代表等ヨリ三銀行ニ轉送シ適任者ヲ推薦セシムルコトニ可致候此段回答得貴意候 敬具
大正六年一月八日

日本興業銀行 行代表者 西原龜三 (印)
朝鮮銀行 行代表者 河野久太郎 (印)

交通銀行代表者 曹先生

第二次借款

大正六年九月二十八日訓印
中華民國交通銀行(以下甲ト稱ス)ハ其業務整理ノ爲メ日本帝國株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行ヲ以テ組成シ株式會社日本興業銀行ヲ以テ代表者ト

シタル銀行團(以下乙ト稱ス)ヨリ大正六年一月二十日(中華民國第六年一月二十日)附締結シタル契約ヲ以テ爲シタル借款日本金貨五百萬圓也ニ加ヘ更ニ日本金貨二千萬圓也ノ借款ヲ爲スニ付兩者ノ間ニ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 本借款金額ハ日本金貨二千萬圓トス

第二條 本借款期限ハ本契約訓印ノ日ヨリ起算シ三箇年即チ大日本帝國大正九年九月二十七日迄中華民國第九年九月二十七日迄トス

第三條 本借款利子ハ年七分五厘即チ日本金貨一百圓ニ付日本金貨七圓五十錢ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第四條 本借款利子第一回ハ本借款ノ交付當日ニ於テ大正七年一月十四日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂シ爾後毎年一月十五日及七月十五日ニ於テ後六箇月分ヲ前拂スルモノトス
甲カ前項ノ期日ニ利子ノ支拂ヲ怠リタルトキハ之ニ對シ年七分五厘即チ日本金貨一百圓ニ對シ日本金貨七圓五十錢ノ割合ヲ以テ延滞利子ヲ甲ヨリ乙ニ支拂フモノトス

第五條 甲ハ本借款金ヲ受取りタルトキハ直ニ乙ニ預金シ必要ニ應シ隨時之ヲ引出スモノトス
但シ預金利子並送金ノ方法ハ別ニ協定スルモノトス

交通銀行借款契約

七五三

第六條 本借款金額ハ無手数料ニテ之ヲ交付スルモノトス
第七條 本借款金額ノ返済及利子ノ支拂其他總テ受渡ハ東京ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第八條 本借款ハ期限前ト雖モ甲ハ三箇月前ノ豫告ヲ以テ全部又ハ一部ノ償還ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第九條 甲ハ本借款ノ元利支拂ニ對スル擔保トシテ左ノ物件ヲ乙ニ提供スルモノトス

中華民國國庫債券額面二千五百萬元
第十條 甲ハ前條ノ擔保物件全部ヲ其所載金額ノ領收ニ必要ナル委任狀ト共ニ北京ニ於テ乙ニ引渡シ乙ハ之ニ對シ擔保品預リ證ヲ甲ニ交付スルモノトス

第十一條 甲カ元利金ノ償還ヲ怠リタルトキハ乙ハ第九條ノ擔保物件ヲ任意ニ處分シ其元利金ノ擔保ニ充當スルモノトス
第十二條 甲ハ本借款期限內必要ノ資金ヲ外國ヨリ借入レシトスル場合ニハ豫メ乙ニ商議スルモノトス

第十三條 中華民國政府ハ本借款元利金ノ支拂ヲ保證スルモノトス
第十四條 乙ハ前條ノ保證及第九條ノ擔保物件ヲ受取りタル後ニ於テ第一回ノ利子ヲ控除シタル本借款金額ヲ東京

有線電信借款契約

七五四

ニ於テ甲ニ交付スルモノトス

本契約書ハ日支兩文ヲ以テ各二通ヲ作成調印シ甲乙互ニ各一通ヲ保有スルモノトス若シ本契約ニ關シ解釋上疑義ヲ生シタルトキハ日本文契約書ニヨリ解決スルモノトス

大日本帝國大正六年九月二十八日

中華民國第六年九月二十八日

交通銀行

總理 曹汝霖 (印)

協理 任鳳苞 (印)

株式會社日本興業銀行

總裁志立鐵次郎代理

株式會社臺灣銀行理事 山成喬六 (印)

有線電信借款契約

大正七年四月三十日

中華民國政府(以下甲ト稱ス)ハ有線電信ノ改良並擴張ノ資金ニ充ツル爲株式會社中華滙業銀行(以下乙ト稱ス)ヨリ日本金二千萬圓也ノ借款ヲ爲スニ付兩者ノ間ニ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 本借款金額ハ日本金二千萬圓トス

第二條 本借款期限ハ本契約調印ノ日ヨリ起算シ滿五箇年即大日本帝國大正十二年四月二十九日迄中華民國十二年四月二十九日迄トス但シ期限ニ至リ雙方商議ノ上續借スルコトヲ得

第三條 本借款金ノ利子ハ年八分即日本金一百圓ニ付日本金八圓ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第四條 本借款金ノ利子第一回ハ本借款金ノ交付當日ニ於テ交付ノ日ヨリ起算シ大正七年七月十四日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂シ爾後毎年一月十五日及七月十五日ニ於テ後六箇月分ヲ前拂スルモノトス

但シ最終期ノ利子支拂ハ契約滿期ノ當日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂スルモノトス

第五條 本借款金ハ無手数料ニテ之ヲ交付スルモノトス

第六條 甲ハ本借款金ヲ受取リタルトキハ直ニ乙ニ預金シ必要ニ應シ之ヲ引出スモノトス

第七條 本借款金ノ交付、返済及利子ノ支拂其他總テ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第八條 甲ハ本借款金ノ元利支拂ニ對スル擔保トシテ左ノ

但シ預金利子並送金ノ方法ハ別ニ之ヲ協定ス

中華民國七年四月三十日

中華民國政府交通總長 曹汝霖

中華民國政府財政總長 曹汝霖

株式會社中華滙業銀行總理 陸宗輿

株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎

敬啓今回弊銀行ハ日本銀行團ヨリ資金ヲ仰キ貴政府有線電信ノ改良並擴張資金トシテ日本金二千萬圓借款ノ契約ヲ締結スルニ付中華民國七年四月十日貴政府ト弊銀行トノ間ニ締結セル假契約書末項ノ規定ニ基キ日本銀行團ト協議ノ結果弊銀行團ニ對シ(一)該借款契約書ヲ擔保トシテ提供シ(二)該借款ノ擔保タル中華民國政府全國有線電信ニ關スル財產一切並其收入ヲ復擔保トシテ提供シ(三)右(一)及(二)ニ對スル貴政府ノ承諾書ヲ添附スルコトト相成候ニ付テハ別紙ノ如キ承諾書御下附相成度此段申進候也

中華民國七年四月三十日

株式會社中華滙業銀行總理 陸宗輿

株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎

中華民國政府交通總長兼署財政總長

曹汝霖 閣下

大日本帝國大正七年四月三十日

有線電信借款契約

七五五

通リ乙ニ提供スルモノトス

中華民國政府全國有線電信ニ關スル財產一切並其收入

第九條 乙ハ甲カ有線電信ニ關スル左ノ既成借款ノ約款ヲ承認スルモノトス

一、光緒二十六年七月十日中丹英會訂滬沽水綫合同

二、光緒二十六年十二月二十一日中丹英會訂烟台水綫合同

合同

三、宣統三年三月十二日大東大北電報兩公司預付報費合同

同

第十條 甲ハ本借款有效期間内前條借款ノ約款ヲ變更シ又ハ其借換ヲ爲サントスルトキハ豫メ乙ニ商議スルモノトス

第十一條 甲ハ本借款有效期間内前條借款ニ關シ外國ヨリ借款ヲ爲サントスル場合ニハ豫メ乙ニ商議スルモノトス

第十二條 甲ハ財政部預金トシテ本借款金ノ六箇月分ノ利子ニ相當スル金額ヲ常ニ銀ヲ以テ乙ニ預置スルモノトス

本契約書ハ日華兩文ヲ以テ各二通ヲ作成調印シ甲乙互ニ各一通ヲ保有スルモノトス若シ本契約ニ關シ解釋上疑義ヲ生シタルトキハ日本文契約書ニヨリ解釋スルモノトス

大日本帝國大正七年四月三十日

承諾書

中華民國政府ハ左記第一號ヲ承認シ第二號ヲ承諾ス

- 一、株式會社中華滙業銀行カ中華民國七年四月三十日中華滙業銀行ト株式會社中華滙業銀行トノ間ニ締結セル中華民國政府有線電信ノ改良並擴張借款契約書ヲ擔保トシテ日本銀行團代表タル株式會社日本興業銀行ニ提供スル事
- 二、株式會社中華滙業銀行カ中華民國七年四月三十日中華滙業銀行ト株式會社中華滙業銀行トノ間ニ締結セル中華民國政府有線電信ノ改良並擴張借款契約書第八條ニ基キ中華民國政府ヨリ株式會社中華滙業銀行ニ擔保トシテ提伊シタル中華民國政府全國有線電信ニ關スル財產一切並其收入ヲ擔保トシテ日本銀行團代表タル株式會社日本興業銀行ニ提供スル事

中華民國政府交通總長兼署財政總長 曹 汝 霖
 株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
 株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎

敬啓今回幣銀行ハ日本銀行團ヨリ資金ヲ仰キ貴政府有線電

信ノ改良並擴張資金トシテ中華民國七年四月三十日日本金二千萬圓借款ノ契約ヲ締結致候ニ付テハ該契約書第六條但書ノ規定ニ基キ貴政府ト協定スヘキ條項其他左ノ通り取極度候條御確認相成度此段得貴意候也

- 一、株式會社中華滙業銀行ハ契約書第六條ニ依ル中華民國政府ノ預金ニ對シ左ノ割合ヲ以テ利子ヲ支拂フ事但シ一時ニ金五十萬圓以上ヲ引出ス時ハ三日間ニ其旨通知スヘシ
- 一箇月未滿ニテ引出サレタル金額年二分
- 三箇月未滿ニテ引出サレタル金額年四分
- 三箇月以上預入セラレタル金額年五分
- 二、中華民國政府カ契約書第六條ニ依リ株式會社中華滙業銀行ニ預入シタル預金ハ引出當日ニ於ケル公平ナル爲替相場ニ依リ換算シタル銀元(北京通用銀元)ニテ北京株式會社中華滙業銀行ヨリ交付スル事但シ中華民國政府カ外國ニ於ケル物品購買代金支拂ノ爲又ハ外債償還ノ爲東京ニ於テ使用スル金額並中華滙業銀行ニ對スル債務償還ノ爲使用スル金額ハ此限りニアラス
- 三、中華民國政府ニ於テ契約書第十二條ノ預金ヲ利子支拂ノ爲東京ニ送金スル場合ニハ株式會社中華滙業銀行ヲシ

テ之カ取扱ヲ爲サシムル事

中華民國七年四月三十日
 株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
 株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎
 中華民國政府交通總長兼署財政總長 曹 汝 霖 閣下

以上

中華民國七年四月三十日
 株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
 株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎
 中華民國政府交通總長兼署財政總長 曹 汝 霖 閣下

吉黑金鑛森林借款契約

大正七年八月二日

敬啓今回幣銀行ハ日本銀行團ヨリ資金ヲ仰キ中華民國政府ト有線電信ノ改良並擴張資金トシテ中華民國七年四月三十日日本金二千萬圓借款ノ契約ヲ締結致候ニ付テハ中華民國政府ハ借款有効期限内左ノ趣旨ヲ承認セル旨通知セララル事ヲ望ム

- 一、全國有線電信ニ關シ將來外國人技師ヲ聘用スル時ハ豫メ幣銀行ニ商議スル事
- 二、本借款資金ヲ以テ施行スル全國有線電信ノ改良並擴張事業ニ對シ外國人技師ヲ聘用スル時ハ有爲ナル日本人ヲ聘用スル事ヲ望ム
- 三、將來全國有線電信事業ニ要スル材料ニシテ外國品ヲ購買スル時ハ品質同一又ハ優良ニシテ價格同一又ハ以下ナルニ於テハ日本品ヲ購買スル事

中華民國政府(以下甲ト稱ス)ハ黑龍江及吉林省ニ於ケル金鑛並森林事業ノ發達ニ資スル爲株式會社中華滙業銀行(以下乙ト稱ス)ヨリ日本金三千萬圓也ノ借款ヲ爲スニ付兩者ノ間ニ左ノ條項ヲ締結ス

- 第一條 本借款金額ハ日本金三千萬圓トス
- 第二條 本借款期限ハ本契約調印ノ日ヨリ起算シ滿十箇年即日本帝國大正十七年八月一日迄中華民國十七年八月一日迄トス但シ期間滿了ニ至リ雙方商議ノ上續借スルコトヲ得
- 第三條 本契約調印ノ日ヨリ起算シ滿五箇年ヲ經過シタル

吉黑金礦森林借款契約

七五八

トキハ何時タリトモ六箇月前ノ豫告ヲ以テ本借款金ノ一部ヲ返済スルコトヲ得

第四條 本借款金ノ利子ハ年七分五厘即日本金一百圓ニ付

日本金七圓五十錢ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス但シ第二條續借ノ場合ニ於ケル利率ハ一般市場利率ノ高低ヲ按シ可成甲ニ有利ナラシムル趣旨ニ基キ商議スルモノトス

第五條 本借款金ノ利子第一回ハ本借款金ノ交付當日ニ於テ交付ノ日ヨリ起算シ大正八年一月十四日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂シ爾後毎年一月十五日及七月十五日ニ於テ後六箇月分ヲ前拂スルモノトス但シ最終ノ利子支拂ハ契約滿期ノ當日迄ノ分ヲ日割計算ニテ前拂スルモノトス

第六條 本借款金ハ無手数料ニテ之ヲ交付スルモノトス

第七條 本借款金ノ交付、返済及利子ノ支拂其他總テ受渡

ハ日本東京ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第八條 甲ハ本借款金ノ元利支拂ニ對スル擔保トシテ左ノ通り乙ニ提供スルモノトス

一、黑龍江及吉林兩省ニ於ケル金礦並國有森林

二、右金礦並國有森林ヨリ生スル政府收入

第九條 甲ハ本契約有效期限内前條ノ金礦並國有森林並其收入ニ關シ他ヨリ借款ヲナシ又ハ之ヲ處分セントスルトキ

ハ必ス豫メ乙ニ商議スルモノトス
第十條 本借款契約ハ借款元利金全部ノ清済ニヨリ當然之ヲ廢止ス

本契約書ハ日華兩文ヲ以テ各三通ヲ作成調印シ農商部財政部及乙ニ於テ日華兩文各一通ヲ保有スルモノトス若シ本契約ニ關シ解釋上疑義ヲ生シタルトキハ日本文契約書ニ依リ解釋スルモノトス

日本帝國大正七年八月二日

中華民國七年八月二日

中華民國政府農商總長 田 文 烈
中華民國政府財政總長 曹 汝 霖
股分公司中華匯業銀行總理 陸 宗 輿
股分公司中華匯業銀行專務理事 柿内 常次郎

利權不侵書聲明

敬啓今回幣銀行ハ株式會社日本興業銀行ヲ代表トスル株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行ヨリ資金ヲ仰キ黑龍江及吉林兩省金礦並森林借款契約ヲ締結致候ニ付テハ該兩省ニ於テ現ニ經營シツツアル採金業者並國有森林伐採業者及其關係者ノ既得ノ權利並利益ハ決シテ

侵害セサルコトノ趣旨ヲ明カナラシムル爲メ茲ニ左ノ聲明ヲ致候

一、黑龍江及吉林兩省ニ於ケル金礦ニ關シ既ニ中央政府

或ハ地方廳ノ認可ヲ得テ官辦又ハ商辦ニヨリ採金事業ヲ經營スルモノ及其關係者ノ既得ノ權利並利益ハ之ヲ尊重シ將來採金局諸般ノ施設ニ依リ是等經營者ノ業務ヲ保護シ之ヲシテ改善發達セシメ又其利益ヲ助長シ且政府ノ收入増加ヲ期スル事

二、黑龍江及吉林兩省ニ於ケル國有森林ニ關シ既ニ中央

政府或ハ地方廳ノ認可ヲ得テ官辦又ハ商辦ニ依リ伐採事業ヲ經營スル者及其關係者ノ既得ノ權利並利益ハ之ヲ尊重シ將來森林局諸般ノ施設ニ依リ是等經營者ノ業務ヲ保護シ之ヲシテ改善發達セシメ又其利益ヲ助長シ且政府ノ收入増加ヲ期スル事

中華民國七年八月二日

株式會社中華匯業銀行總理 陸 宗 輿

株式會社中華匯業銀行專務理事 柿内 常次郎

中華民國政府農商總長 田 文 烈閣下

中華民國政府財政總長 曹 汝 霖閣下

吉黑金礦森林借款契約

日本資金商借

敬啓今回幣銀行ハ株式會社日本興業銀行ヲ代表トスル株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行ヨリ資金ヲ仰キ黑龍江及吉林兩省金礦並森林借款契約ヲ締結致候ニ付テハ將來該兩省ニ於ケル採金事業及森林事業ヲ助長發達セシムルノ主義ノ下ニ日本資金ヲ商借シ或ハ中日合辦事業ノ促進ヲ希望致候ニ付右趣旨御承認ノ上之カ實行相成度茲ニ左ノ聲明ヲ致候

一、採金局並森林局諸般ノ施設ニ依リ採金事業並森林事業ヲ改良シ又ハ新規企業計畫ノ爲メ將來巨額ノ資金ヲ要スル場合ニハ中國當事者ノ希望ニ依リ日本資金ヲ商借シ或ハ中日合辦事業ニ依リ其事業ノ助長發達ヲ圖ル事

中華民國七年八月二日

株式會社中華匯業銀行總理 陸 宗 輿

株式會社中華匯業銀行專務理事 柿内 常次郎

中華民國政府農商總長 田 文 烈閣下

中華民國政府財政總長 曹 汝 霖閣下

採金森林兩局設置

七五九

吉黑金礦森林借款契約

七六〇

敬啓中華民國七年八月二日附左記貴諭ヲ以テ聲明相成候件
件ハ弊行カ今回貴政府ト黑龍江及吉林兩省金礦並森林借款
契約ヲ締結致候趣旨ニ照シ弊行ノ満足スル所ニ有之候此段
御回答申上候 敬具

左記

敬啓今回中華民國政府ハ貴行カ株式會社日本興業銀行ヲ代
表者トスル株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝
鮮銀行ノ三行ヨリ得ラレタル資金ニ頼リ黑龍江及吉林兩省
金礦並森林借款契約ヲ締結致候ニ付テハ左ノ件々ヲ實行ス
ルコトヲ聲明ス

- 一、黑龍江及吉林兩省ニ於ケル金礦行政ヲ統一シ金礦事
業發達ニ資スル爲メ諸般ノ施設ヲ完備シ並中央政府收
入ノ増加ヲ圖ラン爲メ中央政府直轄ノ採金局ヲ設置シ
兩省ニ於ケル金礦行政ヲ管掌セシムル事但シ採金局設
置後成ルヘク速ニ金礦憲報ヲ調製ス
- 二、黑龍江及吉林兩省ニ於ケル森林行政ヲ統一シ森林事
業ノ發達ニ資スル爲メ諸般ノ施設ヲ完備シ並中央政府
收入ノ増加ヲ圖ラン爲メ中央政府直轄ノ森林局ヲ設置
シ兩省ニ於ケル森林行政ヲ管掌セシムルコト
- 三、採金局及森林局ノ設置ハ成ルヘク今後二箇月以内ニ

實行ス

中華民國七年八月二日

株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎
中華民國政府農商總長 田 文 烈閣下
中華民國政府財政總長 曹 汝 霖閣下

日本人技師招聘

敬啓中華民國七年八月二日附左記貴諭ヲ以テ聲明相成條件
ハ弊行カ今回貴政府ト黑龍江及吉林兩省金礦並森林借款契
約ヲ締結致候趣旨ニ照シ弊行ノ満足スル所ニ有之候此段御
回答申上候 敬具

左記

- 一、採金局及森林局ヲシテ其目的ヲ達セシメ本借款返済
ヲ確實ニスル爲メ日本人技師ヲ招聘シテ兩局ノ業務ヲ

贊助製成セシム其聘用契約ハ別ニ之ヲ協定スル事

中華民國七年八月七日

株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎
中華民國政府農商總長 田 文 烈閣下
中華民國政府財政總長 曹 汝 霖閣下

承諾書

敬啓今回弊銀行ハ株式會社日本興業銀行ヲ代表トスル株式
會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行ヨ
リ資金ヲ仰キ黑龍江及吉林兩省金礦並森林事業發達資金ト
シテ日本金三千萬圓也借款ノ契約ヲ締結致候ニ付テハ去七
月三日貴政府トノ間ニ締結セル假契約書末項ノ規定ニ基キ
前記三行ト協議ノ結果弊銀行ハ三行ニ對シ(一)本借款契約
ニ基キ有スル債權ヲ擔保トシテ提供スルコトヲ承認シ(二)
本借款ノ擔保タル黑龍江及吉林兩省ニ於ケル金礦及國有森
林並之ヨリ生スル政府收入ヲ復擔保トシテ提供スルコトヲ
承諾スル旨ノ承諾書即下附相成度此段申進候也

中華民國七年八月二日

株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿

吉黑金礦森林借款契約

施設不拘束聲明

今回弊行カ貴政府ト黑龍江及吉林兩省金礦並森林借款契約
ヲ締結シタルハ貴政府ノ財政調理ニ裨補スルノ主義ニ基キ
本借款ニ依リテ兩省ニ於ケル森林及金礦ニ關シ特殊ノ利益
ヲ壟斷シ又ハ地方民ノ生業ヲ阻碍スルノ意思ヲ有セサルハ
勿論將來貴政府ニ於テ設置セラルヘキ森林局及採金局ノ自
由ナル施設ニ依リ益々繁榮ノ發達ヲ助長シ以テ愈々地方民
ノ福祉ヲ増進センコトヲ望ミ其間毫モ貴政府ノ施設ヲ拘束
シ人民ノ自由及利益ヲ侵害スルカ如キ意圖ナキコトヲ茲ニ
聲明致候

中華民國七年八月二日

株式會社中華滙業銀行總理 陸 宗 輿
株式會社中華滙業銀行專務理事 柿内 常次郎
中華民國政府農商總長 田 文 烈閣下
中華民國政府財政總長 曹 汝 霖閣下

七六一

濟順高徐二鐵道借款豫備契約

大正七年九月二十八日

中華民國政府(以下政府ト稱ス)ハ中華民國山東省濟南府ヨリ直隸省順德ニ至ル鐵道及山東省高密ヨリ江蘇省徐州ニ至ル鐵道(以下二鐵道ト稱ス)ヲ建設スル爲メ株式會社日本興業銀行ヲ代表者トスル株式會社日本興業銀行、株式會社臺灣銀行及朝鮮銀行ノ三行(以下銀行ト稱ス)トノ間ニ借款契約ノ締結ヲ目的トシテ左ノ豫備契約ヲ作成ス

第一條 政府ハ山東省濟南府ヨリ直隸省順德ニ至ル鐵道及山東省高密ヨリ江蘇省徐州ニ至ル鐵道建設ニ要スル一切ノ資金ヲ中華民國政府濟順鐵道金貨公債、高徐鐵道金貨公債(以下二鐵道公債ト稱ス)ニ仍リ銀行ニテ調達スルコトヲ認准ス
但シ濟順高徐二鐵道線路ヲ調査シ鐵道經營ニ有利ナラスト認メタルトキハ政府ハ銀行ト協議シ其敷設線路ヲ變更スヘシ

第二條 政府ハ速ニ二鐵道ノ建設費其他一切ノ必要ナル費用ヲ定メ銀行ノ同意ヲ求ムヘシ
第三條 二鐵道公債ノ期限ハ四十箇年トシ元金ノ償還ハ公債發行ノ日ヨリ起算シ第十一年目ヨリ之ヲ開始シ年賦償還ノ方法ニヨルモノトス

第四條 政府ハ二鐵道借款本契約締結ト共ニ直ニ二鐵道ノ建設ニ着手シ速成ヲ圖ルモノトス
第五條 政府ハ二鐵道公債ノ元利金支拂ニ對スル擔保トシテ左ノ通銀行ニ提供スルモノトス
現在及將來ニ於テ濟順高徐二鐵道ニ屬スル財產一切並其收入

政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ前項ノ財產又ハ收入ヲ擔保トシ又保證物トシテ他人ニ提供スルコトヲ得サルモノトス
第六條 二鐵道公債ノ發行價格及公債利率、政府手取金額ハ發行當時ノ狀況ニヨリ可成政府ニ有利ナル主義ヲ以テ協定スルモノトス

第七條 前各條ニ規定ナキ條件ニ就テハ政府ハ銀行ト協議決定スルモノトス
第八條 濟順高徐二鐵道借款本契約ハ本豫備契約ヲ基礎ト

シ其成立ノ時ヨリ四箇月以内ニ之ヲ締結スルモノトス

第九條 銀行ハ豫備契約成立ト同時ニ政府ニ對シ日本金二千萬圓ヲ前貸スルモノトス
但シ本前貸金ハ無手数料ニテ交付スルモノトス

第十條 本前貸金ノ利子ハ年八分即日本金一百圓ニ付日本金八圓ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第十一條 本前貸金ハ政府ノ發行スル國庫證券ノ割引ノ方法ニ依リ之ヲ交付スルモノトス

第十二條 前條國庫證券ハ滿六箇月毎ニ切換ヘ發行シ其都度滿六箇月分ノ利子ニ相當スル金額ヲ銀行ニ支拂フモノトス
第十三條 政府ハ濟順高徐二鐵道借款契約成立ノ後本公債ノ募集ニヨリ得タル資金ヲ以テ優先ニ且遲滞ナク本前貸金ヲ返済スルモノトス

第十四條 本前貸金ノ交付、返済並ニ利子ノ支拂其他總テ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ爲スモノトス
本豫備契約書ハ日華兩文ヲ以テ各二通ヲ作成調印シ政府銀行互ニ各一通ヲ保有スルモノトス若シ本豫備契約ニ關シ解釋上疑義ヲ生シタルトキハ日本文契約書ニ依リ解釋スルモノトス

日本帝國大正七年九月二十八日
中華民國七年九月二十八日

株式會社日本興業銀行
副總裁 小野英二郎
中華民國特命全權公使 章宗祥

濟順及高徐兩鐵道ニ關スル交換公文

敬啟陳者支那政府ハ日本國資本家ヨリスル借款ヲ以テ速ニ左記各地點間ノ鐵道ヲ建設スルコトニ決定シ茲ニ本使ハ本國政府ノ委任ヲ受ケ特ニ此旨貴國政府ニ對シ聲明致候

- 一、濟南順德間
- 二、高密徐州間

但シ右兩線路ニシテ鐵道經營上不利利益ナリトセハ別ニ適當ノ線路ヲ協議決定スルコト
以上所述ニ關シ貴國政府ニ於テ異議無キ時ハ速ニ必要ノ處置ヲ執リ貴國資本家ヲシテ該項借款ノ商議ヲ承允セシメラレ度右照會得貴意候 敬具

中華民國七年九月二十四日

參戰借款契約

中華民國特命全權公使 章 宗 祥
外務大臣男爵 後藤 新平閣下

以書翰致啓上候陳者貴國政府ニ於テハ日本國資本家ヨリスル借款ヲ以テ速ニ左記地點間ノ鐵道ヲ建設スルコトニ決定ノ旨ヲ聲明セラレタル本日附貴翰致閱悉候

- 一、濟南順德間
- 二、高密徐州間

但シ右兩線路ニシテ鐵道經營上不利益ナリトセハ別ニ適當ノ線路ヲ協議決定スルコト

帝國政府ハ欣然右支那國政府ノ聲明ヲ了承スルト共ニ日本國資本家ヲシテ本件借款ノ商議ニ應セシメムカ爲速ニ必要ナル措置ヲ執ルヘキコトヲ茲ニ致言明候

大正七年九月二十四日

日本帝國外務大臣男爵 後藤 新平
支那共和國特命全權公使 章 宗 祥閣下

參戰借款契約

大正七年九月二十八日

日本及中華民國陸軍協同防敵軍事協定ノ趣旨ニ基キ中華民國政府ハ完全ナル協同動作ヲ爲シ得ル國防用軍隊ノ編成練成及戰爭參加ニ要スル經費ニ充テムカ爲中華民國政府(以下甲ト稱ス)ハ日本帝國朝鮮銀行ヲ代表者トスル日本帝國朝鮮銀行、株式會社日本興業銀行及株式會社臺灣銀行ノ三行(以下乙ト稱ス)トノ間ニ借款契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

- 第一條 本借款金額ハ日本金貨二千萬圓トシ乙ハ中華民國政府國庫證券ヲ引受クルモノトス
- 第二條 前項ノ中華民國政府國庫證券ハ期限ヲ一箇年利串ヲ年七分トシ割引ノ方法ヲ以テ發行ス此外ニ手数料一分トシ本證券引受金額ノ内ヨリ控除スルモノトス滿期ニ至リ當事者雙方協定ノ上前項ニ定メタル所ト同一條件ヲ以テ切換ヘ發行スルコトアルヘシ
- 第三條 甲ハ本借款金ヲ受領シタルトキハ直チニ之ヲ乙ニ預ケ入レ乙ハ其預金ニ對シテ年七分ノ利子ヲ付スルモノトス
- 第四條 甲ニ於テ前條ノ預金ヲ必要ニ隨ヒ拂出サムトスルトキハ乙ハ別ニ協定セル手續ニ依リ之ヲ指定ノ受取人ニ拂渡スヘシ

第五條 本借款國庫證券ノ製造費印紙稅其他之ニ關スル雜費ハ乙ノ負擔トス

第六條 甲ハ將來本借款ト同一目的ノ爲借款セムトスルトキハ先ツ乙ニ協議スルモノトス本契約ハ日華兩文ヲ以テ各二通ヲ作り甲乙各一通ヲ保有ス契約ノ解釋ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ日本文ニ依テ之ヲ決ス

日本帝國大正七年九月二十八日
中華民國七年九月二十八日

朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉
中華民國駐日本 特命全權公使 章 宗 祥

別 約

本日調印セル中華民國政府參戰借款契約第四條ニ隨ヒ本借款金ハ中華民國國防軍隊ヲ直接主管スル機關ニ屬スル經理主任ニ交付スルモノトス

日本帝國大正七年九月二十八日
中華民國七年九月二十八日
中華民國駐日本 特命全權公使 章 宗 祥

朝鮮銀行、株式會社
日本興業銀行、株式會社
臺灣銀行代表者
朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉

大正七年九月二十八日調印ノ中華民國參戰借款ニ對シテハ中華民國政府ニ於テ將來稅制ヲ整理シ其收入ヲ以テ償還ノ財源トナスコトヲ聲明ス
日本帝國大正七年九月二十八日
中華民國七年九月二十八日

中華民國駐日本 特命全權公使 章 宗 祥
朝鮮銀行、株式會社
日本興業銀行、株式會社
臺灣銀行代表者
朝鮮銀行總裁 美濃部俊吉

(備考)

以上交通銀行借款契約、有線電信借款契約、吉黑金鑽森林借款契約、濟順高徐二鐵道借款豫備契約及ビ參戰借款契約ノ外、吉會鐵道並ニ滿蒙四鐵道借款豫備契約アリ、各々關係協定文書ノ前後ニ收錄シアリ

參戰借款契約

共同防敵ニ關スル交換公文

大正七年三月二十五日

來 翰

以書翰致啓上候陳者支那國政府ニ於テハ現下ノ時局ニ顧ミ左記ノ綱領ニ依リ貴國政府ト協同措置スルヲ貴我兩國ノ爲必要ナリト信シ本使ハ茲ニ本國政府ノ訓令ニ依リ貴國政府ニ提議スルノ光榮ヲ有シ候

- 一、支那國政府及日本國政府ハ敵國勢力ノ日ニ露國境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適應シ且兩國カ此次ノ戰爭參加ノ義務ヲ實行セムカ爲行フヘキ處置ヲ速ニ協同考量スルモノトス
- 二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定スルコトアルヘキ事項ヲ實行セムカ爲兩國陸海軍此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ方法及其ノ條件ハ兩國當局官憲ニ於テ之ヲ協定スヘク該當局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互ニ慎重誠實ニ隨時協議シ且兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟テ實行スルモノトス

右ニ對シ何分ノ儀御回答ヲ得度右照會申進旁々本使ハ茲ニ重ホテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國七年三月二十五日

中華帝國特命全權公使 章 宗 詳 (印)

外務大臣法學博士子爵 本野 一郎閣下

往 翰

以書翰致啓上候陳者貴國政府ニ於テハ現下ノ時局ニ顧ミ左記ノ綱領ニ依リ帝國政府ト協同措置スルヲ貴我兩國ノ必要ナリト信シ帝國政府ニ提議セラレタル本日附書翰茲ニ致聞悉候

- 一、日本國政府及支那國政府ハ敵國勢力ノ日ニ露國境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適應シ且兩國カ此次ノ戰爭參加ノ義務ヲ實行セムカ爲行フヘキ處置ヲ速ニ協同考量スルモノトス
- 二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定スルコトアルヘキ事項ヲ實行セムカ爲兩國陸海軍此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ方法及其ノ條件ハ兩國當局官憲ニ於テ之ヲ協定スヘク該當局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互ニ慎重誠實ニ隨時協議シ且兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟テ實行スルモノトス

右照會申進旁々本大臣ハ茲ニ重ホテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

大正七年三月二十五日

日本帝國外務大臣 法學博士子爵 本野 一郎 (印)

支那共和國特命全權公使

章 宗 詳 閣下

來 翰

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ二月二十五日貴我兩國政府間ニ兩國共同防敵ノ爲公文ノ交換ヲ了シタルカ貴國政府ハ右公文ノ有効期間ハ兩國ノ軍事當局ニ於テ議定スルコトト致サレ度旨御照會相成候處右ハ支那國政府ニ於テモ同意ニ有之候將又右貴翰ヲ以テ貴國政府ハ共同防敵ノ爲ニ日本軍隊ノ支那國境内ニ在ルモノハ總テ戰事終了後ヲ俟テ支那國境内ヨリ一律撤退スヘキ旨特ニ聲明相成致領承候

中華民國七年三月二十五日

中華帝國特命全權公使 章 宗 詳 (印)

往 翰

大正七年三月二十五日

日本帝國外務大臣

法學博士子爵 本野 一郎 (印)

支那共和國特命全權公使

章 宗 詳 閣下

以書翰致啓上候陳者三月二十五日貴我兩國政府間ニ兩國共同防敵ノ爲公文ノ交換ヲ了シ候處帝國政府ニ於テハ右公文ノ有効期間ハ兩國ノ軍事當局ニ於テ議定スルコトト致度候將又帝國政府ハ共同防敵ノ爲ニ日本軍隊ノ支那國境内ニ在ルモノハ總テ戰事終了後ヲ俟テ支那國境内ヨリ一律撤退スヘキコトヲ特ニ茲ニ聲明致候

共同防敵ニ關スル交換公文

外務大臣法學博士子爵 本野 一郎閣下

陸軍共同防敵軍事協定

大正七年五月十六日北京ニ於テ調印

日支兩國政府協商ノ結果ニ基キ兩國政府交換ノ文書ニ據リ兩國軍事當局互ニ委員ヲ派遣シ左ノコトヲ協定ス

第一條 日支兩國陸軍ハ敵國勢力ノ日ニ露國境內ニ蔓延シ其結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ因リ此情勢ニ適應シ且兩國力此大ノ戰爭參加ノ義務ヲ實行セムカ爲共同防敵ノ行動ヲ執ル

第二條 協同軍事行動ニ關シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ相互ニ尊重スルモノトス

第三條 日支兩國當局ハ本協定ニ基キ行動ヲ開始スルニ方リ各自本國軍隊及官民ノ軍事行動區域內ニ在ルモノニ對シ相互誠意親善同心協力シテ共同防敵ノ目的ノ達成ヲ期スヘキコトヲ命令又ハ通告ス

凡ソ軍事行動區域內ニ於ケル支那地方官吏ハ該區域內ニ在ル日本軍隊ニ對シ盡力協助シ軍事上ニ故障ヲ生セサラ

シメ又日本軍隊ハ支那ノ主權及地方ノ習慣ヲ尊重シ人民ヲシテ不便ヲ感セサラシム

第四條 共同防敵ノ爲ニ日本軍隊ノ支那國境內ニ在ルモノハ凡テ戰事終了後ヲ俟チ支那國境內ヨリ一律撤退ス

第五條 支那國境外ニ軍隊ヲ派遣スルトセハ若シ必要アラハ兩國ハ協同シテ之ヲ派遣ス

第六條 作戰區域及作戰上ノ任務ハ共同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國軍事當局ニ於テ各自本國ノ兵力ヲ量リ別ニ之ヲ協定ス

第七條 日支兩國軍事當局ハ協同作戰期間ニ於ケル協同動作ノ便利ヲ圖ル爲左記事項ヲ行フモノトス

一、直接作戰上ニ關シ各軍事機關ハ彼此相互職員ヲ派遣シ往來聯絡ノ任ニ充ツ

二、軍事行動及運輸補充ノ敏捷且確實ヲ圖ル爲陸海運輸通信諸業務ハ彼此共ニ便利ヲ謀ル

三、作戰上必要ノ建設例ヘハ軍用鐵道電信電話等ノ如キコトニ關シ如何ニ設備スヘキヤハ兩國總司令官ニ於テ臨時之ヲ協定シ戰事終了ヲ俟チ凡テ臨時建設工事ハ之ヲ撤廢ス

四、共同防敵ニ關シ要スル所ノ兵器及軍需品並其原料ハ

兩國相互ニ供給ス其數量ハ各自本國ノ需用ヲ害セサル範圍ヲ以テ限リトス

五、作戰區域內ニ於ケル軍事衛生事項ニ關シテハ相互ニ輔助シテ遺憾ナカラシム

六、直接作戰上ニ關スル軍事技術人員ノ補助ノ必要アルトキハ一方ノ請求ニ依リ他方ハ之ヲ補助シ以テ任使ニ供ス

七、軍事行動區域內ニ諜報機關ヲ設置シ並軍事所要ノ地圖及情報ヲ相互交換ス

八、共用ノ軍事暗號ヲ協定ス

本條列スル所ノ各項ニシテ豫メ計畫ヲ要スルモノ及豫メ施行スヘキモノハ作戰未實行前ニ別ニ之ヲ協定ス

第八條 軍事輸送ノ爲東清鐵道ヲ使用スルトキハ該鐵道ノ指揮保護管理ハ本來ノ條約ヲ尊重シ其輸送方法ハ臨時之ヲ協定ス

第九條 本協定實行ニ要スル詳細事項ハ日支兩國軍事當局ノ指定スル各當事者ニ於テ之ヲ協定ス

第十條 本協定及協定附屬ノ詳細事項ハ日支兩國ニ於テ均陸軍共同防敵軍事協定

シク之ヲ公布スルコトナク軍事ノ秘密トシテ取扱フ

第十一條 本協定ハ日支兩國陸軍代表者記名調印シ各自本國政府ノ承認ヲ經タル上效力ヲ生ス其作戰行動ハ適當ノ時機ヲ俟チ兩國最高統帥部商定シテ之ヲ開始ス

本協定及本協定ニ基キ發生スル所ノ各種細則ハ日支兩國獨塊敵國ニ對スル戰爭狀態終了ノ時ヲ俟チ即チ其效力ヲ失フ

第十二條 本協定ハ日本文及漢文各々二通ヲ作り對照シテ記名調印シ雙方各一通ヲ保有シ證據ト爲ス

大正七年五月十六日於北京
中華民國七年五月十六日於北京

日本帝國陸軍軍事協約委員

- 委員長 陸 軍 少 將 齋藤季治郎
- 委員 陸 軍 少 將 守 垣 一 成
- 委員 陸 軍 歩 兵 中 佐 本 庄 繁
- 委員 陸 軍 砲 兵 少 佐 川 崎 吉 五 郎
- 委員 陸 軍 歩 兵 大 尉 山 田 健 三

中華民國陸軍軍事協約委員

- 委員長 果 威 將 軍 靳 雲 鵬
- 委員 陸 軍 中 將 董 煥 文

陸軍共同防敵軍事協定實施ニ要スル詳細ノ協定

委員	陸軍中將	曲同	豐
委員	陸軍少將	田書	年
委員	陸軍少將	劉嗣	榮
委員	陸軍少將	江壽	祺
委員	陸軍少將	丁濟	錦
委員	督辦參戰處參議	劉崇	傑
委員	陸軍少將	張濟	元
委員	陸軍步兵上校	陳鴻	遠
委員	陸軍步兵上校	秦	鄂

陸軍共同防敵軍事協定 實施ニ要スル詳細ノ協定

大正七年九月六日北京ニ於テ
調印

日支軍事協定第九條ニ基キ日支兩國軍事當局ノ指定スル各當事者ハ同協定第六條第七條ニ關シ左記事項ヲ協定ス
第一條 日支兩國ハ各其軍ノ一部ヲ派遣シ後員加爾州及黑

七七〇

龍州ニ對シ軍事行動ヲ執ル其任務ハ「チエツク、スロワツク」軍ノ救援並獨塊兩國及之ニ加擔スル勢力ヲ排除スルニ在リ

指揮ノ統一、協同ノ圓滿ヲ期スル爲メ該方面ニ行動スル支那軍ハ日本軍司令官ノ指揮下ニ入ルモノトス

滿洲里方面ヨリ後員加爾方面ニ行動スル軍ト策慮スル爲メ支那軍ノ一部ハ庫倫方面ヨリ員加爾湖方面ニ行動スルシテ支那軍ノ希望アラハ日本軍モ該方面ニ一部ノ兵力ヲ派遣シ支那軍司令官ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス

以上ノ外中部蒙古以西ノ邊境ハ支那自ラ其防備ヲ鞏固ニス

第二條 兵器及軍需品ノ供給ハ緊急已ムヲ得サルモノハ出先司令官相互ノ協定ニ依リ之ヲ行フヘキモ其他ノモノ及原料ノ供給ハ東京及北京ノ最高補給機關ヨリ交渉シテ之ヲ行フ

第三條 衛生業務ニ關シ若シ支那ニ於テ之ヲ希望スルアレハ日本軍ハ爲シ得ル範圍ニ於テ便宜ヲ提供スヘク而シテ情況進展セハ病院及休養所ノ施設等ニ關シ日本軍モ亦支那ノ助力ヲ受クルモノトス

第四條 南滿鐵道ニ依リ輸送セラルヘキ支那軍隊及其軍需

品ハ支那ヨリ大連、營口若クハ奉天ニ搬出シ爾後長春マテノ輸送ハ日本軍之ヲ擔任ス

庫倫方面ヨリ員加爾湖方面ニ出動スル支那軍ニ一部ノ日本軍隊ヲ參加セシムル場合ニハ該軍隊及其軍需品ハ太沽又ハ秦皇島若クハ奉天マテ日本軍ニ於テ輸送シ爾後ノ輸送ハ支那軍之ヲ擔任ス

東清鐵道輸送ハ東清鐵道當局ヲシテ之カ實施ニ當ラシム該當局トノ交渉、日支兩軍及「チエツク、スロワツク」軍ノ輸送ノ調節按排ヲ計ル爲メ日支協同ノ機關ヲ設ク此機關ニハ將來與國軍ニシテ此方面ニ行動スル場合ニ於テハ其軍ヨリ所要ノ人員ヲ參加セシムルコトアルヘシ

第五條 連絡職員ノ派遣ニ關シテハ既ニ交渉ヲ了シ或ハ交渉中ニアルモノノ外差當リ出先司令部ト將來之ヲ要スル場合東京及北京ニ於ケル最高補給機關ニ相互職員ノ派遣ヲ爲スヘク爾後必要ニ應シ隨時協議ス

第六條 兵器其他軍需材料並其原料ノ供給及一方軍ノ爲メニ擔任シタル輸送等ノ費用ハ有償トシ其決濟ハ隨時又ハ軍事行動終了後ニ於テ之ヲ行フ

第七條 本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り對照シテ記名調印シ雙方各一通ヲ保有シ證據ト爲ス

陸軍共同防敵軍事協定中戰爭狀態終了ノ時期ニ關スル協定

大正七年 九月六日
中華民國七年九月六日

於北京

大日本帝國陸軍軍事當局ノ指定スル當事者
陸軍中將 齋藤 季治 郎

大中華民國陸軍軍事當局所指定之當事者
陸軍中將 徐 樹 錚

陸軍共同防敵軍事協定 第九條ニ基キ第十一條 第二項中戰爭狀態終了 ノ時期ニ關スル協定

大正八年二月五日北京ニ
於テ調印

日支兩國最高統帥部協議ノ上日支陸軍共同防敵軍事協定第九條ニ基キ第十一條第二項中戰爭狀態終了ノ時期ニ關シ左

七七一

ノ通協定ス

獨塊敵國ニ對スル戰爭狀態終了ノ時トハ歐洲戰爭ノ平和會議ニ於テ平和條約締結セラレ日支兩國之ヲ批准シ日支兩國軍ノ支那國境外ヨリ及同地方ニ駐在スル協商國軍ノ同時ニ撤退スルニ至ル時ヲ謂フ

本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り對照シテ記名調印シ雙方各一通ヲ保有シ證據ト爲ス

大正八年二月五日

中華民國八年二月五日

日本帝國陸軍代表者

陸軍少將 東 乙 彦

中華民國陸軍代表者

陸軍上將 衛中將 徐 樹 錚

海軍共同防敵軍事協定

大正七年五月十九日北京ニ

於テ調印

日支兩國政府協商ノ結果大正七年三月二十五日東京ニ
中華民國七年三月二十五日東京ニ

於テ兩國政府間ニ交換セル文書ニ據リ兩國海軍當局互ニ委員ヲ派シ左ノ事項ヲ協定ス

第一條 日支兩國海軍ハ敵國勢力東漸シ其ノ結果極東全局ノ和平及安寧ヲ侵迫ヲ受クルノ危險アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適應シ且兩國此ノ次歐洲戰爭參加ノ義務ヲ實行セムカ爲共同防敵ノ行動ヲ執ル

第二條 協同軍事行動ニ關シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ相互ニ尊重スルモノトス

第三條 日支兩國當局ハ本協定ニ基キ行動ヲ開始スルニ方リ各自本國艦船及官民ノ軍事行動區域内ニ在ルモノニ對シテ命令又ハ通告ヲ發シ彼此誠意親善同心協力以テ共同防敵ノ目的ヲ達セシム

第四條 作戰區域及作戰上ノ任務ハ共同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國海軍當局ニ於テ各自本國ノ兵力ヲ量リ別ニ之ヲ協定ス

第五條 日支兩國海軍當局ハ協同作戰期間ニ於テ協同動作ノ便利ヲ圖ル爲左ノ事項ヲ行フ

一、直接作戰上ニ關シ各軍事機關ハ彼此互ニ職員ヲ派遣シ往來聯絡ノ任ニ充ツ

二、軍事行動及運輸補充ノ敏活確實ヲ期スル爲海陸運輸

通信業務ハ彼此共ニ便利ヲ謀ル

三、艦艇兵器及軍事機具等ノ造修並之ニ要スル材料ニ關シテハ爲シ得ル限り相互ニ補助ス軍需品又同シ

四、直接作戰上ニ關スル軍事技術人員ハ日支兩國海軍相互補助ノ必要アルトキハ一方ノ請求ニ依リ他方ハ之ニ應シ派遣服務セシム

五、日支兩國海軍ハ各自必要ナル地點ニ諜報機關ヲ設置シ又行動上必要ナル水路圖誌及情報ヲ交換ス

通信聯絡ノ敏活確實ヲ期シ相互ニ補助シテ其ノ便利ヲ圖ル爲必要ナル設備ハ兩國當事者臨時之ヲ協定ス

六、共用ノ軍事暗號ヲ協同商定ス

本條列スル所ノ各項ニシテ豫メ計畫ヲ要スルモノ及豫メ施行スヘキモノハ作戰未實行前別ニ之ヲ協定ス

第六條 本協定實行上必要ナル詳細事項ハ日支兩國海軍當局各當事者ヲ指定シ之ヲ協定ス

第七條 本協定及本協定附屬ノ詳細事項ハ日支兩國ニ於テ均シク之ヲ公布スルコトヲ軍事ノ秘密トシテ取扱フ

第八條 本協定ハ日支兩國海軍代表者記名調印シ各自本國政府ノ承認ヲ經テ效力ヲ生ス其ノ作戰行動ハ適當ノ時機ヲ俟テ兩國海軍最高統率部商定シテ之ヲ開始ス

海軍共同防敵軍事協定

本協定及本協定ニ基キ發生スル所ノ各種細則ハ日支兩國ノ獨塊敵國ニ對スル戰爭狀態終了ノ時ヲ俟テ其ノ效力ヲ失フ

第九條 本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り彼此對照シテ記名調印シ雙方各一通ヲ保有シテ證據ト爲ス

日本大正七年五月十九日於北京
中華民國七年五月十九日

- | | | |
|-----|------|--------|
| 委員長 | 海軍少將 | 吉田 増次郎 |
| 委員 | 海軍大佐 | 伊集院 俊 |
| 委員 | 海軍大佐 | 樺山 可也 |
| 委員長 | 海軍中將 | 沈 壽 堃 |
| 委員 | 海軍少將 | 吳 振 南 |
| 委員 | 海軍少將 | 陳 恩 燾 |
| 委員 | 海軍中校 | 吳 光 宗 |

海軍共同防敵軍事協定說明書

大正七年五月十九日北京ニ

於テ調印

一、日支兩國海軍ハ共同作戰ノ圓滿ヲ圖リ以テ軍事協定第

委員 海軍中校 吳 光 宗

二、軍事協定第五條各項ノ説明左ノ如シ

第一項ノ職員ハ差當リ公使館附海軍武官及各處駐在海軍武官ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ハ必要ニ應シ臨時協定派遣ス

第三項ノ材料即チ金屬物件類ノ如キ又軍需品即チ燃料糧食類及軍事上必要ナル彈丸火藥等ノ如キハ兩國均シク爲シ得ル限リ相互ニ補助ス

第五項ノ水路圖誌交換ハ他方ノ請求ヲ俟テ之ヲ行フ軍事行動區域内ニ於ケル港灣ニシテ雙方ノ補測ノ必要ヲ認メタルトキハ該港灣所屬ノ本國海軍自ラ之ヲ行フ

日本大正七年五月十九日於北京
中華民國七年五月十九日

- | | | |
|-----|------|---------|
| 委員長 | 海軍少將 | 吉田 增次郎 |
| 委員 | 海軍大佐 | 伊集院 俊 |
| 委員 | 海軍大佐 | 榑 山 可 也 |
| 委員長 | 海軍中將 | 沈 壽 菴 |
| 委員 | 海軍少將 | 吳 振 南 |
| 委員 | 海軍少將 | 陳 恩 燾 |

海軍共同防敵軍事協定
第六條ニ基キ第八條第二項中戰爭狀態終了ノ時期ニ關スル協定

大正八年三月一日北京ニ於テ調印

日支兩國最高統帥部協議ノ上日支海軍共同防敵軍事協定第六條ニ基キ第八條第二項中戰爭狀態終了ノ時期ニ關シ左ノ通協定ス

獨逸敵國ニ對スル戰爭狀態終了ノ時トハ歐洲戰爭ノ平和會議ニ於テ平和條約締結セラレ日支兩國之ヲ批准シ日支兩國海軍ノ歸領ヨリ及同地方ニ駐在スル協商各國海軍ノ撤退スルニ至ル時ヲ謂フ

本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り對照シテ記名調印シ雙

方各一通ヲ保有シ證據ト爲ス

大正八年三月一日
中華民國八年三月一日

- | | | |
|-----------|------|--------|
| 日本帝國海軍代表者 | 海軍大佐 | 伊集院 俊 |
| | 海軍中佐 | 八角 三 郎 |
| 中華民國海軍代表者 | 海軍少將 | 謝 葆 璋 |
| | 海軍少將 | 陳 恩 燾 |

日支軍事協定取消ニ關スル交換公文

大正十年一月二十七日

外交總長ヨリ小幡公使宛公文

雜字第九號照會
外交總長額

日支軍事協定取消ニ關スル交換公文

小幡公使ヨリ外交總長宛公文

以書翰啓上致候陳者中日兩國ハ曩ニ協同防敵ノ爲駐日本本國公使ト貴國外務大臣トノ間ニ公文ヲ交換シ且兩國軍事當局者間ニ陸海軍軍事協定ヲ議定シ置キタル處茲ニ中日兩國最高統帥部ハ兩國協同防敵ノ必要既ニ消滅シタルヲ認メ中日協定有效期間ニ關スル協定ヲ取消シ署名調印ノ日ヲ以テ既ニ戰爭狀態終了ノ時機ニ達シタルコトヲ承認シ兩國軍事當局者ニ於テ右趣旨ニ達ヒ覺書ニ調印致候本部査スルニ右各節ハ事實ト相符合セルモノト認メタルニ付民國七年三月駐日本本國公使ト貴國外務大臣トノ交換公文及該交換公文ニ據リ雙方締結ニ係ル陸海軍軍事協定並該協定ニ基キ締結セラレタル各附帶文書ハ均シク本日ヨリ完全ニ其ノ效力ヲ喪失セルコトヲ茲ニ聲明致候此段照會得貴意候 敬具

以書翰啓上致候陳者本日附雜字第九號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣聞悉日支兩國ハ曩ニ共同防敵ノ爲帝國外務大臣ト日本駐劄貴國公使トノ間ニ公文ヲ交換シ且兩國軍事當局者ノ間ニ陸海軍軍事協定及海軍軍事協定ヲ議定シ置キタル處茲ニ日支兩國最高統帥部ハ兩國共同防敵ノ必要既ニ消滅シタルヲ認メ日支軍事協定有效期間ニ關スル協定ヲ取消シ署名調印ノ

日支軍事協定取消ニ關スル交換公文

七七六

日ヲ以テ既ニ戰爭狀態終了ノ時機ニ達シタルコトヲ承認シ
兩國軍事當局者ニ於テ右趣旨ニ遵ヒ覺書ニ調印致候査スル
ニ右各節ハ事實ト相符合セルモノト認メ候ニ付大正七年三
月帝國外務大臣ト日本駐劄貴國公使トノ交換公文及該交換
公文ニ據リ雙方締結ニ係ル陸海軍軍事協定並該協定ニ基キ
締結セラレタル各附帶文書ハ均シク本日ヨリ完全ニ其ノ效
力ヲ喪失セルコトヲ茲ニ聲明致候右照覆得貴意候 敬具

大正十年一月二十七日

日本帝國特命全權公使 小 幡 西 吉

支那共和國署理外交總長 顏 惠 慶 殿

軍事協定廢止ニ關スル陸軍側
覺書

大正十年一月二十七日調印

日支兩國最高統帥部ハ日支兩國共同防敵ノ必要消滅シタル
ヲ認メ茲ニ大正八年二月五日調印ノ日支軍事協定有效期間
ニ關スル協定ヲ取消シ本書調印ノ日ヲ以テ軍事協定第十一
條第二項戰爭狀態終了ノ時ニ達シタルコトヲ承認ス

大正十年一月二十七日

中華民國十年一月二十七日

日本帝國陸軍代表者

陸軍少將 東 乙 彦

中華民國陸軍代表者

陸軍中將 何 恩 溥

軍事協定廢止ニ關スル海軍側

覺書

大正十年一月二十七日調印

日支兩國最高統帥部ハ日支兩國共同防敵ノ必要消滅シタル
ヲ認メ茲ニ大正八年三月一日調印ノ日支軍事協定有效期間
ニ關スル協定ヲ取消シ本書調印ノ日ヲ以テ軍事協定第八條
第二項戰爭狀態終了ノ時ニ達シタルコトヲ承認ス

大正十年一月二十七日

中華民國十年一月二十七日

日本帝國海軍代表者

海軍大佐 八角 三 郎

中華民國海軍代表者

海軍少將 陳 恩 溥

山東省ニ於ケル諸問題
處理ニ關スル交換公文

大正七年九月二十四日

以書翰致啓上候陳者帝國政府ハ貴我兩國ノ間ニ存スル善隣
ノ誼ニ顧ミ和衷協調ノ旨意ニ起見シ山東省ニ關スル諸問題
ヲ左記各項ノ通處理スルヲ妥當ナリト認メ茲ニ之ヲ貴國政
府ニ提議スルコトニ相決シ候

一、膠濟鐵道沿線ノ帝國軍隊ハ濟南ニ一部隊ヲ殘留スル

外總テ之ヲ青島ニ集中スルコト

二、膠濟鐵道警備ハ貴國政府ニ於テ巡警隊ヲ組成シテ之

ニ當ルヘキコト

三、膠濟鐵道ヨリ右巡警隊ノ經費ニ充テムカ爲相當ノ金

額ヲ提供スルコト

四、日本國人ヲ右巡警隊本部及樞要驛並巡警養成所ニ聘

用スルコト

五、膠濟鐵道從業員中ニ支那人ヲ採用スルコト

六、膠濟鐵道ハ其所屬確定ノ上ハ日支兩國ニ於テ合辦經

山東省ニ於ケル諸問題處理ニ關スル交換公文

營スルコト

七、現下施行ノ民政ハ之ヲ撤廢スルコト

就テハ前記提議ニ對スル貴國政府ノ意旨御回示相成候様致

度候

右照會得貴意候 敬具

大正七年九月二十四日

日本帝國外務大臣 爾 後 藤 新 平

支那共和國特命全權公使 章 宗 祥 閣下

來 翰

以書翰致啓上候陳者貴國政府ハ貴我兩國ノ間ニ存スル善隣
ノ誼ニ顧ミ和衷協調ノ旨意ニ起見シ山東省ニ關スル諸問題
ヲ左記各項ニ基キ處理致度旨提議相成候貴國閣下悉仕候

一、膠濟鐵道沿線ノ日本國軍隊ハ濟南ニ一部隊ヲ殘留ス

ル外總テ之ヲ青島ニ集中スルコト

二、膠濟鐵道警備ハ支那政府ニ於テ巡警隊ヲ組成シテ之

ニ當ルヘキコト

三、膠濟鐵道ヨリ右巡警隊ノ經費ニ充テムカ爲相當ノ金

額ヲ提供スルコト

四、日本國人ヲ右巡警隊本部及樞要驛並巡警養成所ニ聘

七七七

華府會議ニ於テ支那ノ經濟的開發ニ關シ日支委員ノ爲シタル陳述

用スルコト

五、膠濟鐵道從業員中ニ支那人ヲ採用スルコト

六、膠濟鐵道ハ其所屬確定ノ上ハ日支兩國ニ於テ合辦經營スルコト

七、現下施行ノ民政ハ之ヲ撤廢スルコト

支那政府ハ右日本國政府ノ提議ニ對シ欣然同意致候

右照會得貴意候 敬具

中華民國七年九月二十四日

中華民國特命全權公使 章 宗 祥

外務大臣男爵 後藤 新平閣下

【參考】

華盛頓會議ニ於テ支那ノ經濟的開發ニ關シ日本委員及支那委員ノ爲シタル陳述

(大正十一年一月—二月)

支那ノ經濟的開發ニ關シ一月十八日太平洋及極東問題委員會ニ於テ幣原男爵ノ爲シタル陳述

東問題委員會ニ於テ幣原男爵ノ爲シタル陳述

策ヲ自發的ニ聲明セムコトハ實ニ日本國ノミナラス支那ニ利害關係アル諸外國ニ於テモ多大ノ満足ヲ以テ迎フル所ナルヘシ今日迄本委員會ニ於テ採用セラレタル諸決議ハ支那ノ爲ニスル外國ノ自利及犧牲ノ精神ヲ以テ常ニ其指針トセリ日本國委員ハ支那カ總テノ國民ニ對スルト同様支那自身ニ對シテモ多大ノ利益ヲ齎スヘキ政策ヲ宣明スルニ躊躇セサルヘシト信ス

支那ノ經濟的開發ニ關シ二月二日太平洋及極東問題委員會ニ於テ施鑿基氏ノ爲シタル陳述

一月十八日ノ太平洋及極東問題委員會ニ於テ幣原男爵ハ日本國委員ヲ代表シテ支那カ出來得ル限リ外國人ニ對シ支那ノ天然富源ノ開發及利用ニ協力スルノ機會ヲ提供セムコトヲ希望スル旨表明シ尙此趣旨ニ出ツル政策ヲ支那ヨリ自發的ニ聲明スル所アラハ多大ノ満足ヲ以テ迎ヘラルヘキ旨附言シタリ支那國政府ハ外國貿易カ相互的ニ利益ヲ齎スモノナルヲ認ムルカ故ニ從來其發達ヲ促進スルノ確定政策ヲ持續シ來レリ

右貿易ニ付テハ天產物カ其主要ナル地位ヲ占ムルモノナルコト言フ俟タス此事實ニ照シ且益々人口増加ノ傾向ヲ有ス

華府會議ニ於テ支那ノ經濟的開發ニ關シ日支委員ノ爲シタル陳述

日本國委員ハ極東問題ニ關スル本會議ノ主要目的ノ一ハ支那國民及支那ニ利害關係アル總テノ國民ノ一般福祉ノ増進ニ在リト思惟ス右希望實現ニ付テハ支那ノ無限ナル天然富源ノ開發及利用ヲ以テ最急務ナリトス

支那カ莫大ナル富源ヲ包蔵スルノ國タルコトハ萬人ノ認ムル所ニシテ支那ハ耕地、鑛山及各種ノ原料ニ依リ自然ノ惠澤ニ浴スルコト極メテ大ナリ然レトモ此等富源ニシテ開發及利用セラレサルニ於テハ多ク實際ノ價值ナシトス此等富源ヲ大ニ利用セムカ爲メニハ支那ハ外國ノ資本、貿易及企業ニ對シ其門戸ヲ開放スルコト肝要ナリ

此點ニ關シ施鑿基氏ハ支那國委員ヲ代表シテ十一月十六日ノ總委員會ニ於テ重要ナル陳述ヲ爲シ支那ハ其莫大ナル天然富源ヲ之ヲ必要トスル總テノ國民ニ利用セシムコトヲ欲スル旨ヲ聲明シタリ右陳述ハ明ニ支那ノ思慮ト先見トヲ示スモノト謂フヘク而シテ日本國委員ハ右陳述ニ依リテ表明セラレタル原則カ充分ニ實行セラルヘキコトヲ確信スルモノナリ

右原則ヲ適用スルニ當リ支那カ出來得ル限リ廣ク外國人ニ對シ其天然富源ノ開發及利用ニ協力スルノ機會ヲ提供セムコトハ吾人ノ希望スル所ナリ支那ニ於テ此趣旨ニ出ツル政

ル支那人ノ要求及其漸次發達スル工業上ノ需要ニ顧ミ支那ニ於テハ實ニ外國ノ資本ニ對シテ支那ノ法令ニ從ヒ參加ヲ許セルノミナラス又其權内ニ在ル諸般ノ實際的方法ヲ講シテ諸々支那ノ天然富源ノ開發ヲ獎勵シ來レリ又支那ハ總テ支那國會議ニ於ケル此種天產物其他ノ物品又ハ商品ノ輸送ニ關スル便宜ノ供與及運賃ノ決定ニ付常ニ總テノ外國荷送人ニ對シ價格ニ均等ノ待遇ヲ與フルノ主義ヲ遵守實行シタリ右寬大ナル政策ニ依リ支那ニ於ケル原料品及食糧ハ余ノ同僚顧博士カ曩ニ本委員會ニ於テ滿洲ニ付テ述ヘタルカ如ク今ヤ公平ナル條件ノ下ニ且經濟上ノ需要供給ニ關スル法則ノ正常ノ作用ニ依リ總テノ國民ニ提供セラルルニ至レリ此事實ハ獨リ滿洲ニ付テノミナラス支那ノ他ノ地方ニ付テモ亦同様ナリトス支那國政府ハ日下此相互的の利益アル方針ヨリ乖離セムトスルノ意志ヲ有セス支那ハ支那國民ノ重大ナル利益及其經濟的生活ノ安固ト兩立スル限リ其天然富源ノ開發ニ對シ外國ノ資本及技術ノ協力ヲ求ムルコトヲ自ラ進ンテ繼續スヘシ

支那國委員ハ幣原男爵カ同委員ニ保障セラレタル通り今日迄支那ノ利益ノ爲メ本委員會ノ採用シタル諸決議ニ於テ常ニ參加諸外國ノ指針タリシ自利及犧牲ノ同一ノ精神ニ促サ

レ茲ニ前記ノ陳述ヲ爲スヲ躊躇セサルノミナラス却テ大ニ之ヲ喜フモノナリ蓋シ日本國委員カ支那ノ天然富源ノ開發及利用ノ政策ニ付支那自ラ進シテ聲明ヲ爲スヘシトノ希望ヲ述ヘタルハ本問題ニ關シ日本ノ爲メ又ハ諸外國一般ノ爲メ何等特別ノ考量ヲ要求スルモノニ非スシテ單ニ支那ト同様ニ豐富ナル天然富源ノ惠澤ニ浴スル他ノ諸國ニ於テ許與スルト同一ノ條件ヲ以テ支那モ外國人ニ對シ協力ノ機會ヲ與フルノ意嚮ナル旨ヲ確メムコトヲ欲スルニ過キスト確信スルヲ以テナリ

【參考】

華盛頓會議ニ於テ大正四年ノ日支交渉ニ關シ日本委員、支那委員及亞米利加合衆國委員ノ爲シタル陳述

(大正十一年二月)

二月二日太平洋及極東問題委員會ニ於テ日本國委員幣原男爵ノ爲シタル陳述

(本陳述ハ同月四日ノ總會議ニ於テ記錄ニ留ムルコトナレリ)

本委員會ノ前回會議ニ於テ支那國委員ハ陳述書ヲ提出シテ千九百十五年(大正四年)ノ日支諸條約諸公文ヲ再議シ之ヲ廢棄スヘキコトヲ切望セリ日本國委員ハ支那國委員ノ困難ナル立場ヲ諒トスルモ支那カ自由ナル主權國トシテ締結シタル國際約定ヲ廢棄セムカ爲メ現ニ執ラムトスル手段ニ付テハ同意ヲ表スルヲ得サルモノナリ

惟フニ支那國委員ハ正當ニ全權ヲ委任セラレタル兩國代表者ノ正式ニ署名訓印シ且國際通義タル慣例ニ依リ批准書交換ヲ了シタル千九百十五年ノ約定ニ付其法律の效力ヲ問題トセムトスル意志ヲ有スルニ非サルヘシ蓋シ右文書ヲ廢棄セムトスルノ支那ノ主張ハ即チ支那モ亦右約定カ現ニ效力ヲ有シ其廢棄セラレサル限り有效ニ存續スヘシトノ見解ヲ持スルコトヲ證スルモノナリ

何國ト雖モ領土權其他重大ナル權利ノ讓與ヲ容易ニ承諾スルモノニ非サルコトハ言フ俟タス若シ條約ニ依リ當然許與セラレタル權利カ許與者ノ自由意思ニ出テサリシトノ理由ヲ以テ何時ニテモ之ヲ廢棄シ得ヘキモノトスルノ原則一旦承認セラレムカ是レ亞細亞、歐羅巴其他到ル處ニ於ケル現

存國際關係ノ安定ニ重大ナル影響ヲ及ボスヘキ極メテ危險ナル先例ヲ開クモノナリ

支那國委員ハ前記陳述書ニ於テ支那カ千九百十五年ノ日本國ノ要求ヲ承諾シタルハ後日之ヲ再議シ且廢棄スヘキ機會ノ來ルヘキコトヲ庶幾シタルニ因リ旨述ヘタルモ該論斷タルヤ其眞意ヲ捕捉スルニ由ナシ勿論支那國委員ノ意思ハ支那カ條約ニ付テハ何時ニテモ之ヲ破棄スルノ豫想ヲ以テ締結スルヲ得ルコトヲ述ヘタルモノト解スヘキニ非サルヘシ支那國委員ハ右諸條約及諸公文ハ支那ノ主權及獨立ニ關シ本會議ノ採用シタル原則ニ背馳スルモノナルコトヲ主張スルモ本會議ハ却テ支那カ其主權ノ行使ニ依リ爲シタル契約上ノ讓與ハ支那ノ主權及獨立ト牴觸スルモノト認ムヘカラスト解シタルコト一再ニ止ラス

尙千九百十五年ノ諸條約及諸公文ヲ呼フニ所謂「二十一箇條要求」ナル辭句ヲ用フルハ不精確ナルノミナラス甚シク誤解ヲ惹起スルモノナルコトヲ指摘セサルヲ得ス右ハ日本國ノ原提案全部カ日本國ノ壓迫ニ依リ支那ノ承諾ヲ得タリトノ誤レル印象ヲ與フルノ虞アルヲ以テナリ然ルニ事實ニ於テハ所謂第五項ノミナラス日本國最初ノ提案中他ノ數箇ノ事項ハ最終要求ヲ支那ニ提出スルニ當リテ支那國政府ノ

華府會議ニ於テ大正四年日支交渉ニ關シ日、支、米委員ノ爲シタル陳述

希望ヲ尊重シ或ハ全然削除セラレ或ハ甚シク變更セラレタリ更ニ本件交渉ニ關シ兩國政府ヨリ公表シタル記錄ニ依リハ署名済ノ本件諸條約及諸公文中ノ最重要ナル諸條項ハ最後通牒交付前既ニ支那國委員ニ依リ實際上同意セラレタルモノナルコト判明スヘシ而シテ右最後通牒ハ當時遷延ヲ重ネタル交渉ヲ速ニ決了セシムル爲メ日本國政府ニ於テ唯一ノ方法ト思量セラレタルモノナリ

日本國委員ハ本會議ニ於テ參加國ノ一カ他ノ一國ニ對シ有スル舊來ノ不滿ヲ穿鑿シ再ヒ之カ審查ヲ行フモ何等益スル所ナカルヘク互ニ希望ト信頼トヲ以テ將來ニ處スルノ却テ本會議ノ崇高ナル目的ニ合スル所以ナルヲ信スルモノナリ

然リト雖モ千九百十五年ノ日支諸條約及諸公文締結以後ニ於ケル事態ノ變遷ニ鑑ミ日本國委員ハ此機會ニ於テ茲ニ左ノ聲明ヲ爲スヲ欣幸トスルモノナリ

一 日本國(一)南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル鐵道敷設ノ爲メノ借款(二)右地域ニ於ケル各種課稅ヲ擔保トスル借款ニ關シ獨占的ニ日本國資本家ニ與ヘラレタル選擇權ヲ最近ノ組織ニ係ル國際財業團ノ共同事業ニ開放セムトス但シ此聲明ノ如何ナル事項ト雖モ前記財業團

ノ共同事業ノ範圍ニ關シ同團ニ代表セララル諸國政府ノ間及同團ヲ組織スル諸國資本家團體ノ間ニ互ニ交換セラレタル公表ノ文書又ハ覺書中ニ記録セラレタル了解ヲ變更シ又ハ無効ナラシムルモノト解スヘカラサルモノトス

二 日本國ハ南滿洲ニ於ケル政治、財政、軍事又ハ警察ノ事項ニ付日本人ノ顧問又ハ教官ヲ支那ニ於テ備聘スルノ件ニ關スル日支取極ニ依リ日本國ノ有スル優先權ヲ主張スルノ意思ナシ

三 尙日本國ハ千九百十五年ノ日支條約及諸公文ノ署名ニ際シ日本國政府ノ原提案中ノ第五項ハ他日ノ商議ニ讓ルヘシトノ趣旨ヲ以テ記録中ニ留メタル留保ヲ撤回セムトス

右諸條約及諸公文ニ合マルル山東省ニ關スル一切ノ事項カ今回確定的ニ調整解決セラレタルコトハ茲ニ之ヲ附言スルコトヲ要セサルヘシ

日本國カ予ノ茲ニ宣明スルノ光榮ヲ有スル前記ノ決定ヲ爲スニ至レルハ終始支那ノ主權及機會均等主義ヲ顧念シ公正及寛容ノ精神ニ遵由シタルニ因ルモノナリ

二月三日太平洋及極東問題委員會ニ於テ支那國委員王寵惠氏ノ爲シタル陳述

(本陳述ハ同月四日ノ總會議ニ於テ記録ニ留ムルコトナレリ)

支那國委員ハ昨日ノ本委員會ニ於テ幣原男爵ノ爲シタル千九百十五年(大正四年)五月二十五日ノ日支諸條約及諸公文ニ關スル陳述ヲ了承セリ支那國委員ハ日本國カ(一)南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル鐵道敷設ノ爲メノ借款(二)該地域ニ於ケル各種稅課ヲ擔保トスル借款ニ關シ獨占的ニ日本國資本家ニ與ヘラレタル選擇權ヲ他ノ諸國ノ銀行業者ノ共同事業ニ開放セムトスルコト又日本國ハ南滿洲ニ於ケル政治、財政、軍事又ハ警察ノ事項ニ付日本人ノ顧問又ハ教官ヲ支那ニ於テ備聘スルノ件ニ關スル優先權ヲ主張スル意思ナキコト更ニ又日本國ハ其支那ニ對スル當初ノ要求中ノ第五項ハ他日ノ商議ニ讓ルヘシトノ留保ヲ撤回スルコトヲ知リ満足スルモノナリ

支那國委員ハ日本國政府カ千九百十五年ノ諸條約及諸公文ニ豫期スル他ノ要求ヲ拋棄スルニ至ラザリシコトヲ大ニ遺憾トス

日本國委員ハ此等諸約定ノ廢棄ハ亞細亞、歐羅巴其他到ル

處ニ於ケル現存關係ノ安定ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ極メテ危險ナル先例ヲ開クヘシトノ意見ヲ表明セリ

支那國委員ハ若シ他ノ諸國ノ非難抗議ヲ招クコトナク千九百十五年ノ諸條約ノ商議及署名ノ際ニ於ケルカ如キ事情ノ下ニ一國カ軍備上羸弱ナル善隣國ヨリ係争問題解決ノ條件タルニモ非ス又何等ノ代價ヲ提供スルニモ非スシテ重要ナル利權ヲ獲得スルヲ得トセハ國際關係ノ安定ニ測知スヘカラサル影響ヲ及ホスヘキ一層危險ナル先例ヲ開クモノナルコトヲ茲ニ言明スルノ光榮ヲ有ス右諸條約及諸公文ハ國際關係ノ年紀上實ニ他ニ類例ヲ見サル所ニシテ又千九百十五年ニ日本國ノ支那ニ提出シタルカ如キ重大ナル要求カ他方ノ挑發ヲ受ケタリトノ口實スラナクシテ突然一國ヨリ之ト友誼的關係ヲ保持スル他國ニ提起セラレタルカ如キ實例モ歴史上殆ト之アルコトナシ千九百十五年ノ約定ノ廢棄カ他ノ諸約定廢棄ノ先例ト爲ルヘキコトハ毫モ之ヲ危懼スルノ要ナシ何トナレハ他日斯ノ如キ事件ノ再現セサルヘキコトハ吾人ノ希望シ且期待スル所ナレハナリ

千九百十五年ノ約定商議ノ際ニ於ケル事情ハ希有ノ例ニ屬シタルヲ以テ合衆國政府モ遂ニ同年五月十三日附ノ同文通牒ヲ支那及日本兩國政府ニ送致シ本件ニ論及スルヲ至當ナ

華府會議ニ於テ大正四年日支交渉ニ關シ日、支、米委員ノ爲シタル陳述

リト思考スルニ至レリ右通牒ハ支那及日本兩國政府ノ間ニ發生シ且現ニ懸案中ノ事態及其結果トシテ爲レル約定ニ體ミ合衆國政府ハ支那及日本兩國政府ノ間ニ締結セラレタル如何ナル約定又ハ了解ト雖モ苟モ支那ニ於ケル合衆國及其人民ノ條約上ノ權利、支那共和國ノ政治的若クハ領土的保全又ハ所謂門戶開放主義トシテ知ラルル支那ニ關スル國際政策ニ危害ヲ加フルモノハ之ヲ承認スル能ハサルコトヲ支那共和國(日本國)政府ニ通告スルノ光榮ヲ有スル旨其旨頭ニ記述シタリ

支那國政府ハ他ノ諸國ニ對スル義務ヲ自覺シテ右約定署名後直ニ支那カ署名ヲ強要セラレタル右約定ニ抗議シ且他ノ諸國ノ條約上ノ權利カ右約定ノ結果トシテ侵害セララルコトニ對スル責任ヲ否認シタル正式陳述書ヲ公表セリ右陳述書ニ於テ支那國政府ハ日本國ノ最後通牒ノ條件全部ニ同意スルノ已ムナキニ至レリト雖モ支那國政府ハ之カ爲メ支那ノ領土ノ獨立及保全ノ維持、現狀維持並支那ニ於ケル各國ノ商工業上ノ機會均等主義ニ關シ他ノ諸國トノ間ニ締結シタル各種ノ條約及協定ニ影響ヲ及ホスコトアルヘキ何等ノ變更ニモ同意スルヲ欲セサルコトヲ聲明シタリ

前記約定ノ規定ハ其根本ニ於テ不正ナルヲ以テ支那國政府

及人民ヲ代表スル支那國委員ハ極東ニ於テ重大ノ利害關係ヲ有スル諸國ヲ代表スル本會議ニ對シ右約定ノ公平及正義ニ合スルヲ否從テ又該約定自體ノ效力ニ關スル問題ヲ提出スルノ義務アリト思考シタリ

若シ日本國ニシテ千九百十五年ノ約定カ正當ノ形式ヲ具ヘテ兩國政府ニ依リ實際ニ署名セラレタルノ故ヲ以テ之ヲ有效トスル形式上又ハ法理上ノ論據ニ專ラ頼ラムトスルモノナルニ於テハ本會議ノ關スル限リ右主張ハ大ニ失當ナルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ九國代表者ノ今次ノ合同ハ法律上ノ現狀維持ヲ其目的トシタルモノニ非サルヲ以テナリ右目的ハ之ニ反シ出來得ヘクハ太平洋及極東ニ於ケル現狀ニ對シ諸國間ニ於ケル恒久的友誼關係ノ増進ヲ期待シ得ルカ如キ變更ヲ加ヘムトスルニ在ルモノナルコト合衆國大統領ノ諸國ニ對スル本會議參加招請ノ書翰中ニモ述ヘラレタル通りナリ

故ニ支那國委員ハ左記ノ理由ニ因リ千九百十五年五月二十五日ノ日支諸條約及諸交換公文ハ之ヲ廢棄スルノ目的ヲ以テ公平ナル審査ノ題目ト爲ササルヘカラストノ意見ヲ有ス

- 一 日本國ハ支那ニ對シ要求シタル利權ニ付何等ノ代價ヲ提供セス本約定ニ因リ受タル利益ハ全然一方的ナリ
- 二 本約定ハ重要ナル點ニ於テ支那及諸外國間ノ條約ニ違背ス
- 三 本約定ハ本會議ノ採用シタル支那ニ關スル原則ニ概觸ス
- 四 本約定ハ日支兩國間ニ不斷ノ誤解ヲ醸成セリ之ヲ廢棄スルニ非サレハ他日兩國間ノ友誼的關係ヲ攪亂スルコト必然ニシテ從テ本會議ノ招集ニ依リ達成セムトスルノ目的ヲ實現スルニ付一ノ障害タルヘシ此點ニ關シ支那國委員ハ千九百十五年六月日本帝國議會ニ於テ故總理大臣原氏ノ提出シタル決議案ヲ引用シ以テ本論ヲ結フノ最適切ナルヲ信ス該決議案ハ同議會ノ議員約百三十名ノ贊成ヲ得タリ

現内閣ノ對支交渉ハ終始機宜ヲ盡リ兩國ノ親善ヲ傷ケ列國ノ疑惑ヲ招キ徒ニ帝國ノ威信ヲ失墜シテ毫モ東洋平和ノ基礎ヲ確立スルコト能ハス却テ禍根ヲ將來ニ貽スモノト認ム右決議ス

ニ外ナラス

二月三日太平洋及極東問題委員會ニ於テ合衆

國委員「ヒューズ」氏ノ爲シタル陳述

(本陳述ハ同月四日ノ總會議ニ於テ記錄ニ留ムルコトナレリ)

幣原男爵ノ日本政府ヲ代表シテ爲シタル重要ナル陳述ヲ聽キ予ハ千九百十五年五月十三日支那及日本兩國政府ニ通達セル合衆國政府ノ同文通譯ヲ引用シテ同國政府ノ立場ヲ明ニスルヲ適當ト思惟ス前記支那國政府宛合衆國政府ノ通譯左ノ如シ

支那及日本兩國政府ノ間ニ發生シ且現ニ懸案中ノ事變及其結果トシテ爲レル約定ニ鑑ミ合衆國政府ハ日支兩國政府間ニ於テ既ニ締結セラレ又ハ今後締結セラレヘキ協定ト雖モ苟モ支那ニ於ケル合衆國及其人民ノ條約上ノ權利、支那共和國ノ政治的若クハ領土的保全又ハ所謂門戶開放主義トシテ知ラルル支那ニ關スル國際政策ニ危害ヲ加フルモノハ承認スル能ハサルコトヲ支那共和國政府ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

合衆國政府ハ日本國政府ニ對シテモ同文ノ通譯ヲ送付セリ

該陳述ハ對支關係ニ付テノ合衆國ノ歴史的政策ニ合致シ右ニ述ヘラレタルカ如キ其立場ハ終始一貫維持セラレ來レリ

最初ノ要求ノ第一項ヲ爲シ山東省ニ關スル條約及交換公文ノ題目タリ山東ニ關スル諸事項カ二月一日ノ總會議ニ報告セラレタル通り本會議ト相違ンテ行ハレタル商議ニ依リ當事國雙方ニ満足ナル解決ヲ遂ケタルコトヲ承知シ満足ニ堪ヘス

幣原男爵カ日本國政府ヲ代表シテ爲シタル陳述ニ依リ日本國ハ千九百十五年(大正四年)ノ諸條約及諸公文ノ署名ニ際シ爲シタル留保即チ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ僱用スルコト、學校及病院用土地、南支那ニ於ケル鐵道、武器ノ供給及布教權ニ關スル事項等日本國政府ノ最初ノ提案第五項ヲ他日ノ商議ニ讓ルヘキ旨ノ留保ヲ撤回スルノ意アルコトヲ承知シ又満足ニ堪ヘス右第五項ニ基ク懸案ノ確定的撤回ハ右要求カ再ヒ提起セラルルニ於テハ畢竟支那ノ保全及門戶開放ノ主義ヲ害スルニ至ルヘシトノ支那及諸外國間ノ均シク懷キタル憂慮ノ因ヲ除却スルモノナリ

幣原男爵ハ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約及公文ニ關シ日本國ハ南滿洲ニ於ケル政治、財政、軍事又ハ警察ノ事項

ニ付日本人ノ顧問又ハ教官ヲ支那ニ於テ僱用スルノ件ニ關スル優先權ヲ主張スルノ意思ナキ旨陳述セラレ吾人ノ意ヲ安シセラレタリ

幣原男爵ハ又(一)南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル鐵道敷設ノ爲メノ借款(二)右地域ニ於ケル各種稅課ヲ擔保トスル借款ニ關シ專ラ日本側資本家ノ爲メニ許與セラレタル選擇權ヲ主張スルノ意ナク之ヲ最近組織セラレタル國際財團ノ共同事業ニ開放スヘキ旨表明セラレタリ

予ハ此點ニ關シ右地域ニ於テ外國資本ニ依リ企畫セラルルコトアルヘキ此種性質ノ企業ハ殆ト悉ク右財團ニ依リ實行セラルルニ至ルヘキハ疑ナキ事實ナリト謂ハムトス但シ現存諸條約ハ此種企業ニ關スル機會ヲ何レノ國ノ人民ニ對シテモ均等條件ノ下ニ開放シ居ルコトハ之ヲ指摘セサルヘカラス支那ニ於ケル條約國ノ有スル右一般の權利ハ右財團關係國ノ國民ノミニ之ヲ局限シ得ヘキモノト爲スヘカラス將又右財團關係國政府ハ本件ニ關スル一切ノ權利カ借狀團ニ屬スル各自國團體所屬員以外ノ者ニ許與スヘカラスル立場ニ在リト思惟シ居ルモノト爲スヘカラス故ニ予ハ千九百十五年ノ條約ニ基キタル南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル鐵道敷設ニ關スル及地方收入ヲ擔保トスル財政的活動ニ關

ル獨占的地位ノ主張ヲ拋棄スヘキ旨ノ日本國政府ノ聲明ハ此意味ヲ以テ解釋スルノ正當ナルコトヲ信スルモノナリ

尙茲ニ指摘スルコトヲ要スルハ千九百十五年五月二十五日ノ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約第二條、第三條及第四條ニ依リ支那國政府ハ日本國臣民ニ對シ南滿洲ニ於テ商工業上ノ建物ヲ建設スル爲メ又ハ農業ヲ經營スル爲メ土地ヲ商租シ、南滿洲ニ於テ居住往來シ且各種ノ營業及製造業ニ從事シ又東部內蒙古ニ於テ支那國民ト合辦ニ依リ農業其他同種ノ產業ヲ營ムノ權利ヲ許與セルコト是レナリ

合衆國政府ハ勿論右許與カ排他的ノ趣旨ヲ以テセラレタルモノニ非スト解シ過去ニ於テ爲シタルカ如ク米支間ノ條約中ノ最惠國條款ニ基キ米國人民ニ歸屬スヘキ利益ヲ支那國政府ニ對シ被等ノ爲メニ要求スヘシ

抑々日支間ニ於ケル條約ノ效力問題ハ支那トノ條約ニ基ク合衆國ノ條約上ノ權利ノ問題トハ別箇ノモノナルコトヲ言明セサルヘカラス右條約上ノ權利ニ付テハ合衆國ハ一貫シテ主張シ來レリ

合衆國ハ其人民ノ支那ニ於テ商工業ニ從事シ得ル一般の權利ニ影響アル一切ノ問題ニ付爲シタルカ如ク本件ニ付テモ

大正十一年二月四日華盛頓ニ於テ

テ調印

大正十一年六月二日北京ニ於テ

批准書交換

一切ノ國民ニ對スル均等主義ヲ主張スルハ合衆國政府ノ傳統的政策ナリ而シテ此政策ハ予ノ引用セル千九百十五年五月十三日ノ公文ニ記載セル他ノ諸政策ト共ニ合衆國政府ノ一貫シテ維持シ來レル所ナリ尙合衆國政府ハ支那ニ關スル此等ノ政策ヲ茲ニ提案セラルル九國條約ニ依リ再ヒ確認シ、明確ニシ且一層力アラシムルノ業ニ射ラ從ヒツツアルニ付殊ニ喜悅ノ情ヲ感スルモノナリ

二月三日太平洋及極東問題委員會ニ於テ支那

國委員顧維鈞氏ノ爲シタル陳述

(本陳述ハ同月四日ノ總會議ニ於テ記錄ニ留ムルコトナレリ)

千九百十五年(大正四年)ノ諸條約及諸公文中日本國政府ニ依リ明ニ拋棄セラレサル部分ニ關シテハ支那國全權ハ將來一切ノ適當ナル機會ニ於テ其解決ヲ求ムル權利ヲ留保ス

日本國及支那國ハ共ニ山東ニ關スル懸案ヲ友誼的ニ且兩國ノ共同利益ニ適應シテ解決セムトスル眞摯ナル希望ニ促サレ該懸案解決ノ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

日本國皇帝陛下

海軍大臣 加藤友三郎

特命全權大使 幣原喜重郎

外務次官 埴原正直

支那共和國大統領閣下

特命全權公使 施肇基

特命全權公使 顧維鈞

前司法大臣 王寵惠

因テ各委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一章 舊獨逸膠州租借地ノ還付

第一條 日本國ハ舊獨逸膠州租借地ヲ支那國ニ還付スヘシ

山東懸案解決ニ關スル

條約

山東懸案解決ニ關スル條約

第二條 日本國政府及支那共和國政府ハ舊獨逸膠州租借地ノ行政ノ移轉及該地域内ノ公有財産ノ移轉ニ關スル細目ノ取極ヲ作成實施シ且均シク調整ヲ要スル他ノ事項ヲ解決スルノ權限ヲ有スル共同委員會ヲ組織スル爲各三名ノ委員ヲ任命スヘシ

共同委員會ハ前記ノ目的ノ爲本條約實施後直ニ會合スヘシ

第三條 舊獨逸膠州租借地ノ行政ノ移轉及該地域内ノ公有財産ノ移轉並前條ニ定ムル他ノ事項ノ調整ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ條約實施ノ日ヨリ六月ヲ超エサル間ニ完了スヘシ

第四條 日本國政府ハ舊獨逸膠州租借地ノ行政ヲ支那國ニ移轉スルニ際シ右行政ノ移轉ニ必要ナルヘキ日本國所持ノ記録、登錄簿、圖面、證書其ノ他ノ文書又ハ右ノ認證膠本並支那國カ爾後該地域及膠州灣ノ周圍五十基米地帯ノ行政ヲ爲スニ付有用ナルヘキ前記書類ヲ支那共和國政府ニ引渡スコトヲ約ス

第二章 公有財産ノ移轉

第五條 日本國政府ハ舊獨逸膠州租借地内ノ一切ノ公有財産(土地、建物、工場又ハ營造物ヲ含ム)ハ舊テ獨逸國官

憲カ所有シタルモノナルト該地域ノ日本國行政ノ期間内ニ日本國官憲カ買收シ又ハ建造シタルモノナルトツ間ハス之ヲ支那共和國政府ニ移轉スルコトヲ約ス但シ本條約第七條ニ規定スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 前條ニ依ル公有財産ノ移轉ニ付テハ支那共和國政府ハ何等補償ヲ要求セラルルコトナカルヘシ尤モ日本國官憲カ買收又ハ建造シタルモノニ付及舊テ獨逸國官憲カ所有シタルモノニ對スル改良又ハ添加ニ付テハ支那共和國政府ハ日本國政府カ現實ニ支出シタル費用ニ對シ減損及存續價格ノ原則ヲ考量シ公正且衡平ナル額ヲ償還スヘシ

第七條 舊獨逸膠州租借地内ノ公有財産中青島ニ設置セラレヘキ日本國領事館ノ爲必要ナルモノハ日本國政府之ヲ保有スヘク又日本人居留團體ノ福祉ノ爲特ニ必要ナルモノ(公立學校、神社及墓地ヲ含ム)ハ右居留團體ニ保有セシムヘシ

第八條 前三條ニ掲クル事項ノ細目ハ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ協定スヘシ

第三章 日本國軍隊ノ撤退

第九條 青島濟南府鐵道及其ノ支線ノ沿線ニ現在駐屯セル

日本國軍隊(憲兵ヲ含ム)ハ支那國ノ巡警又ハ軍隊カ該鐵道ノ保護ヲ引受クル爲派遣セララルルニ至ラハ直ニ撤退スヘシ

第五章 青島濟南府鐵道

第十條 前條ニ規定スル支那國ノ巡警又ハ軍隊ノ配置及日本國軍隊ノ撤退ハ區間ヲ分テテ之ヲ行フコトヲ得

各區間ニ於ケル手續ノ完了期日ハ日本國及支那國當該官憲ノ間ニ豫メ之ヲ協定スヘシ

右日本國軍隊ノ全部撤退ハ本條約署名ノ日ヨリ成ルヘク三月内ニ且如何ナル場合ニ於テモ六月ヲ超エサル間ニ之ヲ實行スヘシ

第十一條 青島ニ於ケル日本國守備隊ハ成ルヘク舊獨逸膠州租借地ノ行政ヲ支那ニ移轉スルト同時ニ且如何ナル場合ニ於テモ右移轉ノ日ヨリ三十日ヲ超エサル間ニ全部撤退スヘシ

第四章 青島海關

第十二條 青島海關ハ本條約ノ實施ト共ニ全然支那海關ノ一部ト爲ルヘシ

第十三條 青島支那海關ノ再開ニ關スル千九百十五年八月六日ノ日支暫行取極ハ本條約ノ實施ト共ニ其ノ效力ヲ失フヘシ

第十四條 日本國ハ青島濟南府鐵道及其ノ支線之ニ附屬スル他ノ一切ノ財産(埠頭、倉庫及他ノ同種ノ財産ヲ含ム)ト共ニ支那國ニ移轉スヘシ

第十五條 支那國ハ前條ニ掲クル一切ノ鐵道財産ノ現實價格ヲ日本國ニ償却スルコトヲ約ス

右償却セラルヘキ現實價格トハ五千參百四拾萬六千四百拾壹(五參、四〇六、壹四壹)金貨「麻」(前掲財産中獨逸人ノ遺留セル部分ノ査定額)又ハ其ノ相當額ニ日本國カ右鐵道ノ管理中前掲財産ニ加ヘタル永久的ノ改良又ハ添加ノ爲現實ニ支出シタル額(相當ノ減損價格ヲ控除ス)ヲ加ヘタルモノトス

前條ニ掲クル埠頭、倉庫及他ノ同種ノ財産ニ關シテハ日本國カ鐵道管理中ニ加ヘタル永久的ノ改良又ハ添加ノ費用(相當ノ減損價格ヲ控除ス)ヲ除クノ外何等ノ負擔ヲ課セサルモノトス

第十六條 日本國政府及支那共和國政府ハ前條ニ定ムル基礎ニ依リ鐵道財産ノ現實價格ヲ評價シ且右財産ノ移轉ヲ協定スルノ權限ヲ有スル鐵道共同委員會ヲ組織スル爲各三名ノ委員ヲ任命スヘシ

第十七條 本條約第十四條ニ依ル一切ノ鐵道財產ノ移轉ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施ノ日ヨリ九月ヲ超エサル間ニ之ヲ完了スヘシ

第十八條 本條約第十五條ニ依ル償却ヲ實行スル爲支那國ハ鐵道財產ノ移轉完了ト同時ニ支那國政府ノ國庫證券ヲ日本國ニ交付スヘシ該國庫證券ハ鐵道ノ財產及收入ヲ擔保トシ其ノ期限ハ十五年トスルモ支那國ノ選擇ニ依リ右證券交付ノ日ヨリ五年ノ終ニ又ハ其ノ後何時ニテモ六月ノ豫告ヲ以テ全部又ハ一部ヲ償却スルコトヲ得ヘキモノトス

第十九條 前條ニ依ル國庫證券ノ償還期限中支那共和國政府ハ該國庫證券ノ一部ニテモ償還セラレサル間ハ日本國臣民一名ヲ運輸主任ニ、他ノ日本國臣民一名ヲ支那會計主任ト共同シ且對等ノ職權ヲ有スル會計主任ニ選擇任用スヘシ
前項ノ職員ハ總テ支那管理局長ノ指揮、管理及監督ノ下ニ屬スヘク正當理由ニ因リ免セラルルコトアルヘシ

第二十條 前記國庫證券ニ關スル專門的ナル財政上ノ細目ニシテ本章ニ規定セサルモノハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施ノ日ヨリ六月ヲ超エサル間ニ日本國及支那國ノ官憲ニ於テ協同シテ之ヲ決定スヘシ

第六章 青島濟南府鐵道ノ延長線
第二十一條 青島濟南府鐵道ノ二延長線即チ濟南府順德縣及高密徐州府濰縣ニ關スル特權ハ支那共和國政府及國際財團間ニ協定セラルヘキ條件ニ從ヒ右財團ノ共同事業ニ開放セラルヘシ

第七章 嶺山

第二十二條 曩ニ支那國カ獨逸國ニ探掘權ヲ許シタル瀾川、坊子及金嶺鎮ノ嶺山ハ支那共和國政府ノ特許ニ依リ設立セラルヘキ會社ニ引渡サルヘク同會社ニ對スル日本側ノ出資額ハ支那側ノ出資額ヲ超過スヘカラス
右取極ノ様式及條件ハ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ定ムヘシ

第八章 舊獨逸膠州租借地ノ開放

第二十三條 日本國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於テ日本專管居留地又ハ國際居留地ノ設置ヲ要求セサルヘキコトヲ聲明ス
支那共和國政府ハ之ニ對シ舊獨逸膠州租借地全地域ヲ外國貿易ノ爲ニ開放スヘキコト及外國人ハ右地域内ニ於テ自由ニ居住シ且商業、工業其ノ他一切ノ合法ノ業務ニ從事スルコトヲ許サルヘキコトヲ聲明ス

第二十四條 支那共和國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於テ外國人カ獨逸國施政ノ下ニ於ケルト日本國行政ノ期間内ニ於ケルト同ハ合法且公正ニ取得シタル既得權ヲ尊重スヘキコトヲ併セテ聲明ス
日本國臣民又ハ日本會社ノ取得シタル右既得權ノ地位又ハ效力ニ關スル一切ノ問題ハ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ調整スヘシ

第九章 製鹽業

第二十五條 支那國ニ於テ製鹽業ハ政府ノ專賣事業ニ屬スルニ鑑ミ膠州灣沿岸ニ於テ現ニ右事業ニ從事スル日本國臣民又ハ日本會社ノ利益ハ公正ナル補償ヲ支拂ヒテ支那共和國政府之ヲ買收スヘク且前記沿岸ニ於ケル該事業ノ產出ニ係ル一定量ノ鹽ヲ日本國ニ輸出スルコトハ適當ノ條件ヲ以テ之ヲ許可スヘキコトニ協定ス

前記利益ヲ支那共和國政府ニ移轉スルコトヲ含ム前項目的ノ爲ニスル取極ハ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ作成スヘシ右取極ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施ノ日ヨリ六月ヲ超エサル間ニ之ヲ完了スヘシ

第十章 海底電信線

山東懸案解決ニ關スル條約

第二十六條 日本國政府ハ青島芝罘間及青島上海間ノ舊獨逸海底電信線ニ關スル一切ノ權利、權原及特權ハ右兩線中日本國政府カ青島佐世保間ノ海底電信線敷設ノ爲ニ利用シタル部分ヲ除クノ外支那國ニ歸屬スルコトヲ聲明ス
尤モ前記青島佐世保間ノ海底電信線ノ青島ニ於ケル陸揚及運用ニ關スル問題ハ支那國ヲ一方ノ當事者トスル現存契約ノ條件ヲ留保シ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ調整スヘキモノトス

第十一章 無線電信局

第二十七條 日本國政府ハ青島及濟南府ニ於ケル日本無線電信局ハ前記兩地ニ於ケル各日本國軍隊ノ撤退ト共ニ此等無線電信局ノ價格ニ對シ公正ナル補償ヲ得テ之ヲ支那共和國政府ニ移轉スルコトヲ約ス
右ノ移轉及補償ニ關スル細目ハ本條約第二條ニ規定スル共同委員會之ヲ協定スヘシ

第二十八條 本條約(附屬書ヲ含ム)ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ且署名ノ日ヨリ四月ヲ超エサル間ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ實施セラルヘシ
右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ノ本條約二通ニ署名調

印ス

千九百二十二年二月四日華盛頓市ニ於テ之ヲ作成ス

加藤友三郎 (印)
 幣原喜重郎 (印)
 埴原正直 (印)
 施肇基 (印)
 顧維鈞 (印)
 王寵惠 (印)

附屬書

一 優先權ノ拋棄

日本國政府ハ千八百九十八年三月六日ノ支那國及獨逸國間ノ條約ニ規定スル人、資本及材料ヲ以テスル外國ノ助力ニ關スル一切ノ優先權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

二 公有財産ノ移轉

本條約第五條ニ依リ支那共和國政府ニ移轉セラルヘキ公有財産中ニハ(一)道路、水道、公園、下水及衛生設備ノ如キ一切ノ公共施設(二)電話、電燈、屠殺場及洗濯所ニ關スルモノノ如キ一切ノ公共企業ヲ含ムモノトス

支那共和國政府ハ前項ニ依リ同政府ニ移轉セラルヘキ公共

施設ノ經營及維持ニ付舊獨逸膠州租借地内ノ外國居留民團體ニ公正ナル代表權ヲ有セシムヘキコトヲ聲明ス

支那共和國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於ケル電話企業ヲ引受ケタル上ハ公衆ノ一般利益上當然要求セラルヘキ該企業ノ擴張及改良ニ關シ該地域内ノ外國居留民團體ノ爲ス請求ニ付相當ノ考査ヲ加フヘキコトヲ併セテ聲明ス

電燈、屠殺場及洗濯所ニ關スル公共企業ニ付テハ支那共和國政府ハ其ノ引受後之ヲ青島ニ於ケル支那市政機關ニ引渡スヘク該市政機關ハ更ニ市ノ規則及監督ノ下ニ右企業ノ經營運用ニ當ラシムル爲支那國法令ニ從ヒ商會社ヲ設立セシムヘシ

三 青島海關

支那共和國政府ハ支那海關總辦ニ對シ(一)舊獨逸膠州租借地ニ於ケル日本商人ニ對シ日本語ヲ用キテ青島稅關ト往復スルコトヲ許可スヘキコト(二)右稅關ニ必要ナル役員ヲ選擇スルニ當リテハ支那海關ノ現行任用規則ノ許ス限リ青島ニ於ケル商業上ノ諸般ノ必要ヲ考査スヘキコトヲ訓令スルコトヲ聲明ス

四 青島濟南府鐵道

本條約第十六條ニ規定スル鐵道共同委員會ニ於テ其ノ權限

顧維鈞
 王寵惠

内ニ在ル事項ニ關シ協定ヲ見ルニ至ラサルトキハ日本國政府及支那共和國政府ハ右係爭事項ヲ引取リ外交手段ニ依リ之ヲ商議調整スヘシ

右係爭事項ノ決定ニ當リ日本國政府及支那共和國政府ハ必要アルトキハ兩國政府協同シテ指名スル第三國(一國又ハ數國)ノ専門家ノ勸告ヲ求ムヘシ

五 芝罘濰縣鐵道

日本國政府ハ芝罘濰縣鐵道カ支那側資本ヲ以テ建設セラルル限リ同鐵道ニ對スル資本供給ノ選擇權ヲ國際財業團ノ共同事業ニ開放スヘキコトヲ要求セサルヘシ

六 舊獨逸膠州租借地ノ開放

支那共和國政府ハ支那國ニ於ケル地方自治制度ヲ定ムル法令ノ制定及其ノ一般適用ヲ見ルニ至ル迄ハ舊獨逸膠州租借地内ノ外國居留民ノ福祉及利益ニ直接ノ影響アルヘキ市政事項ニ付支那地方官憲カ該居留民ノ意見ヲ確ムヘキコトヲ聲明ス

加藤友三郎
 幣原喜重郎
 埴原正直
 施肇基

山東懸案解決ニ關スル
 條約ノ締結ニ付日本國
 及支那國委員カ一致シ
 タル議事錄記載ノ了解
 事項

大正十一年二月四日

第一 公有財産ノ移轉

一 日本國國民ハ支那國法令ノ規定ニ準據スルニ於テハ條約附屬書第二ノ第四項ニ揭クル公共企業ニ關シ設立セラレヘキ各商會社ノ社員又ハ株主ト爲ルコトヲ許サルヘシ

第二 日本國軍隊ノ撤退

二 條約第九條乃至第十一條ニ規定スル日本國軍隊ノ撤退後ハ如何ナル種類ノ日本國軍隊ト雖山東省内何レノ場所

ニモ残留セサルヘシ

第三 青島濟南府鐵道

三 日本國カ山東省内ニ建設シタル一切ノ輕便鐵道及之ニ附屬スル一切ノ財産ハ青島濟南府鐵道財産ノ一部ト認メラルヘシ

四 鐵道沿線ノ電信線モ亦鐵道財産ノ一部ト認メラルヘシ

五 支那國官憲ハ鐵道引受後該鐵道ニ勤務スル日本國籍ノ現在從業員ヲ存置シ又ハ解僱スルノ全權ト裁量トヲ有スヘシ右從業員ヲ更迭スルニ付テハ鐵道ノ移轉ノ日前ニ相當ナル豫告ヲ與フヘシ鐵道ノ移轉後直ニ行ハルヘキ從業員更迭ニ關スル細目ノ取極ハ條約第十六條ニ規定スル鐵道共同委員會之ヲ作成スヘシ

六 鐵道ノ日本人運輸主任及日本人會計主任ノ從屬職員ハ總テ支那管理局長之ヲ任命スルモノトス鐵道ノ移轉ノ日ヨリ二年半ノ後ハ支那國政府ハ支那人運輸副主任一名ヲ二年半ヲ期トシテ任命スルコトヲ得ヘク尙條約第十八條ニ依ル國庫證券償還ノ通告ヲ與ヘタル上ハ右ノ支那人運輸副主任ハ何時ニテモ之ヲ任命スルコトヲ得

七 支那國政府ハ前記ノ從屬職員ニ日本國臣民ヲ任命スルノ義務ヲ有セス

八 條約第十八條ニ依ル國庫證券ノ償還ハ支那側以外ノ出所ヨリ得タル資金ヲ以テ之ヲ實行セサルヘシ

九 支那國政府ハ鐵道ノ日本人運輸主任及日本人會計主任ノ選擇ヲ爲スニ付有用ナルヘキ報道ヲ日本國政府ニ求ムヘシ

十 鐵道ノ管理ニ當レル日本國官憲ノ爲シタル現存ノ契約又ハ承諾ニ關スル一切ノ問題ハ鐵道共同委員會之ヲ解決スヘシ鐵道ノ移轉ニ先テ右日本國官憲ハ鐵道ノ利益ニ害アリト認メラルヘキ何等ノ新ナル契約又ハ承諾ヲ爲ササルヘシ

十一 條約第二十三條ノ「合法ノ業務」ナル語ハ支那國法令ヲ以テ禁止シ又ハ支那國及諸外國間ノ條約上外國人ニ許ササル農業其ノ他ノ企業ヲ含ムモノト解釋スヘカラス尤モ右解釋ハ條約第二十五條ニ規定スル製鹽業ノ問題又ハ條約第二十四條ニ基キ決定セラルヘキ既得權ニ關スル如何ナル問題ニモ影響ヲ及ホササルモノトス

十二 舊獨逸膠州租借地外ニ在ル一切ノ日本國郵便局ハ青島濟南府鐵道ノ移轉力千九百二十三年一月一日前ニ行ハ

ル場合ニハ該移轉ト同時ニ且如何ナル場合ニ於テモ右期日ヲ超エサル間ニ撤廢セララルヘシ

十三 舊獨逸膠州租借地内ノ一切ノ日本國郵便局ハ右地域ノ行政ノ移轉ト同時ニ撤廢セララルヘシ

第十四 山東省内ノ不動産ノ返還ニ付又ハ山東省ニ於ケル支那國人民ノ身體及財産ノ損害ニ付支那國人民カ日本國官憲又ハ日本國臣民ニ對シ有スルコトアルヘキ請求ノ問題ニ關シ條約中ニ何等ノ規定ナキコトハ右請求ニ影響ヲ及ホササルモノトス

第十五 支那國官憲ハ前記請求ノ一覽表ヲ各請求ニ關シ入手シ得ル一切ノ證據ト共ニ日本國官憲ニ供給スヘシ

第十六 日本國政府ハ最近ノ戰爭中日本國ノ軍事行動ニ因リ直接生シタルコトアルヘキ如何ナル損害ニ付テモ責任ヲ行フヘシ

山東懸案細目協定

大正十一年二月四日即民國十一年二月四日華盛頓ニ於テ調印セラレタル山東懸案解決ニ關スル條約ニ基ク細目ヲ協定セムカ爲同條約第二條所定ノ共同委員會委員トシテ

日本國政府ハ

特命 全權 公使 小橋 西吉

青島守備軍民政長官 秋山 雅之介

大使 館 參 事 官 出 淵 勝 次

大 使 館 參 事 官 出 淵 勝 次

七九五

リト認メララルコトナシ

千九百二十二年二月四日華盛頓ニ於テ

加 幣 壇 施 願 王

原 原 藤

大正十一年十二月一日

山東懸案細目協定

支那國政府ハ

督辦魯案善後事宜 王正廷
外交部參事 唐在章
督辦魯案善後事宜公署參議 徐東藩
兩湖巡閱使署顧問 陳幹

ヲ任命セリ仍テ右兩國委員ハ北京ニ於テ會合シ左ノ條項ヲ協定ス

第一章 舊獨逸膠州租借地ノ還附

第一條 日本國ハ山東懸案解決ニ關スル條約第一條ノ規定ニ據リ舊獨逸膠州租借地ヲ支那國ニ還附スル爲大正十一年十二月十日即民國十一年十二月十日正午ヲ以テ一切ノ行政權ヲ引渡スヘシ從テ右引渡後行政上ノ一切ノ權力及責任ハ支那國政府ニ歸スルモノトス但シ條約約定價例等ニ依リ日本國領事官ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 山東懸案解決ニ關スル條約第三條及第四條所定ノ行政及公有財產(埠頭港灣ヲ含ム)ノ移轉並右移轉ニ必要ナル文書引渡ニ關シテハ其ノ細目ノ協定及實施ノ權限ヲ有スル日支兩國引繼委員ヲシテ之ニ當ラシムヘシ
第三條 前條ニ定ムル日支兩國委員ハ支那國ニ行政權ヲ移轉シタル日ヨリ一月内ニ引繼事務ヲ完了スヘシ

第四條 支那國政府ハ青島ニ於ケル日本裁判所ノ爲シタル民事及刑事訴訟事件ノ裁判並訴訟行爲、不動產證明、公證、拒絕證書作成及私署證書確定日附ノ效力ヲ承認ス

第二章 日本國軍隊ノ撤退
第五條 青島ニ於ケル日本國軍隊(憲兵ヲ含ム)ハ本協定第一條所定ノ日ヨリ二十日以内ニ撤退ヲ完了スヘシ

第三章 土地

第六條 支那國政府ハ山東懸案解決ニ關スル條約ノ批准交換前日本官憲ノ貸下ヲ許可セル土地ニシテ許可條件中ニ定ムル期限内ニ築造又ハ工作ニ着手セラレサルモノハ前二項ノ例ニ據ラサルモノトス
前記條約ノ批准交換後日本國官憲ノ爲セル貸下ノ許可ハ總テ之ヲ取消ス但シ支那國政府ハ大正十一年十二月十日以前ニ築造又ハ工作ニ着手シタルモノニ限リ膠澳商埠地ニ據ル

ノ土地ニ關スル規則ニ據リ引續キ貸下ヲ許可スルニ付特ニ優先的考慮ヲ與フヘシ

第四章 公有財產

第七條 山東懸案解決ニ關スル條約第七條ニ據リ協定ノ結果日本國政府ニ於テ保有スヘキ財產左ノ如シ

甲、日本國總領事館ノ爲必要ナルモノ

- 一、舞鶴町二七號 土地建物一切(附圖青第一號)
- 二、舞鶴町二八號及佐賀町二六號 土地建物一切(附圖青第二號)
- 三、佐賀町二四號及久留米町三四號 土地建物一切(附圖青第三號)
- 四、萬年町二〇號及同二二號 土地建物一切(附圖青第四號)
- 五、濱松町一五號、同一七號及同一八號 土地建物一切(附圖青第五號)
- 六、馬關町一七號及同一八號 土地建物一切(附圖青第七號)
- 七、佐賀町一一號 土地建物一切(附圖青第八號)
- 八、霞ヶ關通北方高地(壹萬五千坪) 土地建物一切(附圖青第九號)

乙、日本人居留民團體ノ爲必要ナルモノ

- 一、壽岡町一〇號 日本人會 土地建物一切(附圖青第一〇號)
- 二、葉櫻町二二號 化學試驗所 土地建物一切(附圖青第一一號)
- 三、萬年町一五號 青島病院 土地建物一切(附圖青第一二號)
- 四、有明町 中學校 土地建物一切(附圖青第一三號)
- 五、三笠町 高等女學校 土地建物一切(附圖青第一四號)
- 六、花咲町 第一小學校 土地建物一切(附圖青第一五號)
- 七、若鶴山 青島神社 土地建物一切(附圖青第一六號)
- 八、旭山 忠魂碑 土地建物一切(附圖青第一七號)
- 九、膠州町 青島齋場 土地建物一切(附圖青第一八號)
- 一〇、巽町 火葬場 土地建物一切(附圖青第一九號)
- 一一、旭山 墓地 土地建物一切(附圖青第二〇號)
- 前二項ノ保留財產土地ハ附圖ノ境界ヲ以テ限トス

第八條 前條ニ定ムルモノヲ除キ舊獨逸膠州租借地内ニ於ケル一切ノ公有財産ハ之ヲ支那國政府ニ引渡スモノトス

第九條 膠濟鐵道沿線ニ於ケル公有財産ニシテ「山東鐵道沿線撤兵ニ關スル協定」ニ依リ日本國政府ニ於テ保有又ハ使用スヘキ財産ノ處理ニ關シテハ開埠地決定ノ際別ニ日支兩國政府ノ間ニ之ヲ協定スヘシ

第五章 電信電話

第十條 日本國政府ハ青島佐世保間海底電線ノ一半ヲ無償ニテ支那國政府ニ讓渡シ該線ノ佐世保端ハ日本國政府ニ於テ運用シ青島端ハ支那國政府ニ於テ之ヲ運用ス

第十一條 前條海底電線ノ處理ニ關スル事項ハ日支兩國政府ニ於テ別ニ之ヲ協定スヘシ

第十二條 支那國政府ハ現在外國會社ノ有スル電信ニ關スル特許獨占權ノ期限滿了後自發的ニ之ヲ回收スルコトヲ準備シ且外國政府又ハ一切ノ會社若ハ私人ニ電信ニ關スル獨占權ヲ新ニ認許セサルヘキコトヲ聲明ス

第十三條 支那國政府ハ青島及濟南無線電信局ノ引渡ヲ受ケタル時ヨリ左ノ區間ニ於テ一般公衆電報ノ取扱ヲ爲スヘシ

イ、青島無線電信局ト海上船舶トノ間

ロ、青島無線電信局ト濟南無線電信局（同局存在ノ時ヲ以テ限トス）トノ間

第十四條 支那國政府ハ左記各電信局ニ於テ引續キ日本文字電報ノ取扱ヲ爲スヘシ

- 一、青島海底電信局
- 二、青島無線電信局
- 三、青島、四方及滄口各電信局

前項所定ノ四方及滄口各電信局ニ於テ日本文字電報ヲ取扱フ場合ニハ別ニ手数料ヲ徵收ス但シ其ノ手数料金額ニ付テハ別ニ日支兩國主務官廳ノ間ニ之ヲ協定スヘシ

第十五條 支那國政府ハ膠濟鐵道（支線ヲ含ム）ノ引渡ヲ受ケタル時ヨリ該鐵道沿線ノ主要驛ニ於ケル電信取扱所ヲ公開シテ公衆電報ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十六條 支那國政府ハ青島濟南間軍用電話施設ノ引渡ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ公開シ且使用者ニ對シテ相當ノ便利ヲ許與スヘシ

第六章 製鹽業

第十七條 日本國政府及支那國政府ハ山東懸案解決ニ關スル條約第二十五條ニ據リ日本國ニ對シ膠州灣沿岸ニ於ケル產鹽輸出ノ條件ヲ協定スルコト左ノ如シ

一、日本國ハ大正十二年ヨリ向フ十五年間年額最高三位

五千萬斤最低一億斤ノ範圍内ニ於テ青島鹽ヲ購買ス

但シ右期間滿了後ハ更ニ協議スヘシ

二、支那國政府ハ日本國ノ購買スヘキ青島鹽ニ對シ大正

十年一月日本國政府所定ノ鹽質檢定規則ニ依ル品質

（色合ヲ含ム）ノ檢定ヲ施行スヘシ

但シ將來變更ノ必要アルトキハ更ニ協定スヘシ

三、鹽受渡地點ハ門司其ノ他日本主務官廳ノ指示スル地

點ノ倉庫トス

但シ門司以外ノ地點ニ輸入スルモノニ付テハ他ノ輸入

鹽ニ於ケルト同様ノ運賃差額（其ノ輸入地點ト門司迄

トノ）ヲ支拂フモノトス

四、日本國ノ青島鹽購買ニ關スル其ノ他ノ事項ハ日支兩

國主務官廳ヲシテ之ヲ協定セシム

第七章 公有財産補償金及製鹽業補償金

第十八條 支那國政府ハ山東懸案解決ニ關スル條約第六條

ニ據ル公有財産ノ引渡ニ對スル補償及同條約第二十五條

ニ據ル膠州灣沿岸ニ於テ現ニ製鹽業ニ從事スル日本臣民

又ハ會社ノ利益買収ニ對スル補償トシテ日本金壹千六百

萬圓ヲ日本國政府ニ支拂フヘシ

前項金額中日本金貳百萬圓ハ公有財産及製鹽業引渡後一

月内ニ現金ヲ以テ支拂ハルモノトス

第十九條 公有財産及製鹽業ノ引渡完了ト同時ニ支那國政

府ハ日本金壹千四百萬圓支拂フ爲國庫證券ヲ日本國政府

ニ交付スヘシ

第二十條 前條ノ國庫證券ノ條件左ノ如シ

一、本國庫證券ノ券面總額ヲ日本金壹千四百萬圓トス

二、本國庫證券ノ利率ハ年六分トス

三、本國庫證券ノ償還期限ハ十五年トシ最初ノ一年間据

置、第二年ヨリ毎年二回五十萬圓宛利息支拂期日ニ

於テ償還スルモノトス但シ何時ニテモ三月ノ豫告ヲ以

テ本國庫證券ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得

四、本國庫證券ノ擔保ハ關稅剩餘金及鹽稅剩餘金ヲ以テ

之ニ充ツル外支那國政府ハ他ノ確實ナル擔保物ヲ考慮

選定シ成ルヘク速ニ駐支日本公使ト協定スヘシ

支那國政府ハ將來支那外債整理ノ場合ニ於テハ本國庫

證券ヲ第一次ノ擔保ニ於テ該整理案中ニ含マシムヘシ

五、前條所定ノ擔保ヲ以テ本國庫證券ノ元利支拂ニ充當

シ尙不足ナル場合ニハ支那國政府ハ他ノ財源ヲ其ノ支

拂ニ充ツルコトヲ約ス

- 六、本國庫證券ノ利息ハ證券交付ノ日ヨリ起算シテ半年毎ニ支拂フモノトス
- 七、元利金支拂地ハ日本東京トシ横濱正金銀行ヲ指定シテ元利支拂ノ事務ヲ取扱ハシム但シ日本國政府力其ノ都合ニ依リ元利金支拂地又ハ取扱銀行ヲ變更セムトスルトキハ支那國政府ト協議スヘシ
- 八、支那國政府ハ本國庫證券及利札並本國庫證券元利金ノ受拂ニ關シテハ一切ノ公課ヲ免除ス
- 九、本國庫證券交付後ニ於テハ日本國政府ハ其ノ都合ニ依リ自由ニ全部又ハ一部ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得
- 十、本國庫證券ハ青島公有財産及製鹽業補償日金國庫證券ト稱ス
- 十一、本國庫證券ハ半年拂利札附トシ記號、番號、交付年月日、支那國政府代表者ノ署名捺印、金額、利率、償還期限、擔保、支那國政府支拂ノ保證、元利金支拂方法、取扱銀行等證券所有者ノ權利行使ニ必要ナル條項ヲ掲記スルモノトス
- 十二、本國庫證券ノ種類ハ拾萬圓券及五十萬圓券ノ二種トシ所要ノ枚數ヲ作成スルモノトス
- 十三、本國庫證券作成ノ費用ハ支那國政府ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス
- 第十四、本國庫證券ハ現ニ青島ニ行ヘルル保稅區域制

擔スルモノトス

第十三、本國庫證券ノ本證券作成迄ハ支那國政府ハ假證券ヲ作成交付スルコトヲ要ス

第八章 鐵 山

第二十一條 日本國政府及支那國政府ハ山東懸案解決ニ關スル條約第二十二條ニ規定スル會社ヲ設立スル爲日支兩國ノ各資本團ノ選出スル各創立委員ヲシテ會社設立ノ事務ニ當ラシムヘシ

第二十二條 支那國政府ノ特許ニ依リ會社設立セラレタルトキハ日本國政府ハ淄川、坊子及金嶺鎮ノ鐵山及其ノ附屬財産ヲ同會社ニ引渡スヘシ

第二十三條 前條ノ會社ハ日支兩國人ノ合辦會社トシ其ノ資本ハ日支兩國人ニ於テ各其ノ半額ヲ引受タルモノトス

第二十四條 前條會社ノ日本國政府ニ對スル補償額ハ金五百萬圓トス

第二十五條 前條補償金ノ支拂ニ關スル細目ハ會社成立後日本國政府ト會社トノ間ニ之ヲ協定スヘシ

第九章 青島海關

第二十六條 支那國政府ハ現ニ青島ニ行ヘルル保稅區域制

度ヲ持續スヘシ

第二十七條 支那國政府ハ千九百五年青島海關改正協定第三條(ハ)ノ規定ニ包含セラルル一切ノ貨物ニシテ千九百二十二年二月四日以前ニ善意ニ契約セラレタルモノニ付右期日以後四年内ニ輸入セララルル場合ニ限り之カ輸入稅ヲ免除スヘシ

山東懸案細目協定附屬書

第一 日本軍隊等ノ撤退引揚

支那國政府ハ青島ニ於ケル日本國軍隊並青島及膠濟鐵道沿線ニ於ケル日本國官憲ノ撤退歸還以前其ノ滞在撤退歸還ニ對シ必要ノ便宜及特典ヲ與フヘシ

第二 既得權利

外國人ノ既得權利ニ關シテハ山東懸案解決ニ關スル條約、附屬書並了解事項ニ選擇シ青島支那地方官憲ト日本國領事官トノ間ニ適當ナル調整ヲ行フヘシ

第三 土地

支那國政府ハ本協定第六條第四項但書ノ貸下土地ニ就テハ成規ノ手續ヲ了スルニ至ル迄現狀ヲ維持スルコトヲ認許ス

第四 農 場

秋山雅之介	唐 在 章
徐 東 藩	
陳 幹	
出淵勝次	

本協定ハ日本文及支那文ヲ以テ各二通ヲ作成シ兩國委員之ニ署名調印ノ上雙方日支兩文各一通ヲ保存シテ之カ證據トス

大正十一年十二月一日

中華民國十一年十二月一日

小幡 西吉 王 正 廷

山東懸案細目協定

支那國政府ハ公正ナル補償ヲ支拂ヒテ舊獨逸膠州租借地ニ於ケル日本人經營ノ國武農場其ノ他ノ大農場ヲ買收スルコトヲ得ヘシ

前項買收ニ關スル細目ハ膠澳商埠局ト日本國領事官トノ間ニ之ヲ協定スヘシ

第五 公有財産

一、日本國政府ハ本協定第七條ノ定ムル所ニ據リ旭山ニ於テ壹萬四拾坪ノ墓地(附圖青第二〇號)ヲ保有スルニ由リ從來ノ墓地ハ之ヲ支那國政府ニ引渡スヘキコトヲ聲明ス
二、青島神社及忠魂碑ノ用地ニ就テハ附圖ノ通其ノ境界ヲ定ムルモ支那國政府ハ現在ノ鐵線橋内ノ森林ヲ保存シ解除セサルヘク且右森林地帯ハ祭典其ノ他ノ爲必要アル場合ニハ自由ニ之カ使用ヲ認許スルコトヲ聲明ス

三、支那國政府ハ青島測候所接受後左ノ方針ニ依リ之ヲ經營スヘキコトヲ聲明ス

(イ)當分ノ内日本從事員ハ支那國政府ヨリ報酬ヲ受クルコトナク該支那測候所ノ經營維持ノ爲從來ノ通勤務ス該測候所ノ報告ヲ日本測候所ト交換スル電報ニ付支那國政府ハ出來得ル限り便宜ヲ供與ス
(ロ)將來支那測候所ノ從事員完成ノ上從來ノ從事員ト交

青島新報社ノ宿舍(舞鶴町)ニ關シテハ本協定副印後一年ヲ限リ現貨下ヲ繼續ス

八、李村農事試驗場、舊獨逸膠州租借地内各公學堂、臺西鐵道病院ハ當然之ヲ維持經營シ且擴張ス

九、旭町練兵場及湛山射的場ハ膠澳商埠局ニ於テ維持經營シ内外人ヲシテ商埠局公產管理規則ニ依リ使用スルヲ得シム

十、水先案内業事務所(青島棧橋際膠路町)ハ膠澳商埠局ニ於テ當然維持經營ス

以上各項ノ中膠澳商埠局ノ自ラ經營スルモノヲ除キ其ノ組織及規約ハ商埠局ノ認可ヲ經ヘク且商埠局ノ一般規則ヲ遵守スヘシ

第六 發電所、屠獸場及洗濯所

支那國政府ハ電燈事業(附帶事業トシテ電力供給ヲ爲ス)屠獸場及洗濯所ヲ經營スヘキ會社ノ組織ニ關シテ支那國ノ特許會社トシテ支那及外國人(日本人ヲ含ム)ノ合同資本ニ依リ經營シ且出資額ニ應シ日本人社員(重役ヲ含ム)ヲ入ルルコトヲ承認ス

前項會社ノ組織ニ當リ洗濯所ニ就テハ現ニ貸下經營中ノ日本人ノ契約ヲ考慮スヘシ

代スル場合ニハ日本測候所トノ報告連絡ニ關シ更ニ辦法ヲ協定ス

四、支那國政府ハ本協定第八條ニ據リ引渡ヲ受ケタル左記財産ニ關シ左ノ通聲明ス

一、旭兵營ノ土地及附屬建物ヲ商科大學用ノ爲無償租借ヲ許ス

二、青島學院ニ對シ貸下中ノ土地建物ハ引續キ無償租借ヲ許ス

三、海事協會ニ對シ貸下中ノ土地ハ引續キ無償租借ヲ許ス

四、青島市場、小港町共同荷揚場、調馬所(舞鶴町)、裝蹄場(佐賀町)、競馬場並同建物ニ關シテハ膠澳商埠局ニ於テ公平ニ辦理スヘシ

五、國際俱樂部(靜岡町一號)、「ゴルフ」俱樂部(旭町練兵場内)及「テニス」俱樂部(旅順町)ノ用地及家屋ハ膠澳商埠局ノ監督ノ下ニ無償經營セシム

六、各宗教慈善團體ニ貸下中ノ土地ニ關シテハ特ニ貸下料金ヲ輕減スヘシ

七、青島新報社(靜岡町)、濟南日報社(靜岡町)ニ貸下中ノ土地建物ニ關シテハ相當便利ヲ供與ス

第七 電話

一、支那國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於ケル電話企業ヲ引受ケタル後六箇月間當該電話局ニ日本語ニ通曉スル交換手ヲ採用シテ同語ヲ用フル電話使用者ノ應接ニ當ラシムヘシ
二、支那國政府ハ上記ノ電話企業ヲ引受ケタル後當該電話局ニ命シテ電話呼出上ノ一般用語ヲ編成シ以テ使用者ノ便利ヲ圖ラシムヘシ

第八 製鹽業

一、青島鹽輸出ニ關スル本協定第十七條ノ一記載ノ購買數量ニ關シテハ日支兩國内ニ於ケル鹽ノ需要又ハ生産狀況ニ依リ右最低又ハ最高數量ノ受渡困難ナル事情アル場合ニ於テハ以上ノ協定數量ニ拘ラス其ノ當年ノ購買數量ハ之ヲ臨機協定スルモノトス

二、日本專賣局ノ購買スヘキ青島鹽ハ當該專賣局ノ必要トスル品質ニ限ル

但シ日本專賣局ノ必要トセサル粗鹽鹽ヲ輸入シタル場合ニ於ケル價格ノ低減其ノ他ノ辦法ニ關シテハ日支兩國主務官廳ヲシテ協定セシム

三、購買價格及工業用自己輸入鹽ニ關シテハ日支兩國主務官廳ヲシテ協定セシム

- 四、輸出取扱人ノ選出ハ支那主務官廳指定ノ上日本主務官廳トノ間ニ之ヲ協定ス
- 五、支那國政府ハ青島鹽ノ朝鮮ニ對スル自由輸出ヲ許可ス
- 六、青島鹽業引繼ノ際鹽業者ニ於テ現ニ所有又ハ所持スル營業殘品タル原鹽及加工鹽並既存ノ契約鹽ニ關シテハ大正十二年三月三十一日迄ハ現在ト同様ノ條件ヲ以テ任意ニ輸出スルコトヲ得

第九 鐵 山

- 一、會社ノ株式ハ日支各自國人ニ限リ讓渡シ得ルモノトス
- 株式ヲ擔保ニ供スル場合亦同シ
- 二、會社ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 理事 九名
 - 監事 二名
- 理事ハ日本人四名、支那人五名、監事ハ日支人各一名トシ日支兩國株主中ヨリ之ヲ選任ス
- 重役會ノ組織ハ日支兩國資本團代表者ヲシテ之ヲ協定セシム
- 三、會社ハ山東鐵道ノ當事者二名乃至三名ヲ會社ノ相談役トナスコトヲ得
- 四、會社ノ資本、株式、總會其ノ他ニ關スル事項ハ會社定

款ノ定ムル所ニ依ル

- 五、會社ノ日本國政府ニ對スル補償金五百萬圓ハ無利息トシ會社ニ於テ八分以上ノ配當ヲ爲ス場合ニ於テ右超過純利益ノ半額ト同額ノ金員ヲ日本國政府ニ支拂フヘキモノトス
- 六、會社ハ鐵區稅、鐵產稅、海關稅其ノ他一切ノ賦課ニ付支那ニ於テ最低率及最優良ノ待遇ヲ受クル他ノ鐵山經營者ト均等ノ待遇ヲ受クルモノトス
- 七、支那國政府ハ會社ノ石炭又ハ鐵石ノ輸送ノ爲特別運賃、車輛ノ分配、石炭鐵石ノ貯藏場ノ設置、線路ノ擴張等ニ關シ他地方ノ各鐵山會社カ受クルト同等ノ優遇ヲ與ヘシメ其ノ詳細ハ鐵山會社ト膠濟鐵道トノ間ニ協定セシム
- 八、膠濟鐵道所要ノ石炭ハ會社ニ於テ約實費ヲ以テ之ヲ供給ス
- 九、支那國政府ハ將來青島埠頭ニ山東各鐵山專用埠頭ノ建設ヲ許諾スヘキコトヲ保障ス
- 右建設地點其ノ他ノ細目ニ關シテハ臨膠膠濟商埠局ト會社トノ間ニ協定セシム
- 十、前各項ニ掲グルモノノ外鐵道及埠頭トノ連絡ニ付テハ會社ハ支那ニ於ケル他ノ鐵山會社ノ受クル最優ノ取扱ヲ

受クルモノトス

- 十一、坊子及淄川ニ於ケル請負契約ニ付テハ現狀ノ儘之ヲ會社ニ引繼キ將來會社ト當該契約者トノ間ニ協定セシム
- 十二、舊鐵山會社所屬ノ財產ニシテ他ノ部局ノ使用ヲ許シタルモノノ處分ニ付テハ會社ト其ノ各部局トヲシテ協議セシムヘシ
- 十三、會社存立期間ヲ定ムルトキハ其ノ期間滿了ノ際會社ヲ存續セシムル場合ニ於テモ前記各項約定ハ依然其ノ適用アルモノトス

第十 青島海關

- 一、支那國政府ハ本協定第二十六條所定ノ保稅區域ニ於テハ本協定調印ノ際現ニ青島海關ニ於テ各種貨物ニ對シ與ヘラルル特典待遇ヲ引續キ許可スルモノナルコトヲ聲明ス
- 二、支那國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於ケル日本商人ニ對シ日本語ヲ用ヒテ青島稅關ト往復スルコトヲ認許ス
- 三、支那國政府ハ總稅務司ヲシテ青島稅關ニ必要ナル役員ヲ選擇スルニ當リ支那海關ノ現行任用規則ノ許ス限リ青島ニ於ケル商業上ノ諸般ノ必要ヲ考量セシメ且現在職員

ノ異動ハ出來得ル限り最少限度ニ止メシムヘシ

- 四、青島ニ於ケル舊海關財產ハ青島ニ於ケル公有財產ノ問題ヨリ分離シ總稅務司及在青島日本官憲ヲシテ之ヲ決定セシム

大正十一年十二月一日

中華民國十一年十二月一日

小橋	西吉	王	正廷
秋山	雅之介	唐	在章
出淵	勝次	陳	東藩
		陳	幹

山東懸案細目協定了解事項

第一 司法事項

山東懸案細目協定第四條ノ規定ハ山東懸案解決ニ關スル條約第二十四條及本協定附屬書第二項ニ抵觸セサル場合ニ限

第二 土地

一、日本國政府ハ將來膠澳商埠地ノ土地ニ關スル規則ハ通商航海條約及支那ノ他ノ商埠地ニ於ケル慣例ニ據リ享有

山東懸案細目協定

スル外國人ノ權利及利益ヲ害セサル限り之ヲ尊重スヘキコトヲ聲明ス

二、將來支那國ニ於ケル他ノ租借地還附ノ上開埠セララル場合ニ右開埠地ニ於テ外國人カ土地ニ關シ享有スルコトアルヘキ權利及利益ハ膠澳商埠地ニ於テモ同様之ヲ享有ス

第三 公有財產

一、支那國ニ引渡スヘキ公有財產ニ附屬スル備品、什器及貯藏品ノ處理並補償(獨逸遺留品ヲ除ク)ニ關シテハ本協定第二條所定ノ日支兩國委員ニ於テ之ヲ協定ス

二、支那國政府ハ現ニ日本國官廳ニ於テ施工中ノ青島ニ於ケル第一埠頭擴張工事ヲ豫定計畫ニ從ヒテ遂行完成スヘキコトヲ聲明ス

三、日本國政府ハ淺深船、小蒸汽船其ノ他ノ船舶(左記ノ通)ヲ支那國政府ニ讓渡スルコトヲ承諾ス但シ即墨丸ハ支那當局ニ於テ同船ヲ引續キ水先案内ノ無償使用ニ供スルコトヲ聲明ス

1. 汽 船

即墨丸	青島丸	三水丸	嶗山丸	若鶴丸	黃島丸	千代丸	浮山丸	山東丸	九水丸	相生丸	孤山丸	一水丸	二水丸	殺鼠丸	團平丸	小型傳馬丸	戎克丸	其他雜船
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻	隻

港灣事務所所屬

三十五噸起重機船	一	隻
ブリストマン式	一	隻
淺深船公號	一	隻
同太公號	一	隻
尼場船	二	隻
來多船	三	隻
傳馬船	五	隻
戎克船	三	隻
端艇	九	隻
小型運貨船	一	隻
泥受船	一	隻
二十二噸起重機船	一	隻
雜船	四	隻
發動機艇	一	隻

埠頭事務所所屬

四、支那國政府ハ公有財產補償額償還完了ニ至ル迄青島ニ於ケル埠頭(倉庫ヲ含ム)ヲ外債ノ擔保ト爲ササルコトヲ聲明ス若シ該埠頭ヲ外債ノ擔保ト爲ス場合ニハ先ツ日本ニ協議スヘキコトヲ約ス

五、支那國政府ハ舊獨逸膠州租借地ニ於ケル日本ノ各學校教員宿舍ノ爲家屋ノ讓渡又ハ貸下ニ關シ將來特別廉價ノ

山東懸案細目協定

條件ヲ以テ速ニ之ヲ實行スヘキコトヲ聲明ス

六、日支兩國政府ハ日支關係當事者間ノ青島發電所經營新會社設立ノ交渉並其ノ組織ニ付四方發電所設立關係者ノ參加ニ依リ四方發電所問題ニ關スル日支間ノ異論ハ事實上解決セラレタルモノト認ム

七、膠濟鐵道沿線ニ於ケル公有財產ニシテ日本國政府ニ於テ保有スヘキコトニ決定セル財產ハ左記(イ)及(ロ)トス

左記(ハ)乃至(ヌ)ノ財產ハ沿線ニ於ケル開埠地決定ノ際本協定第九條ニ據リ之カ保有又ハ補償方ニ關シ日支兩國政府間ニ商議スヘキモノトス

(イ) 濟南守備隊官舍	九	所
(ロ) 濟南憲兵分隊長官舍	一	所
(ハ) 坊子將校集會所及同附屬家屋	二	所
(ニ) 坊子憲兵分隊下士及上等兵會	五	所
(ホ) 濰縣憲兵分隊所廳舍及官舍	二	所
(ヘ) 張店憲兵分隊廳舍及官舍	三	所
(ト) 淄川炭坑憲兵派出所廳舍及官舍	三	所
(チ) 博山憲兵分隊所廳舍及官舍	二	所
(リ) 博山分遣隊兵舍	一	所
(ヌ) 周村憲兵派出所廳舍及官舍	一	所

本協定第十八條ニ規定スル支那國政府カ日本國政府ニ對シ支拂フヘキ公有財産ノ補償額ハ前記(イ)乃至(ヌ)ノ財産ノ價額ヲ包含セサルモノトス

八、前項ニ掲ケタル財産ハ本協定第九條ニ定ムル日支兩國政府ノ商議ニ依リ其ノ處理確定スル迄引續キ日本國政府ニ於テ之ヲ保管スヘシ

九、膠濟鐵道沿線ニ於テ日本國政府ノ建設セル數箇所ノ小學校及病院ニ就テハ開埠地決定ノ際之カ使用方ニ付日支兩國政府ノ間ニ商議スヘシ

第四 電信及電話

一、本協定第十二條所掲ノ獨占權回收ニ至ル迄日支兩國政府ハ左記各項ヲ大體ノ議案トシテ遅クトモ六月内ニ青島佐世保線ノ運用ノ辦法ヲ協定ス

(一)前記海底電線ノ青島端ノ運用ハ支那國政府ニ於テ暫時之ヲ日本ニ委託シ代辦セシム

(二)前項事務ヲ代辦スル電報局(以下單ニ電報局ト稱ス)ハ直接公衆電報ヲ受付配達セス此ノ種ノ事務ハ一切支那青島電信局ノ辦理ニ歸ス

(三)電報局所要ノ土地家屋(局員宿舍ヲ含ム)、機器、

線、材料等ノ物及該電報局ヨリ青島佐世保間海底電線陸揚地點ニ至ル接續線ハ支那國ヨリ供給ス電報局並接續線ノ經常費ハ何レモ支那國ヨリ支給ス

(四)電報局職員ノ人數及俸給ハ日支兩國間ニ協定シ其ノ主任及技師ハ日本ヨリ任命シ會計係ハ支那國ヨリ任命ス其ノ技師ハ多數支那人ヲ用フヘシ

(五)日支兩國政府ハ各自所有ノ前記海底電線ノ一半ノ維持保全ヲ擔任ス

(六)前記海底電線ヲ經由シテ支那各地ト日本各地ト往復スル國際通用文字ノ通常電報ハ其ノ海底線費每語五十「サンチム」トシ日支兩國各其ノ一半ヲ取得シ其ノ他各種ノ電報料ハ別ニ之ヲ定ム

二、前項日支兩國間ノ青島佐世保海底電線協定成立ニ至ル迄ハ暫ク日本國ハ代リテ本海底線ヲ保有及運用シ之カ現狀ヲ維持スヘシ

三、青島無線電信局ト大連灣無線電信局ト間ノ通信連絡ニ關シテハ日支兩國主務官廳ノ間ニ之ヲ協定スヘシ

四、日本國政府及支那國政府ハ大正六年三月二十六日所訂ノ現ニ日本國ノ管理ニ屬スル膠州灣租借地及山東鐵道ニ於ケル日支兩國郵便電信事務處理ニ關スル辦法並大正七

年十月十日所訂ノ前記辦法ノ細則及同附帶文書ヲ膠濟鐵道(支線ヲ含ム)カ支那國政府ニ引渡サル日ヲ以テ廢棄スヘキコトヲ約ス

大正十一年十二月一日
中華民國十一年十二月一日

小幡	西吉	王	正	廷
秋山	雅之介	唐	在	章
徐	東	藩		
陳		幹		
出淵	勝次			

山東懸案鐵道細目協定

大正十一年十二月五日

大正十一年二月四日即民國十一年二月四日華盛頓ニ於テ調印セラレタル山東懸案解決ニ關スル條約ニ基ク鐵道引渡補償ノ細目ヲ協定セムカ爲同條約所定ノ鐵道共同委員會委員トシテ

日本國政府ハ

特命全權公使 小幡 西吉

山東懸案鐵道細目協定

青島守備軍民政長官 秋山雅之介
鐵道技師 大村卓一
支那國政府ハ
督辦魯案善後事宜 王 正 廷
交通部長 勞 之 常
交通參事 陸 夢 熊
交通部技監 顏 德 慶
ヲ任命セリ仍テ右兩國委員ハ北京ニ於テ會合シ左ノ條項ヲ協定ス

第一章 膠濟鐵道ノ引渡

第一條 日本國ハ山東懸案解決ニ關スル條約第十四條ノ規定ニ據リ膠濟鐵道及其ノ支線並一切ノ附屬財産ヲ大正十二年一月一日即民國十二年一月一日正午ヲ以テ支那國ニ引渡スヘシ

第二條 前條ノ鐵道財産引渡ハ日支兩國引繼委員ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

前項ノ委員ハ鐵道引渡ノ日ヨリ一月内ニ引繼事務ヲ完了スヘシ

第三條 前條第二項ニ定ムル期間内ニ鐵道所屬ノ一切ノ文書、記錄、登錄簿、圖面、證書等ヲ引渡スヘシ

山東懸案鐵道細目協定

第二章 膠濟鐵道補償金

第四條 山東懸案解決ニ關スル條約第十五條ニ據リ支那國政府ノ日本國政府ニ對シ償却スヘキ鐵道財產ノ價格ヲ日本金四千萬元トス

第五條 前條ノ金額ハ國庫證券ヲ以テ之ヲ日本國政府ニ交付スヘシ右國庫證券ノ券面總額ヲ前條ノ金額ト同額トス

第六條 本國庫證券ハ膠濟鐵道國庫證券ト稱ス

第七條 本國庫證券ノ種類ハ拾萬元券及百萬元券ノ二種トシ所要ノ枚數ヲ作成スルモノトス

第八條 本國庫證券ノ利率ハ年六分トス

第九條 本國庫證券ノ擔保ハ膠濟鐵道ニ屬スル財產及收入トス

前項ノ擔保ハ之ヲ内債又ハ他ノ外債ノ擔保ニ供スルコトヲ得サルモノトス但シ支那國政府カ本國庫證券償還ノ爲内債ヲ募集セムトスル場合ニ於テ日支兩國政府ノ間ニ豫メ協定ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 本鐵道ノ收入ヲ以テ本國庫證券ノ元利金支拂ニ充當シ尙不足ナル場合ニハ支那國政府ハ他ノ財源ヲ以テ其ノ支拂ニ充ツルコトヲ約ス

第十一條 本國庫證券ノ利息ハ證券交付ノ日ヨリ起算シテ

本鐵道ノ銀行預金引出ニ關シテハ日支兩國會計主任ノ署名ヲ要スルモノトス

第十六條 本國庫證券ハ半年拂利札附トシ記號、番號、交付年月日、支那國政府代表者ノ署名捺印、金額、利率、償還期限、擔保、支那國政府ノ支拂保證、元利金支拂方法、取扱銀行等證券所有者ノ權利行使ニ必要ナル條項ヲ掲記スルモノトス

第十七條 本國庫證券作成費用ハ支那國政府ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

第十八條 本國庫證券ノ本證券作成迄ハ支那國政府ハ假設券ヲ作成交付スルコトヲ要ス

本協定ハ日本文及支那文ヲ以テ各二通ヲ作成シ兩國委員之ニ署名調印ノ上雙方日支兩文各一通ヲ保存シテ之カ證據トス

大正十一年十二月五日

中華民國十一年十二月五日

小幡 西 吉

王 正 廷

秋山 雅之介

勞 之 常

大村 卓一

顏 德 慶

山東懸案鐵道細目協定

半年毎ニ支拂フモノトス

第十二條 支那國政府ハ本國庫證券及利札並本國庫證券元利金受拂ニ關シテハ一切ノ公課ヲ免除ス

第十三條 本國庫證券交付後ニ於テハ日本國政府ハ其ノ都合ニ依リ自由ニ全部又ハ一部ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得

第十四條 元利金支拂地ハ日本東京トシ橫濱正金銀行ヲ指定シテ元利支拂ノ事務ヲ取扱ハシム但シ日本國政府ノ都合ニ依リ元利金支拂地(日支兩國ニ限ル)又ハ取扱銀行ヲ變更セムトスルトキハ支那國政府ト協議スヘシ

元利金支拂事務取扱銀行ニ對スル送金方法ニ關シテハ元金ヲ送金スル場合ハ支那國政府ハ自由ニ銀行ヲ選定シテ爲替ヲ取組ミ利息ヲ送金スル場合ハ橫濱正金銀行青島支店又ハ濟南支店ヲ經由スルヲ原則トスルモ若シ他銀行ノ爲替料ニシテ低廉ナル場合ニハ他ノ銀行ニテ爲替ヲ取組ムコトヲ得

第十五條 本國庫證券元利金完済前ニ於テハ本鐵道ノ收入ハ之ヲ橫濱正金銀行青島支店又ハ濟南支店ニ預入スヘシ但シ本鐵道收入中ヨリ毎月割ノ利息ニ相當スル額ヲ毎月該銀行ニ積立ツルトキハ自餘ノ收入ハ之ヲ本鐵道管理局長ノ選定ニ依リ他ノ確實ナル銀行ニ預入スルヲ妨ケス

山東懸案鐵道細目協定了解事項

一 本協定第一條ニ據リ引渡サルヘキ鐵道財產ハ現ニ鐵道部所屬ノ財產(即民政部、逕信部、陸軍部其ノ他ヨリ移管シタル土地、乘遺物、建物等)一切ヲ包含ス但シ既ニ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 大正十二年三月中ニ引渡サルヘキ川崎造船所製造ノ機關車代價ハ鐵道補償金ニ包括スルモノトス

三 本協定第十四條第二項ノ場合ニ於テ他銀行ヲ經由シ送金シタル爲故ナク遲延シ又ハ支拂地ニ送金ノ實行セラレサル場合ニ於テハ其ノ後ハ必ス橫濱正金銀行青島支店又ハ濟南支店ヲ經由シテ送金スヘク前記橫濱正金銀行支店ニ於テ同様遲延又ハ支拂ヲ實行セサル場合ニ於テハ以後他銀行ヲ經由送金スヘシ

四 日本鐵道主管當局ノ締結セル合同契約ニシテ將來之ヲ繼續スヘキヤ否ヤ其ノ他之ニ關聯スル問題ハ日支兩國引續委員ニ於テ之ヲ解決スヘシ

五 膠濟鐵道日本管理期間ニ於ケル一切ノ金錢上ノ債權債務ニシテ鐵道引渡ノ日ニ於テ決済未了ノモノハ全部日本

國政府ニ於テ清算スヘシ
前項記載ノ金錢上ノ債權債務及契約當事者ノ保證金擔保
賃借料等ノ處理方法ニ關シテハ日支兩國引續委員ニ於テ
之ヲ協定ス

六 鐵道引續期間中收入支出ノ處理、業務經營ノ方法ニ就
テハ日支兩國引續委員ニ於テ之ヲ協定ス

七 支那國政府ハ山東鐵道現在從事員中支那國政府力其ノ
繼續勤務ヲ要望スルモノニ對シテハ引續事務開始ノ日ヨ
リ一箇月以内ニ於テ且各從事員カ現在ノ職ニ在リテ引續
事務ニ從事中成ル可ク速カニ決定スヘキコトヲ聲明ス支
那國政府力前項ノ選擇ヲ爲セル結果離職スヘキ從事員ニ
對シテハ支那國政府ハ離職ノ際一律一箇月分ノ給料ヲ支
給ス

鐵道共同委員會ハ鐵道ノ移轉後直チニ行ハルヘキ從事員
更迭ニ關スル細目ノ取極メハ日支兩國引續委員ニ於テ作
成スヘキコトヲ協定ス

大正十一年十二月五日
中華民國十一年十二月五日

小幡 西吉 王 正 廷
秋山雅之介 勞 之 常

大村卓一 陸 夢 熊
顏 德 慶

南滿洲鐵道附屬地郵便協定

大正十一年十二月八日北京
於テ署名
大正十二年一月二十五日告示

本日附ノ新郵便協定ニ署名セムトスルニ當リ兩國ノ主席代
表者間ニ於テハ兩國政府間ノ交渉ノ題目ト爲スコトアリ得
ヘキ南滿洲鐵道附屬地帯内日本郵便局ノ問題ニ關スル意見
ノ相違ニ鑑ミ南滿洲鐵道附屬地帯内日支兩國郵便局間ノ關
係及此等郵便局ノ業務ニ付テハ暫定的ニ原則トシテ現狀ヲ
維持スルコト並南滿洲鐵道附屬地帯内ニ於ケル日支兩國郵
便局間ノ關係ハ千九百十年ノ郵便協定ニ規定セラレタルト
同一條件ニ依リ支配セラルヘク之カ適用ニ關スル細目ハ中
央政廳ノ同意ヲ經テ關係地方郵便官憲ヲシテ取極メシムル

コトニ一致セリ

千九百二十二年十二月八日北京ニ於テ

小幡 西吉 (署名)
劉 符 誠 (署名)

【參考】

滿洲ノ治安秩序維持ニ關スル帝
國政府並ニ關東軍司令官ノ覺書
及聲明

第二次

(大正十三年十月十三日)

帝國政府ハ今回不幸ニシテ勃發セル支那國內ノ爭亂ニ對シ
テハ絶エス嚴正不干涉ノ態度ヲ執リ來レリ戰端ノ開始セラ
レタル原因ノ如何ヲ問ハス現ニ對抗スル兩軍共ニ等シク支
那國民ノ一部ヲ成スモノニシテ日本ノ支那國民ニ對スルヤ
備ニ友好善隣ノ關係ヲ増進セムトスルノ外何等他意アルコ
トナシト同時ニ滿蒙地方ニ於テハ帝國臣民ノ居住スルモ

滿洲ノ治安秩序維持ニ關スル帝國政府並關東軍司令官ノ覺書及聲明

ノ實ニ數十萬ニ上リ日本ノ投資及企業極メテ莫大ナルモノ
アリ殊ニ帝國自身ノ康寧懸リテ同地方ノ治安秩序ニ存スル
所又頗ル多シ帝國政府ハ毫モ支那ノ内爭ニ干涉セムトスル
カ如キ趣旨ニ基カスシテ茲ニ兩軍ニ對シ以上ノ明瞭ナル事
實ニ付キ嚴肅ナル注意ヲ喚起シ且斯ノ如ク緊切ナル日本ノ
權利利益ハ十分尊重保全セラルヘキコトヲ最モ重要視スル
ノ意ヲ表明ス
(備考)本覺書ハ北京政府並ニ奉天官憲ニ宛テ夫々發セラ
ル

第二次

(大正十四年十二月八日及十三日)

【第一回】本司令官ハ帝國政府ノ方針ヲ體シ支那ノ動亂ニ
當リテハ常ニ絶對不干涉ノ態度ヲ嚴守シ斷シテ支那國內一
黨一派ノ興廢ニ干與スルノ意ナキハ之ヲ宣明スルノ要ナシ
然リト雖モ滿洲ニ於テ數十萬ノ帝國臣民居住シテ各般ノ平
和的事業ヲ經營シ日本ノ投資亦巨額ニ上リ帝國ノ同地方ニ
於ケル權利利益頗ル重大ナルモノアリ從テ鐵道附屬地帯即
チ我軍守備區域内ハ勿論他ノ附近ニ於ケル戰端並ニ騒亂ノ
爲メ此ノ重大ナル帝國ノ權利利益ヲ毀損シ或ハ危害ヲ及ホ

スノ虞アルニ於テハ軍ノ職責上默視シ得サル所ニシテ目下
對戰中ノ兩軍ニ於テモ帝國ノ此ノ特殊ノ地位ヲ尊重セラル
ヘキヲ信ス若シ不幸ニシテ如上ノ危險切迫スル場合ニ於テ
ハ本司令官ハ當然必要ノ措置ヲ執ラサルヲ得ス今ヤ兩軍ノ
戰闘或ハ我守備區域ノ附近ニ及ハムトスルノ形勢ニ鑑ミ對
戰中ノ兩軍ニ對シ茲ニ豫メ前記ノ點ニ付キ注意ヲ喚起シ置
クハ喫緊ノ要務ナリト信ス(十二月八日)

(第二回) 本司令官ハ帝國政府ノ方針ヲ體シ茲ニ重ネテ兩
軍司令官ニ對シテ警告ヲ發スルノ光榮ヲ有ス

日本軍ハ南滿鐵道ノ兩側並ニ沿線ノ終點ヨリ約二十支里
(三三三分ノ一、十二キロ)以内ニ於テ直接戰闘動作ハ勿論
我附屬地ノ治安ヲ亂ス恐レアル軍事行動ハ之ヲ禁止ス
以後本警告ニ異議アラハ貴國政府ヲ經テ正式ニ帝國政府ニ
交渉セラルヘシ(十二月十三日)

(備考)本聲明ハ張作霖、郭松齡兩氏ニ宛テ夫々發セララル

第三次

(昭和三年五月十八日)

永年ニ互ル支那戰亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト
困憊ニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安シシ樂ニ從フニ由ナキ

狀況ニ在ルヲ以テ戰亂カ一日モ速ニ終熄シ統一和平ノ支那
ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ等シク熱望スル所ニシテ殊
ニ支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ深キ帝國ノ要望シテ措カ
サル所ナリ然ルニ今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトシ滿洲ノ
地モ亦將ニ其ノ影響ヲ蒙ラムトスル虞アルニ至レル處抑モ
滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟モ同地方
ノ治安ヲ紊シ若クハ之ヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事靈ノ發
生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ故ニ戰亂京津地
方ニ進展シ其ノ禍亂滿洲ニ及ハムトスル場合ニハ帝國政府
トシテ滿洲治安維持ノ爲メ適當ニシテ且有效ナル措置ヲ執
ラサルヲ得サルコトアルヘシ然レトモ交戦者ニ對シ嚴正中
立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府ノ方針ニ至テハ固ヨリ何等變
改ナキ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツル場合ニ於テモ
其ノ時機ト方法トニ付キテハ兩者ニ對シ何等不公平ナル結
果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用意アルコト
ヲ確言ス

(備考)本覺書ハ張作霖氏並ニ南京政府外交部長黃郛氏ニ
宛テ夫々交付セララル

部撤去スヘキ旨茲ニ貴部長ニ對シ通告スルト共ニ日本軍撤
去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ日支兩國各々委員ヲ
任命シ現地ニ於テ商議辦理セシムコトヲ提議致候

濟南事件協定ニ關スル

公文

昭和四年三月二十八日公表

聲明

日支兩國政府ハ客年五月三日濟南ニ於テ發生セル事件カ兩
國國民傳來ノ友誼ニ鑑ミ極メテ不幸悲痛ノ出來事ナルヲ認
ムルモ今ヤ兩國政府及國民ハ切ニ友誼ノ増進ヲ望ムカ故ニ
此ノ際該事件ニ伴フ不快ノ感情ヲ記憶ヨリ一掃シ將又將來
兩國國交ノ益々敦厚ナラムコトヲ期スル旨茲ニ聲明ス

保障及撤兵ニ關スル交換公文

往輪

以書翰啓上致候陳者本使ハ國民政府ニ於テ日本軍ノ山東撤
去後全責任ヲ以テ在支日本國臣民ノ生命及財產ノ安全ヲ保
障セラルルニ於テハ帝國政府ハ現ニ山東ニ在ル日本軍ヲ本
件解決ニ關スル文書ノ交換訓印ノ日ヨリ向フ二箇月間ニ全

日本帝國特命全權公使 芳澤謙吉
國民政府外交部長 王正廷

來輪

以書翰啓上致候陳者本日附貴輪ヲ以テ貴公使ハ國民政府ニ
於テ日本軍ノ山東撤去後全責任ヲ以テ在支日本國臣民ノ生
命及財產ノ安全ヲ保障スルニ於テハ日本國政府ハ現ニ山東
ニ在ル日本軍ヲ本件解決ニ關スル文書ノ交換訓印ノ日ヨリ
向フ二箇月間ニ全部撤去スヘキ旨本部長ニ對シ通告セラ
ルト共ニ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ日
支兩國各々委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議辦理セシムコト
ヲ提議セララル旨即照會ノ趣聞悉致候查スルニ支那ニ於ケ
ル外國人ニ對シ國民政府ニ於テ國際公法ニ照シ責任ヲ以テ
保護スヘキ旨ハ曩ニ聲明シアル所ニシテ今後國民政府カ日
本在留民ニ對シ保護ヲ爲スヘキハ實ニ當然ノ次第ニ有之候

濟南事件協定ニ關スル公文

南京事件ニ關スル交換公文

御申越ニ係ル撤兵ノ期日及期間ハ既ニ了承致候就テハ日本軍撤去ノ際ニ於ケル引繼ノ措置ニ關シテハ兩國政府ヨリ各々委員ヲ任命シ現地ニ於テ商議辦理セシムヘキ旨貴公使ノ御提議ニ對シテハ本部長ニ於テ同意ヲ表シ候
此段回答得貴意候 敬具

中華民國十八年三月二十八日

支那共和國外交部長 王 正 廷
日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉殿

損害問題ニ關スル議定書

客年五月三日ノ濟南事件ノ發生ニ依リ日支兩國ノ受ケタル損害問題ニ關シテハ雙方ニ於テ各同數ノ委員ヲ任命シ日支共同委員會ヲ設置シ實地調査シ之ヲ決定ス
昭和四年三月二十八日南京ニ於テ

日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉
國民政府外交部長 王 正 廷

南京事件ニ關スル交換公文

昭和四年五月六日公表

來 翰

以書翰啓上致候陳者一昨年三月二十四日發生セル南京事件ニ關シ本部長ハ茲ニ特ニ貴公使ニ對シ國民政府ハ中日兩國人民固有ノ友誼ヲ増進セムト欲スルカ爲ニ該事件ヲ速ニ解決スルノ準備ヲ有スルコトヲ聲明致候

茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ本事件ニ於テ日本國領事館、官吏及其ノ他ノ日本人ニ對シテ加ヘラレタル侮慢非禮竝ニ其ノ財産上ノ損失及身體上ノ傷害ニ對シ極メテ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ向テ深ク遺憾ノ意ヲ表示致候該事件ハ調査ノ結果完全ニ共產黨カ國民政府南京建都以前ニ於テ煽動シテ發生セシメタルモノナルコトヲ實證シ得タリト雖モ國民政府ハ之ニ對シ責任ヲ負フヘク候

國民政府ハ在支日本人ノ生命財産ニ對シテハ既ニ其ノ抱持セル政策ニ基キ數次軍民長官ニ對シ繼續的ニシテ切實ナル保護方ヲ通令シ居レルカ現在共產黨及其ノ中日人民ニ關ス

往 翰

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御照會相成了承致候
(本文反覆挿入ニ付キ省略)

依テ本使ハ前記貴翰ニ於テ表示セラレタル提議ニ對シ同意ヲ表シ且國民政府ニ於テ前記貴翰御來示ノ責任ヲ最短期間内ニ於テ完全ニ履行セラルルニ於テハ南京事件ニ依リ發生セル各種問題ハ根本的解決ヲ告クルモノト認定致候
此段回答得貴意候 敬具

昭和四年五月二日
日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉
國民政府外交部長 王 正 廷殿

漢口事件ニ關スル交換公文

昭和四年五月六日公表

來 翰

以書翰啓上致候陳者民國十六年四月三日漢口ニ於テ發生セ

漢口事件ニ關スル交換公文

中華民國十八年五月二日
國民政府外交部長 王 正 廷
日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉殿

ル友誼ヲ破壞スヘキ惡勢力ハ既ニ消滅シタルニ依リ國民政府ハ今後外國人ノ保護ニ付テハ自ラ力ヲ盡シ易カルヘク國民政府ハ特ニ責任ヲ負ヒテ日本人ノ生命財産及其ノ正當ナル事業ニ對シ再ヒ同様に暴行及煽動ハ之ヲ發生セシメサルヘキコトヲ併セテ聲明致候
尙本部長ハ當時共產黨ノ煽動ヲ受ケ此ノ不幸ナル事件ニ參加シタル當該軍隊ヲ既ニ解散シタルコト竝ニ國民政府力既ニ切實ナル辦法ヲ施行シ事件ニ關係アル兵卒及其ノ他ノ關係者ヲ處罰シタルコトヲ茲ニ併セテ貴公使ニ通知致候
國民政府ハ國際公法ノ一般的原則ニ從ヒ日本國領事館、日本國官吏及其ノ他ノ日本人ノ受ケタル身體上ノ傷害及財産上ノ損失ニ對シ速ニ充分ナル賠償ニ應スルノ準備有之此ノ爲國民政府ハ中日調査委員會ヲ組織シ以テ日本人ノ支那人方面ヨリ受ケタル傷害及損失ヲ實證スルト共ニ每件ニ付賠償スヘキ數目ヲ査定センコトヲ提議致候
此段照會得貴意候 敬具

ル事件ニ關シ茲ニ本部長ハ國民政府ノ名義ヲ以テ貴公使ニ對シ左ノ通聲明致候

本件ハ調査ノ結果共產黨ノ煽動ニ依リ發生セルモノナルコト實證セラレタルカ國民政府ハ中日間ノ友好關係ニ鑑ミ本件ヲ以テ頗ル遺憾ト爲ス就テハ日本領事館員、海軍軍人及在留民カ身體上及財産上受ケタル損害ニ對シ國際公法ニ準據シ合理且必要ナル範圍内ノモノハ之ヲ賠償スルコトト爲スヘク尙中日調査委員會ヲ組織シ日本人民ノ受ケタル損失ヲ實地ニ調査シ正確ナル賠償額ヲ審査決定スルコトト致度尙本事件發生ノ當初ニ於テ中國人民ニシテ傷害ヲ受ケタル者ニ對シテモ相當ノ撫恤ヲ與ヘラレ以テ本件ヲ圓滿ニ解決スルコトト致度右御了承ノ上何分ノ儀御回答相成度此段照會得貴意候 敬具

中華民國十八年五月二日

國民政府外交部長 王 正 廷
日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉殿

往 翰

以書翰啓上致候陳者一昨年四月三日漢口ニ於テ發生シタル事件ニ關シ本日附貴翰ヲ以テ御照會ノ趣閱悉致候

依テ本使ハ日支調査委員會ヲ設置シ其ノ委員ハ雙方ヨリ選定シ各日本人ノ受ケタル身體上及財産上ノ一切ノ損害ヲ審査算定シ以テ賠償ニ備ヘムトスル提議ニ對シテハ同意ヲ表シ候

本使ハ國民政府ニ於テ前記ノ責任ヲ最短期間内ニ履行セラシムルニ於テハ漢口事件ニ依リ發生セル各種問題ハ根本的ニ解決ヲ告クルモノト認定致候

此段回答得貴意候 敬具

昭和四年五月二日

日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉
國民政府外交部長 王 正 廷殿

第五編 補 追

英支海軍援助契約

千九百二十九年六月二十日締結
同年十月九日四條項追加

中華民國國民政府海軍部長楊樹莊及
英國駐支公使「ランブソン」間ノ英國
海軍派遣員 (Mission) 竝ニ英國ニ於
ケル支那海軍士官教育ニ關スル契約

(a) 英國ニ於ケル支那海軍士官ノ教育

- 一、中華民國政府ノ要求ニ基キ英國政府ハ左記條項ヲ承認ス
- 二、生徒 (Cadet) 及候補生 (Midshipmen) タル十二名ノ支那海軍士官ヲ教育スル目的ヲ以テ英國海軍ニ收容ス右十二名ノ士官ハ年齢約十八歳ニシテ十分ノ教育ヲ受ケ英語ヲ讀ミ且ツ書ク能力アルヲ要ス但シ會話ハ十分ナラザルモ妨グズ

- 三、第二項規定ノ士官ハ一期間「ダートマス」海軍兵學校、三期間軍艦又ハ生徒練習艦ニ於テ教育ヲ施シ更ニ十二箇

英支海軍援助契約

月間英國艦隊ニ於テ服務セシムルモノトス海上ニ於ケル教育終了後ハ更ニ「グリニツチ」海軍大學校 (Royal Naval College) ニ於テ少尉トシテノ專門的教育ヲ施ス上記ノ教育終了セバ成績優秀ノモノ四名(協定ニ依リ増加スルコトヲ得)ハ更ニ艦隊ニ於ケル訓練ヲ受ケタル後砲術、信號及無線、機關、魚雷等ヲ專修セシム

前記ノ選ニ漏レタル士官ハ支那ニ歸還スルベシ

- 四、第三項ノ士官ノ外ニ更ニ海軍少尉タル八名ノ士官ヲ收容ス此ノモノハ直チニ「グリニツチ」海軍大學校ニ入學シ少尉トシテノ專門的教程ニ入ルモノトス本教程終了後十二箇月間艦隊ニ於テ勤務セシム更ニ希望ニ依リ砲術、水雷、信號及無線、機關等ヲ專修セシム

五、第四項規定ノ士官ハ何等カノ專門的智識ヲ有シ會話ヲ除クノ外英語ニ關シ十分ノ教育アルヲ要ス尙年齢ハ特ニ協定ノ場合ヲ除クノ外約二十一歳タルベシ

- 六、英國海軍ニ於テ教育中ノ支那海軍士官ハ彼等ノ階級ニ相當スル英國海軍士官ノ制服ヲ着用スベク海軍省又ハ海軍士官教育機關ノ規定セル制度命令ニ服従スベキモノトス
- 七、士官ハ相互ノ協定ニ依リ英國海軍ニ於ケル勤務ヲ何時ニテモ中止セシメラルルコトアルベシ尙英國政府ハ不適

當ト認ムルモノノ教育ヲ中止セシメ得ル權利ヲ保留スルモノトス

八、英國海軍ニ於テ勤務中ノ支那海軍士官ハ自由ニ海軍軍醫官ニ依ル投薬又ハ入院ノ權利ヲ有スルモノトス

九、英國政府ハ支那海軍士官ノ不慮ノ災難又ハ死亡ニツキ何等ノ責任ヲ負ハズ

一〇、支那學生ノ英支間ノ往復並ニ英國海軍ニ於テ勤務中ニ於ケル旅費ハ支那政府ヨリ支拂フモノトス

一一、「セント、ジョーン、エーウツト、ピット」少佐ヲ第一項並ニ第四項記載學生ノ指導官ニ指名ス彼ノ報酬並ニ旅費ハ就任ノ日ヨリ支那政府之ヲ支拂フモノトス彼ハ關係部内限リ中佐待遇トス彼ニ對スル報酬ハ左記ニ依ルベシ

俸 給
特別手當(派遣員勤務ニテ在英中) 一〇〇磅
特別手當(派遣員長ニ非ザル派遣員トシテ在支中) 三〇〇磅

俸 給

八〇〇磅

特別手當(派遣員勤務ニテ在英中)

一〇〇磅

特別手當(派遣員長ニ非ザル派遣員トシテ在支中)

三〇〇磅

(b) 海軍派遣員(Naval Mission)

一二、英國政府ハ士官並ニ下士官ヨリ成ル派遣員ヲ支那ニ

遣スコトヲ承認ス

一三、支那ガ外國ノ一國又ハ數國ト交戦中ハ派遣員ハ戰鬪行爲ヲ要求セラレザルモノトス

一四、支那ト外國ト戦争ノ場合本契約ハ英支何レカノ要求ニ依リ廢棄スルコトヲ得

一五、派遣員長(Head of Mission)ハ海軍部長ト密接ノ連絡ヲ保持シ派遣員關係事項及海軍部長ノ要求ニ對シ意見ヲ開陳スルモノトス

一六、派遣員ハ支那制度下ニ於テ支那學生ニ對スル教育遂行上ノ見地ヨリ必要ナル行政裁判權及執行權ヲ有スルモノトス

一七、派遣員長ハ派遣員及英國海軍省、駐支英公使トノ連絡ヲ保持スルモノトス

一八、基本派遣員ヲ左ノ通定ム

中 佐 一 派遣員長、支那海軍ニ於テハ大佐待遇トス

大 尉 一 航海專修ニシテ支那海軍ニ於テハ少佐待遇トス

機關兵曹長 一

一等兵曹 一 砲 術

同 一 通信

掌砲煩兵 一

掌電氣兵 一

一九、派遣員ノ員數ハ支那海軍部長及派遣員長ノ協議ニ依リ増減スルコトヲ得ベシ又派遣員ハ英支兩國政府ノ契約ニ服從スベシ斯ノ如クニシテ解約サレタル士官又ハ下士官ハ英國歸着ノ日ヨリ起算シ二箇月間ノ休暇並ニ此ノ間ニ於ケル俸給及手當ノ支給ヲ受クルモノトス

二〇、派遣員ハ上海又ハ將來派遣員本部タルベキ場所ニ到着ノ日ヨリ二年間支那政府ニ招聘サレ勤務スルモノトス

二一、本契約ハ同一又ハ新補士官ニ依リ繼續スルコトヲ得但シ契約滿期六箇月以前ニ支那政府ヨリ提議スルヲ要ス
二二、本契約ハ雙方承認スル場合ヲ除クノ外契約ノ效力發生ノ日ヨリ二箇年以内ニ廢棄スベカラズ

二三、派遣員ノ士官ハ支那海軍ニ於テ各其ノ待遇セララル階級ニ對スル支那ノ辭令書ヲ受領シ支那海軍名簿ニ先任順ニ依リ登錄セラレベシ但シ英國士官ハ同一階級ノ支那海軍士官中最先任タルベシ

二四、派遣員ノ士官ハ本任務從事中支那海軍ノ制服ヲ着用スベシ派遣員ハ支那政府ニ招聘サレ勤務シ支那ノ制服ヲ

着用スルモ其ノ英國臣民タリ且ツ英國海軍士官タルノ位置ニ變リナシ彼等ハ本任務全期間ヲ通ジ彼等ノ階級ニ相當スル權利並ニ特權ヲ享有スルモノトス

二五、派遣員タル下士官ハ英國又ハ支那海軍制服ヲ着用スベシ而シテ彼等ノ英國臣民タリ且ツ英國海軍下士官タルノ位置ハ支那政府ニ招聘サレ勤務シ又支那海軍制服ヲ着用セル爲ニ何等ノ影響ナシ

二六、派遣員長ハ派遣員中不適當ト認ムルモノアリタル場合ニハ支那海軍部長ト協議ノ上兩者決定ノ日ヲ以テ本人ニ對スル契約ヲ廢棄スルコトヲ得

二七、派遣員ハ相互協議ノ上何時ニテモ任務ヲ解除スルコトヲ得又支那政府ハ不適當ト認ムル派遣員ノ解除ヲ請求シ得ルノ權利ヲ保留ス

二八、派遣員一身上ノ都合ニ依リ本人 關スル限リニ於ケル本契約ノ廢棄ヲ希望スルモノアル時ハ派遣員長ハ支那海軍部長ト協議ノ上本契約ヨリ解除ノ日附ヲ決定スベシ

二九、派遣員ニ對スル給與ハ第二十六、第二十七乃至第二十八項記載ノ條項ニ依リ契約ヨリ解除サル場合支那海軍部長及派遣員長決定ノ契約解除ノ日ニ至ル迄及本契約後項記載ノ旅費ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ズ

三〇、連絡將校タル支那海軍士官一名及駐在武官一名ハ派遣員長附トシテ勤務スベシ本員數増減ニ關シテハ支那海軍部長及派遣員長ノ協議ニ依ル

三一、支那政府ハ派遣員職員ノ宿舍及事務所ヲ設置シ派遣員長ノ請求ニ依ル事務室用具及書類ヲ用意スルモノトス

(c) 會計給與ニ關スル事項

三二、第二項記載ノ十二名ニ對シ支那政府ハ「ダートマス」海軍兵學校又ハ生徒練習艦ニテ教育中一名ニツキ年額二百磅ヲ英國海軍省ニ納付スベシ此ノ額ハ被服費及學校又ハ教育關係機關閉鎖中ニ於ケル休暇中ノ費用ヲ除キ教育費、食費並ニ衛生費ノ全部ヲ含ムモノトス

三三、第四項記載ノ士官八名及第二項記載ノ十二名ノ士官ガ生徒練習艦退艦後支那政府ハ英國海軍省ニ對シ後項協定ノ宿泊料及食費ニ相當スル金額ヲ納付スベシ

三四、支那政府ハ英國海軍ニ於テ教育中ノ支那士官ノ被服費ヲ支拂フモノトス

三五、第三十三項記載ノ條項ニ關係アルモノハ彼等ノ支拂ヲナシ且ツ休暇中ニ於ケル食費及雜費ヲ支拂フ義務ヲ有ス

三六、支那政府ハ英國政府ニ對シ半年毎ニ豫メ教育中ノ士官ノ費用及手當六箇月分ヲ送付スベシ士官ハ彼等勤務處ノ主計官ノ手ヲ經テ毎月海軍省ヨリ受取ルモノトス英國海軍省ハ毎期間ノ終期ニ於テ各士官ノ計算書ヲ支那政府ニ送付スルモノトス

三七、英國海軍派遣員ニ對スル給與年額左ノ如ク定ム

中	佐(派遣員長ニシテ支那海軍ニ於テハ大佐待遇)	一、〇〇〇磅
報 酬		一、〇〇〇磅
住宅費		五〇〇磅
特別手當		五〇〇磅
計		二、〇〇〇磅
大	尉(補助官)	四〇〇磅
報 酬		三〇〇磅
住宅費		二〇〇磅
特別手當		二〇〇磅
計		九〇〇磅
機關兵曹長		四〇〇磅
報 酬		一五〇磅
住宅費		一五〇磅
特別手當		一五〇磅
計		七〇〇磅
一等兵曹(四名)		一、〇〇〇磅
報酬(一名ニツキ二五〇磅)		一、〇〇〇磅

住宅費

四〇〇磅

特別手當

四〇〇磅

計 一、八〇〇磅

三八、支那政府ハ英國政府ニ對シ豫メ半年毎ニ派遣員六箇月間ノ報酬、手當總額ヲ送付スベシ英國海軍省ハ毎月派遣員ニ支給シ支那政府ニ計算書ヲ送ルベシ

三九、派遣員ノ俸給ハ派遣員英國出發ノ日ヨリ英國歸着後休暇完了迄支那政府ニ於テ支拂フモノトス若シ契約終了後英國ニ歸還セザル時ハ彼ガ英國ニ歸リテ休暇完了ノ日ニ相當スル日迄支拂フベキモノトス

四〇、派遣員ニ對スル報酬ハ毎月一日ニ支拂フモノトス支拂ハ正貨タルベク税金等ノ減額ヲ受クルコトナシ

四一、支那政府ハ派遣員ニ對シ其ノ妻子ノ英支間往復費用トシテ左記ニ依リ支拂フベシ

士官 一等旅費

下士官 二等旅費

尙派遣員ノ支那ニ於ケル公用ノ爲ノ旅費ハ派遣員ニ直接支拂フモノトシ且ツ旅費中ニハ必要ナル宿泊料及日當ヲ含ムモノトス

四二、第三十六項記載ノ報酬ノ外ニ支那政府ハ派遣員士官一名ニツキ制服費二十五磅、下士官ニハ第二十五項ニ依

ル制服ノ費用ヲ支拂フモノトス

四三、派遣員ノ士官支那政府ニ招聘中英國政府ハ支那政府ニ對シ左記ヲ減額シ彼等ノ俸給ノ半額ヲ支拂フ蓋シ彼等ハ招聘セラレタル結果半額ヲ支給サル士官ハ此ノ支拂ニ對シ何等ノ責任ヲ有セス支那政府ニ對スル支拂額ハ左ノ如ク減額ス

a. 英國ニ於ケル所得税

b. 第四十四項記載ノ支那政府ヨリ支拂ハルル士官一名ニ對シ八十磅

四四、契約期間中支那政府ハ派遣員士官一名ニツキ年額八十磅ヲ英國政府ニ支拂フモノトス本支拂ニ依リ支那政府ハ本任務中士官ノ死亡又ハ不具癩疾ノ場合其ノ寡婦又ハ遺族ニ對シ救済ノ義務ヲ免除サルモノトス

四五、契約期間中支那政府ハ英國政府ニ對シ派遣員下士官一名ニツキ年額四十磅ヲ支拂フモノトス本支拂ニ依リ支那政府ハ本任務中下士官ノ死亡又ハ不具癩疾ノ場合其ノ寡婦又ハ遺族ニ對シ救済ノ義務ヲ免除サルモノトス

四六、支那政府ハ英國政府ニ對シ下士官一名ニツキ年額二十磅十二志ヲ支拂フモノトス本金額ハ英國國定ノ保險料ナリ

四七、派遣員ノ醫藥費、入院料及齒科治療費ハ支那政府ノ

負擔トス

- 四八、(a) 派遣員奇禍ニ依ル負傷又ハ疾病ニ對シテハ十二箇月間ノ休暇ヲ取ルコトヲ得且ツ此ノ期間報酬ノ全額ヲ受取ルモノトス又公務ニ起因スル傷病不具ニ對シテハ此ノ期間ヲ十八箇月トス上記期間内ニ於ケル休暇日數ハ支那海軍部長指定ノ二名並ニ派遣員長指定ノ一名ノ醫者合議ニ依リ決スベシ本項ニ依ル支出ハ第四十一項記載ノ英國歸還旅費ヨリ減額セラルルコトナシ
- (b) 派遣員ノ士官ハ上項記載範圍内ノ療養休暇 (Sick Leave) ヲ支那政府ヨリ許可セラルベシ但シ此ノ全期間報酬全額ヲ支給サルモノトス上記期間内ニ於ケル休暇日數ノ決定ハ支那海軍部長指定ノ二名、派遣員指定ノ一名ノ醫者ノ合議ニ依ルベシ
- (c) 本契約規定ノ條項ハ英國海軍規則ニ依リ英國政府ヨリ支給サルベキ派遣員又ハ其ノ後繼者ニ對スル年金ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ
- (d) 派遣員明ニ本任務中病氣又ハ他ノ原因ニ依リ不具トナリタル場合ニシテ本任務ニ就ク以前ノコトニ起因シ本勤務ノ原因ニ非ルトキハ支那政府ハ本人ニ對スル契約ヲ廢棄スルコトヲ得此ノ場合醫務當局ノ證明ヲ要ス

- ス(即チ癩疾ノ原因及其ノ生起ノ日等)(b項參照)
- 此ノ場合醫務當局者ニ於テ意見ノ一致ヲ見ザル時ハ相互ノ合意ニ依リ第三者ノ決定ニ依ルモノトス
- 斯ノ如クシテ解約サレタル士官ハ本人及家族ノ英國歸還ノ旅費並ニ英國到着ノ日迄ノ報酬全額ヲ受領スルモノトス
- 四九、派遣員携行ノ家具荷物等ニ對スル税金ハ支那海關ニ於テ免除スルカ支那政府ノ負擔タルベシ
- 五〇、支那政府ハ派遣員ニ對シ其ノ支那勤務一箇年毎ニ二十八日間ノ休暇ヲ與フルモノトス此ノ場合ノ報酬ハ勿論全額タルベシ尙最初ノ二箇年經過及爾後三箇年毎ニ休暇ヲ取り得ルモノトス休暇ノ期間ハ彼等ノ英國又ハ休暇中暮サントスル國ニ到着ノ日ヨリ起算スルモノトス但シ被等ハ目的地ニ直行スルヲ要ス
- 五一、海軍部長及派遣員長必要ト認定セル時ハ支那政府ハ派遣員長用トシテ自動車ヲ無償提供スベシ
- 五二、海軍部長及派遣員長協議ノ上支那政府ニテ派遣員ノ爲ニ僕婢ヲ傭入レ其ノ使用ニ供スルカ又ハ其ノ手當ヲ支給スベシ
- 五三、派遣員ハ其ノ收入ニ對スル税金ヲ支那政府ニ納入ノ

義務ナシ

(d) 建艦ニ關スル事項

五四、支那政府ハ近キ將來ニ於テ英國又ハ北愛蘭ニ於テ支那海軍建艦ノ具體的注文ヲ發スル意志アルコトヲ此ノ機ニ於テ表明ス

(e) 雜

五五、新ニ派遣員ニ補充セラレタル士官及下士官モ本契約及新契約規定ノ權利ヲ享有スルモノトス

五六、本契約ハ道德的觀念ニ基キ英國政府並ニ支那政府代表者ノ承認スル所ナリ然レドモ尙些細ノ點ニ關シテハ英支兩政府合議ノ上改修スルコトヲ得

千九百二十九年六月二十日於南京三通調製ス

ランブソン公使
楊樹莊自署
王正廷

英支海軍援助契約追加條項ニ關スル
英支間ノ交換公文

(一) 拜啓閣下ハ千九百二十九年六月二十日南京ニ於テ調

英支海軍援助契約

印セラレタル英支海軍條約ニ四箇條ヨリ成ル條項追加ノ件ニ關シ最近南京ニ於テ行ハレタル英支海軍當局代表者ノ商議ノ件御承知ノコトト思考致候本商議ノ結果左記條項ハ兩國政府代表ニ於テ一致セルモノニ御座候

五七、支那政府ハ英國海軍省又ハ派遣員長指示ノ機密事項ニツキ秘密ヲ守ルコトヲ誓約ス

五八、英國海軍士官及下士官ハ支那政府ニ招聘中叛亂又ハ暴動鎮壓ニ參加スベキヲ要求セラレザルベシ

五九、本契約第四項記載ノ「グリニツチ」ニ於テ教育サルベキ少尉ニ對スル準備ハ英國ニ於テ千九百三十年一月二日迄ニ又第二項記載ノ生徒ニ對シテハ千九百三十年一月十四日迄ニ完成スベク支那政府ハ此等ノ士官及同行スル「ピット」少佐渡英ノ手配ヲ爲スコトヲ約ス支那政府ハ本契約第十一項ニ依リ「ピット」少佐ガ千九百二十九年十一月一日ヲ以テ派遣員職員ニ就任スルヲ承認シ英國海軍省ハ同日ヲ以テ同少佐ガ軍艦「グリタット」艦長ノ職ヲ解キ同日ヨリ契約サレタル報酬ヲ受クベキコトヲ承認ス

六〇、本契約ニ依リ任命セララル派遣員長ハ千九百三十年十月一日迄ニ支那ニ到着スベク他ノ職員ノ到着期日ハ派遣員長及海軍部長協議ノ上決定スベキモノトス

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

小官ハ政府ヨリ英支海軍援助契約追加條項ニ關スル全權ヲ委ネラレ且ツ本項ガ貴國政府ニ承認サルモノト信ジ尙本追加條項ハ本契約第五十六項ニ依リ本目ヲ以テ效力ヲ發生スルモノニ御座候

小官ハ此ノ機會ニ於テ閣下ニ敬意ヲ表シ候
千九百二十九年十月九日於南京
宛 王 正 廷 ヒユウレット總領事

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

千九百二十九年十月九日於南京
宛 「ランアソン」公使 王 正 廷

(一)拜復小官ハ閣下ニ本日附ヲ以テ千九百二十九年六月

二十日南京ニ於テ訓印セラレタル英支海軍援助契約ニ對スル左記追加條項ニ關スル書類ヲ受領セル旨御回答ニ及ブノ光榮ヲ有ス

- 五七、前 出
- 五八、同
- 五九、同
- 六〇、同

小官ハ政府ヨリ追加條項承認ノ全權ヲ委ネラレ且ツ閣下ニ本條項ガ本目ヲ以テ效力ヲ發生スベキヲ承認セル旨通知スルノ光榮ヲ有ス
此ノ機會ニ於テ閣下ニ敬意ヲ表シ候

千九百三十年二月十七日訓印

第一條 上海共同租界ニ於ケル支那國裁判所ノ設置ニ特別ノ關係ヲ有スル一切ノ舊規則、協定、交換公文等ハ本協定實施ノ日ヨリ廢止セラルベシ

第二條 支那國政府ハ司法制度ニ關スル支那國ノ法令及規則ニ依リ且本協定ノ規定ニ從ヒ上海共同租界ニ地方法院及高等法院分院ヲ設置スベシ實體上竝ニ手續上ノ一切ノ支那國ノ法令及規則ニシテ現ニ施行中ノモノ又ハ今後正當ニ制定且公布セラルベキモノハ右法院ニ於テ適用セラレベシ但シ共同租界土地章程及細則(右ハ支那國政府ニ於テ之ヲ採用公布スルニ至ル迄適用セラルベシ)竝ニ本協定ノ規定ニ對シ適當ノ考慮ヲ拂フベキモノトス

高等法院分院ノ判決、決定及命令ハ支那國法令ニ從ヒ支那國最高法院ニ上告スルコトヲ得

第三條 共同租界ニ於テ現ニ運用セラルル支那國裁判所ニ於テ觀審スル爲メハ會審スル爲メ領事代表又ハ領事官憲ノ出廷スル豫習ハ本協定ニ基キ設置セラルル法院ニ於テハ廢止セラルベシ

第四條 工部局警察又ハ司法警察ニ依リ逮捕セラルル者アルトキハ右逮捕セラレタル者ハ休日ヲ除キ二十四時間内ニ審理ノ爲メ本協定ニ基キ設置セラルル法院ニ送致セラルベク然ラザルトキハ釋放セラルベシ

第五條 本協定ニ基キ設置セラルル法院ハ夫々支那國政府ニ依リ任命セラルベキ若干數ノ檢察官ヲ有スベク右檢察官ハ右法院ノ管轄内ニ於テ檢屍ヲ爲シ其ノ他共同租界工部局警察又ハ關係當事者ガ既ニ訴追ヲ爲シタル場合ノ外ハ支那國刑法第三百三條乃至第八十六條ノ適用ヲ含ム一切ノ事件ニ付支那國ノ法令ニ依リ其ノ職權ヲ執行スベシ但シ檢察官ニ依リ行ハルル一切ノ豫審ハ公開セラレ且被告ノ辯護人ハ出廷及發言ノ權利ヲ有スベキモノトス
法院ノ管轄内ニ發生スル他ノ事件ニ於テハ工部局警察又ハ關係當事者訴追スベシ檢察官ハ工部局警察又ハ關係當

事者ノ訴追ニ係ル一切ノ刑事事件ニ付法廷ニ於テ意見ヲ發表スルノ權利ヲ有スベシ

第六條 召喚狀、令狀、命令書等ノ如キ一切ノ裁判手續書類ハ本協定ニ基キ設置セラルル法院ノ判事ニ依リ署名セラレタル後初メテ有效ナルベク右署名ヲ俟テ司法警察ニ依リ又ハ左ニ規定セラルル如ク法院ノ執達吏ニ依リテ送達又ハ執行セラルベシ

共同租界内ニ於テ逮捕セラレタル者ハ被告ノ辯護人ガ出廷及發言ノ權利ヲ有スベキ法院ニ於ケル豫審ヲ經ズシテ租界外ノ官憲ニ引渡サレザルベシ但シ他ノ新式法院ヨリノ要求アル場合右被告ガ其ノ同一犯人タルコト右法院ニ依リ立證セラレタル後引渡サル場合ハ例外トス
法院ノ一切ノ判決、決定及命令ハ右法院ニ實施セラルル裁判手續ノ結果確定スル時ハ直ニ執行セラルベシ必要アル場合ニハ當ニ工部局警察ハ要求セラルルコトアルベキ其ノ權限内ノ助力ヲ爲スベシ
法院ノ執達吏ハ夫々法院院長ニ依リテ任命セラルベク其ノ職務ハ民事事件ニ關シ一切ノ召喚狀ヲ送達シ且法院ノ他ノ書類ヲ傳達スルニアルベシ民事事件ニ於ケル判決ノ執行ノ爲メハ執達吏ハ司法警察ニ依リ同伴セラルベシ法

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

院ノ司法警察官員ハ工部局ノ推薦ニ基キ高等法院分院長ニ依リ任命セラレベク且理由ヲ明示シテ右法院院長ニ依リ罷免セラレルコトアルベシ司法警察官員ノ任務ハ又理由ヲ明示シテ工部局ノ要求アルトキハ右院長ニ依リ終了セシメラルベシ司法警察官員ハ支那國司法官憲ニ依リ制定セラレル制服ヲ着スベク且法院ノ命令及指揮ニ服シ其ノ職務ニ忠實ナルベシ

第七條 上海共同租界ニ於テ現ニ運用セラレル支那國裁判所ニ附屬セル民事留置場及女囚監獄ハ右法院ヨリ本協定ニ基キ設置セラレル法院ニ引渡サルベク且支那國官憲ニ依リ監督管理セラレベシ

共同租界ニ於テ現ニ運用セラレル支那國裁判所ニ附屬セル監獄ニ服役中ナル一切ノ囚人及本協定ニ基キ設置セラレル法院ニ依リ刑ノ宣告ヲ受ケタル囚人ハ右法院ノ裁量ニ依リ租界内ノ右監獄又ハ租界外ノ支那國監獄ニ服役スベシ但シ警察犯規則、土地章程及細則ニ對スル違犯者並ニ審理ヲ受クベキ逮捕中ノ者ハ其ノ留置期間ヲ租界内ニ於テ過スベシ租界内ノ監獄ハ出來得ル限り支那國監獄規則ニ從ヒ管理セラレベク且支那國司法官憲ニ依リ任命セラレル官吏ニ依リ時々視察ヲ受クベシ

本協定ニ基キ設置セラレル法院ニ依リ死刑ヲ宣告セラレタル者ハ右宣告ノ執行ノ爲租界外支那國官憲ニ送致セラレベシ

第八條 正當ニ資格ヲ有スル外國人辯護士ハ本協定ニ基キ設置セラレル法院ニ於テ外國人ガ一方ノ當事者タル一切ノ事件ニ付業務ニ從事スルコトヲ許容セラレベシ但シ右外國人辯護士ハ當該外國人當事者ノミヲ代理シ得ルモノトス工部局モ亦同局ガ被害者若ハ原告タル又ハ工部局警察ガ訴追者タル一切ノ手續ニ付正當ニ資格ヲ有スル支那人又ハ外國人辯護士ニ依リ同様ノ方法ニ於テ代理セラレベシ

工部局ニ於テ租界ノ利益ガ包含セラルト認ムル其ノ他ノ事件又ハ手續ニ付テハ同局ハ正當ニ資格ヲ有スル支那人又ハ外國人辯護士ニ依リ代理セラレルコトヲ得ベク右辯護士ハ審理中法廷ニ對シ其ノ意見ヲ書面ニテ提出シ得ベク且必要ト思考スルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ依リ參加スルコトヲ得

本條ニ依リ右法院ニ於テ業務ニ從事スル資格ヲ有スル外國人辯護士ハ司法部ニ對シ辯護士免狀ノ下付ヲ申請スベク且辯護士ニ適用セラレベキ支那國ノ法令及規則(懲戒

處分ニ關スルモノヲ含ム)ニ從フベシ

第九條 支那國政府ノ任命ニ係ル二名及其ノ他ノ本協定調印國政府ノ任命ニ係ル二名ヨリ成ル四名ノ常設代表者設置セラレベク右代表者ハ高等法院分院院長又ハ調印外國官憲ニ依リ之ニ付託セラレルコトアルベキ本協定ノ解釋又ハ適用ニ關スル意見ノ相違ヲ共同シテ調停スルニ努ムベシ

但シ其ノ報告ハ相互ノ承諾アル場合ヲ除クノ外兩當事者ニ對シ何等ノ拘束力ナカルベク法院ノ判決、決定、裁決又ハ命令ハ其ノ儘右代表者ノ考慮ニ附セラレルコトナキモノトス

第十條 本協定及附屬公文ハ千九百三十年四月一日ヨリ實施セラレベク且爾後三年間引續キ有效ナルベシ但シ當事國ノ相互ノ承諾アルトキハ更ニ期間ヲ延長スルコトヲ得

支那共和國十九年(千九百三十年)二月十七日南京ニ於テ

「ブラジル」國代理公使ノ爲ニ

ゼー、ド、ピント、デアアツ

米國公使ノ爲ニ

ジヨゼフ、イー、ゼーコブス

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

英國公使ノ爲ニ

ダブルユー、メーリウツク、ヒューレツト

諾威國代理公使ノ爲ニ

エル、グ、ロン、ゲ、オルト

和蘭國代理公使ノ爲ニ

エフ、エー、ハー、グルー、ン、マン

佛蘭西國公使ノ爲ニ

ウ、ー、ケ、ク、ラ、ン

外交部長ノ爲ニ

テ

外交部長宛外國側署名者往翰

以書翰啓上致候陳者上海共同租界ニ於ケル地方法院及高等法院分院ノ設置ニ關シ本日調印シタル協定ニ關シ吾人ハ左ノ諸點ニ關スル吾人ノ諒解ニ對シ貴部長ノ確認ヲ要求スルノ光榮ヲ有シ候

一、本協定ニ基キ設置セラレル法院ハ上海共同租界ニ於ケル民事及刑事事件並ニ警察犯及檢屍ヲ管轄スベキモノトス但シ右法院ノ人ニ對スル管轄ハ他ノ支那國法院ノ管轄

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

ト同様ナルベク且土地ニ對スル管轄ハ租界外ニ於ケル外國人ノ私有財産上ニ發生スル混合刑事事件及租界ヲ圍繞スル地域ニ於テ發生スル混合民事事件ヲ除ク外上海共同租界ニ於テ現ニ運用セラルル支那國裁判所ノ管轄ト同様ナルベシ

二、支那國政府及當該官憲トノ間ニ確定的協定成立スル迄ハ共同租界ニ於テ現ニ運用セラルル支那國裁判所及佛蘭西國租界ニ現存スル裁判所ノ相互管轄ニ關スル現行慣例ヲ踏襲スベキモノトス

三、支那人ハ本協定ニ基キ設置セラルル法院ノ司法警察官員トシテ勤務スル爲工部局ニ依リ出來得ル限リ推薦セラレベキモノトス尙本協定第六條ニ基キ高等法院分院院長ニ依リ任命セラルル司法警察官中ヨリ工部局ノ指名スル一人ハ右院長ヨリ右法院内ニ事務室ヲ與ヘラレ且該條ノ規定ニ從ヒ送達又ハ執行ノ目的ノ爲召喚狀、令狀、命令書及判決書ノ如キ法院ノ一切ノ裁判手續書類ノ記載ヲ爲スベキモノトス

四、本協定ニ規定セラルル法院ノ設置ハ共同租界ニ於テ現ニ運用セラルル支那國裁判所及夫レ以前ノ裁判所ニ依リ下サレタル判決ノ效力ニ毫モ影響スルコトナク且右判決ハ控訴ノ手續ガ適法ニ執行セラレ又ハ留保セラレタル場

合テ除キ最終且有效ナルモノト認メラルベキモノトス尙本協定ニ基キ設置セラルル法院ノ判決ハ效力ニ付テハ一切ノ租界外支那國法院ノ判決ト同等ナルベキモノトス

五、本協定ハ租界外道路ノ地位ニ關スル將來ノ交渉ニ毫モ影響シ又ハ之ヲ妨ゲザルモノトス

六、共同租界ニ於ケル現支那國裁判所ノ貸記トシテ現ニ中國銀行ニ預入セラレ居ル六萬弗ノ額ハ本協定ニ基キ設置セラルル新法院ノ貸記トシテ支那國政府ニ依リ維持セラレベキモノトス

七、本協定ニ基キ設置セラルル法院ハ右法院ニ依リ沒收セラルル物件ノ爲同贓所ヲ支那國法令ニ從ヒ維持スベク右物件ハ支那國政府ノ財産タルベキコトニ同意ス但シ沒收阿片並ニ其ノ吸煙及調合器具ハ三月毎ニ共同租界ニ於テ公然燒棄セラルベク且工部局ハ沒收武器ノ處分ニ關シ其ノ爲サント欲スルコトアルベキ提案ヲ司法部ニ傳達スル爲法院院長ニ提出スルコトヲ得ルモノトス

八、本協定ノ實施ト同時ニ共同租界ニ於テ現ニ運用セラルル支那國裁判所ニ繫屬スル一切ノ事件ハ本協定ニ基キ設置セラルル法院ニ於テ右法院ノ現行裁判手續ニ從ヒ取扱ハルベキモノトス但シ混合事件ノ手續ハ出來得ル限リ引

繼時ニ於ケル過程ヨリ續行シ且十二月内ニ完結セラルベク右期限ハ事情已ムヲ得ザル場合ニハ法院ノ裁量ニ依リ延長セラルルコトヲ得

右申進旁吾人ハ茲ニ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年二月十七日南京ニ於テ

「ブラジル」國代理公使ノ爲ニ

ゼー、ド、ピント、デアアツ

米國公使ノ爲ニ

ジヨゼフ、イー、ゼーコブス

英國公使ノ爲ニ

ダブルユー、メーリツク、ヒューレツト

諸威國代理公使ノ爲ニ

エー、ル、グ、ロン、グ、オ、ルト

和蘭國代理公使ノ爲ニ

エフ、エー、ハー、グルー、ン、マン

佛蘭西國公使ノ爲ニ

ウー、ー、ケ、ク、ラ、ン

各署名委員外交代表者宛簡別的復翰

上海共同租界ニ於ケル支那國法院ニ關スル協定

以書翰啓上致候陳者上海共同租界ニ於ケル地方法院及高等法院分院ノ設置ニ關シ本日調印シタル協定ニ關シ貴翰ヲ以テ左ノ諸點ノ確認ヲ御要求相成敬承致候

(前記八點ヲ記載ス)

右ニ對シ本部長ハ前記諸點ノ瞭解ヲ確認スルノ光榮ヲ有シ候

右回答旁(以下例文)

外交部長ノ爲ニ
徐

讓

追加公文

以書翰啓上致候陳者本日吾人ノ調印シタル上海共同租界ニ新ニ支那國司法制度ヲ設置スル協定ニ關シ吾人ハ斯クノ如キ協定ガ關係諸國及支那國間ノ現存條約ニ依リ右諸國及其ノ國民ニ對シ保障セラレタル權利ニ何等影響ヲ及ボシ又ハ之ヲ無効ナラシムルヲ得ザルコトヲ指摘セント欲スル者ニ有之從テ吾人ハ此ノ點ニ關シ吾人ノ完全ナル權利ヲ留保致候

尙吾人ハ將來ノ支那國法令ニシテ共同租界ノ土地章程又ハ

細則ニ影響ヲ及ボシ若ハ何等カノ方法ニ依リ之ヲ無効ナラシメ或ハ同區域内ノ安寧秩序ノ維持ニ有害ナリト認メラレタルガ如キモノノ共同租界ニ於ケル施行ニ反對スルノ權利ヲ留保致候

右申進旁(以下例文)

千九百三十年二月十七日支那國南京ニ於テ

「ブラジル」國代理公使ノ爲ニ

ゼー、ド、ピント、デアアツ

米國公使ノ爲ニ

ジョゼフ、イー、ゼーコブス

英國公使ノ爲ニ

ダブルユー、メーリツク、ヒューレツト

諾威國代理公使ノ爲ニ

エル、グ、ロンツ、オ、ルト

和蘭國代理公使ノ爲ニ

エフ、エー、ハー、グルー、ン、マン

佛蘭西國公使ノ爲ニ

ウー、ー、ケ、ク、ラ、ン

外交部長 王 正 廷 閣下

威海衛還付ノ爲ノ條約

千九百三十年四月十八日署名
千九百三十三年十月一日批准

一、威海衛還付ノ爲ノ條約

「グレート、ブリテン」「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下及支那共和國國民政府主席閣下ハ千八百九十八年七月一日ノ條約ニ基キ英國皇帝ニ對シ支那國ニ依リ租借權ヲ與ヘラレタル威海衛地域ガ支那國ニ對シ完全ナル主權ノ下ニ回復セラルベキコトヲ希望シ右目的ヲ以テ條約ヲ締結スルニ決シ之ガ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

「グレート、ブリテン」「アイルランド」及「グレート、ブリテン」海外領土皇帝印度皇帝陛下

「グレート、ブリテン」及北都「アイルランド」ノ爲ニ

支那共和國駐劄特命全權公使 サー、マイルス、ウエ

ダーバーン、ランブソン

支那共和國國民政府主席閣下

支那共和國外交部長 王 正 廷

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一條 千八百九十九年乃至千九百一十一年ノ境界委員會ニ依リ定メラレタル境界標石ヲ以テ區別セラレ威海衛灣全海岸線ニ沿ヒテ内地十哩ニ達スル地帯ヨリ成リ劉公島及威海衛灣内ニ在ル一切ノ他ノ島嶼ヲ含ム威海衛地域ハ茲ニ

支那共和國ニ對シ英國皇帝ニ依リ返還セララル

第二條 千八百九十八年七月一日締結セラレタル威海衛ノ租借ニ關スル條約ハ茲ニ廢棄セララル

第三條 劉公島ヲ含ム威海衛地域ニ現在駐屯スル英國守備隊ハ本條約ノ實施ノ日ヨリ一月以内ニ撤退セララルベシ

第四條 「グレート、ブリテン」及北都「アイルランド」聯合王國ノ政府ハ威海衛ニ於ケル英國行政廢止ノ所有ニ係ル記録、登記簿、地券及他ノ書類ニシテ行政ノ移轉ノ爲ニ有用ナルベキモノハ國民政府ニ依ル該地域ノ今後ノ行政ノ爲ニ有用ナルベキモノト共ニ支那共和國ノ國民政府ニ交付スベシ

第五條 聯合王國ノ政府ハ同政府ニ所屬スル威海衛地域ニ於ケル一切ノ土地及建物ヲ支那共和國ノ國民政府ニ讓與ス

第六條 聯合王國ノ政府ハ「ウイタトリ」埠頭及埠口改良計畫ニ關スル特別取立金ニ依リ設ケラレタル凡テノ工作物及小蒸汽船「ガリア」號ヲ含ム購入物品ヲ無償ニテ支那共和國ノ國民政府ニ對シ交付ス

第七條 聯合王國ノ政府ハ芝罘威海衛間海底電線竝ニ附屬書第一ニ列記ノモノヲ含ム官有備品ヲ支那共和國ノ國民政府ニ讓與ス

第八條 聯合王國ノ政府ハ土地建物及現在ノ設備ヲ含ム「エドワード」港及温泉湯ニ於ケル公共病院ヲ無償ニテ支那共和國ノ國民政府ニ交付ス

第九條 聯合王國ノ政府ハ劉公島ニ於テ曩ニ支那國政府ニ依リ所有セラレタル土地ヲ其上ニ在ル建物ト共ニ支那共和國ノ國民政府ニ對シ還付シ且該島ニ於テ買取ニ依リ其ノ後收得シタル土地及同島ニ於ケル敷地ニ關スル聯合王國ノ政府ノ爲ノ一切ノ租借權ヲ租借セラレタル土地ニ在ル建物ニ關シ將來享有スベキ權利ト共ニ交付ス

第十條 威海衛行政ノ移轉及該地域ニ於ケル公有財產ノ移轉ハ本條約ニ依ル他ノ事項ノ移轉ト共ニ本條約實施ノ日ニ行ハルベシ

第十一條 支那共和國ノ國民政府ガ還付後ニ威海衛地域ノ

威海衛還付ノ爲ノ條約

八三三

行政ヲ引受クルトキハ土地及家屋ノ稅、衛生及建築ノ規定並ニ警察ヲ含ム現行諸規定ハ出來得ル限り維持セラレベシ

第十二條 威海衛地域内ニ於テ所定ノ形式ニテ英國行政廳ニ依リ支那人ノ地主ニ對シ發給セル千九百十九年ノ英國威海衛管轄地條例第六號ニ依ル一切ノ地券、讓渡及抵當證書並ニ執照ハ證書ガ改訂又ハ追加證書ノ發給ヲ必要トスル支那國法令ニ反セザル限り前記條例ノ規定ヲ留保シ英國行政期間中ニ於ケルト同標ノ效力アルモノト認メラルベシ

第十三條 規定ノ形式ニ從ヒ威海衛ノ英國行政廳ニ依リ支那人以外ノ者ニ對シ發給セラレタル一切ノ地券ハ鎮江舊英租界ニ於ケル外國人土地所有者ニ對シ支那國官憲ニ依リ最近發給セラレタルモノト同一ノ形式ニ於テ支那國ノ永租地契ト交換セララルベシ一町歩ニ付一元ノ登記料徴收セラル威海衛英國行政廳ノ發給セル一切ノ借地證書ハ支那共和國ノ國民政府ニ依リテ認メラルベシ支那共和國ノ國民政府ガ專ラ海軍根據地トシテ利用スルノ目的ヲ以テ外國人ノ居住及通商ニ對シ威海衛港ヲ閉鎖スルニ決シタルトキハ外國人タル不動産所有者及借地權者ノ利益ハ支

那國及聯合王國ノ政府間ニ取極メラルル公正ナル補償ヲ以テ買收セラルベク右兩國政府ハ各箇ノ場合ニ於ケル右補償額ヲ決定スル爲ノ共同委員會ヲ任命スベシ

第十四條 支那共和國ノ國民政府ハ特ニ本土上及本土諸島間ノ電話事業並ニ威海衛本土及諸島並ニ芝罘間ノ電信事業ヲ含ム現存ノ公共事業ヲ優秀ナル職員ヲ使用シテ維持スベシ

第十五條 還付前ニ宣告セラレタル英國威海衛高等法院又ハ地方法院ノ一切ノ判決ハ右ガ支那國法院ニ依リ爲サレタル判決ト同一ナル如ク效力ヲ有スルモノト還付後ニ於テモ認メラルベシ

第十六條 支那共和國ノ國民政府ハ威海衛港ヲ閉鎖シ專ラ海軍根據地トシテ之ヲ保留スルニ決定セザル限り及右ニ決定スル迄國際ノ居住及通商ノ地域トシテ之ヲ維持スベク外國人タル不動産所有者及借地權者ガ現ニ居住スル一切ノ場所ヲ包含セシムベシ

第十七條 支那國ニ於ケル地方自治ノ制度ヲ規定スル法令ノ制定一般ノ適用ニ至ル迄支那國ノ地方官憲ハ威海衛ニ居住スル外國人ノ福祉及利益ニ直接影響ヲ及ボスベキ市政事項ニ就テハ右外國人ノ意見ヲ確ムベシ

第十八條 支那共和國ノ國民政府ハ威海衛港ヲ閉鎖シ專ラ海軍根據地トシテ之ヲ保留スルニ決定セザル限り及右ニ決定スル迄英國領事館ノ要求及居留民ノ公共利益ノ爲附屬書第二ニ列記セル威海衛地域内ニ於ケル一定ノ土地及建物ヲ租借者ニ依ル更新ノ選擇權ト共ニ三十年ノ期間無償ニテ聯合王國ノ政府ニ貸與スベシ

第十九條 現存ノ航海補助施設即チ燈臺、水路浮標、暴風雨信號等ハ無償ニテ支那共和國ノ國民政府ニ對シ移讓セラレベク且支那國ノ開港場ニ於ケルト同標ノ方法ニテ港務ヲ管理スベキ支那國ノ關係官廳ニ依リ將來ニ互リ維持セララルベシ

第二十條 本協約ハ批准セララルベシ右批准書ハ千九百三十年十月一日即チ民國十九年十月一日若ハ其ノ以前南京ニ於テ交換セララルベシ

本協約ハ批准書交換ノ日ヨリ實施セララルベシ
右證據トシテ前記各全權委員ハ本協約二通ニ署名調印セリ
千九百三十年四月十八日即チ民國十九年四月十八日南京ニ於テ之ヲ作成ス

(署名) マイルス、ダブリュー、ランブソン
(署名) 王 正 廷

威海衛還付ノ爲ノ條約

二、附屬書第一

支那國官憲ニ交付セラルベキ備品ハ左記ヲ含ム

官公署及住宅ニ在ル家具ノ一部

電信線(島嶼及本土)

小蒸汽船「アレキサンドラ」號及汽艇二隻

威海衛行政廳ニ屬スル一切ノ街燈及電柱並ニ街燈ノ豫備品

衛生用ノ馬車、騾馬及馬具

消防用蒸汽「ポンプ」

電話機、電柱、碍子、電線及交換機

巡查制服(現在使用品及豫備品)

各種警察備品

自 轉 車

小銃其他(警察現在使用品)及彈藥

電話線(島嶼及本土)

三、附屬書第二

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ノ政府ニ對シ支那共和國ノ國民政府ニ依リ貸與セラルベキ威海

衛地城ニ於ケル土地及建物ノ表

行政長官ノ住宅、庭園及厩舎ハ領事ノ官舎ニ充ツル爲又
下士官宿舎及庭園ハ領事館事務所ニ充ツル爲貸與セラ
ルベシ

「エドワード」港及劉公島ニ在ル二箇ノ外國人墓地

舊兵營ノ一棟「A」ハ英國人俱樂部ニ充ツル爲貸與セラ
ルベシ但シ該俱樂部ノ廢止ノ場合ニハ建物ハ支那共和國
國民政府ニ對シ無償ニテ返還セララルベシ

練兵場トシテ知ラレ居ル荒蕪地ノ一廓ニ闢シテハ公共運
動場及「ゴルフ」場トシテ現在通り引續キ使用セラ
ルベキコトヲ協定ス但シ右土地ハ港城擴張ヲ含ム公共ノ目的
ノ爲ニ必要トセラレザルトキニ限ル右ノ場合ニ於テハ支那
國行政廳ハ先ヅ其ノ代替トシテ同様ニ適當ナル運動場及
「ゴルフ」場ヲ他ノ場所ニ設定スベシ

劉公島ニ於ケル公共墓地ヲ除キ前記ノ土地及建物ヲ示ス
地圖ハ添附セララル

四、協定(劉公島ニ關スル協定)

各其ノ政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ左ノ如ク協定
セリ

用ツ支那國海軍ニ次デ許與セララルベシ但シ英國皇帝陛
下又ハ支那共和國ノ何レカヲ當事者トスル戰爭ノ場合
ニ於テハ英國皇帝陛下ノ軍艦及補助艦船ハ國際慣例ニ
從ヒテ劉公島ノ水面ヨリ撤退スベシ

(二) 英國皇帝陛下ノ海軍ノ軍艦ハ漁網ニ損害ヲ與ヘザル
様相當ナル注意ヲ拂ヒ前記投擲所ヨリ外海ニ向ヒ標的
射撃演習ヲ行フノ特權ヲ許與セララルベシ

(三) 本協定第一條ニ定メラレタル劉公島ニ於ケル一定ノ
建物及便益ガ聯合王國ノ政府ニ對シ貸與セララルル期間
中英國皇帝陛下ノ海軍ハ支那國官憲ヨリ許可ヲ受ケタ
ル後劉公島ニ於テ練兵及小銃射撃演習ヲ爲ス爲兵員ヲ
上陸セシムルノ特權ヲ認メララルベシ右許可ハ申請ニ依
リ與ヘラルベク且毎年更新セララルベシ地方的擾亂勃發
ノ場合ニ於テハ右特權ハ地方官憲ニ依リ爲サルベキ申
出ニ依リ一時停止セララルコトアルベシ

第四條 英國皇帝陛下ノ海軍ノ爲ノ一切ノ種類ノ備品ノ威
海衛ニ於ケル輸入、貯藏、積込及積換ハ外國貿易ニ對シ
開カレタル港ノ慣例ニ從ヒ許サラルベシ聯合王國ノ政府ハ
劉公島ニ武器又ハ彈藥ヲ貯藏セザラルベシ

第五條 威海衛水面ニ英國皇帝陛下ノ海軍ニ依リ設置セ
ル

威海衛還付ノ爲ノ條約

第一條 支那共和國ノ國民政府ハ十年ヲ期間トシ威海衛
內劉公島ニ於テ本協定ニ添附セラレタル附屬書ニ列記ス
ル如キ一定ノ建物並ニ便益ヲ英國皇帝陛下ノ海軍ノ使用
ニ供スル爲療養所及避暑地トシテ「グレート、ブリテン」
及北部「アイルランド」聯合王國ノ政府ニ對シ貸與スベシ
右ハ協定ニ依リ同一ノ條件ノ下ニ若ハ兩國政府間ニ協定
セララルベキ他ノ條件ノ下ニ更新スルノ選擇權アルモノト
ス貸與期間ノ終了セルトキハ一切ノ土地及建物ハ國民政
府ニ復歸スベシ

第二條 支那共和國ノ國民政府ハ劉公島ニ於ケル現行市調
(即チ道路、埠頭、警察、衛生及照明)ヲ能ク限リ有效ニ
維持シ、現存森林ヲ保存シ、娼家ヲ許可スルコト無ク、
許可ヲ得タル店舗以外ニ於ケル酒精飲料ノ販賣ヲ禁ジ且
農耕ニ關スル現行規定ヲ維持スベシ國民政府ハ劉公島ニ
於ケル官有ノ土地又ハ建物ヲ賣却シ又ハ賃借ヲ許可スル
ニ當リ該賣買又ハ賃借契約ハ前記諸項ノ遵守ヲ履行ス
ルノ條件ヲ包含スベキコトヲ約ス

第三條 (一) 四月ヨリ十月ニ至ル間ニ於テ劉公島及其ノ水
面ニ赴來スル英國皇帝陛下ノ軍艦及補助艦船ハ英國皇
帝陛下ノ海軍ニ依リ渡海セラレタル投擲所ノ部分ノ使

レタル現存ノ浮標及繫船索具ハ無償ニテ支那共和國ノ國
民政府ニ對シ移讓セララルベク支那國海軍ニ次デ英國皇帝
陛下ノ海軍ノ使用ノ爲支那共和國ノ國民政府ニ依リ維持
セララルベシ但シ之等ノ一切ノ浮標及索具ハ支那國海軍又ハ
港務官憲ガ便宜ナリト認メタル如ク隨時移置セララルベシ
第六條 本協定ハ批准セララルベク其ノ批准書ハ千九百三十
年十月二日即チ民國十九年十月一日若ハ其ノ以前ニ南京
ニ於テ交換セララルベシ本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ實施
セララルベシ

右證據トシテ正當ノ委任ヲ受ケタル下名全權委員ハ本協定
二通ニ署名調印セリ
千九百三十年四月十八日即チ民國十九年四月十八日南京ニ
於テ之ヲ作成ス
「グレート、ブリテン」及北部「アイル
ランド」聯合王國政府ノ爲ニ
マイルス、ダブリン、ランブソン
支那共和國國民政府ノ爲ニ
王 正 廷

五、附屬書

支那共和國ノ國民政府ニ依リ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ノ政府ニ對シ劉公島ニ於テ許與セラレタル便益竝ニ貨與セラレタル土地及建物ノ表

- (一)「ゴルフ」俱樂部竝ニ「ゴルフ」俱樂部建物
- 海軍基地
- 海軍將官住宅地
- 准士官集會所及「テニス、コート」
- 士官及水兵用運動場(其ノ上ニ在ル建物、「ホツケー」及「クリツケット」場竝ニ「テニス、コート」ヲ含ム)
- 及士官用「スクオツシユ、コート」
- (七)「病院用地」中其ノ略中央ヲ横斷スル道路ノ南側ニ在ル部分及其ノ上ニ在ル建物其ノ他竝ニ添附地圖「A」ニ示ス司令長官ノ「テニス、コート」
- 司令長官ノ事務所(六一)及接續セル家屋(六二)
- 陸海軍聯合俱樂部及庭園(五七)
- 圖ニ示ス(五二)、(五四)、(五五)、(五八)、(五九)、(六〇)、(七三)各號住宅及庭園
- 病院(五三)、病院倉庫(五〇)、病院職員住宅(四九)及發電所(五一)

(三) 倉庫(七〇)、(三〇一四〇)、(七五)、(四七)、(四八)、(六八)、(二九A)及兩物置場(二九)(石炭六千噸ヲ貯藏スルコトヲ得)

(三) 王國海軍酒保(共和國ノ國民政府ニ依リテ之ニ代ルベキ適當ナル建物ノ供與セララルル迄一時的ノモノトシテ)

「註」 括弧内ノ番號ハ添附地圖「B」ノ對照番號ヲ示ス

支那國海軍ト共用スベキ便益竝ニ土地及建物
(一) 小銃射擊場(土地及建物ヲ含ム)
(二) 掘抜井戸二箇
(三) 鐵製棧橋
及海軍ノ石炭運搬用舢舨ノ碇泊裝置及石炭人夫ノ爲ノ便益

威海衛還付條約ノ規定ニ依リテ交付セラルベキ採石場ニ關シテハ聯合王國ノ政府ハ必要ニ應ジ無償ニテ石材ヲ採取スルコトヲ許可セラルベシ前記ノ土地及建物其ノ他ヲ示ス地圖「A」及「B」ハ添附セラル

日本帝國ト支那共和國トノ間ニ締結セラレタル協定(日支關稅協定)

昭和五年五月六日南京ニ於テ署名

日本國政府及支那共和國國民政府ハ各自ノ代表者ニ依リ左ノ諸條ヲ協議締結セリ

第一條 日本國及支那國ノ政府ハ日本國ノ領域内及支那國ノ領域内ニ於ケル物品ノ輸入及輸出ニ對スル稅率、戻稅、通過稅竝ニ噸稅ニ關スル一切ノ事項ガ夫々日本國及支那國ノ法令ニ依リ專ラ規律セラルベキコトヲ約ス

第二條 日本國及支那國ノ政府ハ物品ノ輸入及輸出ニ對シ適用セラルル關稅、戻稅、通過稅及他ノ一切ノ同様ノ内國課金ニ關シ、噸稅ニ關シ竝ニ右ニ關スル一切ノ事項ニ關シ自國民又ハ他ノ何レカノ外國ノ政府及其ノ國民ニ與ヘラレ又ハ與ヘラルベキ所ニ比シ不利益ナラザル待遇ヲ受クベシ

日支關稅協定

日本國又ハ支那國ノ領域内ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル物品ニシテ他方ノ領域内ニ輸入セラルルモノハ其ノ何レノ地ヨリ到ルヲ問ハズ輸入稅、戻稅、通過稅及他ノ一切ノ同様ノ内國課金ニ關シ竝ニ右ニ關スル一切ノ事項ニ關シ他ノ何レカノ外國ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル物品ニシテ他ノ何レカノ外國ニ輸出セラルルモノニ與ヘラレ又ハ與ヘラルベキ所ニ比シ不利益ナラザル待遇ヲ受クベシ

第三條 前記諸條及本協定附屬交換公文ニ掲ゲラルル規定

日支關稅協定

ハ日本帝國ト支那共和國トノ間ニ成ルベク速ニ商議セラレ且締結セラレベキ通商航海條約ニ包含セラレ且其ノ一部ヲ構成スベシ

第四條 本協定ノ日本語、支那語及英吉利語ノ本文ハ慎重ニ比較セラレ且照合セラレタリ但シ右本文間ニ意義ノ相違アル場合ニ於テハ英吉利語ノ本文ニ表示セララルル意義ニ據ルベシ

第五條 本協定ハ其ノ署名ノ日ノ後十日日ヨリ實施セララルベシ

昭和五年五月六日即チ支那共和國十九年五月六日南京市ニ於テ本書二通ヲ作成ス

支那國駐劄日本國臨時代理公使

重 光 葵

支那共和國國民政府外交部長

王 正 廷

第一附屬書

〔往翰〕

以書翰啓上致候陳者閣下及本使ガ本日署名シタル協定ニ關

シ本使ハ日本國政府ガ左ノ如ク了解スルコトヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

一 前記協定ノ實施ノ日ヨリ起算シ支那國政府ハ本協定ノ附屬表第一部ノ第一、第二及第三項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ三年間又右附屬表第一部ノ第四項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ一年間日本國ノ領域内ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル右諸項目ニ屬スル物品ニシテ支那國ノ領域内ニ輸入セラルルモノニ對シ右夫々ノ期間内課セラルル輸入稅ノ最高率トシテ維持スベキコト但シ支那國政府ガ稅率ノ引上ニ關シ右附屬表ニ於テ爲シタル留保ニ從フベキモノトス

二 日本國政府ハ前記協定ノ實施ノ日ヨリ三年間ハ本協定ノ附屬表第二部ノ三項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ支那國ノ領域内ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル右諸項目ニ屬スル物品ニシテ日本國ノ領域内ニ輸入セラルルモノニ對シ右期間内課セラルル輸入稅ノ最高率トシテ維持スベキコト

本使ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラルルヲ得ベシ甚ノ至ニ存ジ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

表

第一節

千九百二十九年ノ支那國輸入稅表ニ於ケル番號

項目番號	品名	支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷閣下
一	綿製品	重 光 葵
二	漁獲物及海產物	
三	小麥粉	
四	雜品	

一乃至一〇、一二乃至一四、二二乃至二四、二六乃至三二、三七、三八、四〇、四三、四六、四七、五一、五三、五八、五九

一九六乃至一九九、二〇二、二〇五、二〇六、二一三、二二六、二二七、二二八、二三一

二八〇

三〇二、五六七、五六八、六〇三乃至六〇五、六一二、六四七、六五二、六六六、六七七、六八五、七〇六、七〇九

(一)、七〇九(ト)、七一〇、七一五

本表第一部ニ掲ゲラルル番號ハ千九百二十九年ノ支那國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ掲ゲラルル同一ノ物品ヲ示ス但シ左記番號ハ其ノ下ニ列記セラルル物品ノミヲ示ス

六五二(ロ) 護謄製ノ短靴及長靴並ニ全部又ハ一部護謄ニテ作ラレタル履物

六六六(ロ) 掛置時計及一單位ニ粗立テラレタル「ムーヴメント」(一打ニ付價格四十海關兩ヲ超エザルモノ)

六七七(ハ) 海狸毛又ハ毛以外ノ材料ニテ作ラレタル「フェルト」製ノ帽子(一打ニ付價格十五海關兩ヲ超エザルモノ)

七〇六 魔法蟻及同部分品(一打ニ付價格十五海關兩ヲ超エザルモノ)

七〇九(一) 電氣機械及同部分品

七一〇 玩具及遊戲品

七二五 車輛 別號ニ掲ゲラレザル「ヴェロシピード」(例ハ、六、自轉車等、一箇ニ付價格四十海關兩ヲ超エザルモノ)

本表第一部ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ前記稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ記載セラルル稅率ト同一タルベシ但シ

側線ヲ附セラザル番號ニ屬スル物品ニ對スル稅率ニ關シテハ支那國政府ハ前記稅率ヲ從價二分五厘ヲ超エザル範圍内ニ於テ引上グルノ權利ヲ留保スルモノトシ從量稅率ニ付テハ右ニ規定セラルル引上ハ前記稅表ニ於ケル稅率ガ決定セラレタル原課稅價格ヲ一律ニ又ハ千九百二十八年ニ稅率改訂委員會ニ依リ採擇セラレタル課稅價格ヲ一律ニ基礎トシテ行ハルベシ

支那國政府ハ輸入關稅以外ニ輸入綿織絲(番號第五十一)ニ對シ消費稅ヲ課スルノ權利ヲ留保ス

第二部

項目番號	品名	現行日本國輸入稅表ニ於ケル番號
一	豆	二九五、五(幅四十八センチメートルヲ超エタルモノヲ除ク)
二	絹織物	三〇三、三ノ甲、イ及ロ
三	刺織布	三〇八(手工品ニ限ル)

本表第二部ニ掲ゲラルル番號ハ別ニ明記ナキ限り現ニ實施中ノ日本國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ掲ゲラルルト同一ノ物品ヲ示ス

本表第二部ノ第一項目ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ現

ニ實施中ノ日本國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ記載セラルル稅率ト同一タルベク又本表第二部ノ第二及第三項目ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ費澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律ニ依リ現ニ課セラルル稅率ニ比シ三割ヲ減ゼラルベシ

〔來翰〕

以書翰啓上致候陳者本部長ハ本日附ノ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

閣下及本使ガ本日署名シタル協定ニ關シ本使ハ日本國政府ガ左ノ如ク了解スルコトヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

一 前記協定ノ實施ノ日ヨリ起算シ支那國政府ハ本輪ノ附屬表第一部ノ第一、第二及第三項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ三年間又右附屬表第一部ノ第四項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ一年間日本國ノ領域内ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル右諸項目ニ屬スル物品ニシテ支那國ノ領域内ニ輸入セラルルモノニ對シ右夫々ノ期間内課セラルル輸入稅ノ最高率トシテ維持スベキコト但シ支那國政府ガ稅率ノ引上ニ關シ右附屬表ニ於テ爲シタル留保ニ從フベキモノトス

二 日本國政府ハ前記協定ノ實施ノ日ヨリ三年間ハ本輪ノ附屬表第二部ノ三項目ノ下ニ課セラルル稅率ヲ

支那國ノ領域内ニ於テ生産セラレ又ハ製造セラレタル右諸項目ニ屬スル物品ニシテ日本國ノ領域内ニ輸入セラルルモノニ對シ右期間内課セラルル輸入稅ノ最高率トシテ維持スベキコト

本使ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存シ候

本部長ハ前記了解ガ正確ナルコトヲ支那共和國國民政府ノ爲ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

本部長ハ茲ニ重テ貴代理公使ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

支那共和國十九年(千九百三十年)五月六日

南京ニ於テ

王 正 廷

支那國駐劄日本國臨時代理公使 重 光 奏 殿

(第一部、第二部前掲ト同文ニ付キ省略)

第二附屬書

日支國稅協定

〔來翰〕

以書翰啓上致候陳者支那國ト日本國トノ間ニ本日署名セラレタル協定ニ關シ本部長ハ右協定ノ實施後四月ノ期間ノ滿了ト同時ニ、支那國ト日本國トノ間ノ陸境ヲ通過シテ輸入セラレ又ハ輸出セラルル物品ニ對シ從來課セラレタル支那國關稅輕減率ガ廢止セラルベク且輕減セラレザル關稅率ガ右物品ニ對シ適用セラルベシト本部長ノ了解ヲ貴下ニ於テ日本國政府ノ爲ニ確認セラレンコトヲ要求スルノ光榮ヲ有シ候

本部長ハ茲ニ重テ貴代理公使ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

支那共和國十九年(千九百三十年)五月六日

南京ニ於テ

王 正 廷

支那國駐劄日本國臨時代理公使 重 光 奏 殿

〔往翰〕

以書翰啓上致候陳者本使ハ本日附ノ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

支那國ト日本國トノ間ニ本日署名セラレタル協定ニ關シ本部長ハ右協定ノ實施後四月ノ期間ノ滿了ト同時ニ、支那

國ト日本國トノ間ノ陸境ヲ通過シテ輸入セラレ又ハ輸出セラレル物品ニ對シ從來課セラレタル支那關稅輕減率ガ廢止セラレベク且輕減セラレザル關稅率ガ右物品ニ對シ適用セラレベシトノ本部長ノ了解ヲ貴下ニ於テ日本國政府ノ爲ニ確認セラレンコトヲ要求スルノ光榮ヲ有シ候本使ハ前記了解ガ正確ナルコトヲ日本國政府ノ爲ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月六日南京ニ於テ

重 光 奏

支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷閣下

第三附屬書

〔往翰〕

以書翰啓上致候陳者本使ハ支那國政府ガ支那國ニ於ケル通商ノ促進ノ障害タル釐金、常關稅、沿岸貿易稅及通過稅並ニ他ノ同様ノ課金ノ如キ一切ノ租稅及課金ヲ成ルベク速ニ廢止スルノ意嚮ヲ有スル旨ノ陳述ガ關稅率ノ問題ニ關スル閣下ト本使トノ間ノ商議中ニ於テ爲サレタルコトニ付閣下ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ支那國政府ノ前記意嚮ヲ實行スル爲支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ執ラレタルカ又ハ執ラレベキカニ付閣下ニ於テ本使ニ通告セララルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月六日南京ニ於テ

重 光 奏

支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷閣下

〔來翰〕

以書翰啓上致候陳者本部長ハ本日附ノ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ支那國政府ガ支那ニ於ケル通商ノ促進ノ障害タル釐金、常關稅、沿岸貿易稅及通過稅並ニ他ノ同様ノ課金ノ如キ一切ノ租稅及課金ヲ成ルベク速ニ廢止スルノ意嚮ヲ有スル旨ノ陳述ガ關稅率ノ問題ニ關スル閣下ト本使トノ間ノ商議中ニ於テ爲サレタルコトニ付閣下ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ支那國政府ノ前記意嚮ヲ實行スル爲支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ執ラレタルカ又ハ執ラレベキカニ付閣下ニ於テ本使ニ通告セララルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候

キコト本國政府ニ依リ提言セラレ候
本使ハ支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ前記整理ヲ實施スル爲執ラレタルカ又ハ執ラレベキカニ付閣下ニ於テ本使ニ通知セララルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候
本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月六日南京ニ於テ

重 光 奏

支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷閣下

〔來翰〕

以書翰啓上致候陳者本部長ハ本日附ノ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ日本國債權者ニ支持ハルベキ支那國ノ無擔保及不確實擔保ノ債務ノ多數且多額ナルニ鑑ミ右債務ノ迅速ナル整理ガ極テ望マシキモノナリト認メラルル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候右目的ノ爲債權者ノ代表者ノ會議ガ支那國政府ニ依リ最近ノ期日ニ於テ招集セラレベキコト本國政府ニ依リ提言セラレ候

本使ハ支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ前記整理ヲ實施スル爲執ラレタルカ又ハ執ラレベキカニ付閣下ニ於テ本

本部長ハ右受領セラレタル貴翰ニ掲ゲラルル一切ノ稅金及課金ヲ成ルベク速ニ且能ク廢止スルコトニ支那國政府ガ努力中ナルコトヲ貴下ニ通知スルコトヲ欣幸トスルモノニ候
支那國政府ハ既ニ千九百三十年十月十日ヨリ釐金ヲ廢止スルコトヲ命ズル政府令ヲ發シ且右命令ヲ實施スルニ必要ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ財政部長ニ訓令致候
本部長ハ茲ニ重テ貴代理公使ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

支那共和國十九年(千九百三十年)五月六日

王 正 廷

支那國駐劄日本國臨時代理公使 重 光 奏

第四附屬書

〔往翰〕

以書翰啓上致候陳者本使ハ日本國債權者ニ支持ハルベキ支那國ノ無擔保及不確實擔保ノ債務ノ多數且多額ナルニ鑑ミ右債務ノ迅速ナル整理ガ極テ望マシキモノナリト認メラルル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候右目的ノ爲債權者ノ代表者ノ會議ガ支那國政府ニ依リ最近ノ期日ニ於テ招集セラレベ

希臘國支那國間修好條約

八四六

使ニ通知セラルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候

本部長ハ支那國政府ガ支那國ノ内債及外債ヲ整理スル爲メ
稅收入ヨリ毎年五百萬元ノ額ヲ積立ツルコトヲ既ニ開始シ
タルコト竝ニ支那國政府ガ本年十月一日又ハ同日目前ニ債權
者ノ代表者ノ會議ヲ召集スルノ意嚮ヲ有シ該會議ニ於テハ
本件整理ヲ實施スル爲メノ方法(前記金額ノ増額ヲ含ム)ヲ案
出スルノ目的ヲ以テ適當ナル整理案ガ提出セラレ且討論セラ
ルベキコトヲ貴下ニ通知スルコトヲ欣幸トスルモノニ候
本部長ハ茲ニ重テ貴代理公使ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
支那共和國十九年(千九百三十年)五月六日
南京ニ於テ

支那國駐劄日本國臨時代理公使 重光 葵殿
王 正 廷

希臘國支那國間修好條約

千九百二十九年九月三十日
巴里ニ於テ署名

千九百三十年六月十四日巴里ニ於テ批准書交換

希臘共和國及支那共和國ハ兩國ノ經濟的及商業的關係ノ發
展ヲ容易ナラシムベキ條約ニ依リ友好關係ヲ更ニ鞏固ナラ
シメントノ希望ニ促サレ且平等及領土主權尊重ノ主義ノ適
用ガ國民間ノ良好ナル了解ヲ維持スル唯一ノ方法ナルコト
ヲ認メ之ガ爲メ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ
希臘國大統領
巴里駐劄希臘國特命全權公使 エヌ、ポリテイス
支那共和國政府
巴里駐劄支那國特命全權公使 高 魯

因テ各全權委員ハ其ノ全權委任狀ヲ交換シタル後左ノ諸條
ヲ協定セリ
第一條 希臘國支那國間竝ニ其ノ國民間ニハ永久ナル平和
及堅固ナル和親アルベシ

第二條 兩締約國ハ國際法ニ基キ他ノ國民ノ同様ナル使臣
ニ附與セラルベキ特權及免除ヲ其ノ駐劄國ニ於テ相互的
ニ享有スベキ正當ニ信任狀ヲ所持スル外交官ヲ相互ニ任
命シ且派遣スルノ權利ヲ有スベキコトヲ協定ス兩締約國
ハ外國領事官ノ駐在ガ許可セララル兩國ノ主要都市ニ駐

在スベク且各自ニ相當スル好意及尊敬ヲ以テ待遇セララル
ベキ總領事、領事、副領事若ハ貿易事務官ヲ任命スルノ
權利ヲ有スベシ

總領事、領事、副領事若ハ貿易事務官ハ其ノ駐在スル國
ノ政府ニ依リ發給セラレタル認可狀ヲ職務執行ニ到ル前
ニ取得スベキモノトス
前記政府ハ適當ナル理由ヲ示シテ認可狀ヲ撤回スルコト
ヲ得ベシ

兩締約國ハ名譽領事ノ名義ヲ以テスル外商人ヲ總領事、
領事、副領事若ハ貿易事務官トシテ任命スルコトヲ差控
フベシ

第三條 兩締約國ノ一方ノ領土内ニ居住スル他方ノ國民ハ
該國ノ法令ニ準據シテ購買シ、賣却シ、旅行シ且又商業
ヲ營ミ又ハ法律上認メラレタル一切ノ他ノ企業ニ從事ス
ルコトヲ一切ノ他ノ國ノ國民ガ爲シ得ル一切ノ地域ニ於
テ爲シ得ベシ

右國民ハ其ノ身體及其ノ財產ニ關シ所在地ノ裁判所ノ管
轄ニ服スベシ右國民ハ其ノ居住スル國ノ法令ニ準據スベ
シ右國民ハ該國ノ國民ノ仕拂フベキ租稅、手数料又ハ課
金ヨリ高額ノモノヲ仕拂ハザルベシ

希臘國支那國間修好條約

八四七

第四條 兩締約國ハ關稅ニ關スル一切ノ事項ハ各締約國ノ
國內法ニ依リ規律セラルベキコトヲ認ム但シ兩締約國ノ
一方ヲ原產地トスル粗製品又ハ既製品ニシテ當該國民ガ
輸入シ又ハ輸出スルモノハ內國民ニ依リ支拂ハルルヨリ
高キ關稅ヲ徵收セラレザルベシ

第五條 本條約ニ依リ規定セラレザル事項ニ關シテハ兩締
約國ハ本條約ノ基礎ヲ爲ス平等及領土主權ノ相互尊重ノ
主義ヲ適用スルコトヲ協定ス

第六條 本條約ハ希臘語、支那語及佛蘭西語ヲ以テ二通作
成セラル解釋ノ相違ノ場合ニハ佛蘭西語ノ本文ヲ正文ト
ス

第七條 本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ三年間效力アルベシ若
シ兩締約國ガ何レモ右期間滿了前六月ニ之ヲ廢棄セザル
トキハ本條約ハ廢棄セラルル迄實施セラルベク且廢棄ガ
通告セラルベキ日ヨリ六月ノ期間滿了ニ到ラザレバ其ノ
效力ヲ失ハザルベシ

第八條 本條約ハ各其ノ法制ニ從ヒ兩締約國ニ依リ批准セ
ラルベシ
批准書ハ成ルベク速ニ交換セラルベク條約ハ右交換ノ日
ヨリ實施セラルベシ

千九百二十九年九月三十日巴里ニ於テ作成ス

エヌ、ポリテイス
高 魯

希臘國全權委員ヨリ支那國全權委員ヘノ書翰
以書翰啓上致候陳者希臘國政府ハ平等及相互ノ主義ノ基礎
ニ於テ通商條約ヲ最短期間内ニ支那共和國ノ國民政府ト
締結スベキコトヲ希望スル旨貴委員ニ通報スルノ光榮ヲ有
シ候

本委員ハ茲ニ貴委員ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十九年九月三十日巴里ニ於テ

エヌ、ポリテイス

支那共和國希臘共和國間修好條約
約ノ締結及署名ノ爲ノ全權委員 閣下

支那國全權委員ヨリ希臘國全權委員ヘノ書翰

以書翰啓上致候陳者本委員ハ貴委員ガ本日附ソ以テ御送付
相成且左記内容ヲ有スル書翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候
希臘國政府ハ平等及相互ノ主義ノ基礎ニ於テ通商條約ヲ
最短期間内ニ支那共和國ノ國民政府ト締結スベキコト

ヲ希望スル旨貴委員ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

本委員ハ本件ニ關シ全然同意ナル旨支那共和國ノ國民政府
ノ名ニ於テ貴委員ニ通報致候

本委員ハ茲ニ貴委員ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十九年九月三十日巴里ニ於テ

高 魯

希臘共和國支那共和國間修好條約
約ノ締結及署名ノ爲ノ全權委員 閣下

中佛安南條約及議定書

千九百三十年五月十六日於南京調 印

千九百三十五年七月二十日於巴里批准書交換

大中華民國國民政府及佛蘭西共和國政府ハ兩國間幸有ノ睦
誼ヲ鞏固ニシ中國及安南ノ商務關係ヲ發展セシメシコトヲ
欲シ茲ニ新條約締結ノ爲メ左記全權委員ヲ任命セリ
大中華民國國民政府首席

中華民國國民政府外交部長 王 正 廷

佛蘭西共和國大統領

佛蘭西共和國特命全權公使 マ ル テ ル

兩全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ妥當ナルヲ認
メ左ノ如ク協定セリ

第一條 光緒十二年三月二十二日(西曆千八百八十六年四
月二十五日)天津ニ於テ締結セル中佛陸路通商章程、光
緒十三年三月六日(西曆千八百八十七年六月二十六日)北
京ニ於テ續イテ商議セル本文及交渉文書、光緒二十一年
五月二十八日(西曆千八百九十五年六月二十日)北京ニ於
テ締結セル商務特約附屬文書ハ一律ニ廢止シ其ノ效力ヲ
終止シ、光緒十一年四月二十七日(西曆千八百八十五年
六月九日)天津ニ於テ締結セル中佛新條約中ノ第四、第
五、第六條ニ記載セル各規定ハ全部之ヲ廢止ス

第二條 廣西省ノ龍州城、雲南省ノ思茅城、河口城、蒙自
城ハ引續キ中國ト安南間陸路通商地トス

第三條 中國政府ハ安南ノ河内又ハ海防及西貢ニ領事ヲ派
駐スルコトヲ得佛國政府ハ引續キ前條所載ノ各地點ニ領
事ヲ派駐スルコトヲ得領事館、副領事館ノ館長及館長代
理ト其ノ他ノ領事館員ニハ本國人民ヲ任命スベク且商工
業務ヲ經營スルヲ得ズ

第四條 中國人民ニシテ安南ニ入ルモノ及安南在住ノ佛國
人ニシテ中國ニ入ルモノハ各本國官廳ノ發給セル護照ヲ
所持スベク右護照ハ到建國ノ領事館又ハ其ノ指定セル查
證官ノ查證ヲ要ス(一)護照(二)内地通行證及出境證ノ查
證制度(三)中國人民ノ安南ニ入ルモノ及安南在住佛國人
民ノ雲南、廣西、廣東三省ニ入ルモノノ一切ノ手續及身
分證明ノ手續ニ關シテハ兩締約國ハ各本國ノ法律規定ニ
ヨリ互ニ最惠國ノ待遇ヲ與ヘラルベシ

第五條 安南ノ中國人民及前記中國各地點ニ在住スル佛國
人民ハ居住、旅行及商工業經營ノ權利ヲ享有ス凡ソ安南
及中國ノ現行法規ニ照シテ各該人民ニ與フベキ右權利行使
ノ待遇ハ何國人民ノ受ケル待遇ヨリモ劣ラザルモノトス安
南ニ在ル中國人民及前記中國各地點ニ於ケル佛國人民ノ
納付スベキ租稅、課金又ハ其ノ他ノ稅捐ハ最惠國人民ノ完
納スルモノト異リ又ハ之ヨリ高キコトヲ得ザルモノトス

第六條 總テ中國ノ如何ナル開港場ヨリ輸出スル中國貨物
モ道ヲ東京ニ採リ直接雲南、廣西、廣東ノ三省ニ運搬シ

又ハ直通積荷證券ヲ所持スルモノハ優越ノ待遇ヲ享受シ
普通税則内ノ通過税ハ之ヲ適用セザルモノトス右貨物ハ
從價百分ノ一ノ税金ヲ納ムルモノトス雲南、廣西、廣東
三省ヨリ輸出スル中國貨物ハ道ヲ東京ニ採リ何レノ指定
地點ニ運ブ時モ亦同様ニ優越ノ待遇ヲ受ケ普通税則内ノ
通過税ハ之ヲ適用セズ凡ソ各種鐵產、錫塊、生皮及本條
約甲種附表内ニ現在及將來記載セラルベキ各種貨物ハ何
レモ完全ニ免税ノ權利ヲ享有スルモノトス其ノ他各種貨
物ハ從價百分ノ一ノ税金ヲ納入スルモノトス凡ソ中國政
府ノ運搬スル一切ノ軍需品及武器彈藥ガ東京境内ヲ通過
スル時ハ總テ如何ナル税捐ヲモ免除セラルルモノトス
安南ノ船隻ハ軍艦及軍隊軍器彈藥ヲ積載セル汽船ヲ除ク
外諒山ト龍州及高平ヲ連絡スル松古江及諒山ト高平間ノ
高平河ヲ來往航行スルコトヲ得右船隻及其ノ積載貨物ノ
中國國境ヲ通過スルモノハ入境ノ時如何ナル税捐ヲモ免
除ス

第七條 兩締約國政府ハ相互ニ安南及雲南、廣西、廣東ニ
於テ同時ニ他國ノ輸出入及通過ニ適用セラルル禁令制限
ヲ設ケザルコトヲ約ス但シ國防、民命、美術上及科學上
ノ生産品保護、人類動物ノ傳染病豫防、國家專賣ノ收益

保護及善良ノ風俗ヲ維持スル爲メ兩國政府ハ彼此輸出入
ノ貨物ニ對シ輸出入又ハ通過ノ禁令若ハ制限ヲ設ケルコ
トヲ得但シ絕對必要ニシテ同様ノ情況下ニアル各國ニモ
一律ニ適用スルモノヲ限トス

第八條 中國政府ハ雲南、廣西、廣東三省ニ於テ佛國政府
ハ安南ニ於テ如何ナル理由アルモ中佛兩國人民ノ輸出入
貨物ニ對シ其ノ本國人民又ハ何レノ他國人民ノ納付スル
モノヨリ高キ又ハ異ナル消費税又ハ内地税ヲ課セザルモ
ノトス

第九條 中國ニ於テ重罪若ハ輕罪ヲ犯シ又ハ重輕罪犯ノ告
發ヲ受ケ安南境内ニ逃亡セル中國人民及安南ニ於テ重罪
若ハ輕罪ヲ犯シ又ハ重輕罪犯ノ告發ヲ受ケ中國領土内ニ
逃亡セル佛國人民ハ關係長官ノ證明ニヨリ官廳ノ要求ア
リタル時ハ直ニ逮捕引渡スモノトス但シ國際慣例ニ依リ
引渡サザルモノハ此ノ限ニアラズ

第十條 本條約ハ五年ヲ以テ滿期トシ滿期六箇月前ニ兩締
約國ノ一方ハ他方ニ對シ改廢ノ通告ヲナスコトヲ得ベシ
前記期間内ニ雙方ノ通告ナキ時ハ本條約ハ繼續有效トス
但シ前記五年ノ滿期後兩締約國ノ一方ガ隨時改廢ヲ通告
シタル時ハ通告後一箇年ヲ以テ本條約ハ其ノ效力ヲ失フ

モノトス

本條約及附屬文書ハ速カニ批准ヲ爲シ批准書ハ巴里ニ於
テ交換スベシ本條約及附屬文書ハ安南ニ於テ公布シ批准
書交換ノ日ヨリ二箇月後直ニ安南及雲南、廣西、廣東三
省ニ於テ同時ニ效力ヲ發生スルモノトス

第十一條 本條約ハ中國文及佛文ヲ以テ作成シ右兩種條文
ハ詳細ニ照合ヲ經タリ因テ兩國全權委員ハ本條約二通ニ
各署名調印ス

中華民國十九年五月十六日即西曆千九百三十年五月十六日
南京ニ於テ作成ス

王 正 廷
マ ル テ ル

附屬文書一 (甲)

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ中佛條約第六條ニ關シ茲ニ
本公使ハ特ニ貴部長ニ對シ左ノ如ク聲明スルノ光榮ヲ有シ候
中國及安南ノ商務ヲ發展セシメン爲メ凡テ雲南、廣西、
廣東ヨリ來ル本照會甲種附表内ニ記載ノ中國貨物及千九
百二十八年十二月二十二日中佛國稅條約附表内ニ記載ノ
中國貨物ニシテ安南ニ運搬サルモノハ直接ニ運搬サル
ルカ又ハ直通ノ積荷證券ヲ有スル場合ニハ何レモ最低稅

中佛安南條約

率ニ依リ納稅スルモノトス前記中國貨物ガ該項稅率ヲ受
ケル時期ハ中國ガ本照會ニ對シ乙種附表ニ記載セル佛國
及安南ノ各貨物ガ安南ノ港或ハ直接雲南、廣西、廣東三
省ニ運搬サレ或ハ直通ノ積荷證券ヲ有スルモノ竝ニ千九
百二十九年ノ中國國定稅則ノ稅率ガ引上ケラレザル間ノ
時期トス

本使ハ茲ニ重テ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年五月十六日

マ ル テ ル
中華民國國民政府外交部長 王 正 廷閣下
附屬文書一 (乙)

(前記「マルテル」公使ノ照會ニ對シ外交部長王正廷氏ヨリ
同意ノ旨回答セリ)(以下之ニ準ジ本文ヲ略ス)

附屬文書二 (甲)

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ中佛條約第五條ニ關シ茲ニ
本使ハ特ニ貴部長ニ對シ左記ノ保證ヲ聲明スルノ光榮ヲ有
シ候
安南在住ノ中國人民ハ法制ノ管轄及民事、刑事、稅務及
其ノ他各項ノ訴訟事件ニ關シ他國人民ト同様ノ待遇ヲ享
有スルモノナルコトヲ保證ス

本使ハ茲ニ重テ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

附屬文書二 (乙)

〔前記「マルテル」公使ノ保證ニ對シ王外交部長ハ確認ノ旨回答セリ〕

附屬文書三 (甲)

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ中佛條約第五條ニ關シ左記ノ如ク聲明スルノ光榮ヲ有シ候
本國政府ハ該條記載ノ規定ハ中國人民ガ安南ニ於テ從來享有行使セル特殊權利ニ關スル税金ノ徵收ヲ阻止セザルモノトス

本使ハ茲ニ重テ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

附屬文書三 (乙)

〔前記「マルテル」公使ノ聲明ニ對シ王外交部長ヨリ此ノ種税金ハ安南ニ於テ中國人民ト同様ノ特權ヲ享有スルモノハ何國人民ヲ問ハズ一律ニ納税スベキモノナルコトヲ條件トシテ同意ノ旨回答セリ〕

附屬文書四 (甲)

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ中佛條約第二條及第三條ニ關シ本部長ハ特ニ貴公使ニ對シ左記ノ如ク聲明スルノ光榮

ヲ有シ候

昆明市、南潯市及東興城ニ居住スル佛國人民ニ暫ク其ノ現狀維持ヲ許シ佛國政府ハ前記城市ニ引續キ領事ヲ派駐スルコトヲ得ルモノトス前記地點ニ於ケル佛國人民ガ現行ノ法規ニ依リ不動產ヲ賃借スルノ件ニ付本部長ハ適當ノ辦法ヲ採取シ章程ヲ公布シ賃借契約ヲ締結セシムルニ便スベシ其ノ年限ハ中國自開商埠地制度ノ中最優ノ賃借契約ノ年限ト相同ジキモノトシ右章程ハ本條約ト同時ニ公布實施スベシ

附屬文書四 (乙)

本部長ハ茲ニ重テ貴公使ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
〔前記王外交部長ノ聲明ニ對シ「マルテル」公使ハ同意ノ旨回答セリ〕

照會事項

一、雲南鐵路問題ニ關スル王部長ヨリ佛國公使宛ノ照會

拜啓陳者千九百三年十月二十九日締結ノ中佛滇越鐵路合同條約、千九百十年三月十五日締結ノ巡警章程及千九百十四年九月七日、千九百十五年四月七日及千九百二十五年六月十八日締結ノ補充巡警章程中ノ軍事運輸章程ニ關シ茲ニ本

各文件ノ實施ヲ便利ナラシムルヲ目的トスルモノニ有之候因テ本部長ハ茲ニ貴我兩國政府ヨリ各代表ヲ派遣シ安南及中國邊省關係ヲ規定セル中佛條約實施後三箇月以内ニ本問題ニ關スル商議ヲ開始シ雙方代表ノ議シタル協定草案ハ實施前貴我兩國ニ於テ批准センコトヲ提議致候間左様御承知相成度此段照會得貴意候 敬具

佛國公使ノ回答〔同意ノ旨回答セリ〕

三、安南ニ於ケル中國人ノ特殊權利問題ニ關シ佛國公使ヨリ王部長宛ノ照會

拜啓陳者中國人民ノ安南ニ於ケル地位問題ニ關シ貴部長ト本公使屢次意見ヲ交換シタル際貴部長ハ曾テ本公使ニ對シ佛國政府ガ本件ニ關スル態度ヲ説明センコトヲ要求セラレ候處右ニ付本公使ハ貴部長ニ對シ本國政府ハ現在中國人ノ安南境内ニ於テ享有セル各種ノ特權ニ對シテハ何レモ之ヲ取消スノ意志ナキコトヲ重テ聲明スルモノニ有之候間左様御承知相成度此段照會得貴意候 敬具

王外交部長ノ回答〔確認ノ旨回答セリ〕

議定書

印度支那及隣接中國諸省ニ關スル中華民國佛蘭西國間ノ關係ヲ規律スル爲本日署名セラレタル條約ノ實施ニ至ル迄

部長ハ特ニ貴公使ニ對シ各該章程中協定ノ某々各規定ハ關係方面ノ同意ヲ經タル後適宜ノ修正ヲ加ヘンコトヲ提議スルモノニ有之候尤モ右ハ各該章程協定實施ヲ便利ナラシメシ爲メニシテ其ノ各章程協定ノ效力ニ關シテハ討論ノ問題ト爲サザルコト致シ候因テ本部長ハ茲ニ貴我兩國政府ヨリ各代表一名ヲ派遣シ安南及中國邊省關係ヲ規定セル中佛條約實施後三箇月以内ニ本問題ニ關スル商議ヲ開始シ雙方代表ノ議シタル協定草案ハ實施前貴我兩國ニ於テ批准センコトヲ提議致候間左様御承知相成度此段照會得貴意候 敬具

佛國公使ノ回答〔同意ノ旨回答セリ〕

二、有線及無線電信問題ニ關シ王部長ヨリ佛國公使宛ノ照會

拜啓陳者安南及中國邊境三省間ノ有線及無線電信現行制度ノ各條約及其ノ他各種ノ章程協定ニ關シ茲ニ本部長ハ特ニ貴公使ニ對シ各該條約、章程協定内ノ某々各項ノ規定ハ各方面ノ同意ヲ經タル後適宜ノ修正ヲ加ヘンコトヲ提議スルモノニ有之候尤モ右ハ細目上ニ關スル修正ヲ爲シ以テ前記各文件ノ實施ヲ便利ナラシムルヲ目的トスルモノニ有之候

中華民國國民政府交通部及米國航空輸送會社間ニ締結セル航空契約

雙方共現狀ヲ維持スベキ旨兩代表者間ニ協定セラレタリ
右條約第一附屬書記載ノ甲表乙表ハ本條約署名後速ニ議
定セラルベキ旨是亦協定セラレタリ

千九百三十年五月十六日南京ニ於テ作成ス

中華民國國民政府交通部及米國航空輸送會社
間ニ締結セル航空契約

千九百三十年七月九日調印

茲ニ中華民國國民政府交通部(以下單ニ甲ト稱ス)ハ米國ガ
千九百二十二年ニ制定セル在華經商條例ニヨリ組織設立セ
ル米國航空輸送會社(以下單ニ乙ト稱ス)ト合辦ノ株式會社
ヲ組織スル目的ヲ以テ雙方ノ同意ニ依リ契約ヲ作成シ左記
ノ各條ヲ規定ス

第一條 組織

第一節 雙方ハ協同ノ精神ニ基キ中華民國ノ法律ニ照シテ

ニ依リ其ノ拂込ノ時期方法ヲ定ム但シ其以外ノ株ノ拂込
又ハ公司資本ノ増減ニ關スル議決ハ少クモ既發行總株數
ノ十分ノ八ノ同意ヲ要ス

第七節 公司ノ債券ハ記名式トシ既發行株十分ノ八以上ノ
同意ヲ得ルニ非レバ他ニ轉讓スルヲ得ズ

第三條 管理及監督

第一節 公司ノ管理權ハ董事會ニ屬シ董事會ハ董事五名ヲ
以テ組織シ内三名ハ甲ヨリ、二名ハ乙ヨリ之ヲ選任スル
モノトス若シ株主ノ委託アルトキハ董事ハ株主ノ代表ト
ナリ株主會ニ出席スルコトヲ得董事會ハ董事四名ノ出席
アルトキハ法定ノ人數ニ足ルモノトシ董事會ノ決議ハ本
契約ノ特別規定以外ハ出席董事ノ過半數ヲ以テ之ヲ表決
スルモノトス總テ公司ノ起債其ノ他ノ方法ニ依ル借款或
ハ債務ノ負擔、不動產、飛行機購入等ニシテ價額ニ萬元
ヲ超過スルモノ並ニ公司ガ郵政總局ト同日締結セル郵便
契約、中華民國政府或ハ將來政府内ノ何レカノ機關ト協
定スル所ノ契約ノ解除締結或ハ各該契約内ノ權利ノ變更
拋棄等ノ各項ノ議決ニ關シテハ少クモ既發行株十分ノ八
ノ同意ヲ要スルモノトス

第二節 董事會ハ董事中ヨリ董事長一名、副董事長二名ヲ

中華民國國民政府交通部及米國航空輸送會社間ニ締結セル航空契約

一株株式會社ヲ共同組織シ中國航空公司(以下單ニ公司ト
稱ス)ト名ケ中國ニ於ケル航空輸送ヲ經營スルヲ以テ業
務トスルコトニ同意ス

第二條 公司ノ資本

第一節 公司ノ資本總額ハ中華民國國幣一千萬元トシ之ヲ
一萬株ニ分チ每株ヲ一千元トシ甲ハ五千五百株、乙ハ四
千五百株ヲ所有シ何レモ本條第六節ノ規定ニ依ルベキモ
ノトス

第二節 甲ハ滬蓉航空管理處及舊中國航空公司ノ資產ヲ本
公司ニ移交シ其ノ投資額ニ就テハ公司ヨリ甲ニ七百五十
株ヲ發給スルモノトス

第三節 乙ノ資產ハ公司ニ移交シ且以前ノ投資額ハ公司ヨ
リ乙ニ一千七百二十三株ヲ發給スルモノトス

第四節 公司ハ本條第二節ノ規定ニヨリ甲ニ交付スル株以
外ニ尙甲ニ一千五百二株ヲ交付シ額面ニ照シ株金ヲ拂込
ムモノトス

第五節 公司ハ本條第三節ノ規定ニヨリ乙ニ交付スル株以
外ニ尙乙ニ九十株ヲ交付シ額面ニ照シ株金ヲ拂込ムモノ
トス

第六節 公司資本總額ノ内ニテ其ノ餘ノ株ハ株主會ノ議決

選舉シ董事長及副董事長一名ハ甲ヨリ、他ノ副董事長一
名ハ乙ヨリ推選シ董事會ハ其ノ推選サレタル者ノ中ヨリ
之ヲ選舉ス董事長ハ其ノ職權ニヨリ當然公司ノ總經理タ
ルト同時ニ董事會ノ主席トナル董事長ガ董事會ノ事務取
扱ヲ欲セス或ハ董事長ガ總經理ノ職務執行ヲ欲セザル場
合ハ副董事長一名ニ委託シ之ヲ代理セシムルコトヲ得

第三節 董事會ノ下ニ左ノ三組ヲ設ク(甲)營業組(乙)財務
組(丙)機航組——各組ノ主任及副主任ハ何レモ董事會ヨ
リ任命ス但シ營業組主任、財務組主任、機航組副主任ハ
甲ヨリ、機航組主任、營業組副主任、財務組副主任ハ乙
ヨリ推選シ其ノ被推選者中ヨリ之ヲ任命スルモノトス

各組ノ職員ハ各該組主任ヨリ董事長ニ推選シ之ヲ任用ス
但シ公司ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ職員人數ハ職務及
公司ノ業務發展上必要トスル範圍ニ於テ努メテ最少トシ
董事會ヨリ其ノ員數ヲ決定シ公司職員ノ俸給額ハ同様ノ
職務ニ從事スル者ノ俸給額ヲ以テ標準トス

第四節 本契約第九條第二節ノ規定ニ依リ效力發生ノ日ヨ
リ七日以内ニ雙方會議ヲ開キ以テ公司章程細則及其ノ他
一切ノ規約ヲ制定シ並ニ董事會ヲ設立スルニ便ス
以上ハ何レモ本契約ニ依リ處理スベキモノニシテ十四日

以內ニ更ニ第一次董事會ヲ開キ前記規定ニ依リ董事長及副董事長ヲ選出スルモノトス

第五節 公司ニ監察二名ヲ置キ甲ヨリ一名、乙ヨリ一名ヲ任命スルモノトス

第四條 財 務

第一節 本契約第二條ニ規定スル公司ノ株金及公司ノ航空輸送ノ郵便物、乘客、貨物其ノ他ノ收入ハ何レモ公司ノ資財トシ雙方ノ承認スル中國國籍ノ銀行ニ預入スルモノトス

第一節 公司ハ左記諸線ノ郵便物航空輸送事項ヲ經營ス

第一線 上海、南京、九江、漢口、宜昌、萬縣、重慶、成都

第二節 公司ハ營業開始後ノ剩餘金ハ別ニ預金トシ以テ設備ノ増加及改良上必要ノ費用並ニ株主ノ配當準備金ニ備フ但シ配當金ハ公司ガ一切ノ營業開始後債務ノ元利清算並ニ相當ノ積立金ヲナシタル後始メテ配當ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第二線 南京、徐州、濟南、天津、北平

第三線 上海、青波、溫州、福州、廈門、汕頭、廣州

第三節 公司ノ支出ハ一切小切手ヲ用ヒ小切手ニハ委任セラレタル者二名ノ署名ヲ受クルモノトシ其ノ一人ハ甲代表ノ董事ニ他ノ一人ハ乙代表ノ董事ニ之ヲ委任スルモノトス

第四節 各種航空郵便物ニシテ前記諸線ニアルモノハ公司ハ其ノ中國郵政總局ト同日締結セル契約上ノ條項ニ依リ航空輸送ノ優先權ヲ有スルモノトス

第五節 航空郵便物ノ郵稅及接受並ニ郵便物處置上ノ一切ノ章程規則ハ總テ公司ト郵政總局ト同日締結セル契約ニヨリ處理スルモノトス

第六節 公司ハ又前記三線ノ貨客輸送ヲ爲スコトヲ得但シ

第四節 公司ノ簿記會計ハ何レモ最新式ノ制度ヲ用ヒ記帳ニハ中國文ヲ用ヒ中國文ノ記載ヲ以テ證據トス但シ乙ノ要求アリタルトキハ又須ク英文ヲ記載スルモノトス

第七節 航空輸送ノ必要地點ニ若シ空港及沿途ノ昇降場所ナキトキハ公司ハ此ノ項ノ設備ヲ擔任スルモノトス

第八節 無 線 電

第一節 飛行ヲ安全ナラシメン爲メ甲ハ公司ニ適宜ノ受發無線電信機及無線電話機ノ裝置、維持並ニ使用ヲ許シ尙相當強度ノ電波ヲ以テ公司ニ供給使用セシムルコトヲ許ス此ノ種無線電ニ關スル權利ハ專ラ公司ト各縣及各飛行機關ノ消息傳送ノ用ニ供シ以テ公司業務ノ效能ヲ維持スルモノトシ一切ノ商用通信及其ノ他公司ト直接關係ナキ通信ハ概テ傳送スルコトヲ得ズ

第九節 契 約

第一節 甲ハ公司ノ所有物件及其ノ他ノ財產ニ對シ相當ナル保護ヲ與フルコトヲ得ベシ

第二節 本公司契約ハ雙方調印後中華民國國民政府ノ承認ヲ經テ正式書面ニ依リ乙ニ通知シタル後效力ヲ生ズルモノトス

優先權ヲ有セズ又之ガ爲メ郵便物輸送ノ安全及效能ヲ妨礙スルコトヲ得ザルモノトス

第五節 軍事上必要ノ際ハ軍政部ハ公司ノ飛行機ニ對シ要索及軍事上重要ノ地域ヲ離レ安全ノ處ニ於テ迂回飛行ヲ命ズルコトヲ得

第六節 經 營

第一節 乙ハ本契約承認效力發生後ハ即チ技術上ノ經驗ヲ

甲ノ用ニ供シ其ノ指揮ヲ受ケ協力以テ本事業ノ増進發展ヲ圖ルベキモノトス

第二節 公司ハ規程ヲ定メ中國人員ヲ雇用シ公司ノ職員、

操縱士操關士ニ充當ス乙ハ中國及米國ニ於テ中國人ニ充

分機會ヲ與ヘ操縱員ノ訓練ヲ得セシメ又同時ニ中國人ニ

充分機會ヲ與ヘ操關士、無線電信管理員ノ技術上ノ訓練

ヲ受クルコトヲ得セシムベシ

第三節 總テ飛行機及機械ハ最優等ニ且最新式ノモノタル

ベシ購買ニ當テハ先ヅ中國ノ製品ヲ採用スルモノトシ若

シ中國ノ製品ヲ得ル能ハザルトキハ始メテ米國「ダトス

ムレート」飛行機製造所ノ製品ヲ採用スルコトヲ得但シ

一千元以上ノ價格ノ航空用品ハ一律ニ入札ノ方法ニ依リ

之ヲ購入スルモノトス

中華民國國民政府交通部及米國航空輸送會社間ニ締結セル航空契約

八五七

第三節 本契約ハ批准後效力發生ノ日ヨリ十年ヲ以テ有效

期間トシ滿期一年前ニ若シ何レカノ一方ガ書面ヲ以テ他ノ一方ニ本契約ノ終止ヲ通知セザルトキハ本契約ハ十箇年ノ有効期間後更ニ繼續シテ五年間有效トス

第四節 本契約滿期ノ際ハ甲ハ公平ノ評價價格ヲ以テ公司所有ノ一切ノ財産ヲ買收スルコトヲ得

第五節 雙方ガ本契約ニ對シ爭執アルトキハ該爭執ヲ公斷ニ移交シ雙方各公斷員二名ヲ推舉シ該四公斷員ハ公正員一人ヲ合同推舉シ若シ前記公斷ガ多數ノ同意ヲ得ル能ハザルトキハ公正員ヨリ之ヲ決定スルモノトス

第六節 甲ハ舊中國航空公司ノ委託ト乙ノ同意トヲ受ケ本契約批准有效トナルノ時ヲ俟テ左記各契約ハ當然效力ヲ喪失シ各該契約ニ規定セル或ハ各該契約ヨリ發生スル權利ハ何レモ消滅スルモノトス

(一)民國十八年四月十七日舊中國航空公司ト米國發展公司トガ締結セル航空郵務契約(該契約ハ後米國航空發展公司ヨリ乙ニ移轉セルモノナリ)

(二)民國十八年四月十七日舊中國航空公司ト米國發展公司トガ締結セル航空學校工廠航空檢査契約(該契約ハ後米國航空發展公司ヨリ乙ニ委託シ代テ取消ヲ爲シタ

ルモノナリ)

(三)民國十八年七月十六日舊中國航空公司ト米國航空發展公司トガ締結セル空港金幣借款契約(該契約ハ後米國航空發展公司ヨリ乙ニ委託シ代テ取消ヲ爲シタルモノナリ) 舊中國航空公司ノ前記航空郵便物運輸契約ノ條項ニ依リ乙ニ給與シタル左記各手形ハ同時ニ消滅ス

期	日	金額
第一號	民國十八年十一月一日	一三、六七〇、五七元
第二號	民國十八年十二月一日	二八、七八七、〇五元
第三號	民國十九年一月四日	一七、〇五九、六一元
第四號	民國十九年二月一日	二八、三六〇、五七元
第五號	民國十九年三月一日	三二、八七一、二九元
第六號	民國十九年四月一日	二九、五八八、三九元
第七號	民國十九年五月一日	三二、〇六九、五六元
第八號	民國十九年六月一日	三八、八六七、二〇元

本節記載ノ舊中國航空公司トハ民國十八年四月十五日中華人民國民政府ガ特設シテ政府ノ所有ト爲シタルモノナリ

第七節 本契約ハ中英兩國ノ文字ヲ兼用シ四通ヲ作製シ雙方

方及公司各一通ヲ保管シ他ノ一通ハ中華民國國民政府ニ

備フベキモノトス本契約ノ解釋上ニ關シ疑義ヲ生ジタルトキハ中國文ノ契約ヲ以テ標準トシ之ヲ解決ス

第八節 本契約ハ何レノ一方ノ合法的承繼人ニ對シテモ均シク拘束力アルモノトス但シ該承繼人ハ中國或ハ米國ノ國籍ヲ有スル人民ニ限ル

本契約ハ中華民國十九年七月九日即西曆千九百三十年七月九日南京ニ於テ締結調印ス

中華民國國民政府交通部長
米國航空運輸會社代表

【參考】

米支航空密約(要旨)

(千九百三十三年三月十六日)

華盛頓ニ於テ假調印)

一、米支兩國政府ハ世界平和ノ確保、九箇國條約ノ擁護ニ務メ其ノ領土保全ヲ尊重スルノ所信貫徹ノ爲メ兩國ノ正式同意ヲ得テ相協力シテ航空ノ充實ヲ計リ以テ空軍ノ基

礎確立ヲ期セント欲シ相互ニ全權ヲ派シ協約ヲ締結ス

二、本協定ハ當分五箇年ヲ有効期間トシ草案ノ調印ト同時ニ其ノ效力ヲ發生ス五箇年滿期後兩國ガ修正ノ提議又ハ廢止ノ聲明ナキ限り有效ニ繼續スル事ヲ得

三、支那航空ノ改善充實ニ對シテハ米國側ハ全責任ヲ以テ施設計畫ヲナシ双方ノ同意ヲ得ルニアラサレハ第三國ト航空ニ關係アル如何ナル條約ヲ締結スルヲ得ス

四、支那ノ航空ニ要スル經費ハ其ノ半額ヲ支那政府ニ於テ調達シ其ノ殘餘ハ米國政府其ノ指定ノ米國商工業者ヨリ信用貸付ヲナシ政府ヨリノ貸金ハ利息ヲ免除シ以テ支給ヲ厚クス

五、支那航空建設經費ノ總額ヲ當分米貨四千萬弗(支那貨約一億二千萬元)ト定ム

六、支那本部ニ飛行機製造工場一箇、沿岸ニ修理工場四箇ヲ設立シ一切ノ所要機械ハ之ヲ米國ヨリ購入シ半箇年内ニ其ノ引渡ヲ完了ス(此ノ所要經費ヲ約米貨五百萬弗トシ別ニ設計見積書ヲ附ス)

七、右該工場長ハ米國人ヲ任命ス但シ支那政府ハ之ヲ指導監督シ且ツ技術者以外ハ全部支那人ヲ使用スル事ヲ得

八、時局ノ必要ニ應スル爲メ支那航空公路著陸場、格納庫

米支航空密約

八六〇

等ハ適宜沿岸ノ部分ヲ先ニ選定建設スル事ヲ得少クトモ本年内ニ汕頭、泉州、鎮海、海州等ノ著陸場ヲ建設シ上記各著陸場ノ建設費ハ其ノ十分ノ八ヲ米國政府ヨリ補助シ必要ノ場合米國飛行機飛行船ノ自由著陸ヲ許容ス但シ支那政府ハ本協定廢止後之ヲ回收ス(右ニ關スル附屬協約一)

九、支那政府ノ派遣セル航空研究員ニ對シ米國政府其ノ學費全額ヲ免除シ且ツ如何ナル航空學校ニ受驗入學スル場合ニ於テモ米國學生ト同等ノ待遇教育ヲナス但シ前項學費免除ノ學生ハ卒業後第三國ニ於テ就職スル事ヲ得ス

十、國防ノ急ニ應スル爲メ大體三期ニ分チ支那飛行機ノ建造ヲナシ必要ノ場合ハ米國政府ヨリ既成ノ國防用飛行機ヲ支那ニ融通ス

該飛行機建造計畫(附屬細則)左ノ如シ
第一期 民國二十二年七月ヨリ二十三年六月ニ至ル十箇月 偵察機一〇〇、驅逐機六〇、爆擊機三〇、重爆擊機一五、合計一一五
第二期 二十三年七月ヨリ二十四年八月ニ至ル十四箇月 偵察機一〇〇、驅逐機八〇、爆擊機五〇

重爆擊機三〇、合計二六〇
第三期 二十四年九月ヨリ二十五年十二月ニ至ル十六箇月 偵察機一八〇、驅逐機一二〇、爆擊機七五、重爆擊機四五、合計四二〇
以上總計 八三五

右ノ中偵察驅逐兩機ハ平常其ノ半數ヲ商用ニ供シ爆擊機及重爆擊機ハ平常其三分ノ一ヲ商業用トシ此ノ種大型機ハ聯美公司ニ於テ建造シ、中國航空公司ト連絡シテ米支間航空輸送ヲナス以上ノ飛行機ハ約四分ノ一ヲ支那ニ於テ建造スル外全部米國ニ於テ建造シ又ハ米國軍中ヨリ融通ス尙支那現有飛行機及各省並ニ海外華僑購入ノモノヲ之ニ加ヘ(商業用ヲ含ム)五箇年内ニ總數一千二百臺ニ達セシメ其ノ中四割ヲ水陸兩用トス

十一、支那空軍ノ編成訓練及通常ノ管理ハ米國ノ方式ニ倣フ(附屬細則二種)
十二、各隊ニ米人ノ副官一乃至二名ヲ置キ支那人隊長ハ米國副官ノ指導ヲ受ク
十三、杭州、武昌、洛陽ノ各航空學校ニ米國顧問ヲ招聘シ明年度ヨリ航空兵訓練班ヲ増設シ一班百人以上ヲ收容ス
十四、空軍用武器及化學彈藥等ハ在支製造工場ニ於テ可及

獨支航空契約 (要旨)

千九百三十年八月十三日南京ニ於テ調印

的ニ製造シ不足ノ場合ハ米國ヨリ供給ス
十五、航空燃料ニ就テハ米支合辦ノ形式ヲ以テ米國側カ揚子江上流地方ニ於テ之カ採掘ヲナスコトヲ許容シ且ツ米國側カ沿岸飛行場ニ之カ貯藏所ヲ建設スルコトヲ許容ス(附屬細則アリ)

十六、米支航空路ハ米國側ニ於テ自由ニ選定シ之ニ對シ支那政府ハ必要ノ便宜ヲ供與シ且必要ノ場合双方ノ同意ヲ經テ其ノ自由著陸權及臨時著陸場ノ設置ヲ許容ス(附屬表一)

- 十七、支那側ノ航空經費調達辦法左ノ如シ(附屬細則一)
 - (イ) 全國公務員航空救國捐(各員俸給額ノ百分ノ十乃至二十ニシテ兵士、巡警、雜役夫ヲ除ク)
 - (ロ) 全國各團體航空捐
 - (ハ) 財政部鹽稅整理及餘利稅收ニ依ル航空費
 - (ニ) 航空公路建設ニ對スル財政部ノ票發
 - (ホ) 海外華僑ノ航空捐
 - (ヘ) 各省ニ於ケル地方航空捐
 - (ト) 郵便航空捐
 - (チ) 航空救國公債

(備考) 本密約ノ有無正確ナラサルモ特ニ掲ク

獨支航空契約

八六一

- 一、獨支間商用航空經營ノ爲メ中國法令ニ準據シ獨支合辦組織ノ歐亞航空公司ヲ設立ス該公司ハ中國國法ノ定ムル規定ニ從ヒ營業スルモノトス
- 二、歐亞航空公司ノ資本金ハ銀三百萬元トシ之ヲ三千株ニ分チ中國側持株ヲ二千株トシ獨逸會社側持株ハ一千株トス
- 右ノ内中國側二十萬元、獨逸側十萬元ハ三ヶ月以内ニ双方ヨリ拂込テ爲ス中國側持株ノ三分ノ二ハ年利七厘ヲ以テ獨逸側ヨリ貸與ス
- 獨逸側ヨリ九ヶ月内ニ飛行機類ヲ立替購入シ右立替額ニ對シテハ株券ヲ發給ス
- 公司ノ財産ハ中國國籍ノ銀行ニ預入ス
- 三、公司ニ董事會ヲ設ケ董事ノ定員ハ九名トス其ノ内中國側ヨリ董事長一名、副董事長一名及董事四名ヲ出シ獨逸側ヨリ副董事長一名及董事二名ヲ出ス
- 四、董事會ノ下ニ營業、財務及機務ノ三科ヲ設ケ中國側ヨ

獨支航空契約

リ營業、財務各主任及機務副主任ヲ出シ獨逸側ヨリ機務主任及營業、財務各副主任ヲ出ス

五、航空路ハ左ノ三線中ノ一線ヲ選フ

イ、上海ヨリ南京、天津、北平、哈爾濱經由西伯利亞ヲ通過シ歐洲ニ至ルモノ

ロ、上海ヨリ南京、天津、北平、庫倫ヲ經由シ西伯利亞ヲ通過シ歐洲ニ至ルモノ

ハ、上海ヨリ南京、漢口、甘肅、新彊、西伯利亞經由歐洲ニ至ルモノ

六、中國ヨリ露國ヲ經由シ歐洲ニ輸送スル航空郵便物及獨逸側又ハ獨逸側ト關係ヲ有スル會社ニ於テ請負フヘキ航空郵便物ニシテ露國ヲ經由シ東亞ニ送付スルモノハ歐亞航空公司ノ專運タルヘシ

七、技術方面ハ三年間獨逸側ノ責任トナシ獨逸側ハ此ノ期間内中國ノ爲メニ各種航空郵便ノ人材ヲ訓練スルノ義務ヲ有ス

八、契約ノ有效期間ハ十ヶ年トス

九、契約ニ疑義ヲ生スル時ハ中國文ヲ以テ之ヲ解釋ス

(備考) 一、支那新聞情報ニ依レハ昭和八年十一月五百拾萬元ニ増

資サレタル由

二、現在ハ滿洲國ノ成立及新彊戰亂ノ爲上海—蕪州—寧夏線ノミ開通

別ニ最近北平—大原—洛陽—漢口—長沙—廣東線開通

(支那新聞ニ據ル)

「チエツコスロヴァキア」共和國中華民國間修好通商條約

千九百三十年二月十二日南
京ニ於テ署名

「チエツコスロヴァキア」共和國及中華民國ハ兩國間ニ友好關係ヲ確立シ及其ノ國民間ノ通商關係ヲ容易ナラシメメントナ欲シ均等主義及主權ノ相互尊重主義ヲ基礎トスル修好通商條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

「チエツコスロヴァキア」共和國大統領
「チエツコスロヴァキア」共和國代表委員

「ヤロスラヴ、ニズド」

中華民國國民政府主席

中華民國國民政府外交部長「ドクトル」王正廷

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 「チエツコスロヴァキア」共和國及中華民國ノ間並ニ其ノ國民ノ間ニハ永久ノ平和及和親アルヘシ

第二條 締約國ハ正當ニ親任セラレタル外交代表者ヲ相互的ニ派遣スルノ權利ヲ有スヘク右外交代表者ハ其ノ駐在國ニ於テ國際法ニ依リ一般ニ認めラルル一切ノ權利、特權及免除ヲ享有スヘシ

第三條 締約國ハ別國ノ領事館ノ設置セララルル一切ノ地方ニ總領事、領事、副領事及領事事務官ヲ相互的ニ派遣スルノ權利ヲ有スヘシ右領事官ハ一般國際慣行ニ依リ同一階級ノ領事官ニ許與セララルル待遇ヲ享有スヘシ

前記領事官ハ其ノ職ニ就クニ先チ一般國際慣行ニ從ヒ其ノ駐在國ノ政府ヨリ認可狀ヲ受クヘク該政府ハ右認可狀ノ撤回ヲ留保ス

締約國ハ名譽領事ヲ除クノ外工業又ハ商業ニ從事スル者ヲ其ノ領事官トシテ任命スルコトナカルヘシ

「チエツコスロヴァキア」共和國中華民國間修好通商條約

第四條 締約國ノ一方ノ國民ハ其ノ國籍ヲ證明スル旅券ニシテ自國ノ權限アル官憲ノ發給ニ係リ且目的國ノ權限アル官憲ノ査證シタルモノヲ携帶スル限リ他方ノ領域ニ入り又ハ之ヨリ出ツルコト自由タルヘシ

第五條 締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ領域内ニ於テ其ノ身體及財產ニ付右他方ノ國ノ法令及規則ノ完全ナル保護ヲ享有スヘシ右國民ハ他方ノ國ノ法令及規則ニ從フニ於テハ別國ノ國民カ爲スコトヲ許サルヘキ一切ノ地方ニ於テ且別國ノ國民ト同一ノ狀態及條件ノ下ニ旅行シ居住シ商社ヲ設立シ財產ヲ取得シ又ハ賃借シ労働シ及工業又ハ商業ニ從事スルノ權利ヲ享有スヘシ但シ他方ノ國ノ法令及規則ニ從フヘキモノトス

第六條 締約國ノ一方ノ國民及其ノ財產ニシテ他方ノ領域内ニ在ルモノハ右他方ノ國ノ法令及規則並ニ該國ノ裁判所ノ管轄權ニ服スヘシ

締約國ノ一方ノ國民ニシテ他方ノ領域内ニ在ルモノハ訴訟手續ニ關シテハ自由且容易ニ裁判所ニ出頭スルコトヲ得ヘク且右他方ノ國ノ法令ニ從ヒ代理人又ハ代表者ヲ使用スルコト自由タルヘク又必要アルトキハ裁判所ハ協助ノ爲通譯人ヲ招クコトヲ得

第七條 締約國ノ一方ノ國民ニシテ他方ノ領域内ニ在ルモ
ノハ右他方ノ國ノ法令及規則ニ從ヒ税金・課金及手数料
ヲ支拂フヘシ但シ右ノ税金・課金及手数料ハ該國ノ國民
ニ依リ支拂ハルル所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キコトナカル
ヘキモノトス

第八條 締約國ノ一方ノ勞働者ハ其ノ性別ニ拘ラス他方ノ
領域内ニ入ルニ付テノ一切ノ便益ヲ有スヘク且一切ノ外國
勞働者ニ均シク適用セラルル右他方ノ國ノ法令及規則ニ
從フノ條件ノ下ニ該國ノ勞働者ト同一ノ待遇及保護ヲ享
有スヘシ

第九條 締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ領域内ニ於テハ陸軍
海軍、空軍、護國軍又ハ民兵ノ何レタルヲ問ハス一切ノ
強制兵役及性質ノ如何ヲ問ハス服役ノ代ニ課セラルル一
切ノ税金・徵費、賦役、強募公債又ハ取立金ヲ免ルヘシ
第十條 何レノ締約國ノ政府モ實施中ノ法令及規則ニ從ヒ
テ爲スノ外他方ノ國民ニ對シ身體及家宅ノ搜索ヲ行フコ
トナカルヘシ

第十一條 締約國ノ一方ノ國民ハ他方ノ領域内ニ於テ遺言
又ハ他ノ方法ニ依リ其ノ私有財産ヲ自由ニ處分スルノ權
利ヲ有スヘシ但シ右他方ノ國ノ法令及規則ニ從フヘキモ
トナカルヘシ

要セスシテ死亡者ノ所屬國ノ最寄領事代表者ニ引渡サル
ヘシ

何レカノ締約國ニ依リ他方ノ國民ニ課セラルル相續ニ關
スル税金・課金及手数料ハ同様ノ事情ノ下ニ右何レカノ
國ノ國民ニ依リ支拂ハルル所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キコ
トナカルヘシ

第十二條 締約國ハ關稅及之ニ關聯スル一切ノ事項カ專ラ
各自ノ國內法ニ依リ規律セラルヘキコトヲ約ス
又關稅及之ニ關聯スル一切ノ事項ニ關シテハ何レノ締約
國モ別國ニ許與セラルル待遇ニ比シ尠モ差別的ナラサル
待遇ヲ他方ノ領域内ニ於テ享有スヘキコトヲ約セラル
何レノ締約國ノ國民モ其ノ輸入及輸出ニ對スル税金・内
國手数料又ハ租稅ニシテ他方ノ國民ハ又別國ノ國民ニ依
リ支拂ハルル所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キモノヲ他方ノ領
域内ニ於テ支拂フコトヲ如何ナル名義ノ下ニ於テモ強制
セラルルコトナカルヘシ

第十三條 締約國政府ハ他方ノ領域ヨリ輸入セラレ又ハ之
ニ輸出セラルル各自ノ生産品又ハ製造品タル貨物ニ付第
三國ヨリ輸入セラレ又ハ之ニ輸出セラルル同様ノ貨物ニ
適用セラレサル禁令又ハ制限ヲ設ケサルヘシ

「チエツコスロヴァキア」共和國中華民國間修好通商條約

ノトス
何レカノ締約國ノ國民カ他方ノ領域内ニ於テ死亡シタル
トキハ當該地方行政官憲ハ直ニ之ヲ死亡者ノ屬スル國ノ
最寄領事代表者ニ通知スヘシ右領事代表者ハ第一ニ死亡
ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ地方官憲ニ通告スヘ
シ

何レカノ締約國ノ國民カ死亡シタルトキハ相續ニ關スル
事項ニ付テハ右死亡者ノ本國法カ適用セラルヘシ締約國
ノ一方ノ國民カ他方ノ領域内ニ遺シタル動産又ハ不動産
ハ地方官憲ノ援助ヲ得テ領事代表者又ハ其ノ任命セル遺
産管理若シテ死亡者ノ所屬國ノ法令ニ從ヒ管理セラル
ヘシ死亡者カ本國法ニ依ル相續人又ハ遺言ヲ遺サザリシ
コト明ニ確證セラルル場合ニハ當該財產ハ財產所在地域
ノ屬スル國ノ法令及規則ニ從ヒテ處分セラルヘシ遺產ニ
關スル紛争ニシテ該遺產ノ所在國ニ於テ生スルモノハ該
所在國ノ裁判所ニ依リ解決セラルヘシ

何レカノ締約國ノ國民ニシテ公海ニ於テ死亡シ又ハ他方
ノ領域内ニ一定ノ住所又ハ永久ノ居住ヲ有セスシテ該領
域ノ通過ノ際ニ死亡シタルモノカ遺シタル自用品及貴重
物品ハ之ニ關シ爾後ノ手段ノ執ララル爲何等ノ手續ヲモ
トナカルヘシ

尤モ國防、國民ノ食糧供給、公安、文化、考古學、政府
ノ專賣、人類、家畜及植物ノ保健、國民經濟ノ保護並ニ
公德ノ維持ニ關聯スル事項ニ付テハ兩政府ハ夫々何時ニ
テモ輸入及輸出ノ禁止及制限ヲ設クルコトヲ得

第十四條 締約國ノ一方ノ領域ノ生産品又ハ製造品タル物
品ニシテ他方ノ國ノ法令ニ從ヒテ該國ノ領域ヲ通過スル
モノハ其ノ直過スルト通過中ニ荷卸セラレ庫入セラレ又
ハ再荷積セラルルトヲ問ハス一切ノ通過稅ヲ相互的ニ免
除セラルヘシ

第十五條 何レノ締約國ノ領域内ニ於ケル内水及沿岸航行
モ國際河川ニ關スル國際條約ノ規定ヲ害スルコトナクシ
テ他方ノ國民及其ノ船舶ニ對シ閉鎖セラルヘシ

第十六條 中國政府ハ一切ノ「チエツコスロヴァキア」國商
船カ國際貿易ニ對シ開放セラレタル中國沿海ノ港ニ入り
及碇泊スルコトヲ中國政府ノ法令及港ノ規則ニ從フノ條
件ノ下ニ許容スヘシ

中國商船ハ「チエツコスロヴァキア」國ノ商港ニ於テ同様
ノ待遇ヲ享有スヘシ

第十七條 締約國ノ一方ノ政府ハ他方ノ國民ニ屬スル商標
意匠及標形ニ對シ保護ヲ與フヘシ但シ此等カ右一方ノ國

ノ法令及規則ニ從ヒテ該國ノ權限アル官憲ニ登録セラレ
アルトキニ限ルモノトス模造又ハ偽造ハ法令ニ依リ禁止
セラレ且處罰セラルヘシ

第十八條 締約國ハ本條約ニ掲ケラルル規定ニシテ締約國
ノ一方ノ國民ノ權利及義務ニ關スルモノカ他方ノ法令ニ
依リ法人トシテ認メラレタルモノニモ適用セラルヘキコ
トヲ約ス但シ包含セラルル權利及義務カ自然人ノミニ適
用セラルルカ如キ性質ノモノナル場合ハ之ヲ除ク

第十九條 本條約ハ批准書交換後ノ第十五日ヨリニ始マル三
年ノ期間中有効タルヘシ何レノ締約國モ本條約ヲ改正シ
又ハ廢棄スルノ自國ノ意思ヲ右期間ノ滿了ノ六月前ニ他
方ニ通告スルコトヲ得兩締約國カ期限ニ遅ルルコトナク
通告ヲ爲ササルトキハ本條約ハ引續キ有効タルヘシ但シ
右三年ノ期間ノ滿了後ノ何時ニ於テモ何レノ締約國モ本
條約ヲ修正シ又ハ廢棄スルノ自國ノ意思ヲ他方ニ對シ通
告スルコトヲ得ヘク本條約ハ茲ニ右通告ノ日ノ後六月ニ
シテ無効タルニ至ルヘシ

第二十條 本條約ハ「チエツコスロヴアキア」語、中國語及
英吉利語ヲ以テ之ヲ作成ス解釋ノ相違アルトキハ英吉利
語ノ本文ニ於テ表示セラレタル意義ニ據ルヘシ

第二十一條 本條約ハ締約國ニ依リ其ノ法定手續ニ從ヒテ
成ルヘク速ニ批准セラルヘク又批准書ノ交換ハ南京ニ於
テ行ハルヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ通ニ署名調印セリ
千九百三十年二月十二日即チ中華民國十九年二月十二日南
京ニ於テ作成セリ

イエー、ニズド (印)
王 正 廷 (印)

廈門英國租界ノ還付ニ關 スル皇帝陛下ノ聯合王國 ニ於ケル政府及中華民國 政府間ノ交換公文

千九百三十年九月十七日南京ニ於テ

第一、「ランブスン」公使ヨリ

王正廷宛書翰

以書翰啓上致候陳者在廈門英國租借地區ノ借地權問題ノ解

第二、王正廷ヨリ「ランブスン」

公使宛書翰

以書翰啓上致候陳者本部長ハ閣下ノ本日附ノ左記書翰ヲ受
領スルノ光榮ヲ有シ候

決ニ關スル閣下ト本使トノ間ノ最近ノ會談ニ付本使ハ皇帝
陛下ノ聯合王國ニ於ケル政府ニ依リ中國人以外ノ國民ニ發
給セラレタル右地區内ノ各筆ノ土地ニ對スル地券カ一畝ニ
付一元ノ登記料ヲ課シテ中國永代借地權證書ト交換セラル
ヘク右租借力存セサルニ至リ且英國政府ヘノ右地區ノ租借
ニ關スル協定ヲ規定スル千八百五十二年ノ交換公文カ右地
區ニ對スル中國永代借地證書カ正當ニ調製發行セラレテ右
地區内ノ中國人以外ノ土地保有者ヘノ轉交ノ爲在廈門英國
領事ニ交付セラルル日ヨリ廢棄セラルヘク又右地區内ノ中
國人土地保有者ニ關シテハ英國政府ノ發給ニ係ル地券ヲ提
出シタルトキ中國官憲ニ依リ適當ノ證書カ發行セラルヘク
且右英國政府ノ發給ニ係ル地券ハ中國人以外ノ國民ニ發給
セラレタル同様ノ地券ト同一ノ方法ニ依リ廢棄セラルル爲
英國領事ニ返還セラルヘシトノ本使ノ了解ヲ閣下カ確認セ
ラレンコトヲ要請スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年九月十七日南京ニ於テ

マイルズ、ダブリユト、ランブスン

「在廈門英國租借地區ノ借地權問題ノ解決ニ關スル閣下
ト本使トノ間ノ最近ノ會談ニ付本使ハ皇帝陛下ノ聯合王
國ニ於ケル政府ニ依リ中國人以外ノ國民ニ發給セラレタ
ル右地區内ノ各筆ノ土地ニ對スル地券カ一畝ニ付一元ノ
登記料ヲ課シテ中國永代借地權證書ト交換セラルヘク右
租借力存セサルニ至リ且英國政府ヘノ右地區ノ租借ニ關
スル協定ヲ規定スル千八百五十二年ノ交換公文カ右地區
ニ對スル中國永代借地權證書カ正當ニ調製發行セラレテ
右地區内ノ中國人以外ノ土地保有者ヘノ轉交ノ爲在廈門
英國領事ニ交付セラルル日ヨリ廢棄セラルヘク又右地區
内ノ中國人土地保有者ニ關シテハ英國政府ノ發給ニ係ル
地券ヲ提出シタルトキ中國官憲ニ依リ適當ノ證書カ發行
セラルヘク且右英國政府ノ發給ニ係ル地券ハ中國人以外
ノ國民ニ發給セラレタル同様ノ地券ト同一ノ方法ニ依リ
廢棄セラルル爲英國領事ニ返還セラルヘシトノ本使ノ了

解テ閣下カ確認セラレンコトヲ要請スルノ光榮ヲ有シ
候

本部長ハ本回答中ノ書翰ニ陳述セラレタル閣下ノ了解ノ正
確ナルコトヲ確認致候

本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十七日

王 正 廷

第四、「ランブスン」公使ヨリ

王正廷宛書翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ「中國全部ニ互ル地租ヲ定ムル
新法令カ現實ニ廈門地方全部ニ互リ施行セラルル迄ハ英國
地券ト引換ニ發給セラルヘキ中國永代借地權證書ノ廈門地
方ニ於ケル保有者ニ依リ支拂ハルヘキ毎年ノ地租カ引續キ
現行申ニテ存續スヘシ」ト陳述セラレタル閣下ノ本日附貴
翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ右陳述ヲ正ニ了承シタルカ皇帝陛下ノ聯合王國ニ於
ケル政府ニ於テハ該陳述ニ同意致候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十七日南京ニ於テ

マイルズ、ゲブリュー、ランブスン

第三、王正廷ヨリ「ランブスン」
公使宛書翰

以書翰啓上致候陳者本日貴公使ト本部長トノ間ニ交換セラ
レタル在廈門英國租界地區ノ借地權問題ノ解決ニ關スル書
翰ニ付本部長ハ中國全部ニ互ル地租ヲ定ムル新法令カ現實
ニ廈門地方全部ニ互リ施行セラルル迄ハ英國地券ト引換ニ
發給セラルヘキ中國永代借地權證書ノ廈門地方ニ於ケル保
有者ニ依リ支拂ハルヘキ毎年ノ地租カ引續キ現行申ニテ存
續スヘシト陳述スルノ光榮ヲ有シ候

本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十七日

王 正 廷

千九百一一年ノ中華民國賠
償金中ノ英國ノ取分ノ處
分ニ關スル皇帝陛下ノ聯
合王國ニ於ケル政府ト中
華民國政府トノ間ノ公文
交換

千九百三十年九月十九日及二十
二日南京ニ於ケル

一、在中國英公使宛外交部長ノ

書翰

以書翰啓上致候陳者本部長ハ千九百二十二年十二月皇帝陛
下ノ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國
ニ於ケル政府ニ依リ爲サレタル千九百一一年ノ賠償金中ノ英
國ノ取分ノ殘高カ爾後中華民國及聯合王國ニ對シ共通ニ利
益アル目的ニ充當セラルヘシトノ宣言ヲ閣下ニ對シ引用シ
且皇帝陛下ノ政府カ千九百二十二年十二月一日以後ノ賠償

千九百一一年ノ中華民國賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル皇帝陛
下ノ聯合王國ニ於ケル政府ト中華民國政府トノ間ノ公文交換

金ノ一切ノ支拂額ヲ中華民國政府ノ管理ノ爲送付スルノ措
置ヲ直ニ執ラレシトノ希望ヲ表明スルノ光榮ヲ有シ候

(二) 前記送付カ遂行セラレタル場合ニハ中華民國政府ハ
後ニ掲ケラルル在中華民國受託人會ノ注意ノ要請セラル
ヘキ千九百二十六年ニ公表セラレタル英華諮問委員會ノ
報告書ニ掲ケラルル一般の意見ニ和シテ前記資金ヲ處分
スルノ意思ヲ有シ候尤モ中華民國政府ハ委員會ノ報告書
ニ掲ケラルル教育の目的ニ追テ充當セラルヘキ基本財産
ノ創設ニ右資金ノ大部分ヲ第一ニ充用セントスルモノニ
有之候中華民國政府ニ於テハ右ノ如キ基本財産ヲ調達ス
ル爲ノ最有效ナル案ハ右賠償金即チ目下預金中ノ蓄積資
金及一切ノ將來ノ割賦金ヲ中華民國ニ於ケル鐵道ノ復舊
及建設並ニ他ノ生産的事業ニ投資スルニ在リト認メ候前
記基本財産ノ管理、割當及運用ニ關シテハ中華民國政府
ハ或數ノ英國委員ヲ含ムヘキ在中華民國受託人會ヲ正式
ニ任命致スヘク候

(三) 中華民國ニ於ケル復興及發展ニ關シ第一ニ中華民
國ノ現存鐵道ノ維持ノ緊急ナル必要ニ鑑ミ中華民國政府
ハ右鐵道ノ復舊就中英國ノ財政的利益カ特ニ關係アル諸
線ニシテ第一ニ注意ノ喚起セラルヘキモノニ目下預金中

ノ蓄積資金及最近ニ支拂ハルヘキ割賦金ノ一部ヲ充用スルニ必要ナル措置ヲ執ルヘク候

(四) 送付セラルル賠償資金又ハ右資金ニ依リ保證セラルル借入金ヲ以テスル鐵道ノ復舊及建設並ニ他ノ生産的事業ノ企劃ニ當リテハ現存契約ノ條項ハ考慮セラルヘキモ橋梁、機關車、車輛、「レール」及他ノ裝備品ヲ含ム必要ノ諸材料ニシテ右資金ヲ以テ外國ニ於テ購入セラルルモノニ對スル一切ノ註文ハ「クレート、アリテン」及「北部、アイルランド」聯合王國ニ爲サルヘク候

(五) 前記提案ヲ最近ノ時日ニ於テ且兩國ニ對シ最満足ナル方法ヲ以テ實行スル爲メ中華民國政府ハ目下預金中ノ蓄積資金ノ全部カ「ロンドン」購買委員會ニ振替ヘラルルコトニ同意スルノ用意有之候該委員會ハ中華民國政府ノ鐵道及中華民國ニ於ケル他ノ生産的企業ニ使用スル爲メ橋梁、機關車、車輛、「レール」及他ノ諸材料ヲ聯合王國ノ製造家ヨリ購入スルノ目的ヲ以テ在「ロンドン」中華民國外交代表者タルヘキ委員長、中華民國鐵道部代表者及中華民國政府力實業ニ廣キ經驗ヲ有スル地位アル者トシテ皇帝陛下ノ外務大臣ニ依リ受託人會ニ推薦セラレタル者ノ人名表中ヨリ該受託人會ト協議ノ上時時任命スル四名ノ委

員ヨリ成ルヘキモノニ有之候該委員會ハ本書翰ニ定メラルル金銀ノ一部分ノ該委員會ヘノ支拂ニ依ルト即時ノ使用ニ必要ナラサル該金銀ノ一部分ノ預金又ハ投資ヨリ來ルトト間ハ該委員會ニ對シ生スル何レノ收入ニ關シテモ一切ノ課稅ヲ免除セラルヘキコト又該委員會ノ職能ハ左ノ如クナルヘキコトト了解セラレ候

(一) 中華民國政府力時時必要トシ且註文スルコトアルヘキ裝置、機械及他ノ物品並ニ各場合ニ付聯合王國ニ於テ製造セラルヘキ他ノ物品及材料ノ中華民國ヘノ供給並ニ引渡ノ爲メ契約ヲ結ヒ且其ノ履行ヲ監督シ及確保スルコト並ニ

(二) 委員會カ受領スル一切ノ金銀ヲ右ノ如キ契約ニ基キ又ハ之ニ關聯シテ負フ義務ノ履行、委員會ノ費用ノ一般の交辦並ニ右金銀カ右目的ノ爲メ即時ニ必要ナラサル限リ委員會テシテ中華民國政府ノ同様ノ必要及將來ニ於ケル委員會自體ノ費用ニ應スルコトヲ得シムル豫備金ノ設定ニ本書翰ノ條項ニ從ヒテ充用スルコト、一切ノ將來ノ割賦金ハ其ノ支拂期限ノ到來スルニ從ヒ中華民國政府ニ依リ皇帝陛下ノ在中華民國代表者ニ支拂ハルヘク右代表者ハ前記ト同一ノ方法ニテ且同様ノ

目的ノ爲メ使用セラルル爲メ一半ヲ「ロンドン」購買委員會ニ又他ノ一半ヲ在中華民國受託人會ノ勘定ニ振替フヘシ

(六) 資金ニシテ聯合王國ニ於テ消費セラレタルモノハ受託人會ヨリ中華民國政府ノ鐵道又ハ他ノ關係生産的企業ニ對シ爲サレタル利附且將來ノ償還金ヲ支辨スル爲メ貸付ト看做サレ嚴密ナル勘定書ハ時時右受託人ニ提出セラレヘク候右貸付金ノ元利拂ニ振當テラルヘキ金額ハ右受託人ニ支拂ハルヘク且右受託人ニ依リ最近ノ機會ニ於テ教育的目的ニ充用セラルヘク候

本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年九月十九日南京ニ於テ

王 正 廷

二、在中國英公使宛外交部長ノ

書翰

以書翰啓上致候陳者千九百一十一年ノ賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル本日附ノ抽翰ニ掲ケラルル「ロンドン」購買委員會ノ組織、權限及議事ニ關シ本部長ハ左ノ如ク了解スル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

一 委員會ノ委員(議長ヲ除ク)ノ任期ハ三年トス但シ重任スルコトヲ得尤モ委員ハ何時ニテモ辭職スルコトヲ得

二 委員會ノ議事ハ委員會中ノ缺員ニ依リ無効ト爲ルコトナカルヘシ但シ委員會ノ決定ハ委員四名ニ依リ構成セラルヘキ定足數ヲ缺ク場合ニハ爲サレサルヘキモノトス

三 委員會ハ其ノ職務ノ適當ナル遂行ニ必要ト認ムル事務所ヲ設置シ並ニ事務員、專門顧問、會計掛及代理人ヲ使スルコトヲ得

四 委員會ノ計算書ハ委員會ノ決定スルコトアルヘキ毎年一定ノ日迄ニ付作成セラルヘク且委員會ノ決定スルコトアルヘキ一定ノ者ニ依リ檢査セラルヘシ又委員會ハ右計算書ノ及該年度中ノ委員會ノ取引ノ概要ヲ中華民國政府ニ提出シ且之ヲ公表セシムヘシ

五 右諸規定及前記書翰ニ掲ケラルル條件ヲ留保シ委員會ハ其ノ手續ヲ規律シ且委員會ニ依リト其ノ小委員會ニ依ルトト間ハ委員會ノ事務ノ遂行ヲ規律スル永續的規律ヲ作成スルコトヲ得

本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十九日南京ニ於テ

王 正 廷

千九百一十一年ノ中華民國賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル皇帝陛下
下ノ聯合王國ニ於ケル政府ト中華民國政府トノ間ノ公文交換

八七二

三、外交部長宛在中國英公使ノ

書翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ千九百一十一年ノ賠償金中ノ英國ノ
取分ノ殘高ノ處分ニ關スル本日附ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮
ヲ有シ候右書翰ニ於テ貴部長ハ皇帝陛下ノ「グレイト、プリ
テン」及北部「アイルランド」聯合王國ニ於ケル政府カ右賠
償資金ヲ中華民國政府ノ管理ニ戻ス場合ニ於テ千九百二十
六年ニ公表セラレタル英華諮問委員會ノ報告書ニ掲ケラル
ル一般の意見ニ和シテ教育的目的ニ充當セラルヘキ基本財
産ヲ右賠償資金ヨリ創設スルノ中華民國政府ノ意ヲ本使
ニ御通知相成敬承致候

本使ハ又右受領セラレタル別ノ書翰ニ於テ提議セラレタル
「ロンドン」購買委員會ノ組織、權限及議事ニ關スル本日附
ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候
本使ハ皇帝陛下ノ政府ノ審查ノ爲之ニ貴翰ノ本文ヲ通報致
シ居候此ノ間ニ於テ本國政府ノ指令ニ依リ本使ハ中華民國
學生ノ教育ノ爲香港大學ニ及中華民國聯合王國間ノ一層密
接ナル文化關係ノ増進ノ爲「ロンドン」諸大學中華民國委員
會ニ夫々寄附セラルル爲二十六萬五千「ポンド」ノ額及更ニ

二十萬「ポンド」ノ額カ目下預金中ノ蓄積資金ヨリ留保セラ
ルヘキコトヲ貴部長ニ提言スルノ光榮ヲ有シ候
諸大學中華民國委員會ヘノ右寄附金ハ基本財産基金トシテ
投資セラルヘク右基金ヨリノ收入ハ聯合王國ニ於テ講演ス
ル爲著名ナル中華民國人ヲ招聘スル爲ニ特ニ使用セラルヘ
ク候

本使ハ茲ニ重テ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十九日南京ニ於テ

サー、マイルズ、ランブスン

四、在中國英公使宛外交部長ノ

書翰

以書翰啓上致候陳者本部長ハ皇帝陛下ノ「グレイト、プリテ
ン」及北部「アイルランド」聯合王國ニ於ケル政府ヨリノ左
ノ提案ヲ掲ケル千九百一十一年ノ賠償金中ノ英國ノ取分ノ殘高
ノ處分ニ關スル本日附ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候
「二十六萬五千「ポンド」ノ額及更ニ二十萬「ポンド」ノ額

カ中華民國學生ノ教育ノ爲香港大學ニ及中華民國聯合王
國間ノ一層密接ナル文化關係ノ増進ノ爲「ロンドン」諸大
學中華民國委員會ニ夫々寄附セラルル爲目下預金中ノ蓄

積資金ヨリ留保セラルヘキコト右諸大學中華民國委員會
ヘノ右寄附金ハ基本財産基金トシテ投資セラルヘク右基
金ヨリノ收入ハ聯合王國ニ於テ講演スル爲著名ナル中華
民國人ヲ招聘スル爲ニ特ニ使用セラルヘク候

回答トシテ本部長ハ中華民國政府カ前記提案ニ同意ナル旨
ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候
本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
千九百三十年九月十九日南京ニ於テ

王 正 廷

五、外交部長宛在中國英公使ノ

書翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有
シ候

「以書翰啓上致候陳者本部長ハ千九百二十二年十二月皇
帝陛下ノ「グレイト、プリテン」及北部「アイルランド」聯
合王國ニ於ケル政府ニ依リ爲サレタル千九百一十一年ノ賠償
金中ノ英國ノ取分ノ殘高カ爾後中華民國及聯合王國ニ對
シ共通ニ利益アル目的ニ充當セラルヘシトノ宣言ヲ閣下
ニ對シ引用シ且皇帝陛下ノ政府カ千九百二十二年十二月

一日以後ノ賠償金ノ一切ノ支拂額ヲ中華民國政府ノ管理
ノ爲送付スルノ措置ヲ直ニ執ララルヘシトノ希望ヲ表明ス
ルノ光榮ヲ有シ候
前記送付カ遂行セラレタル場合ニハ中華民國政府ハ後ニ
掲ケラルル在中國民國ノ受託人會ノ注意ノ要請セラルヘ
キ千九百二十六年ニ公表セラレタル英華諮問委員會ノ報
告書ニ掲ケラルル一般の意見ニ和シテ前記資金ヲ處分ス
ルノ意思ヲ有シ候尤モ中華民國政府ハ委員會ノ報告書ニ
掲ケラルル教育的目的ニ迫テ充當セラルヘキ基本財産ノ
創設ニ右資金ノ大部分ヲ第一ニ充用セントスルモノニ有
之候中華民國政府ニ於テハ右ノ如キ基本財産ヲ調達スル
爲ノ最有致ナル案ハ右賠償資金即チ目下預金中ノ蓄積資
金及一切ノ將來ノ割賦金ヲ中華民國ニ於ケル鐵道ノ復舊
及建設並ニ他ノ生産的事業ニ投資スルニ在リト認メ候前
記基本財産ノ管理、割當及運用ニ關シテハ中華民國政府
ハ或數ノ英國委員ヲ含ムヘキ在中國民國ノ受託人會ヲ正
式ニ任命スヘク候

中華民國ニ於ケル復興及發展ニ關聯シ第一ニ中華民國ノ
現存鐵道ノ維持ノ緊急ナル必要ニ鑑ミ中華民國政府ハ右
鐵道ノ復舊就中英國ノ財政的利益カ特ニ關係アル諸線ニ

千九百一十一年ノ中華民國賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル皇帝陛下
下ノ聯合王國ニ於ケル政府ト中華民國政府トノ間ノ公文交換

八七三

シテ第一ニ注意ノ喚起セラルヘキモノニ目下預金中ノ蓄積資金及最近ニ支拂ハルヘキ割賦金ノ一部ヲ充用スルニ必要ナル措置ヲ執ルヘク候

送付セラルル賠償資金又ハ右資金ニ依リ保證セラルル借入金ヲ以テスル鐵道ノ復舊及建設並ニ他ノ生産の事業ノ企劃ニ當リテハ現存契約ノ條項ハ考慮セラルヘキモ橋梁機關車、車輛、「レール」及他ノ裝備品ヲ含ム必要ノ諸材料ニシテ右資金ヲ以テ外國ニ於テ購入セラルルモノニ對スル一切ノ註文ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ニ爲サルヘク候

表中ヨリ該受託人會ト協議ノ上時時任命スル四名ノ委員ヨリ成ルヘキモノニ有之候該委員會ハ本書翰ニ定メラルル金銀ノ一部分ノ該委員會ヘノ支拂ニ依ルト即時ノ使用ニ必要ナラサル該金銀ノ一部分ノ預金又ハ投資ヨリ來ルトヲ間ハス委員會ニ對シ生スル何レノ收入ニ關シテモ一切ノ課稅ヲ免除セラルヘキコト又該委員會ノ職能ハ左ノ如クナルヘキコトト了解セラレ候

(一) 中華民國政府カ時時必要トシ且註文スルコトアルヘキ裝置、機械及他ノ物品並ニ各場合ニ付聯合王國ニ於テ製造セラルヘキ他ノ物品及材料ノ中華民國ヘノ供給並ニ引渡ノ爲メ契約ヲ結ヒ且其ノ履行ヲ監督シ及確保スルコト並ニ

(二) 委員會カ受領スル一切ノ金銀ヲ右ノ如キ契約ニ基キ又ハ之ニ關聯シテ負フ義務ノ履行、委員會ノ費用ノ一般的支辨並ニ右金銀カ右目的ノ爲ニ即時ニ必要ナラサル限り委員會ヲシテ中華民國政府ノ同様ノ必要及將來ニ於ケル委員會自體ノ費用ニ應スルコトヲ得シムル豫備金ノ設定ニ本書翰ノ條項ニ從ヒテ充用スルコト一切ノ將來ノ割賦金ハ其ノ支拂期限ノ到來スルニ從ヒ中華民國政府ニ依リ皇帝陛下ノ在中華民國代表者ニ支拂

ナルヘク右代表者ハ前記ト同一ノ方法ニテ且同様ノ目的ノ爲ニ使用セラルル爲ニ半ヲ「ロンドン」購買委員會ニ又他ノ一半ヲ在中華民國受託人會ノ勘定ニ振替ヘフ

資金ニシテ聯合王國ニ於テ消費セラレタルモノハ受託人會ヨリ中華民國政府ノ鐵道又ハ他ノ關係生産の企業ニ對シ爲サレタル利附且將來ノ償還金ヲ支辨スル爲メ貸付ト看做サレ嚴密ナル勘定書ハ時時右受託人ニ提出セラルヘク候右貸付金ノ元利拂ニ振當テラルヘキ金額ハ右受託人ニ支拂ハルヘク且右受託人ニ依リ最近ノ機會ニ於テ教育的目的ニ充用セラルヘク候

本使ハ又左記書翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候
「以書翰啓上致候陳者千九百一一年ノ賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル本日附ノ掛翰ニ掲ケラルル「ロンドン」購買委員會ノ組織、權限及議事ニ關シ本部長ハ左ノ如ク了解スル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

一 委員會ノ委員(議長ヲ除ク)ノ任期ハ三年トス但シ重任スルコトヲ得尤モ委員ハ何時ニテモ辭職スルコトヲ得

二 委員會ノ議事ハ委員中ノ缺員ニ依リ無効ト爲ルコト

千九百一一年ノ中華民國賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル皇帝陛下ノ聯合王國ニ於ケル政府ト中華民國政府トノ間ノ公文交換

ナカルヘシ但シ委員會ノ決定ハ委員四名ニ依リ構成セラルヘキ定足數ヲ缺ク場合ニハ爲サレサルヘキモノトス

三 委員會ハ其ノ職務ノ適當ナル遂行ニ必要ト認ムル事務ヲ設置シ並ニ事務員、専門顧問、會計掛及代理人ヲ使用スルコトヲ得

四 委員會ノ計算書ハ委員會ノ決定スルコトアルヘキ毎一年一定ノ日迄ニ付作成セラルヘク且委員會ノ決定スルコトアルヘキ一定ノ者ニ依リ検査セラルヘシ又委員會ハ右計算書ノ及該年度中ノ委員會ノ取引ノ概要ヲ中華民國政府ニ提出シ且之ヲ公表セシムヘシ

五 右諸規定及前記書翰ニ掲ケラルル條件ヲ留保シ委員會ハ其ノ手續ヲ規律シ且委員會ニ依ルト其ノ小委員會ニ依ルトト間ハス委員會ノ事務ノ遂行ヲ規律スル永續的規則ヲ作成スルコトヲ得

本使ハ又左記書翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

「以書翰啓上致候陳者本部長ハ皇帝陛下ノ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國ニ於ケル政府ヨリノ左ノ提案ヲ掲ケル千九百一一年ノ賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル本日附ノ貴翰ヲ受領スルノ光榮

千九百一十一年ノ中華民國賠償金中ノ英國ノ取分ノ處分ニ關スル皇帝陛下ノ聯合王國ニ於ケル政府ト中華民國政府トノ間ノ公文交換

中華民國學生ノ教育ノ爲香港大學ニ及中華民國ト聯合王國間ノ一層密接ナル文化關係ノ増進ノ爲「ロンドン」諸大學中華民國委員會ニ夫々寄付セララルル爲二十六萬五千「ポンド」ノ額及更ニ二十萬「ポンド」ノ額カ目下預金中ノ蓄積資金ヨリ留保セララルヘキコト右諸大學中華民國委員會ヘノ右寄付金ハ基本財産基金トシテ投資セラルヘク右基金ヨリ收入ハ聯合王國ニ於テ講演スル爲著名ナル中華民國人ヲ招請スル爲ニ特ニ使用セララルヘク候

回答トシテ本部長ハ中華民國政府カ前記提案ニ同意ナル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ貴國ヲ皇帝陛下ノ「グレート、ブリテン」及北部「アイランド」聯合王國ニ於ケル政府ニ通告シタル旨並ニ同政府カ賠償金中ノ英國ノ取分ノ殘高ノ將來ノ利用ニ關シ貴國政府ニ依リ提言セラレタル提案ヲ多トシ且之ヲ承認スル旨及提案セラレタル「ロンドン」購買委員會カ前記最初ノ貴國中ニ定メラルル金銀ノ一部分ノ委員會ヘノ支拂ニ依ルト即時ノ使用ニ必要ナラサル該金銀ノ一部分ノ預金又ハ投資ヨリ來ルトヲ問ハス該委員會ニ對シ生スル何レノ收入ニ關シ

テモ課稅ヲ免除セララルヘシトノ貴部長ノ了解ヲ確認シ且右委員會ノ組織、權限及議事ニ關スル貴部長ノ了解ヲモ確認スル旨ヲ閣下ニ通知スル様本使ニ調令致越シ候旨ヲ回答トシテ閣下ニ通知スルノ光榮ヲ有シ候依テ制定ノ要アル法律ハ右ノ實行ノ爲起草セララルヘク候皇帝陛下ノ政府ハ鐵道ノ復舊及建設カ單ニ貴重ナル教育上ノ基本財産ヲ供スルノミナラス又其レ自體ニ於テ通商及繁榮ヲ増進シ斯クテ兩國ノ共通ノ利益ヲ進展スヘキコトヲ信スルモノニ候同政府ハ諸材料ノ註文「グレート、ブリテン」及北部「アイランド」聯合王國內ノ英國製造家ニ對シ爲スノ中華民國政府ノ意思ヲ特ニ多トシ又九月十九日ノ貴國中ノ第五號及第六號ニ提言セラレタル右意思ノ實行方法カ兩國ニ取リ満足ナルモノタルコトヲ證スルニ至ルヘシト思考スルモノニ候同政府ハ英國會社ト中華民國官憲トノ間及英國會社ト其ノ在外組合員トノ間ノ現存契約ノ條項ヲ勿論留保シ右御提案ヲ利用スルコトヲ欣幸トスルモノニ候依テ皇帝陛下ノ政府ハ必要ナル法律カ議會ヲ通過スルコトヲ條件トシ且該法律カ實施セラレタルトキ千九百二十二年十二月一日以後ノ賠償金ノ一切ノ仕拂額ヲ送付スヘク且預金中ノ一切ノ資金ヨリ千九百二十五年ノ中華民國賠償金(充用)法第一條(一)及(三)ニ依

リ既ニ支出セラレタル費用ヲ差引キテ且諸大學中華民國委員會及香港大學ノ爲夫々留保セラレタル二十萬「ポンド」及二十六萬五千「ポンド」ノ二箇ノ金額ノ控除ヲ留保シテ右資金ヲ提案セラレタル「ロンドン」購買委員會ニ振替フヘク又本書翰第一段及第二段ニ掲ケラルル書翰ニ定メラルル方法及諸條件ニ從ヒ將來ノ仕拂金ヲ中華民國政府ノ管理ニ移スヘク候

本使ハ茲ニ重テ貴部長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年九月二十二日南京ニ於テ

サー、マイルズ、ランブスン

【參考】

管理英國退還庚款董事會章程

(中華民國二十年三月二十八日公布)

- 第一條 國民政府ハ英國ノ返還スル團匪賠償金管理ノタメ特ニ英庚款董事會ヲ特設シ行政院ニ隸屬セシム
第二條 本會ハ國民政府ヨリ中國人董事十名、英國人董事五名ヲ選派シ之ヲ組織ス
第三條 本會ハ民國十九年九月十九日外交部カ駐華英公使

管理英國退還庚款董事會章程

館ニ照會セテ辦法ニヨツテ管理シ英國返還賠償金部分ノ職權ヲ分配ス

- 第四條 董事ノ任期ハ三年トシ第一任董事ノ任期ハ其三分ノ一ヲ一年、三分ノ一ヲ二年、三分ノ一ヲ三年トシ抽籤ニヨツテ之ヲ定ム董事ハ連任スルコトヲ得
第五條 董事カ辭職或ハソノ他ノ事故ニヨリ職務ヲ行使シ得サル場合ソノ補缺董事ノ任期ハ被補董事ノ未了ノ任期ヲ以テ限リトス
第六條 本會ノ開會ハ過半數ノ董事ノ出席ヲ要スソノ決議案ハ出席董事ノ過半數ノ贊成ニヨリ有効トス
第七條 本會事務所ハ首都ニ置ク但シ開會地點ハ本會ヨリ隨時コレヲ決定ス
第八條 本會ハ董事長一人ヲ置ク政府ヨリ之ヲ指定ス副董事長一人、秘書一人、會計一人ハ董事ヨリ之ヲ互選ス
第九條 本會ハ事務上ノ都合ニヨリ事務員ヲ雇用スルヲ得
第十條 董事ハ名譽職トナス但シ開會ノ際ハ旅費ヲ支給スルコトヲ得
第十一條 本會ノ經費ハソノ所管金中ヨリ之ヲ支出ス
第十二條 本會ハ毎月會計年度終了ノ時工作報告及一切ノ勘定ヲ編シテ行政院ニ送り核閱ヲ請フ

支那關稅自主權ノ恢復

第十三條 本會ハ議事及辦事細則ヲ自訂シテ行政院ニ呈請スルコトヲ得
第十四條 本章程ハ政府ノ命令ヲ以テ之ヲ修正ス
第十五條 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

支那關稅自主權ノ恢復

(釐金廢止命令)

國民政府令
中華民國十九年一月十七日

本年十月十日ヨリ全國ノ釐金及釐金ニ類似セル一切ノ稅捐ヲ一律裁撤ス此ニ令ス

【參考】

財政部長朱子文ノ全國通電

(中華民國十九年十二月十五日)

民國二十年一月一日釐金及釐金類似ノ一切ノ稅捐ヲ廢止シ各省ハ如何ナル理由アルモ之カ延期ヲ請求スヘカラサル次

第八卷ニ第四次全體會議ノ決議ニ基キ命令ヲ發セラレ居リ本部ハ既ニ各省財政廳、財政特派員、各鐵道貨捐局、各郵包稅局、總稅務司、各海關常關監督ニ對シ全國ノ釐金及釐金變名ノ統稅、統捐、專稅、貨物稅、鐵路貨捐、郵包稅、落地稅並ニ各種稅捐中釐金ノ性質ヲ含ムモノ將又海關ノ五十里外ニ於ケル常關稅及其他內地常關稅(陸路邊境ニ於テ徵收スル國境輸出入稅ヲ除ク)子口稅又ハ複進口稅等ハ本年十二月卅一日限リ一律永遠ニ廢除スヘキ旨通令シアリ從テ二十年一月一日以降是等稅捐ノ各徵收機關ハ絕對ニ存在スルコトヲ許サス若シ利益ヲ圖ル爲何等名目ヲ立テ右實行ノ遷延ヲ計ル者アラシカ法令及輿論ハ共ニ許ササルヘシ本部ハ民衆ノ苦痛ヲ除キ黨國ノ大計ノ爲如何ナル困難アルモ本件計劃ヲ實行シ積極的ニ財政ヲ整理スルト共ニ國民經濟ニ利センコトヲ期ス

支那改訂輸入稅率表

中華民國二十三年七月二日公布
千九百三十四年七月三日實施
第一類 棉花及棉製品

生地綿布

稅番 品名	單位	稅率 (金單位)
一、金巾、「シーチンク」及天竺布	平織	
A、巾八二種以下		〇・〇二八
1、米當り重量一四〇瓦以下	一米	〇・〇二八
2、同	一四〇瓦以上	〇・〇四三
B、巾八二種以上一〇二種以下		
1、米當り重量九〇瓦以下	同	〇・〇二六
2、同	九〇瓦以上	〇・〇四三
二、綾綿布及細綾綿布(三枚或ハ四枚)	同	〇・〇四三
巾八二種以下	從價	二五・%
三、模造土布 巾六二種以下	從價	二五・%
四、「カムブサック」、「寒冷紗」、毛斯綸、「プロケイド」(單糸ノモノ)、		
縐、緋、畦織、模樣入金巾	同	二五・%
五、絹及絹「プロケイド」	同	二五・%
六、綿「クレープ」 巾八二種以下	一米	〇・〇三七
七、綿「サーシ、グイアゴナル」、		
「トウシル、ヘリンクボーン」、		
「トウシル、オートミール」縮、		

支那改訂輸入稅率表

「コーティンク」、	「スーティンク」、	「ツウワイド」、	「ガバーティン」、	「トウルザリンク」	「サティーン、ドリル」	「ボブリン」	模造「ボブリン」、	畦織、筋入、畝織	綿帆布(色織物ヲ含ム)	綿「フランネル」(平織又ハ綾織)	巾八二種以下	巾八二種以上一〇二種以下	綿天鵞絨、「ブラツシユ」其他起毛綿布	列記セサル生地綿布	晒及染色綿布	金巾、「シーチンク」及「アイリツ」平織、晒セルモノ	巾九二種以下	晒綿布及晒細綾綿布(三枚或ハ四枚晒セルモノ)
從價	從價	同	同	同	同	同	同	同	一米	同	同	從價	從價	同	從價	一米	同	
二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	二五・%	〇・〇五九	〇・〇七七	〇・〇三七	二五・%	二五・%	二五・%	〇・〇五	〇・〇五	〇・〇五	

支那改訂輸入税率表

巾八二種以下	一米	〇・〇四九
一七、晒天竺布及「メキシカン」 巾九二種以下	同	〇・〇五
一八、「カムブリック」、寒冷紗、 毛斯綸、「ネインズック」、「シヤ 「コネット」、「ウイクトリア」格 子縞、「スイス」格子縞、「ラベツ ト」、「カムブリック」、「プロケイ ド」(單糸ノモノ)縞、緋、畦織、模 様入金巾、晒又ハ染メタルモノ A、巾八二種以下	同	〇・〇六八
B、巾八二種以上九二種以下	同	〇・〇七三
C、巾九二種以上	従價	二五・%
一九、「ヴォイル」、晒又ハ染メタ ルモノ	同	二五・%
二〇、「オーガンス」、晒又ハ染 メタルモノ	同	二五・%
二一、紹、晒又ハ染メタルモノ 巾八二種以下	一米	〇・〇四三
二二、紹「プロケイド」、晒又ハ染		

メタルモノ	八八〇	
二三、「マーセライズ、クリンブ」 晒又ハ染メタルモノ	従價	二五・%
二四、綸「クレープ」、晒又ハ染メ タルモノ 巾八二種以下	同	二五・%
二五、金巾、「シーチンク」、「ボンジ 」平織 染メタルモノ	一米	〇・〇四四
A、巾八二種以下	同	〇・〇三八
B、巾八二種以上九二種以下	同	〇・〇三五
二六、綾綿布及細綾綿布(三枚或 ハ四枚) 染メタルモノ	同	〇・〇四九
巾八二種以下		
二七、紅天竺布(紅洋布) 緋金巾 巾八二種以下	同	〇・〇四九
A、米當り重量六五瓦以下	同	〇・〇三一
B、同 六五瓦以上一〇五瓦以下同	同	〇・〇四二
C、同 一〇五瓦以上	同	〇・〇四五
二八、綸「サーシ、ダイヤゴナル」、 「トウイル、ヘリングボーン」、「ト ウイル、オートミール」綸、「コ」		

テイニング」、「スーテイニング、トウイ ード」、「ガバートイン、トウルーズ リング」晒又ハ染メタルモノ	一米	〇・〇六一
巾八二種以下		
二九、五枚及八枚朱子 晒又ハ 染メタルモノ 巾八二種以下	同	〇・〇六六
三〇、綸「ラスチンク、サテイーン」、 「イタリアン」模造「ヴェネシヤ ン」、天津紋織、「ピートライス」 紋織、緯縞子、縞縞子、晒又ハ染 メタルモノ 巾八二種以下	同	〇・〇八一
三一、綸「ヴェネシアン」 晒又ハ 染メタルモノ 巾八二種以下	同	〇・〇一一
三二、「ゴプリン」(「ゴプリン」、 「フェタス」ヲ含ム) 晒又ハ染メ タルモノ 巾八二種以下	同	〇・〇一〇
三三、模造「ゴプリン」、畦織、筋 入畦織及「モリン」 晒又ハ染 メタルモノ 巾八二種以下	同	〇・〇八三
三四、綿帆布 晒又ハ染メタルモ		

三五、「デイミテイ、ピケ」羽衣地、 蒲團地、「ベツドフォード」、「コ ード」晒又ハ染メタルモノ	同	二五・%
三六、綿布「フランネル」、平織又 ハ紋織 晒又ハ染メタルモノ	一米	〇・〇三五
A、巾六二種以下	同	〇・〇四四
B、巾六二種以上八二種以下	同	〇・〇五七
C、巾八二種以上九二種以下		
三七、綿天鵞絨、「アラツシ」其ノ他 起毛綿布 晒又ハ染メタルモノ	同	〇・一六
A、巾九二種以下	従價	二五・%
B、巾九二種以上	同	二五・%
三八、列記セサル晒又ハ染綿布		
捺染綿布		
三九、金巾、「シーチンク」、天竺 布平織	一米	〇・〇五
A、巾八二種以下	同	〇・〇五四
B、巾八二種以上一〇二種以下		
四〇、綾綿布及細綾綿布(三枚或		

支那改訂輸入税率表

支那改訂輸入税率表

ハ四枚) 巾八二種以下	一米	〇・〇五	「サテイネット」、クイタリアン、ダ マスク、シレシア、ピートライ ス、トウシル、巾八二種以下	一米	〇・〇八一
四一、「カムブリック」、寒冷紗、毛 ス綸、「プロケイド」(單糸ノモ ノ) 縞、紺、畦織、模様入金巾	同	〇・〇六八	五〇、綿「ヴェネシアン」	同	〇・〇一一
A、巾八二種以下	同	〇・〇七三	巾八二種以下	同	〇・〇一〇
B、巾八二種以上一〇二種以下	同	二五・%	五二、模造「ポプリン」、畦織、「コ ロド」、畝織、「モリオン」	同	〇・〇八三
四二、「ツオイル」	従價	二五・%	巾八二種以下	同	〇・〇八三
四三、「オーガシス」	同	二五・%	五三、「トウシル、クレトン」、 「オート ミール、クレイブ、クレトン」、 「サ テイオン、クレトン」、 「レソプ、ク トン」其ノ他「クレトン」	従價	二五・%
四四、絹 巾八二種以下	一米	〇・〇四三	五四、綿「フランネル」平織又ハ紋織	一米	〇・〇四四
四五、「マーセライズ、クリンプス」	従價	二五・%	A、巾八二種以下	一米	〇・〇三七
四六、綿「クレイブ」 巾八二種以下	一米	〇・〇四四	B、巾八二種以上九二種以下	同	〇・〇三七
四七、綿「サージュ、ダイアゴナル」、 「トウシル、ヘリンクボーン」、 「ト ウシル、オートミール」縮、「コ テイニング」、 「スーテイニング、トウ イード」、 「ガバードイーン、トウル ーザリング」	巾八二種以下	〇・〇六一	五五、綿天鵞絨、「ブラツシ」其ノ 他起毛、綿布	同	〇・〇一六
四八、「サテイオン」、 「ドリル」	同	〇・〇六一	A、巾八二種以下	同	〇・〇一六
四九、綿「ラスチング」、 「サテイオン」、 八二種以下	同	〇・〇六六	B、巾八二種以上	従價	二五・%

八八二

五六、列記セサル捺染綿布	従價	二五・%	巾八二種以下	一米	〇・〇六一
其ノ他綿布	同	〇・〇一〇	六三、「ポプリン」 糸染物	同	〇・〇一〇
五七、金巾及「シーチング」平織	一米	〇・〇五	巾八二種以下	同	〇・〇八三
糸染物 巾九二種以下	同	二五・%	六四、模造「ポプリン」、畦織、「コード」、 畝織 糸染物 巾八二種以下	同	〇・〇八三
五八、綾綿布及細綾綿布 三枚或 ハ四枚	同	〇・〇五	六五、「デIMITY、ピケ」別衣地、 蒲團地、「ベツドフオード」、 「コ ロド」 糸染物	従價	二五・%
糸染物 巾八二種以下	同	二五・%	六六、平織又ハ綾織ノ糸染綿「フ ランネル」	一米	〇・〇四四
六〇、絹及「プロケイド」 糸染物	同	二五・%	A、巾八二種以下	同	〇・〇三七
六一、綿「クワイブ」 糸染物	従價	二五・%	B、巾八二種以上九二種以下	同	二五・%
巾八二種以下	一米	〇・〇四四	六七、糸染綿天鵞絨、「ブラツシ ユ」其ノ他起毛綿布	従價	二五・%
六二、綿「サージュ」、 「ダイアゴナル」、 「トウシル、ヘリンクボーン」、 「トウ シル、オートミール、クレイブ」、 「コ テイニング、スーテイニング」、 「トウ イード、ガバードイーン」、 「ト ウルーザリング」 糸染物	同	二五・%	七八、列記セサル綿布	同	二五・%
支那改訂輸入税率表	同	二五・%	六九、護膜引防水布	同	二五・%
	同	二五・%	七〇、列記セサル綿布	同	二五・%
	同	二五・%	綿花、綿糸、綿織物及綿製品	百疋	五・〇〇
	同	二五・%	七一、棉花	同	一・三〇
	同	二五・%	七十二、屑棉花及屑綿糸	同	一・三〇
	同	二五・%		八八三	

支那改訂輸入稅率表

七三、墳 綿	百疋	五・五〇
七四、「ラツケ」	同	〇・一七
七五、綿 糸	同	
A、綿 糸		
1、一七番手以下	同	一一・〇〇
2、一七番手以上二三番手以下	同	一二・〇〇
3、二三番手以上三五番手以下	同	一五・〇〇
4、三五番手以上四五番手以下	同	一七・〇〇
5、四五番手以上	同	一八・〇〇
B、其ノ他		
綿糸稅率ヲ參照シテ一疋ニ付キ		
二・五〇金單位ヲ課稅ス、番手ハ		
英國或ハ萬國制標準ニコル		
七六、縫 糸		
A、縫糸(管又ハ糸卷ニ捲キタルモノ)		
1、二合糸 三合糸 長サ四		

八八四		
六米以下	一哥	〇・一七
2、六合糸 九合糸 長サ四	同	〇・三六
六米以下		
B、「レース」又ハ刺繡糸(球狀又ハ棒)		
1、一疋ニ付キ六金單位以上	一疋	一・三〇
ノモノ	同	〇・四五
2、一疋ニ付キ六金單位以下	同	〇・二八
ノモノ	同	
C、其ノ他		
七七、模造金糸又ハ銀糸(綿糸ニ捲キタルモノ)	同	一・五〇
七八、綑及紐	同	一七・〇〇
七九、燵燭芯	同	二三・〇〇
八〇、「レース」、縁取、刺繡品ノ	從價	五〇・%
ノ他裝飾用品及其ノ製品	一米	〇・一〇
八一、蚊帳布 巾二三〇釐以下	百疋	四六・〇〇
八二、綿莫大小地		
A、起毛シタルモノ		
B、起毛セサルモノ		

I、瓦斯糸又ハ「マーセライズ」	百疋	五五・〇〇
糸製ニアラサルモノ		
2、全部又ハ一部瓦斯糸或ハ		
「マーセライズ」糸製ノモノ同		
八三、起毛莫大小衣類	同	九六・〇〇
八四、起毛セサル莫大小衣類	同	五一・〇〇
A、瓦斯糸又ハ「マーセライズ」		
糸製ニアラサルモノ	同	六一・〇〇
B、全部又ハ一部瓦斯糸或ハ「マ		
ーセライズ」糸製ノモノ	同	一〇〇・〇〇
八五、靴 下		
A、瓦斯糸又ハ「マーセライズ」	同	六一・〇〇
糸製ニアラサルモノ		
B、全部又ハ一部瓦斯糸或ハ「マ		
ーセライズ」糸製ノモノ	同	一〇〇・〇〇
八六、綿製「エラスチック」、「ウエ	從價	三〇・%
ビング、ブレイド」及「コード」		
八七、腿帶子	百疋	八八・〇〇
八八、「ランプ」芯	同	二六・〇〇
八九、「タオル」(ターキツシユ)	同	五五・〇〇

九〇、綿毛布及綿毛布地	百疋	四一・〇〇
九一、手 巾	從價	四〇・%
九二、綿製袋(新)	百疋	二五・〇〇
九三、列記セサル綿衣類及部分品	從價	四〇・%
又ハ附屬品		
九四、列記セサル綿製品	同	三〇・%
第二類 亞麻、苧麻、大麻、黃麻及		
其ノ製品(混綿製品ヲ含ム)		
九五、生亞麻	從價	七・五%
九六、生苧麻	同	七・五%
九七、生大麻	百疋	一・五〇
九八、生黃麻	同	一・五〇
九九、墳絮(オークム)	從價	七・五%
一〇〇、亞麻、苧麻、大麻又ハ黃		
麻ノ糸及縫糸(混綿製品ヲ含ム)	同	一五・%
一〇一、亞麻、苧麻、大麻又ハ黃	從價	一五・%
麻ノ繩及紐(混綿製品ヲ含ム)		
一〇二、「レース」、縁取、刺繡品	同	五〇・%
ソノ他裝飾用品及其ノ製品		
一〇三、大麻、黃麻製帆布及油帆	八八五	

支那改訂輸入稅率表

支那改訂輸入稅率表

布(混綿製品ヲ含ム)	從價	二五・%
一〇四、晒平織亞麻布及同混綿布 一平方米ニ付キ重量一七〇瓦以下 ニシテ一平方厘ノ經糸及緯糸 五〇本以上八〇本以下ノモノ 布ヲ含ム)	同	七・五%
一〇五、列記セサル亞麻布(混綿 布ヲ含ム)	同	二五・%
一〇六、「ヘツシヤン、クロース」	百疋	六〇・〇
一〇七、大麻袋及「ヘツシヤン、パ ツケ」(新)	同	六〇・〇
一〇八、麻袋(新)	同	六・一〇
一〇九、麻袋、大麻袋、「ヘツシヤ ン、パツケ」(舊)	同	四・五〇
一一〇、列記セサル衣類及其ノ部 分品又ハ附屬品	同	二・三〇
一一一、列記セサル亞麻、苧麻、 大麻及黃麻製品(混綿製品ヲ含 ム)	從價	四〇・%
第三類 羊毛及其ノ製品(生糸以外 ノ他ノ纖維トノ混製品ヲ含ム)	同	三〇・%
一一二、羊毛、山羊毛及駱駝毛 (梳毛ヲ含ム)	八八六 百疋	一〇・〇〇
一一三、屑羊毛、屑山羊毛、屑駱 駝毛(絹以外ノ他ノ纖維トノ混 製品ヲ含ム)	從價	五・%
一一四、毛糸(混製毛糸ヲ含ム)	同	五・%
A、百疋ニ付キ一八〇金單位以 上ノモノ	百疋	六五・〇〇
B、百疋ニ付キ一八〇金單位以 下ノモノ	同	四五・〇〇
一一五、「レース」、繰取、刺繍品 ソノ他裝飾用品及其ノ製品	從價	七〇・%
一一六、毛莫大小地(混製品ヲ含 ム)	同	四〇・%
一一七、旗印、巾四六種以下	一米	〇・一一
一一八、駱駝毛布 巾八二種以下	同	〇・三一
一一九、工業用毛織物「ローラー クロース」、製紙工場用毛布等 (混製品ヲ含ム)	從價	一五・%
一二〇、天鵞絨、「ブラツシユ」其	同	一五・%

ノ他「パイルクロス」(混製品 ヲ含ム)	從價	五〇・%
一二一、護謄引防水布(混製品ヲ 含ム)	同	四〇・%
一二二、列記セサル毛織布(混製 品ヲ含ム)	同	四〇・%
A、一平方米ニ付キ重量二〇〇 瓦以下	百疋	二〇〇・〇〇
B、一平方米ニ付キ重量二〇〇 瓦以上四〇〇瓦以下	同	一九〇・〇〇
C、一平方米ニ付キ重量四〇〇 瓦以上	從價	四〇・%
一二三、「フェルト」及「フェルトシ ーヤング」	同	四〇・%
一二四、毛布及旅行用「ラツケ」 (混製品ヲ含ム)	同	四〇・%
一二五、「カーペット」及其ノ他床 敷物(混製品ヲ含ム)	同	五〇・%
一二六、「フェルト」製帽子及帽體 A、帽子	同	四〇・%
支那改訂輸入稅率表	八八七	六〇・%
B、帽體	同	六〇・%
1、成型サレタルモノ	從價	四〇・%
2、其ノ他	同	二〇・%
一二七、列記セサル衣類及其ノ部 分品或ハ附屬品	同	五〇・%
一二八、列記セサル毛製品及其ノ 混製品	同	四〇・%
第四類 生糸及其ノ製品(他ノ纖維 トノ混製品ヲ含ム)	同	四〇・%
一二九、生糸	從價	六〇・%
一三〇、人造絹糸	百疋	一一〇・〇〇
一三一、屑絹糸	從價	四〇・%
一三二、屑人造絹糸	同	四〇・%
一三三、紡績絹糸	同	六〇・%
一三四、紡績人造絹糸(人造毛糸 ヲ含ム)	同	六〇・%
一三五、列記セサル絹糸及同種糸 (混製ノモノヲ含ム)	同	六〇・%
一三六、絹糸製模造金糸又ハ銀糸 (混製ノモノヲ含ム)	同	六〇・%

支那改訂輸入税率表

一三七、「レース」縁取、刺繍品 ツノ他裝飾用品及其製品	從價	八〇・%
一三八、絹莫大小地（混製ノモノ ヲ含む）	同	八〇・%
一三九、「ポルティンククロス」 一四〇、絹天鵞絨「ブラツシユ」及 其ノ他「パイルクロス」（混製 ノモノヲ含む）	同	一五・%
一四一、護謄引絹防水布（混製ノ モノヲ含む）	同	八〇・%
一四二、列記セサル絹布（交織布 ヲ含む）	同	八〇・%
A、純絹布	同	八〇・%
B、人絹布	同	八〇・%
C、純絹、人絹交織布	同	八〇・%
D、純絹、羊毛又ハ純絹、羊毛 及植物纖維交織布	同	八〇・%
E、人絹、羊毛又ハ人絹、羊毛 及植物性纖維交織布	同	八〇・%
F、純絹、綿交織布	同	八〇・%

G、人絹、綿交織布	從價	八八・%
H、其ノ他	同	八〇・%
一四三、絹製護謄入布及護謄紐 （混製ノモノヲ含む）	同	八〇・%
一四四、列記セサル衣類及其ノ部 分品又ハ附屬品	同	八〇・%
一四五、列記セサル絹製品及其ノ 混製品	同	八〇・%
第五類 金屬及其ノ製品（鑽石、機 械及車輛ヲ含む）	同	八〇・%
鑽石	從價	五・%
一四六、各種鑽石	從價	五・%
金屬	同	五・%
一四七、平箔	同	五・%
◇「アルミニウム」	同	五・%
A、紙ヲ挟マサルモノ	同	五・%
B、臺紙ヲ貼リタルモノ或ハ紙 ヲ挟ミタルモノ	同	五・%
一四八、着色又ハ押型付箔	同	五・%
A、紙ヲ挟マサルモノ	同	五・%

B、紙ヲ挟ミタルモノ或ハ臺紙
ヲ貼リタルモノ

一四九、粒、塊及錠	同	三五・〇〇
一五〇、薄板及板	同	六・六〇
一五一、其ノ他	同	一七・〇〇
一五二、減摩合金	從價	一二・五%
◇真鍮及黃銅	同	一四・〇〇
一五三、條及竿	同	六・六〇
一五四、「ボールト、ナツト、リベ ツト」及「ウオツシヤール」	從價	二〇・%
一五五、塊	同	四・〇〇
一五六、釘	同	一六・〇〇
一五七、古キモノ又ハ切屑（再製 用品）	同	二・〇〇
一五八、螺旋釘	同	三五・〇〇
一五九、薄板及板	同	九・〇〇
一六〇、鉄	從價	二〇・%
一六一、管	同	一三・〇〇
一六二、線	同	七・二〇
一六三、其ノ他	從價	二〇・%

◇銅

一六四、條及竿	同	七・〇〇
一六五、「ボールト、ナツト、リベ ツト」及「ウオツシヤール」	同	一九・〇〇
一六六、塊及錠	同	五・六〇
一六七、釘	同	一六・〇〇
一六八、古キモノ又ハ切屑（再製 用品）	同	三・〇〇
一六九、薄板及板	同	七・二〇
一七〇、鉄	從價	二〇・%
一七一、管	同	二・〇〇
一七二、線	同	七・〇〇
一七三、「ワイヤロープ」	同	一五・%
一七四、其ノ他	同	二〇・%
◇鐵及鋼鐵	同	二〇・%
（電鍍セサルモノ）（竹狀鋼、スプリン グ、ツール、合金鋼ヲ含マス）	同	二〇・%
一七五、鐵床、型盤、鋸及其ノ部 分品、鍛鐵	同	二〇・%
A、各一・五疋以上	同	二〇・%

支那改訂輸入税率表

支那改訂輸入稅率表

B、各一・五以下	從價	二〇・%
一七六、「ビレット、ブルーム、塊、錠及「シート、バー」	同	一五・%
一七七、「ボルト、ナット」及「ウオツシヤ」	百斤	四・五〇
一七八、粗鑄鐵	從價	二〇・%
一七九、鎖及其ノ部分品（新）	百斤	五・〇〇
一八〇、鎖（舊）	從價	一五・%
一八一、鐵道用轉轍機及轉車臺	同	七・五%
一八二、鑪	百斤	一・四〇
一八三、釘條、條、凹字條、丁字條、工字條、山形、桁、梁ソノ他建築用鐵材ニシテ原形ノモノ	同	一・〇〇
一八四、釘（「ワイヤー」及「カット」）同	同	三・二〇
一八五、銑鐵及鑄鐵	同	〇・七〇
一八六、「パイプ」及「チューブ」並ニ其ノ部分品	從價	二〇・%
一八七、鐵板斷片（大小ニ拘ラス「スクラツプ」、「ロット」、「チャンネル」、「丁字形、山形等ノ斷		

片ヲ含ム）	八九〇	〇・六五
一八八、「レール」(軌條用鋼「スリ―パー、フィッシュ」、「プレート、スパイク、ボルト、ナット」ヲ含ム)	同	〇・七一
一八九、「リベット」	同	三・三〇
一九〇、螺旋釘	同	一・二〇〇
一九一、鐵板(厚サ三、二耗及同以上)	同	一・一〇
一九二、鐵板(厚サ三、二耗以下)	同	一・四〇
一九三、「スパイク」	從價	二〇・%
一九四、鋸	百斤	七・六〇
一九五、錫引鐵板(裝飾付)	同	五・五〇
一九六、錫引鐵板(平板)	同	三・一〇
一九七、錫引鐵板(舊)(箱裏張用ヲ含ム)	從價	一・二五%
一九八、錫鍍鐵	百斤	八・三〇
一九九、線	同	一・二〇
二〇〇、其ノ他	同	三・五〇
A、鍍鉛鐵板(多クノ鉛ヲ混セ		
ル劣等鐵力)		

B、其ノ他

從價	一五・%	
鐵及鋼(亞鉛引シタルモノ)		
二〇一、「ボルト、ナット、リベット」及「ウオツシヤ」	百斤	五・六〇
二〇二、釘、鋸及螺旋釘	從價	二〇・%
二〇三、「パイプ、チューブ」及其ノ附屬品	同	二〇・%
二〇四、板		
A、波板	百斤	二・七〇
B、平板	同	二・八〇
二〇五、線	同	一・七〇
「ワイヤロープ」(稅番二〇九及二一〇參照)		
「ワイヤーシヨート」(稅番二〇七參照)		
從價	一五・%	
鐵及鋼(亞鉛引又ハ亞鉛引セサルモノ)		
二〇七、「コツプル、ワイヤーシヨート」破損「ワイヤー、パークロツビ		

「短條舊箱、碎箱(大小混雜品ヲ含ム)

百斤	〇・七五	
二〇八、列記セサル舊鐵及碎鐵(再製用品)	同	〇・五五
二〇九、新「ワイヤロープ」(核心カ纖維ヨリ成レルモノト然ラサルモノトヲ問ハス)	同	五・七〇
二一〇、舊「ワイヤロープ」(但シ核心カ纖維ヨリ成レルモノト然ラサルモノトヲ問ハス)		
「バンブー」、「スプリング」		
「ツール」及合金鋼		
二一一、「バンブー鋼」	百斤	一・六〇
二一二、「スプリング」鋼	從價	一二・五%
二一三、「ツール」(高速度鋼ヲ含ム)及合金鋼又ハ特殊鋼	同	一二・五%
二一四、銅薄板及板、山形、工字形、丁字形、桁、梁及其他建築用鐵鋼	百斤	三・五〇
二一五、金銀塊及貨幣	從價	免稅
二一六、鐵及錫屑		

支那改訂輸入稅率表

二二七、舊鉛(再製用品)	從價	一五・%
二二八、塊及條	百斤	四・〇〇
二二九、管	同	五・一〇
二三〇、薄板	同	四・七〇
二三一、線	從價	一五・%
二三二、其ノ他	同	一五・%
二三三、滿 俺	同	一二・五%
二三四、「フエロー」、「マンガニーズ」	同	一二・五%
二三五、「ニツケル」	同	一二・五%
二三六、未精製「ブラチナ」(錠、條、薄板及板、碎屑等 但シ厚サ三・二種以上ノモノ)	同	二五・〇〇
二二七、水 銀	百斤	免稅
二二八、合成錫	從價	三・八〇〇
二二九、錠及塊	百斤	一五・%
二三〇、管	從價	二〇・〇〇
二三一、其ノ他(錫箔ヲ含マス)	同	一五・%
二三二、活 字	百斤	四・〇〇

◇白銅及「ニツケル」

二三三、條、塊、薄板	百斤	二一・〇〇
二三四、線	同	一六・〇〇
二三五、其ノ他	從價	一五・%
二三六、粉及塊	同	一五・%
二三七、薄板(有孔ノモノヲ含ム)板及「ボイラー」用板	百斤	五・六〇
二三八、其ノ他	從價	一五・%
二三九、列記セサル金屬製箱及架	同	三〇・%
二四〇、列記セサル金屬	同	一五・%
二四一、列記セサル「アルミニウム」器、眞鍮器、青銅器、銅器、白銅器	百斤	五〇・〇〇
A、「アルミニウム」器	從價	二五・%
B、其ノ他	同	三〇・%
二四二、列記セサル白金器、金器、銀器(懷中時計用鎖ヲ含ム)	同	三〇・%
二四三、列記セサル鍍及未鍍金屬器(双物ヲ含ム)	同	二五・%

機械及器具

二四四、農業機械及其ノ部分品	從價	七・五%
二四五、發電機及送電機(發動機、電動機、變壓器、整流機等及部分品)	同	一五・%
A、二「キロワット」ヲ超過セサル發動機、電動機及二百「キログワット」ヲ超過セサル變壓器	同	一〇・%
B、其ノ他	同	七・五%
二四六、工作機械器具(旋盤、平削鉋機、「ドリル」、「プレス」等及部分品)	同	七・五%
二四七、「カツター」、「ドリル」、磨火筆等ノ機械器具(電壓又ハ電力器具ヲ含ム)及大部分金屬ヲ使用セル手工器具	同	七・五%
二四八、瓦斯「エンジン」、石油「エンジン」、蒸汽機、水力「タービン」蒸汽「タービン」、「ターボセネレター」等ノ發動機及其ノ部分品	同	一〇・%
二四九、「スチーム」、「ボイラー」省熱器、過熱機、焚炭器其ノ他「ボイ	同	一〇・%

ラール 室用品及附屬品

二五〇、裁縫機及英大小機及其ノ部分品	從價	一〇・%
二五一、「タイプライター」、自動販賣器、計算器、金錢登錄器、複寫器、「チエックバーフオレーター」、「テーピング」、マシン」、「テュブプリンク」、「マシ」其ノ他類似ノ事務用器具及其ノ部分品	同	二〇・%
二五二、其ノ他機械及其ノ部分品	同	一〇・%
車輛及船舶	從價	五・%
二五三、飛行機其ノ他航空機及其ノ部分品	同	五・%
二五四、消化「エンジン」、消化栓、其ノ他消化器具、手押機械ヲ含ム)及其ノ部分品	同	五・%
二五五、「モーターボート」、帆船、汽船並ニ列記セサル部分品及材料品	同	一五・%
A、完成船舶	同	一五・%

支那改訂輸入稅率表

支那改訂輸入稅率表

B、列記セサル部分品、材料品	從價	一〇・%
二五六、自動車		
A、牽引車、附隨車、十二人乗以上ノ乗客用車及積載量一噸以上ノ貨物車及其ノ車臺	同	一五・%
B、其ノ他完成車、未完成車、(自動自轉車、自動車等ヲ含ム)及車臺、金屬製車體	同	三〇・%
C、部分品及附屬品(「タイヤ」ヲ除ク)		
1、自動自轉車用	同	三〇・%
2、其ノ他用(註)	同	一五・%
註1前後車、前後「スプリング」、前後車輛(フレーム、ラヂイーター、プロペリング)、シヤフト、發動機及車體ハ別包裝ノ場合ニ限ル、然ラサル場合ハ從價三〇・%		
二五七、鐵道及軌道用品		
A、機關車及炭水車	同	五・%
B、客車及貨車	同	五・%
C、列記セサル鐵道及軌道材料	從價	五・%
二五八、列記セサル車輛(自轉車ヲ含ム)及其ノ部分品(「タイヤ」ヲ除ク)	同	一〇・%
其ノ他金屬製品		
二五九、銃器及彈丸	從價	四〇・%
A、護身用及狩獵用	同	四〇・%
B、其ノ他	同	四〇・%
二六〇、全部又ハ大部分金屬ヲ使用セル寢臺、輕便寢臺「キャンブ」用寢臺其ノ他家具及部分品並ニ附屬品	同	三〇・%
二六一、掛時計及懷中時計		
A、完成品	同	三〇・%
B、部分品	同	三〇・%
二六二、石炭、石油、「アルコール」使用ノ「ストーブ」、厨爐、放熱器、「スチームヒーター」其ノ他類似品及其ノ部分品	同	二〇・%
二六三、電氣材料及裝具、配線、送電、配電用品	同	二五・%

八九四

A、電球	百個	四〇〇
B、「クリート」、「インシュレーター」又ハ「ソツブ・セイリング」、「ロセット」、「ヒューズ、ボックス」、「プラグ、リセブタクル」、「ソケット」、「スウィッチ」及「スウィッチ、ポールド」	從價	二五・%
C、「コード」、電線、「ケーブル」其ノ他列記セサル電氣材料	同	二〇・%
二六四、電氣厨爐、扇風器、閃光筒、電氣「アイロン」、電氣「ランプ」、電氣「ストーブ」、「トースター」其ノ他類似ノ電氣用品及其ノ部分品	同	二五・%
二六五、蓄電池、乾電池、充電器及其ノ部分品	同	二五・%
二六六、各種鐘		
A、一面ノミ鐘セル物長サ一〇種以下	一打	〇・一八
B、同長サ一〇種以上二三種以下	同	〇・二五
C、同長サ二三種以上三六種以下	同	〇・五〇
D、同長サ三六種以上	同	〇・八五
二六七、瓦斯「バーナー」、瓦斯厨爐、瓦斯「ヒーター」、瓦斯燈、瓦斯湯沸シ器其ノ他瓦斯使用器具及其ノ部分品	從價	二五・%
二六八、瓦斯計量器、量水器、「アンメーター」、「ボルトメーター」、「ワットメーター」其ノ他類似ノ計量器	同	一〇・%
二六九、針		
A、手縫針	千個	〇・一〇
B、「ミシン」及英大小機用針	從價	一五・%
C、其ノ他	同	一五・%
二七〇、金庫、錢箱、貴重品室扉	同	二五・%
二七一、電話機、電信機及其ノ部分品		
A、「ラヂオセット」及其ノ部分品		
1、「エポナイト」又ハ練物ノ「ゲニア」、リツツ「線」、グリッド、リード、「ヘッドホン」、「マイク、クロフォン」、「スピーカー」、「スピーカー」部分品、鑽石、真空管、變壓器、「コンデンサー」其ノ他「ラヂオ」用品	同	一五・%

支那改訂輸入稅率表

八九五

支那改訂輸入稅率表

2 「バザー」、受信用真空管、A B	從價	二〇・%
C 電池、「エリミネーター」、ソケット	同	同
ト、「ジャック」、ブラツケラツケ」	同	同
及「チップ」、接續用品、「ネーム」、プ	同	同
レート」及「ブラツケット」	同	同
3、「スイッチツチ」、避電器、電鍵、	同	同
「コイル」、完成「ラザオセット」	同	同
及其ノ部分品	同	同
B、其ノ他	同	同
二七二、空録力罐（石油用ニシテ容量	同	同
五米「ガロン」或ハ一八・九三立）	同	同
A、木箱二罐入りノモノ	一對	〇・〇八四
B、箱ナシ一罐ノモノ	一個	〇・〇二八
二七三、列記セサル金屬製品	同	同
A、鐵線（網狀又ハ紗狀）	從價	一〇・〇〇
B、其ノ他	從價	二五・%
第六類 飲食料品及藥材	同	同
漁獲物及海産物	同	同
二七四、寒天（バラ荷）	百疋	三・〇〇
二七五、鮑	同	同
A、バラ荷	從價	二〇・%
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
動物產品及食料品	同	同
二八九、アスパラガス（罐詰及塩	同	同
入包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇〇、「ペーコン」及「ハム」	同	同
A、バラ荷	同	同
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
三〇一、「ベーキング、パウダー」	同	同
三〇二、「コーン、ビーフ」	同	同
A、樽 入	同	同
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
三〇三、燕 巢	同	同
三〇四、「ビスケット」	同	同
三〇五、「バター」（包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇六、鹽漬鱈（「キャビア」）	同	同
三〇七、「チーズ」（包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇八、「チョコレート」（糖果ヲ含マス）	同	同
三〇九、「ココア」	同	同
A、「ココア、ビーンズ」	同	同

A、上等品（一個ノ重量〇・六〇疋	一疋	二・六〇
又ハ〇・六〇疋以上ノモノ）	同	同
B、二等品（一個ノ重量〇・六〇疋	百疋	六一・〇〇
以下ノモノ）	從價	二〇・%
二八七、鹽 鮭	從價	二〇・%
二八八、列記セサル鹽魚	同	同
二八九、魚ノ頭、唇、皮及尾	同	同
二九〇、乾貽貝、乾牡蠣、乾揚卷	同	同
二九一、乾蝦及小蝦（バラ荷）	同	同
二九二、刺昆布	同	同
二九三、長昆布	同	同
二九四、調整昆布	同	同
二九五、赤昆布	同	同
二九六、調整鱈鱈	同	同
二九七、未調整鱈鱈	同	同
A、百疋八〇金單位以下ノモノ	百疋	一七・〇〇
B、百疋八〇金單位以上四一〇金	同	同
單位以下ノモノ	同	同
C、百疋四一〇金單位以上ノモノ	同	同
二九八、列記セサル水産物	同	同
A、バラ荷	從價	二〇・%
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
動物產品及食料品	同	同
二九九、「アスパラガス」（罐詰及塩	同	同
入包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇〇、「ペーコン」及「ハム」	同	同
A、バラ荷	同	同
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
三〇一、「ベーキング、パウダー」	同	同
三〇二、「コーン、ビーフ」	同	同
A、樽 入	同	同
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	同
三〇三、燕 巢	同	同
三〇四、「ビスケット」	同	同
三〇五、「バター」（包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇六、鹽漬鱈（「キャビア」）	同	同
三〇七、「チーズ」（包装重量ヲ加算ス）	同	同
三〇八、「チョコレート」（糖果ヲ含マス）	同	同
三〇九、「ココア」	同	同
A、「ココア、ビーンズ」	同	同

支那改訂輸入稅率表

B、其ノ他	從價	三五・%	品(包装ノ重量ヲ加算ス)	百斤	二七・〇〇
三一〇、「ココア」、「バター」	同	二〇・%	三二一、乾肉及鹽漬肉	同	三五・〇
三一、糖 璜	同	一九・〇〇	三二二、肉「エキス」	從價	三〇・%
A、「コーヒー」、「ビーンズ」	百斤	三五・%	三二三、「ミルク」及「クリーム」(殺菌又ハ蒸溜セルモノ、包装ノ重量ヲ加算ス)	百斤	一三・〇〇
B、其ノ他	從價	五〇・%	三二四、「コンデンスド、ミルク」(包装ノ重量ヲ加算ス)	同	一六・〇〇
三一二、糖 果	同	二〇・%	三二五、「ミルク、フード」(「ドライ」)	同	二五・%
三一三、「カラント」及乾葡萄酒	同	二五・%	「ミルク」「ラクトーゲン」、	從價	一〇・%
三一四、野鳥卵及家禽卵	同	一一・〇〇	ソ等ヲ含ム包装ノ重量ヲ加算ス)	同	二五・%
三一五、食卓用又ハ料理用果實(罐詰又ハ摺入、包装重量ヲ加算ス)	同	一四・〇〇	三二六、肝 油	同	一〇・%
ハ摺入、包装重量ヲ加算ス)	同	三五・%	三二七、「オリーブ」油	同	一〇・%
三一六、蜂 蜜	百斤	一三・〇〇	A、摺 入	一立	〇・一六
三一七、「シヤム」及「シエリー」	從價	三五・%	B、摺入又ハ其ノ他包装ノモノ	從價	二五・%
三一八、豚 脂	百斤	三五・%	三二八、豚 皮	百斤	一三・〇〇
A、バラ荷	從價	九・〇〇	三二九、醬油、「ソース」其ノ他列記セサル調味料	從價	三五・%
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	從價	三五・%	三三〇、乾「ソーセージ」	百斤	八八・〇〇
三一九、「マカロニー」、西洋素麵及其ノ他類似品	從價	三五・%	三三一、「シロップ」(果實汁)	從價	三五・%

三三二、「シロップ」(糖汁)	從價	三五・%	三四二、鼓及蘇	百斤	〇・四一
三三三、茶	百斤	八・〇〇	三四三、榨 菜	同	六〇・〇〇
A、紅茶粉	從價	三五・%	A、粗製及精製(整形ノモノヲ含ム)	同	三〇・%
B、其ノ他	同	三〇・%	B、其ノ他(模造品ヲ含ム)	從價	三五・%
三四四、列記セサル食料品	同	三五・%	三四四、榨 菜 片	一 斤	五・四〇
A、バラ荷	同	三五・%	A、上等品	從價	三〇・%
B、罐詰又ハ其ノ他包装ノモノ	同	三五・%	B、下等品	百斤	二・三〇
穀物、果實、藥材、種子、香料及蔬菜	同	三五・%	三四五、三奈	同	二・三〇
三四五、大茴香	同	一〇・〇〇	三四六、荳蔻砂仁殼	同	一〇・〇〇
A、一等品百斤四〇金單位以上ノモノ)	百斤	一〇・〇〇	三四七、砂 仁	同	五六・〇〇
B、二等品(百斤四〇金單位以下ノモノ)	同	六・七〇	三四八、白 荳 蔻	同	九・四〇
三四六、林檎(鮮)	同	五・七〇	三四九、桂皮及桂子	同	一・八〇
三四七、阿 魏	從價	一五・%	三五〇、桂 枝	同	二・八〇
三四八、大麥、蕎麥、玉蜀黍、粟、燕麥、裸麥及列記セサル穀類	同	一五・%	三五一、栗	同	九・八〇
三四九、大豆及豌豆	同	一五・%	三五二、土茯苓	同	二一・〇〇
三四〇、乾 檳 榔 殼	同	一・八〇	三五三、肉 桂	同	二〇・%
三四一、乾 檳 榔	同	二・三〇	A、バラ荷	同	二一・〇〇

三五五、母丁香	百斤	一一・〇〇	三六九、乾金針菜	百斤	八・四〇
三五六、「ココイン」	從價	二〇・%	三七〇、龍眼肉	同	八・九〇
三五七、小麥粉	百斤	三・〇〇	三七一、乾龍眼	同	六・三〇
三五八、列記セサル穀粉及穀物製品	從價	二〇・%	三七二、麥芽	同	三・三〇
三五九、飼料	百斤	一一・二四	三七三、列記セサル植物性藥材(粗製)從價	從價	一五・%
三六〇、列記セサル鮮果、乾果、貯藏果	從價	二五・%	三七四、各種「モルヒネ」	同	二〇・%
A、「ゴブラ」(バラ荷)	同	〇・五〇	三七五、椎茸	百斤	三五・〇〇
B、其ノ他	同	一〇・%	三七六、肉荳蔻(バラ荷)	同	一一・〇〇
三六一、良薑	百斤	二〇・%	三七七、橄欖實(鮮、乾及貯藏セルモノヲ含ム)	從價	二〇・%
三六二、人蔘(鑽、根、片ヲ含ム)	從價	一・五〇	三七八、阿片丁幾	同	二〇・%
三六三、野生人蔘	同	三〇・%	三七九、生薑	百斤	五・八〇
三六四、落花生	同	三〇・%	三八〇、橙皮(バラ荷)	同	五・八〇
A、脱穀セサルモノ	百斤	一・六〇	三八一、胡椒(バラ荷)	同	五・八〇
B、脱穀シタルモノ	同	一・八〇	A、黑胡椒	同	一三・〇〇
三六五、「ホツブ」	同	二一・〇〇	B、白胡椒	同	二一・〇〇
三六六、洋菜	同	八〇・〇〇	三八二、馬鈴薯(鮮)	同	一・三〇
三六七、「レモン」(鮮)	千個	一三・〇〇	三八三、木香	同	五三・〇〇
三六八、乾荔枝	百斤	九・〇〇	三八四、米及粳	同	一・六五

九〇〇

B、穀

三八五、杏ノ仁	百斤	〇・八三
三八六、蓮實(脱穀シタルモノ)	同	一一・〇〇
三八七、大楓子	同	一二・〇〇
三八八、瓜子	同	一・八〇
三八九、松實	同	四・六〇
三九〇、胡麻	同	六・〇〇
三九一、列記セサル種子	同	二・四〇
三九二、列記セサル未精製香料及調味料	從價	二〇・%
A、バラ荷	同	二〇・%
B、其ノ他	同	二五・%
三九三、甘蔗	百斤	〇・六四
三九四、蔬菜(生ノモノ、乾シタルモノ、調理シタルモノ、又ハ鹽漬ノモノ)	從價	二〇・%
A、バラ荷	同	二五・%
B、其ノ他	同	二〇・%
三九五、小麥	百斤	〇・五〇
砂糖	同	〇・五〇

支那改訂輸入税率表

三九六、糖蜜	百斤	〇・三三
三九七、砂糖(角棒及米砂糖ヲ含マス)	同	九・六〇
A、精製糖、其ノ含有スル轉化糖二%	同	九・六〇
チ超ユルモノ	同	九・六〇
B、其ノ他(粗糖ヲ含ム)	同	九・六〇

1、旋光度八十六度ヲ超エサルモノ	同	六・三五
2、同八十六度以上八十七度以下	同	六・五〇
3、同八十七度同八十八度	同	六・六五
4、同八十八度同八十九度	同	六・八〇
5、同八十九度同九十度	同	六・九五
6、同九十度同九十一度	同	七・一〇
7、同九十一度同九十二度	同	七・二五
8、同九十二度同九十三度	同	七・四〇
9、同九十三度同九十四度	同	七・五五
10、同九十四度同九十五度	同	七・七〇
11、同九十五度同九十六度	同	七・八五
12、同九十六度同九十七度	同	八・〇〇
13、同九十七度同九十八度	同	八・一五
14、同九十八度ヲ超エサルモノ	同	八・三〇

九〇一

支那改訂輸入稅率表

三九八、葡萄糖	百斤	九・六〇
三九九、角砂糖及棒砂糖	同	二〇・〇〇
四〇〇、氷砂糖	同	一五・〇〇
四〇一、「サツカリン」	從價	五〇・%
四〇二、列記セサル砂糖(麥芽糖、乳糖、果糖等ノ如キモノ)	同	五〇・%
酒、麥酒、燒酒及清涼飲料水		
四〇三、「シヤンパン」及「シヤンパン」ノ「レッツテル」ニテ販賣スル酒類	一箱一二瓶	
	或ハ二四半瓶入	三四・〇〇
四〇四、其ノ他起泡酒	同	一六・〇〇
四〇五、赤及白葡萄酒(自然醱酵ニヨルモノニシテ「リキユール」酒ヲ含マス)		
A、瓶入	同	一二・〇〇
B、樽入	從價	八〇・%
四〇六、「ポトワイン」		
A、瓶入	一箱一二瓶或ハ二四半瓶入	一九・〇〇
B、樽入	從價	八〇・%
四〇七、「マルサラ」		

九〇二

A、瓶入	一箱一二瓶或ハ二四半瓶入	一五・〇〇
B、樽入	一立	一・一〇
四〇八、「リキユール」(ホルト)及「マルサラ」ヲ除ク、「マデーラ」、「マラガ」、「シエリー」等)		
A、瓶入	一箱一二瓶或ハ二四半瓶入	一八・〇〇
B、樽入	一立	一・一〇
四〇九、「ベルモット」、「バイル」及「キンキナ」	一箱一二立入	九・〇〇
四一〇、同樽入	一立	一・〇〇
四一一、日本清酒		
A、樽入	從價	八〇・%
B、瓶入	二十二立或一斗二升	一五・〇〇
四一二、「エレル」、「ビール」、「ポーター」、「スタウト」、「サイダー」、「ペリー」、其ノ他果實及漿果ヨリ造レル醱酵酒從價		
四一三、「ブランデー」及「コニヤク」		
A、瓶入	一箱九立(一二クオーツ入)	二一・〇〇
B、樽入	從價	八〇・%
四一四、「ウイスキー」		

A、瓶入	一箱九立(一二クオーツ入)	二一・〇〇
B、樽入	從價	八〇・%
四一五、「ジン」		
A、瓶入	一箱九立(一二クオーツ入)	一一・〇〇
B、樽入	從價	八〇・%
四一六、「ラム」		
A、瓶詰	一箱九立(一二クオーツ入)	一〇・〇〇
B、樽入(工業用ヲ除ク)	從價	八〇・%
四一七、「リキユール」	一箱九立(一二クオーツ或ハ二四バイント入)	一九・〇〇
四一八、清涼飲料(起泡性ノモノ又ハ礦水)	一箱大瓶一二本或ハ小瓶二四本入	〇・七〇
四一九、列記セサル酒類、酒精飲料及酒精、稅番四三四參照	從價	八〇・%
第七類 煙草類		
四二〇、紙卷煙草		
A、一千本ノ價格二〇金單位以上	一千本	一六・〇〇
ノモノ及一本毎ニ判然タル商標又ハ名稱ヲ附セサルモノ		
B、一千本ノ價格一五金單位以上		

二〇金單位以下	一千本	八・七〇
C、一千本ノ價格一〇金單位以上		
一五金單位以下	同	七・二〇
D、一千本ノ價格七・五金單位以上	同	五・三〇
一〇金單位以下	同	三・九〇
E、一千本ノ價格五金單位以上、七・五金單位以下	同	二・二〇
F、一千本ノ價格二・五金單位以上五金單位以下	同	一・三〇
G、一千本ノ價格二・五金單位以下		
四二一、葉卷煙草		
A、一千本ノ價格一三〇金單位以上	同	七五・〇〇
B、一千本ノ價格七〇金單位以上	同	五〇・〇〇
一三〇金單位以下	同	三〇・〇〇
C、一千本ノ價格五〇金單位以上	同	二〇・〇〇
七〇金單位以下	同	五〇・%
D、一千本ノ價格二〇金單位以上	同	五〇・%
五〇金單位以下	同	五〇・%
E、一千本ノ價格二〇金單位以下	同	五〇・%
四二二、喫煙草及嚼煙草		
九〇三		

支那改訂輸入稅率表

四二三、葉煙草	同	百疋	二・三・〇〇	四三四、「アルコール」	同	百疋	〇・〇八八
A、百疋一七五金單位以上	從價	百疋	六・六〇	A、「エチール、アルコール」(酒精)一立	同	一立	〇・〇八八
B、百疋一七五金單位以下	從價	百疋	一・〇〇・〇〇	B、變性「アルコール」,「メチール、アルコール」,木精(甘味チ附セサル「アラック」及「フェーセル」油チ含ム)同	同	同	〇・〇四四
四二四、加工煙草	從價	百疋	五〇・%	四三五、「クロロム」明礬	同	百疋	一・九〇
A、罐入又ハ包裝ノモノ	從價	百疋	一五・%	四三六、硫酸「アルミニウム」	同	從價	一〇・%
B、バラ荷	從價	百疋	一〇〇・%	四三七、無水「アムモニヤ」	同	同	一〇・%
第八類 化學製品及染料				四三八、液體「アムモニヤ」	同	百疋	六・一〇
化學製品及製藥品				四三九、變性「アムモニヤ」	同	同	四・四〇
四二六、「アセチリン」(圓筒又ハ其ノ他包裝入)	從價	百疋	一二・五%	四四〇、硫化「アムモニヤ」	同	同	一・二〇
四二七、醋酸	從價	百疋	六・四〇	四四一、三硫化「アンチモニー」	同	同	〇・八一
四二八、硼酸	從價	百疋	三・一〇	四四二、炭酸「バリウム」	同	同	一・七〇
A、一包三、二疋以上	同	同	三・一〇	四四三、鹽化「バリウム」	同	同	一・〇〇
B、一包三、二疋以下	同	同	五・三〇	四四四、漂白粉(次亞鹽酸石灰)	從價	百疋	一五・%
四二九、石炭酸	同	百疋	八・一〇	四四五、硼砂(粗又ハ精製)	同	同	三・一〇
四三〇、鹽酸	同	同	一・四〇	四四六、炭化「カルシウム」	同	同	三・一〇
四三一、硝酸	同	同	三・九〇	四四七、鹽化「カルシウム」	同	同	〇・六〇
四三二、萘酸	同	同	四・〇〇	四四八、鹽素水	同	同	四・六〇
四三三、硫酸	同	同	一・八〇	四四九、硫酸銅	同	同	三・八〇

四五〇、其ノ他列記セサル化學肥料及人造肥料	從價	同	一〇・%	四四五、曹達灰	同	百疋	一・五〇
四五一、「グリセリン」	從價	百疋	一・〇〇	四四六、重炭酸曹達(樽入)	同	同	二・五〇
A、一包一三疋以上	從價	百疋	二〇・%	四四七、重「クロロム」酸曹達	同	同	二・八〇
B、一包一三疋以下	從價	百疋	二五・%	四四八、重亞硫酸曹達(圓形又ハ液狀ノモノ)	從價	百疋	一二・五%
四五二、殺蟲劑及消毒劑(蚊取線香ヲ含ム)	同	同	二五・%	四四九、苛性曹達	同	百疋	二・九〇
四五三、過酸化「マンガン」	同	同	五・%	四七〇、結晶曹達	同	同	一・六〇
四五四、「ナフタリン」	同	百疋	三・四〇	四七一、濃厚結晶曹達	同	同	三・九〇
四五五、酸素(圓筒入又ハ其ノ他包裝入)	從價	百疋	一二・五%	四七二、稀亞硫酸曹達	從價	百疋	一二・五%
四五六、磷	同	百疋	九・六〇	四七三、硝酸曹達(智利硝石)	同	同	〇・八三
四五七、炭酸加里	同	同	三・三〇	四七四、過酸化曹達	同	同	一〇・〇〇
四五八、苛性加里	同	同	四・二〇	四七五、硫酸曹達	同	同	二・〇〇
四五九、「クロロム」酸加里	同	同	一・七〇	四七六、硫酸曹達	從價	百疋	二〇・%
四六〇、「クロロム」酸加里	同	同	六・三〇	四七七、硫化曹達	同	百疋	二・一〇
四六一、「キニーネ」	從價	一立	五・%	四七八、次亞硫酸曹達(「ハイボサルファイトル」)	同	同	一・五〇
四六二、工業用「ラム」	同	同	〇・〇四四	四七九、硫黃	同	同	一・五〇
四六三、硝石	從價	百疋	五・五〇	A、粗(塊又ハ粉末)	同	同	一・五〇
四六四、血清及「ラクチン」	從價	百疋	一〇・%	B、其ノ他	從價	百疋	一二・五%

支那改訂輸入税率表

A、炭酸「カルシウム」	百斤	一・〇〇	四九四、阿仙藥又ハ檳榔膏	百斤	四・〇〇
B、炭酸「マグネシウム」	同	四・〇〇	四九五、雌黄	同	三・〇〇
C、其ノ他	從價	一五・%	四九六、綠漆及其ノ模造品	同	一七・〇〇
四八一、列記セサル醫藥、藥劑及醫藥用品、化合物及其ノ他ノ藥劑	同	二五・%	四九七、雄黄	同	六・一〇
染料、顔料、塗料及「ロニス」	同	二五・%	四九八、人造藍(含有藍素二〇%以下ノモノニシテ以上ノ場合ハ其ノ割合ヲ以テ課稅ス)	同	二三・〇〇
四八二、「アニリン」染料及列記セサル「コールタール」染料	從價	三五・%	四九九、天然藍(乾)	同	四五・〇〇
四八三、「マンゲローウ」樹皮	百斤	一・一〇	五〇〇、天然藍(液狀)	同	四・一〇
四八四、梅樹皮	同	二・二〇	五〇一、各種「インク」類	從價	二〇・%
四八五、黃柏樹皮(染色用品)	同	四・二〇	五〇二、「ラカ」木	百斤	一・八〇
四八六、紺青	同	三〇・〇〇	五〇三、鉛丹、鉛白、鉛黃	同	六・七〇
四八七、青銅粉	同	二八・〇〇	五〇四、「ロツク」ウツト、エキス	同	六・〇〇
四八八、「カーボン、ブラック」(「ラム、ブラック」)	同	五・五〇	五〇五、五倍子	同	八・八〇
四八九、「クローム」黃	從價	一五・%	五〇六、「オークル」(赭色)	同	三・一〇
四九〇、辰砂	百斤	四二・〇〇	五〇七、紅花	從價	一五・%
四九一、酸化「コバルト」	從價	一五・%	五〇八、蘇木	百斤	二・二〇
四九二、「コチニール」	同	一五・%	五〇九、花紺青	同	一八・〇〇
四九三、「キユナオ」又ハ模造檳榔膏	百斤	一・七〇	五一〇、硫黃「フラツク」	同	一七・〇〇
ガ、エキス「ケアラコ」、「ミモサ」等ノ如キモノ	百斤	四・〇〇	五一一、列記セサル植物性「タンニン	同	一七・〇〇

九〇六

五二二、姜黄	同	三・〇〇	一部礦物性ノモノノ「護謨及樹脂、琥珀稅番六二七參照、阿魏稅番三七參照	百斤	三・一〇
五二三、群青	同	一一・〇〇	五二二、「アラビヤゴム」	同	六・〇〇
五二四、朱	同	五二・〇〇	五二三、麒麟血	同	二六・〇〇
五二五、人造朱	從價	一五・%	五二四、沒藥	同	三・五〇
五二六、亞鉛白	百斤	三・〇〇	五二五、乳香	同	四・八〇
五二七、列記セサル染料、顔料、塗料、繪具、「タンニン」及「タンニン」材料及「ペイント」材料	從價	一五・%	五二六、樹脂	同	二・三〇
五二八、列記セサル「ペイント」、「ロニス」、磨光劑	同	二〇・%	五二七、「シエラツクガム」及「ボタシラツク」	同	二八・〇〇
第九類 蠟燭、石鹼、油脂、蠟、護謨及樹脂	同	二〇・%	五二八、其ノ他	從價	一〇・%
五二九、蠟燭	百斤	一三・〇〇	五二九、液體燃料	同	二八・〇〇
五三〇、「ガソリン」、「ナフタ」、「ベンゼン」	一箱五米ガロン或ハ一箱五立罐二個入	二・一〇	A、攝氏二〇度時ニ於ケル比重〇・九〇以上ノモノ及「カツプ」氏測量法	一罐	二・九〇
(礦物質)	同	〇・五三	ニヨル發火點九五度以上ノモノ	同	三三・六〇
A、箱入	同	〇・五三	B、其ノ他(精製用原油ヲ含ム)	同	七・三〇
B、バラ荷	同	〇・五三	五三〇、蓖麻子油(機械用)	百斤	四・五〇
五三一、椰子油	同	四・五〇	五三一、椰子油	同	四・五〇
五三二、石油(其ノ他燃燈用礦物油ニシテ比重〇・七八乃至〇・九〇ノモノ	同	九〇七	五三二、石油(其ノ他燃燈用礦物油ニシテ比重〇・七八乃至〇・九〇ノモノ	同	九〇七

九〇七

支那改訂輸入税率表

支那改訂輸入稅率表

チ含ム)			
A、箱入ノモノ	一箱五米ガロン或ハ		
B、バラ荷	一八、九三立罐二個入	一八・〇〇	
五三三、亞麻仁油	一〇立	〇・四五	
五三四、機油	一立	〇・〇六六	
A、全部又ハ一部礦物質	同	〇・〇二二	
B、列記セサルモノ、 「オリーブ」油	同	〇・〇二二	
大量ノモノハ稅番三二七參照	同	〇・〇三七	
五三五、石 鹼			
A、家庭用及洗濯用石鹼（藍色ノ 斑點ヲ有スル石鹼ヲ含ム、大塊 條、双塊ノ純重量カ「ノミナル、 ウエイト」以下ナルトキ及一條 ノ重量二〇〇瓦以上ナルトキハ 「ノミナル、ウエイト」ニテ課ス）	百疋	八・八〇	
B、其ノ他	從價	三〇・%	
五三六、「ステアリン」	百疋	六・一〇	
五三七、「ダーバンチン」	一立	〇・〇二二	
A、礦物質			

B、植物質			
五三八、蜜蠟（黃色）	一立	〇・〇八八	
五三九、「バラフィン」蠟	百疋	一三・〇〇	
五四〇、木 蠟	同	二・六〇	
五四一、列記セサル油、脂及蠟（天然 又ハ人造精油及天然人造混合油ヲ 含ム）	同	六・四〇	
第十類 書籍、地圖、紙及「ウッドパルプ」	從價	一五・%	
五四二、書籍（印刷又ハ寫本ノモノ ニシテ裝幀シ又ハ然ラサルモノ） 電信用「コード」、書畫教授用繪畫 類、「コッビー」書及小兒教授用音 樂書ヲ含ミ其ノ他ノ樂譜、帳簿及 其ノ他事務用、學用及個人用具 ヲ除ク）			免稅
五四三、海圖及地圖（白地圖、地形地 圖、地球儀、教授用標本及掛圖ヲ含 ム）			免稅
五四四、新聞及雜誌			同
A、古物（包装用或ハ再製用ノミ）	百疋	〇・三一	

九〇八

B、其ノ他			免稅
五四五、板紙（蠟引、蠟引セサルモノ 裁キタルモノ、裁キサルモノ、白色 色付、有光、無光、平面、波型）			
A、「アイポリー」、「クローモ」、 「プリストル」（一部或ハ全部ニ 化學製「パルプ」ヲ用ヒタルモノ）從價	二五・%		
B、函板紙、擬革板紙、「マニラ」板 紙「ザヤツカード」或ハ「シルク」板 紙（チップ板紙）「ウッドパルプ」 板紙（各種「バスト」板紙ヲ含ム）	百疋	三・五〇	
C、馬糞紙（平面）	同	一・五〇	
五四六、紙巻煙草用紙			
A、捲框或ハ細軸ニ捲キタルモノ （捲框或ハ細軸ノ重量ヲ含ム）	同	二五・〇〇	
B、其ノ他	從價	一五・%	
五四七、印畫紙（片面或ハ兩面蠟引、 白色又ハ色付ノモノニシテ蠟引「ア ート」紙ヲ含ム）	百疋	九・六〇	
五四八、普通印刷紙及新聞用紙（有光			

或ハ無光、白色又ハ色付ノモノニシ テ大部分機械製「パルプ」ニ據ルモノ）	從價	七・五%	
A、筒 卷	百疋	二・六〇	
B、其ノ他			
五四九、畫用紙、證書、紙幣及證券 用紙	從價	三〇・%	
五五〇、蠟光紙及面薄花紋紙（無地 或ハ紋入、白色或ハ色付）	百疋	三・〇〇	
五五一、機寸箱用「レツテル」	同	五・〇〇	
五五二、油光紙（白色又ハ色付、大 部分機械製「パルプ」ニ據ルモノ）	同	五・〇〇	
五五三、包装用紙（有光、無光、有紋、 無紋、褐色其ノ他色付ノモノニシテ 油紙及其ノ他ノ防水紙ヲ含ム）	同	五・〇〇	
五五四、羊皮紙、「パーガミン」、「グ ラシン」及防油紙（「セロファン」其 ノ他透明紙ヲ含ム）	從價	三〇・%	
五五五、薄紙（白色或ハ色付、有紋或 ハ無紋ノ複寫紙、「バイブルプリン ト」、柏樂紙ヲ含ム）	同	三〇・%	
	九〇九		

支那改訂輸入稅率表

支那改訂輸入稅率表

五五六、列記セサル有光、無光、白色、色付有紋或ハ無紋ノ寫字紙及印刷紙(網目紙及無蠟銅板紙ヲ含ム)	從價	三〇・%
A、機械製「バルブ」ヲ用ヒサルモノ百疋	同	六・六〇
B、其ノ他	同	六・〇〇
五五七、壁紙及列記セサル浮出模様紙、金屬製紙及其ノ他模様付紙	從價	三〇・%
五五八、列記セサル紙	同	二五・%
A、機械製「バルブ」ヲ用ヒサルモノ同	同	二五・%
B、其ノ他	同	二五・%
五五九、化學製「ウツドバルブ」	百疋	〇・四五
五六〇、機械製「ウツドバルブ」	同	〇・四〇
五六一、列記セサル紙器及紙製品	從價	三〇・%
第十一類 畜產品及其ノ製品		
皮革、毛皮及其ノ製品		
五六二、生皮	從價	七・五%
A、水牛及牛	同	七・五%
B、其ノ他	同	七・五%
五六三、「ベルト」用革	同	一二・五%
五六四、靴底用革	同	二〇・%

五六五、列記セサル革	從價	二〇・%
五六六、列記セサル革製品(靴、鍔入等ヲ含ム)	同	三〇・%
五六七、毛皮	同	三〇・%
A、加工セサルモノ	同	一〇・%
B、加工或ハ染色セルモノ	同	二〇・%
五六八、列記セサル毛皮製品(全部或ハ大部分毛皮ニヨルモノ)	同	四〇・%
骨、羽毛、毛、角、筋、牙、貝殼及其ノ製品		
五六九、黃藥	從價	一五・%
A、印度牛黃	同	一五・%
B、其ノ他	同	一五・%
五七〇、骨及列記セサル其ノ製品	同	一〇・%
A、骨	同	一〇・%
B、列記セサル其ノ製品	同	二五・%
五七一、鱈魚甲片、穿山甲片	百疋	二〇・%
五七二、羽毛及列記セサル其ノ製品	從價	二五・%
A、裝飾用羽毛	同	二五・%
B、其ノ他羽毛	同	一〇・%
C、列記セサル羽毛製品(全部或		

ハ一部羽毛ヲ以テ作レルモノ)	從價	三〇・%
五七三、毛髮及列記セサル其ノ製品	百疋	一四・〇〇
A、馬鬃	同	二一・〇〇
B、長尾	同	一〇・%
C、其ノ他	從價	二五・%
D、列記セサル毛髮製品	同	二五・%
五七四、角及列記セサル其ノ製品	百疋	三・八〇
A、水牛及牛角	同	一一・〇〇
B、鹿角	從價	三〇・%
C、老幼鹿角	同	一五・%
D、犀及羚羊角	同	一〇・%
E、其ノ他	同	二五・%
F、列記セサル角製品	同	免稅
五七五、動物肥料	一疋	八四・〇〇
五七六、麝香	從價	一〇・%
五七七、貝殼	百疋	二三・〇〇
五七八、獸筋	從價	二五・%
A、牛筋及鹿筋	同	二五・%
B、其ノ他	同	二五・%
五七九、牙及列記セサル其ノ製品	從價	二五・%

支那改訂輸入稅率表

A、象牙(完全或ハ部分品)	一疋	一・二〇
B、其ノ他牙及動物齒	從價	一〇・%
C、列記セサル牙及動物齒製品	同	三〇・%
第十二類 木材、木、竹、籐、椰皮、藻類及其ノ製品		
(註) 本表ニ於テ軟木ト稱スルハ松、杉、檜、落葉松、「シダー」、「ユー」、「ゲユニバー」、「サイプレス」等總テ針葉樹木材ヲ謂ヒ、闊葉樹木材ハ總テ硬木トス		
木 材		
五八〇、木摺(長サ一・二五米以下)	千本	一・五〇
普通角材及丸太(「チーク」及列記セルモノヲ除ク)	從價	一〇・%
五八一、硬材	同	二・九〇
A、白楊、泥丸太	同	二・〇〇
B、其ノ他	同	二・〇〇
五八二、軟材	同	二・〇〇
木挽セル普通角材	同	六・三〇
五八三、硬材(一立方米ニ付六五金單位以下ノモノ)	同	六・三〇

五八四、軟材	普通軟材(木挽以上ノ工程ヲ經タルモノ、但シ橋材及船桁材ヲ含まス)	一立方米	四・〇〇
五八五、硬材	A、無疵純量一立方米ニ付キ一三〇金單位以下ノモノ	同	一・二〇〇
	B、商品用トナシ得ルモノ(純量一立方米ニ付八五金單位以下ノモノ)	同	九・六〇
五八六、軟材	A、無疵(純量)	同	六・八〇
	B、商品用トナシ得ルモノ(純量)	同	四・八〇
五八七、普通橋及船桁材		從價	二〇・%
五八八、鐵道枕木		同	一〇・%
五八九、「チーク」材(角、板、丸)		一立方米	一九・〇〇
五九〇、列記セサル木材		從價	二〇・%
五九一、袋(藁或ハ草)	木、竹、藤、椰子皮、藁類及其ノ製品	千枚	一三・〇〇
五九二、竹及列記セサル其ノ製品			
九一二	A、竹竿	千本	一・八〇
	B、其ノ他(竹片及竹皮ヲ含む)	從價	一二・五%
	C、列記セサル竹製品	同	二五・%
	五九三、椰子皮及列記セサル其ノ製品		
	A、生椰子皮、椰子片、椰子糸	同	一二・五%
	B、椰子繩	同	二〇・%
	C、椰子皮(門口用)	一打	三・〇〇
	D、椰子皮(幅九二釐長サ九二米)	一卷(九二米)	一八・〇〇
	E、列記セサル椰子皮纖維製品	從價	二五・%
	五九四、「カボック」	百疋	五・八〇
	五九五、包裝用藁(船貨下敷用藁ヲ含む)	從價	一二・五%
	五九六、列記セサル藁		
	A、花 藁	同	二五・%
	B、臺灣藁(寢蓐用)	一枚	四・〇〇
	C、藤 藁	從價	二五・%
	D、建 藁	百枚	三一・〇〇
	E、藁 藁	同	二・五〇
	F、疊 藁	一枚	〇・二〇

G、其ノ他		從價	二五・%
五九七、列記セサル建			
A、臺灣地(幅九二釐長サ三七米)一卷(三七米)二・五〇		從價	二五・%
B、其ノ他			
五九八、籐及列記セサル其ノ製品		百疋	三・〇〇
A、籐心及籐棒		同	六・〇〇
B、籐 皮		同	三・〇〇
C、籐 片		從價	二五・%
D、列記セサル籐製品			
五九九、麥稈、「バナマ」、「ストロー」、同類似品及其ノ製品		同	一二・五%
A、麥稈及「バナマ」、「ストロー」		同	二〇・%
B、索 條		同	三五・%
C、帽 子		同	二五・%
D、列記セサル製品		同	二五・%
六〇〇、木			
A、「カマゴン」木		百疋	一・七〇
B、沈 香		一疋	一・八〇
C、「ブル」木		百疋	〇・九四
D、紅木及花梨木		同	二・〇〇
九一三	E、白 檀	從價	二五・%
	F、薰香木(香柴)	同	二五・%
	G、「ゴルク」	同	七・五%
	H、其ノ他(樟、黑檀、香木、「リゲナムウアイダ」等ヲ含む)	同	二〇・%
	六〇一、各種木器及列記セサル木製品		
	A、桶、箱、包裝箱及普通包裝用木器	同	二〇・%
	B、「コルク」栓	同	一五・%
	C、家 具	同	二〇・%
	D、機械(全部或ハ一部ニ木材ヲ用ヒタルモノ)	同	一〇・%
	E、白檀末	同	二五・%
	F、秤用棒	一本	〇・一二
	G、構寸製造用細木	百疋	一・七〇
	H、構及箱製造用木條	從價	二〇・%
	I、構寸軸木	百疋	一・五〇
	J、木毛(檜製)	從價	二〇・%
	K、「ベニヤ」板(夾木ヲ含む)	同	二〇・%

L、其ノ他	從價	二五・%
第十三類 石炭、燃料「ピツチ」及「マイル」		
六〇二、木炭	百疋	一・〇〇
六〇三、石炭		
A、無煙炭(燃率五以上ノモノ)	一疋	二・八〇
B、其ノ他	同	一・八〇
六〇四、煉炭	從價	一五・%
(註)液體燃料ハ稅番五二九參照		
六〇五、「ピツチ」及「アスファルト」	百疋	〇・八三
六〇六、「コールタール」	同	〇・六〇
六〇七、「コークス」	從價	一〇・%
第十四類 陶磁器、珐瑯鐵器及硝子類等		
六〇八、陶磁器(化學及其ノ他科 學用ヲ含マス)	從價	五〇・%
六〇九、珐瑯鐵器		
A、洗面器、碗、取手付湯呑		
1、徑一ノモノ以下ノモノ	一打	〇・二五
2、徑一ノモノ以上二ノモノ以下ノモノ	同	〇・四五
3、徑二ノモノ以上三ノモノ以下ノモノ	同	〇・四五
4、其ノ他		
B、其ノ他	從價	二〇・%
六一〇、板硝子(塗銀セルモノ)	一打	〇・五五
A、十分ノ一平方米以下ノモノ(邊 ヲ磨カサルモノ)	從價	二〇・%
B、二分ノ一平方米以下ノモノ	同	二〇・%
1、邊ヲ磨ケルモノ	一平方米	二・三〇
2、邊ヲ磨カサルモノ	同	一・八〇
C、二分ノ一平方米以上ノモノ	同	二・五〇
2、邊ヲ磨カサルモノ	同	二・〇〇
六一一、鏡用厚硝子		
A、十分ノ一平方米以下ノモノ(邊 ヲ磨カサルモノ)	從價	二〇・%
B、二分ノ一平方米以下ノモノ		
1、邊ヲ磨ケルモノ	一平方米	一・六〇
2、邊ヲ磨カサルモノ	同	一・五〇
C、二分ノ一平方米以上ノモノ	同	二・五〇
1、邊ヲ磨ケルモノ	同	二・五〇

2、邊ヲ磨カサルモノ	一平方米	二・〇〇
六一二、列記セサル厚硝子又ハ薄硝子從價		二〇・%
六一三、窓硝子(普通物ニテ一平方米 六・一〇疋以下ノモノ)	一平方米	一・二〇
六一四、窓硝子(色付燒付模様付及針 金入)	從價	一〇・%
六一五、硝子器具(化學其ノ他學術用 ノモノハ含マス)	同	二五・%
六一六、鏡	同	二五・%
六一七、双眼鏡及眼鏡(完全品、部 分品トモ)	同	二〇・%
第十五類 石材、泥土及其ノ製品		
六一八、「セメント」(「ポーランド」、 セメント)ノ如キ水硬性ノモノ)	百疋	〇・八三
六一九、銅玉砂	同	一・一〇
六二〇、金剛砂及硝子砂(金剛砂布 ハ稅番六三六參照)	同	〇・三八
六二一、耐火煉瓦及煉瓦	從價	一〇・%
六二二、耐火土	百疋	〇・三八
六二三、燧石(「ペブル」ヲ含ム)「サン		

D、「ルーパー」ハ稅番六六〇參照	百疋	〇・六六
六二四、瓦(「マイル」)		
A、軸藥ヲカケタルモノ或ハ剪嵌 メ細工シタルモノ	同	四・〇〇
B、其ノ他	從價	二〇・%
六二五、坩堝	同	二〇・%
六二六、列記セサル石材、泥土及其 ノ製品	同	二〇・%
A、製品	同	二〇・%
B、其ノ他	同	一五・%
第十六類 雜品		
六二七、琥珀、珊瑚、龍甲(眞正及模造 品トモ)及列記セサル其ノ製品	從價	三〇・%
A、製品	同	二〇・%
B、其ノ他	同	一〇・%
六二八、動物(生ケルモノ)	同	一〇・%
六二九、石棉及其ノ製品	同	一〇・%
A、塊、粉及纖維	同	一五・%
B、工場用板紙	百疋	二・八〇
C、薄板及充填用品(織込メル)		

モノ)			
D、板及充填用品(壓縮セルモノ)	從價	一五・%	
E、糸	同	一五・%	
F、其ノ他	從價	一七・〇〇	
六三〇、晴雨計、寒暖計及製圖、測量、醫學、航海、眼科、外科、齒科其ノ他科學研究用器具並ニ部分品又ハ附屬品	從價	一五・%	
六三一、列記セサル建築材料	同	一〇・%	
六三二、鈕、釦	同	二〇・%	
A、金屬製(貴金屬製又ハ貴金屬ヲ被セタルモノハ含マス)	同	二〇・%	
B、瀬戸又ハ普通硝子製	一哥	〇・〇六	
C、貝殼製	一二哥	〇・二〇	
D、其ノ他	一哥	〇・二〇	
六三三、骨董品及古物	從價	二五・%	
六三四、七寶燒、薩摩燒、漆器	同	二五・%	
六三五、列記セサル裝飾用材料及其ノ製品(金銀箔、金銀布、金銀絲、裝飾用金屬部分品等ヲ含ム)	同	三〇・%	
	同	四〇・%	
	同	二五・%	

六三六、金剛砂布			
A、一枚十分ノ一平方米以下ノモノ一連	從價	二〇・%	
B、一枚十分ノ一平方米以上ノモノ	從價	一〇・%	
六三七、工業用爆發藥	同	一〇・%	
六三八、扇子			
A、椰子葉製	同	二〇・%	
B、紙張又ハ綿布張	千本	一〇・〇〇	
C、其ノ他	從價	二五・%	
六三九、列記セサル肥料	同	一〇・%	
六四〇、膠	百疋	五・〇〇	
六四一、蓄音機、風管、其ノ他各種發聲機(部分品及附屬品トモ)	從價	三〇・%	
六四二、石膏	百疋	〇・一七	
六四三、製帽用眞田及眞田製造用纖維	從價	一〇・%	
六四四、印度護謄、「ガタ、パーチャ」及其ノ製品			
A、印度護謄(生、舊、屑)及生「ガタ、パーチャ」	從價	一〇・%	
B、長靴、短靴及地下足袋(全部)	從價	一〇・%	

又ハ一部護謄ニテ製造セル履物ヲ含ム)

C、自轉車、人力車用「ダイヤール」及「チェーン」	從價	三〇・%	
D、其ノ他(自轉車其ノ他乗物用「ダイヤール」ヲ含ム)	從價	三〇・%	
六四五、列記セサル寶石及裝飾品	同	二五・%	
六四六、列記セサル洋燈及洋燈器	同	三〇・%	
六四七、人造皮革、油布(敷物用油布ヲ含マス)及其ノ製品	同	二五・%	
A、人造皮革及油布	同	二五・%	
B、人造皮革及油布製品	同	三〇・%	
六四八、「リノリウム」及列記セサル其ノ他床敷類	同	三〇・%	
六四九、機械調帯及「ホース」	同	一五・%	
六五〇、美爪器及其ノ部分品、「パツ」及化粧箱	同	三〇・%	
六五一、安全木構寸及其ノ他木構寸	同	三〇・%	
A、小箱(長サ五一耗、巾三五耗、高サ一六耗以下ニシテ「ブツク」	同	三〇・%	

ツト)含ム)			
B、大箱(長サ六四耗、巾三八耗、高サ一九耗以下ノモノ	從價	四〇・%	
C、箱ノ長サ、巾、高サノ何レカカ	從價	四〇・%	
B項以上ノモノ	從價	四〇・%	
六五二、樂器			
A、完成品	同	二五・%	
B、部分品及附屬品	同	二五・%	
1、「オルガン」笛	同	一〇・%	
2、象牙鍵盤	同	一〇・%	
3、其ノ他	同	一〇・%	
六五三、眞珠(眞正又ハ模造物)	同	二〇・%	
六五四、「ペン」、鉛筆及列記セサル其ノ他事務用品	同	三〇・%	
六五五、香水、白粉、顔刺用石鹼、「グリーム」、煉齒磨、天瓜粉、養毛液及其ノ他髪口齒肌用化粧品	同	二〇・%	
六五六、各種寫眞機及活動寫眞機並ニ材料(化學藥品ヲ除ク)	同	三五・%	
六五七、樹木及花卉	同	二五・%	
	同	一〇・%	

六五八、寶石及準寶石並ニ模造寶石 (玉石珊瑚等)及其ノ製品	從價	一〇・%
A、"カツテイング"及磨キチカケ サルモノ	同	一四・%
1、玉石	同	三〇・%
2、其ノ他	同	一五・%
B、其ノ他	同	一五・%
六五九、列記セサル印刷及石版材料	同	〇・六〇
六六〇、"サンド、ペーパー"	同	一〇・%
A、一枚十分ノ一平方米以下ノモノ一連	同	一五・%
B、一枚十分ノ一平方米以上ノモノ從價	同	二〇・%
六六一、海綿	同	一五・%
六六二、列記セサル運動用具	同	一五・%
六六三、澱粉	同	二〇・%
六六四、樹脂合成物("セルロイド"ベ ークライト)ノ如キモノ)及列記セ サル其ノ製品	同	三五・%
A、製品	同	二〇・%
B、其ノ他(塊、帶、棒、竿、板、薄板、 管等完全品ナラサルモノヲ含ム)	同	二〇・%
六六五、魔法燭、其ノ部分品及附屬 品	從價	二五・%
六六六、煙草用雜貨	同	三〇・%
六六七、化粧用品(櫛、刷子等)	同	三〇・%
六六八、玩具及遊戲品	同	三五・%
六六九、"トラング"、"ストーク"ス、 學用靴、名刺入、寶石箱、"ポット"フ オリオ"及旅行用靴及各種入物	同	三〇・%
六七〇、洋傘及日傘	同	二五・%
A、柄ノ全部又ハ一部分ヲ貴金屬 象牙、雲母、鼈甲、珊瑚等又ハ寶 石ヲ以テ裝飾シタルモノ	同	二五・%
B、其ノ他ノ握柄ヲ有スルモノテ 木綿又ハ交織布張ノモノ(絹製 ヲ除ク)	一本	〇・二〇
C、其ノ他ノ握柄ヲ有スルモノテ 絹布又ハ絹交織布張リノモノ	同	〇・五〇
D、其ノ他ノ握柄ヲ有スルモノテ 紙製傘	同	〇・一三
E、其ノ他ノ握柄ヲ有スルモノテ	同	〇・一三

其ノ他傘	從價	二五・%
F、部分品及附屬品	同	二〇・%
六七一、美術品(繪畫、腐刻版畫、油繪 彫像、彫塑及同複製、模寫或ハ再製 品)	同	二〇・%
六七二、本稅則中ニ列記セサルモノ	同	二〇・%

支那政府ノ債務整理ニ關 スル非公式假計畫覺書

中華民國十九年十一月十五日附

- (一) 支那政府ハ目下償還未済ノ正當ナル手續ノ下ニ契約
セラレタル債務ニ對シ理解アル解決ヲ欲スルモノナリ
- (二) 政府ハ支那ノ償還スヘキ財源金額及期限ニ就キ先ツ
最初ニ之ヲ討議スヘキモノト思惟ス
- (三) 政府ハ二箇ノ財源即チ海關收入及鐵道收入ニ依ツテ
償還ヲ履行スヘキモノ但シ英佛及"クリスタ"借款並ニ湖廣
借款ハ鹽稅收入ニヨリ繼續償還サルモノト思惟ス
- (四) 政府ハ海關收入中ヨリ或年額即チ漸次增加スヘキ金
額ヲ別ニ控置セントスルモノニシテ明確ナル數字ハ茲ニ
概説シタル提案ニ關シ意見一致ヲ見タル後提議スヘシ
- (五) 各鐵道ニヨリ正當ニ生シタル鐵道債務ハ復權償還ノ
遂行後鐵道收益ニヨリ之ヲ支辨スヘキモノトス但シ現在
ノ重荷タル債務中鐵道債務ヲ救済スル目的ヲ以テ海關收
入中ヨリ支拂フ金額ノ一部ヲ鐵道債務ノ償還ニ充用スル
モ兼支ヘナキモノトス
- (六) 海關收入中ヨリ支拂フ金額ノ一部ヲ以テ鐵道債務以
外ノ未償還交通債務ニ對シ前同様之ヲ流用シ得ルモノト
ス
- (七) 海關收入中ヨリ支拂フ金額ノ振當上ノ手續ハ本覺書
ニ於ケル提案原則ニ對シ意見一致ヲ見タル後提議スルモ
ノトス
- (八) 政府ハ海關收入中ヨリ控置シタル前記金額ニ基キ公
債ノ發行ヲ準備スヘシ
- (九) 海關收入ニヨル償還ハ復權ノ目的ニ使用スル準備費
トシテ優占タルヘキモノナリ
- (十) 海關收入ニヨル償還ハ千九百六十年迄ニ滿了スルモ
ノトス
- (備考) 本覺書ハ民國十九年十一月十五日南京ニ開カレ

タル債務整理會議ニ際シ國民政府ヨリ提出セラレタルカ支那側ニテ極秘トセルモノナリ

支那政府ノ治外法權撤廢ニ關スル對外宣言 (要旨)

中華民國二十年五月四日

國民政府ハ千九百二十九年十二月二十八日在支治外法權ノ撤廢ヲ千九百三十年一月一日ヨリ開始スル旨ノ宣言ヲ發シテ以來茲ニ十六箇月關係各國ハ撤廢ノ原則ニ贊成シ具體的交渉ヲ進メ和蘭諾威兩國トノ間ニハ撤廢協定成立シタルニ反シ英米外二箇國カ未タ我國民ノ切實ナル要求ヲ認メサルハ遺憾トスル所ナリ國民會議開會ヲ目前ニ控ヘ國民政府ハ治外法權撤廢ノ責任アルニ拘ハラズ終ニ之ヲ貫徹シ得サリシコトハ甚々遺憾トス茲ニ交渉ノ一時打切りヲ聲明スルト共ニ在支外人管轄實施條例ヲ公布シ千九百三十二年一月一日ヨリ之ヲ實施ス本條例ハ外支人間ノ係争ヲ緩和シ相互ノ良好關係ヲ増進スルコトヲ目的トスルモノニシテ本政府及人民ハ此趣旨ヲ遵守シ之ニ對スル正確ナル理解ヲ待ツト共

ニ各國ノ贊同ヲ得ヘキコトヲ深ク信ス

【參考】

在支外人管轄實施條例

(中華民國二十年五月四日)

- 第一條 本條例ニ稱スルトコロノ外國人トハ專ラ民國十八年十二月三十一日支那ニアリテ領事裁判權ヲ享受スル外國人ヲ指ス
- 第二條 外國人ハ必ラス支那各級司法法院ノ管轄ヲ受ク
- 第三條 東省特區地方法院、奉天地方法院、閩侯地方法院、廣東地方法院、天津地方法院、青島地方法院、上海地方法院、漢口地方法院、區縣地方法院及昆明(雲南)地方法院及其ノ整屬スル各高等法院内ニハ各特別法廷ヲ設ケ外國人ヲ被告トスル民事、刑事訴訟事件ヲ受理ス
- 第四條 特別法廷ノ廷長ハ其整屬法院々長之ヲ兼任ス
- 第五條 外國人ヲ被告トスル民刑訴訟事件カ第三條以外ノ各法院管轄ニ於テ發生シタルトキハ被告ハ書面ヲ用ヒテ申立テナスコトヲ得
- 第六條 特別法廷ニハ諮議若干人ヲ置クコトヲ得司法行政

部ヨリ品行方正ニシテ裁判官タル資格ヲ具有スル法律專門家ヲ選ヒ之カ採用ヲ調ス法律諮議ハ支那人ニ限ラス法律諮議ハ書面ヲ用ヒテ法廷ニ向ヒテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ審判ニ關與スルコトヲ得ス

第七條 外國人ノ拘引或ヒハ逮捕及其住宅又ハ其他ノ處ノ搜索ハ必ラス刑事訴訟法ニヨリテ之ヲ行フ外國人カ刑法或ヒハ其他ノ法規ヲ犯シタリトノ嫌疑アリ既ニ逮捕サレタルトキハ直チニ法院ニ移送シテ訊問スルコトヲ要ス遅クモ廿四時間ヲ逾ユルコトヲ得ス

第八條 外國人カ外國人或ヒハ其他ノ人民ト締結セル仲裁契約ハ當事者ノ一方或ヒハ雙方カ申立テタルトキハ法院ハ有効ト認メ且ツ該契約ニ基ツキテ所爲ノ決定書ヲ執行スルコトヲ要ス但シ左記事情ノ一アルトキハ此ノ限りニアラス(一)公共ノ秩序ニ違背セルモノ(二)善良ナル風俗ニ違背セルモノ(三)普通法律ノ原則ニヨリ必ラス無効ト認メラルヘキモノ

第九條 外國人ハ民、刑事訴訟事件ノ當事者トナスタメ法律ニヨリテ支那或ヒハ外國ノ辯護士ヲ訴訟代理人或ヒハ辯護人トスルコトヲ得律師章程及其他辯護士ニ關スル法令ハ前項ノ外國辯護士ニ對シテモ之ヲ適用ス

アメリカ合衆國中華民國仲裁裁判條約

- 第十條 外國人カ違警罰法ヲ犯シタルトキハ法院或ヒハ警察機關之ヲ審問ス警察機關ノ外國人處罰ハ十五元以下ノ罰金ニ限ル但シ兩犯ハ此ノ限りニアラス前項ノ罰金ヲ決定後五日以内ニ完納セサルトキハ一日一元ヲ一日ニ換算シテ拘留ス一元未滿ハ一日ニ計算ス
- 第十一條 外國人ノ監禁羈押及拘留場所ニ關シテハ司法行政部カ命令ヲ以テ之ヲ指定ス
- 第十二條 本條例ノ施行期日及其期間ハ國民政府ヨリ命令ヲ以テ之ヲ定ム

「アメリカ」合衆國中華 民國間仲裁裁判條約

千九百三十年六月二十七日

「ワシントン」ニ於テ署名

千九百三十二年十二月十五日

同市ニ於テ批准書交換

中華民國及「アメリカ」合衆國ハ

兩國間ニ幸ニ存在スル平和關係ノ如何ナル中絶ヲモ能フ限